

# 下石川平野遺跡Ⅲ 浪岡蛭沢遺跡 旭(2)遺跡Ⅱ

— 県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

二  
〇  
一  
七  
・  
三

青  
森  
県  
教  
育  
委  
員  
会

2017年3月

青森県教育委員会

# 下石川平野遺跡Ⅲ 浪岡蛭沢遺跡 旭(2)遺跡Ⅱ

— 県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

2017年3月

青森県教育委員会



遺跡群空中写真 E→



下石川平野遺跡(農道27号)第7号溝跡  
火山灰検出状況 S→



浪岡蛭沢遺跡(農道32号)N32-5~11グリッド  
調査区完掘 S→

口絵 1 遺跡群空中写真・下石川平野遺跡・浪岡蛭沢遺跡



下石川平野遺跡(農道27号) 第5・6・10号土坑出土遺物



浪岡蛭沢遺跡(農道32号) 出土遺物

口絵2 出土遺物

## 序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成27年度に県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業予定地内に所在する下石川平野遺跡、浪岡蛭沢遺跡、旭(2)遺跡の発掘調査を実施しました。本報告書は、この発掘調査成果をまとめたものです。

3遺跡は、津軽平野の東部、梵珠山麓に広がる丘陵に所在しています。周辺には数多くの遺跡が残されており、その中には史跡五所川原須恵器窯跡をはじめ、中平遺跡や寺屋敷平遺跡など平安時代の重要な遺跡が含まれています。

本事業に伴う発掘調査は平成25年度から実施しており、これまでの発掘調査で、下石川平野遺跡、旭(1)遺跡、旭(2)遺跡で縄文時代あるいは平安時代の竪穴建物跡をはじめとする多くの遺構を検出しています。

平成27年度の発掘調査の結果、縄文時代のフラスコ状土坑群や平安時代の竪穴建物跡などの遺構を検出し、これらの遺跡が縄文時代と平安時代の集落跡であったことが明らかとなりました。

この成果が、今後、埋蔵文化財の保護等に広く活用され、また、地域の歴史を解明する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている青森県農林水産部農村整備課に厚くお礼申し上げますとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたりご指導、ご協力いただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成29年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 田村博美

## 例 言

- 1 本報告書は、青森県農林水産部農村整備課による県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成27年度に発掘調査を実施した青森市下石川平野遺跡、浪岡蛭沢遺跡、旭(2)遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は、下石川平野遺跡農道27号2,380㎡、配水管16号420㎡、給水栓8号90㎡、給水栓9号50㎡、浪岡蛭沢遺跡農道32号1,000㎡、旭(2)遺跡農道39号600㎡で、合計4,540㎡である。

なお、同事業に伴う下石川平野遺跡および旭(2)遺跡の発掘調査は、平成25・26年にも青森県埋蔵文化財調査センターが実施しており、『下石川平野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第556集、『下石川平野遺跡Ⅱ・旭(1)遺跡・旭(2)遺跡』同第569集で報告を行っている。

- 2 下石川平野遺跡の所在地は、青森県青森市浪岡大字吉野田字木戸口地内外、青森県遺跡番号は201399である。浪岡蛭沢遺跡の所在地は、青森県青森市浪岡大字吉野田字蛭沢地内、青森県遺跡番号は201335である。旭(2)遺跡の所在地は、青森県青森市浪岡大字吉野田字蛭沢地内、青森県遺跡番号は201333である。

- 3 発掘調査及び整理・報告書作成の経費は、発掘調査を委託した青森県農林水産部農村整備課が負担した。

- 4 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

発掘調査期間	下石川平野遺跡：平成27年4月30日～同年9月25日
	浪岡蛭沢遺跡：平成27年4月30日～同年7月31日
	旭(2)遺跡：平成27年8月4日～同年9月25日

整理・報告書作成期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

- 5 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は、青森県埋蔵文化財調査センター小田川哲彦総括主幹・神康夫文化財保護主幹・鈴木和子文化財保護主幹・平山明寿文化財保護主査が担当し、第1編「調査の概要」は鈴木・平山、第2編「下石川平野遺跡」は神・平山、第3編「浪岡蛭沢遺跡」・第4編「旭(2)遺跡」は小田川・鈴木が担当した。なお依頼原稿については、文頭に執筆者名あるいは機関名を記した。

- 6 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については原稿依頼もしくは委託により実施した。

地形および地質について	島口 天(青森県立郷土館学芸主幹)
石質鑑定	島口 天(青森県立郷土館学芸主幹)
火山灰分析	柴 正敏(国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科教授)
石器実測図等作成	株式会社アルカ
土器類の写真撮影委託	シルバーフォト
石器類の写真撮影委託	フォトショップいなみ

- 7 発掘調査成果の一部は、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書がこれらに優先する。

- 8 本書に掲載した地形図(遺跡位置図)は、国土地理院発行の「数値地図25000(地図画像)」を複写・加工して使用した。
- 9 測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。
- 10 挿図中の方位は、すべて座標北を示している。
- 11 遺構には、その種類を示すアルファベットの略号に検出順位を示す算用数字を組み合わせた略称を遺跡(路線)ごとに付した。遺構に使用した略号は以下のとおりで、整理作業に伴って遺構名等を変更したものについては各節冒頭あるいは各遺構の事実記載文に記している。
- S I - 竪穴建物跡    S B - 掘立柱建物跡    S P - 柱穴    S K - 土坑    S D - 溝跡  
S V - 溝状土坑    S R - 土器埋設遺構    S N - 焼土遺構
- また火山灰に関して、B-Tmは白頭山苦小牧火山灰、T o - aは十和田 a 火山灰の略称として使用している。
- 12 遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土層には算用数字を使用した。各土層の色調表記等には、『新版標準土色帖2005年版』(小山正忠・竹原秀雄)を基に記録した。
- 13 各挿図中の遺構実測図の縮尺は、原則として竪穴建物跡のカマド・土器埋設遺構は1/30、竪穴建物跡・掘立柱建物跡・柱穴・土坑・溝跡・溝状土坑は1/60とし、スケールを示した。地形図、調査路線図、遺構配置図等は適宜縮尺を変更し、各挿図にスケールを示した。使用した網掛けは、各図中に凡例を示した。
- 14 各遺構平面図のうち、柱穴(建物内・単独とも)には( )内にその深さをcm単位で示している。
- 15 遺構実測図の土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付している。
- 16 遺構内から出土した遺物等には、取り上げ順にその種類を示す略号と通し番号を必要に応じて付した。遺物に使用した略号は、土器-P、石器-S、炭化材-Cで、その他の記号を用いた場合は各図中に示した。
- 17 各遺構の規模に関する計測値は、原則として現存値を記載している。調査区域外に延びていたり、他遺構・擾乱によって壊されていたりするものは( )を付して本文や柱穴計測表に記載している。
- 18 遺物実測図の個別番号は、図版ごとに1から遺物番号を付した。
- 19 遺物実測図の縮尺は、土器類1/3、剥片石器類1/2、礫石器類1/3、土製品類・石製品類1/2を原則とし、各挿図にスケールを示した。また遺物実測図に使用した網掛けは、各挿図中に凡例を示した。
- 20 遺物観察表の土器類計測値の( )内数値は、口径・底径は復元値、器高は残存値である。土器類の調整技法(文様)は、原則として土器上部(口縁)から順に記載している。石器及び土製品類・石製品類の欠損が明らかなものは( )を付している。
- 21 各遺物写真には遺物実測図と共通の図番号を付しており、縮尺は不同である。
- 22 発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。

# 目 次

口 絵
序
例 言
目 次
図版目次
表目次
写真目次

## 第1編 調査の概要と遺跡の環境

### 第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	1
第3節 調査の経過	4

### 第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡	9
第2節 下石川平野遺跡・浪岡蛭沢遺跡周辺地域の地形と地質	11

## 第2編 下石川平野遺跡

### 第1章 農道27号

第1節 調査区と遺構・遺物の概要、基本層序	13
1 調査区と遺構・遺物の概要	13
2 基本層序	13
第2節 検出遺構と出土遺物	16
1 検出遺構	16
(1) 竪穴建物跡	16
(2) 掘立柱建物跡・柱穴	21
(3) 土坑	24
(4) 溝跡	36
(5) 焼土遺構	42
(6) 溝状土坑	44
2 遺構外の出土遺物	46
(1) 縄文時代の出土遺物	46
(2) 平安時代の出土遺物	48

第2章 配水管16号	
第1節 調査区と遺構・遺物の概要	53
第2節 検出遺構と出土遺物	55
1 検出遺構	55
(1) 竪穴建物跡	55
(2) 掘立柱建物跡・柱穴	56
(3) 土坑	57
(4) 溝跡	63
(5) 焼土遺構	68
2 遺構外の出土遺物	70
(1) 縄文時代の出土遺物	70
(2) 平安時代の出土遺物	70
第3章 給水栓8号の検出遺構と出土遺物	
第1節 検出遺構と出土遺物	74
1 縄文時代の出土遺物	74
2 平安時代の出土遺物	74
第4章 給水栓9号の検出遺構と出土遺物	
第1節 検出遺構と出土遺物	76
1 検出遺構	76
(1) 竪穴建物跡	76
(2) 柱穴	78
2 遺構外の出土遺物	78
(1) 縄文時代の出土遺物	78
(2) 平安時代の出土遺物	78
第5章 理化学的分析	
第1節 下石川平野遺跡出土の火山灰について	80
第6章 まとめ	84
引用・参考文献	88
遺物観察表	89
写真図版	99

### 第3編 浪岡沓沢遺跡

#### 第1章 調査区と遺構・遺物の概要、基本層序

第1節 調査区と遺構・遺物の概要	131
第2節 基本層序	131

#### 第2章 検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構	134
1 竪穴建物跡	134
2 柱穴	138
3 土坑	139
4 溝跡	170
5 溝状土坑	172
6 土器埋設遺構	173
第2節 遺構外の出土遺物	175
1 土器・土製品	175
2 石器・石製品	181

#### 第3章 まとめ

引用・参考文献 187

遺物観察表 188

写真図版 197

### 第4編 旭(2)遺跡

#### 第1章 調査区と遺構・遺物の概要、基本層序

第1節 調査区と遺構・遺物の概要	227
第2節 基本層序	227

#### 第2章 検出遺構と出土遺物

第1節 遺構外の出土遺物	227
--------------	-----

#### 第3章 まとめ

遺物観察表 229

写真図版 230

報告書抄録

## 図版目次

図1 下石川平野遺跡外 調査路線図(平成25~27年度調査) …	8	図42 下石川平野遺跡(配水管16号) 遺構外出土遺物(1) …	71
図2 下石川平野・浪岡張沢・旭(2)遺跡 位置図 ……	10	図43 下石川平野遺跡(配水管16号) 遺構外出土遺物(2) …	72
図3 段丘分布図 ……	12	図44 下石川平野遺跡(配水管16号) 遺構外出土遺物(3) …	73
図4 下石川平野遺跡(農道27号) 基本層序 ……	14	図45 下石川平野遺跡(給水栓8号) 調査区域図・出土遺物 …	75
図5 下石川平野遺跡(農道27号) 遺構配置図 ……	15	図46 下石川平野遺跡(給水栓9号) 遺構配置図・第1号竪穴建物跡・柱穴 …	77
図6 下石川平野遺跡(農道27号) 第1号竪穴建物跡(1) …	17	図47 下石川平野遺跡(給水栓9号) 出土遺物 ……	79
図7 下石川平野遺跡(農道27号) 第1号竪穴建物跡(2) …	18	図48 浪岡張沢遺跡(農道32号) 遺構配置図 ……	132
図8 下石川平野遺跡(農道27号) 第1号竪穴建物跡出土遺物 …	20	図49 浪岡張沢遺跡(農道32号) 基本層序 ……	133
図9 下石川平野遺跡(農道27号) 竪立柱建物跡・柱穴(1) …	22	図50 浪岡張沢遺跡(農道32号) 第1号竪穴建物跡 ……	135
図10 下石川平野遺跡(農道27号) 竪立柱建物跡・柱穴(2) …	23	図51 浪岡張沢遺跡(農道32号) 第2号竪穴建物跡 ……	137
図11 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑(1) ……	25	図52 浪岡張沢遺跡(農道32号) 柱穴 ……	138
図12 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑(2) ……	27	図53 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑(1) ……	156
図13 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(1) …	29	図54 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑(2) ……	157
図14 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(2) …	30	図55 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑(3) ……	158
図15 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(3) …	31	図56 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑(4) ……	159
図16 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(4) …	32	図57 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑(5) ……	160
図17 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(5) …	33	図58 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑(6) ……	161
図18 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(6) …	34	図59 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑(7) ……	162
図19 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(7) …	35	図60 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑(8) ……	163
図20 下石川平野遺跡(農道27号) 溝跡(1) ……	37	図61 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(1) ……	164
図21 下石川平野遺跡(農道27号) 溝跡(2) ……	38	図62 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(2) ……	165
図22 下石川平野遺跡(農道27号) 溝跡(3) ……	39	図63 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(3) ……	166
図23 下石川平野遺跡(農道27号) 溝跡出土遺物 ……	41	図64 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(4) ……	167
図24 下石川平野遺跡(農道27号) 焼土遺構 ……	43	図65 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(5) ……	168
図25 下石川平野遺跡(農道27号) 焼土遺構出土遺物 …	44	図66 浪岡張沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(6) ……	169
図26 下石川平野遺跡(農道27号) 溝状土坑 ……	45	図67 浪岡張沢遺跡(農道32号) 第1号溝跡 ……	170
図27 下石川平野遺跡(農道27号) 遺構外出土遺物(1) …	47	図68 浪岡張沢遺跡(農道32号) 第2号溝跡(1) ……	171
図28 下石川平野遺跡(農道27号) 遺構外出土遺物(2) …	49	図69 浪岡張沢遺跡(農道32号) 第2号溝跡(2) ……	172
図29 下石川平野遺跡(農道27号) 遺構外出土遺物(3) …	50	図70 浪岡張沢遺跡(農道32号) 第1号溝状土坑 ……	172
図30 下石川平野遺跡(農道27号) 遺構外出土遺物(4) …	51	図71 浪岡張沢遺跡(農道32号) 第1号土器埋設遺構 …	173
図31 下石川平野遺跡(農道27号) 遺構外出土遺物(5) …	52	図72 浪岡張沢遺跡(農道32号) 第2・3号土器埋設遺構 …	174
図32 下石川平野遺跡(配水管16号) 遺構配置図 ……	54	図73 浪岡張沢遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(1) …	177
図33 下石川平野遺跡(配水管16号) 第1号竪穴建物跡 …	55	図74 浪岡張沢遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(2) …	178
図34 下石川平野遺跡(配水管16号) 柱穴 ……	56	図75 浪岡張沢遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(3) …	179
図35 下石川平野遺跡(配水管16号) 土坑(1) ……	59	図76 浪岡張沢遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(4) …	180
図36 下石川平野遺跡(配水管16号) 土坑(2) ……	60	図77 浪岡張沢遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(5) …	183
図37 下石川平野遺跡(配水管16号) 土坑出土遺物(1) …	61	図78 浪岡張沢遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(6) …	184
図38 下石川平野遺跡(配水管16号) 土坑出土遺物(2) …	62	図79 浪岡張沢遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(7) …	185
図39 下石川平野遺跡(配水管16号) 溝跡(1) ……	65	図80 旭(2)遺跡(農道39号) 遺構配置図 ……	228
図40 下石川平野遺跡(配水管16号) 溝跡(2)・焼土遺構 …	67	図81 旭(2)遺跡(農道39号) 遺構外出土遺物 ……	229
図41 下石川平野遺跡(配水管16号) 溝跡出土遺物 ……	69		

# 表 目 次

表1	下石川平野・浪岡沢・旭(2)遺跡と周辺の遺跡一覧	10	表12	下石川平野遺跡(配水管16号)	石器観察表	97	
表2	下石川平野遺跡(農道27号)	主要点の国土座標及び埋高値一覧	15	表13	下石川平野遺跡(給水栓8号)	土器観察表	98
表3	下石川平野遺跡(農道27号)	柱穴計測表	21	表14	下石川平野遺跡(給水栓9号)	土器観察表	98
表4	下石川平野遺跡(配水管16号)	主要点の国土座標及び埋高値一覧	54	表15	浪岡沢遺跡(農道32号)	主要点の国土座標及び埋高値一覧	132
表5	下石川平野遺跡(配水管16号)	柱穴計測表	56	表16	浪岡沢遺跡(農道32号)	柱穴計測表	138
表6	下石川平野遺跡(給水栓8号)	主要点の国土座標及び埋高値一覧	75	表17	浪岡沢遺跡(農道32号)	土器・土製品観察表	188
表7	下石川平野遺跡(給水栓9号)	主要点の国土座標及び埋高値一覧	77	表18	浪岡沢遺跡(農道32号)	石器・石製品観察表	196
表8	下石川平野遺跡(給水栓9号)	柱穴計測表	78	表19	旭(2)遺跡(農道39号)	主要点の国土座標及び埋高値一覧	228
表9	下石川平野遺跡(農道27号)	土器・土製品観察表	89	表20	旭(2)遺跡(農道39号)	土器観察表	229
表10	下石川平野遺跡(農道27号)	石器観察表	94	表21	旭(2)遺跡(農道39号)	石器観察表	229
表11	下石川平野遺跡(配水管16号)	土器観察表	95				

# 写真目次

写真1	下石川平野遺跡(農道27号他)	空撮	99	写真33	浪岡沢遺跡(農道32号)(1)	遺跡遠景	197
写真2	下石川平野遺跡(農道27号)(1)	調査区完掘(1)	100	写真34	浪岡沢遺跡(農道32号)(2)	遺跡近景	198
写真3	下石川平野遺跡(農道27号)(2)	調査区完掘(2)	101	写真35	浪岡沢遺跡(農道32号)(3)	遺跡状況	199
写真4	下石川平野遺跡(農道27号)(3)	基本層序	102	写真36	浪岡沢遺跡(農道32号)(4)	作業状況	200
写真5	下石川平野遺跡(農道27号)(4)	竪穴建物跡(1)	103	写真37	浪岡沢遺跡(農道32号)(5)	調査区完掘	201
写真6	下石川平野遺跡(農道27号)(5)	竪穴建物跡(2)	104	写真38	浪岡沢遺跡(農道32号)(6)	基本層序	202
写真7	下石川平野遺跡(農道27号)(6)	土坑(1)	105	写真39	浪岡沢遺跡(農道32号)(7)	竪穴建物跡(1)	203
写真8	下石川平野遺跡(農道27号)(7)	土坑(2)	106	写真40	浪岡沢遺跡(農道32号)(8)	竪穴建物跡(2)	204
写真9	下石川平野遺跡(農道27号)(8)	土坑(3)	107	写真41	浪岡沢遺跡(農道32号)(9)	竪穴建物跡(3)	205
写真10	下石川平野遺跡(農道27号)(9)	溝跡(1)	108	写真42	浪岡沢遺跡(農道32号)(10)	柱穴・土坑(1)	206
写真11	下石川平野遺跡(農道27号)(10)	溝跡(2)	109	写真43	浪岡沢遺跡(農道32号)(11)	土坑(2)	207
写真12	下石川平野遺跡(農道27号)(11)	溝跡(3)	110	写真44	浪岡沢遺跡(農道32号)(12)	土坑(3)	208
写真13	下石川平野遺跡(農道27号)(12)	溝跡(4)	111	写真45	浪岡沢遺跡(農道32号)(13)	土坑(4)	209
写真14	下石川平野遺跡(農道27号)(13)	埴土遺構(1)	112	写真46	浪岡沢遺跡(農道32号)(14)	土坑(5)	210
写真15	下石川平野遺跡(農道27号)(14)	埴土遺構(2)・溝状土坑	113	写真47	浪岡沢遺跡(農道32号)(15)	土坑(6)	211
写真16	下石川平野遺跡(農道27号)(15)	出土遺物(1)	114	写真48	浪岡沢遺跡(農道32号)(16)	土坑(7)	212
写真17	下石川平野遺跡(農道27号)(16)	出土遺物(2)	115	写真49	浪岡沢遺跡(農道32号)(17)	土坑(8)	213
写真18	下石川平野遺跡(農道27号)(17)	出土遺物(3)	116	写真50	浪岡沢遺跡(農道32号)(18)	土坑(9)	214
写真19	下石川平野遺跡(農道27号)(18)	出土遺物(4)	117	写真51	浪岡沢遺跡(農道32号)(19)	土坑(10)	215
写真20	下石川平野遺跡(農道27号)(19)	出土遺物(5)	118	写真52	浪岡沢遺跡(農道32号)(20)	土坑(11)	216
写真21	下石川平野遺跡(配水管16号)(1)	遺跡現況・作業状況	119	写真53	浪岡沢遺跡(農道32号)(21)	土坑(12)・溝状土坑	217
写真22	下石川平野遺跡(配水管16号)(2)	調査完了状況	120	写真54	浪岡沢遺跡(農道32号)(22)	溝跡	218
写真23	下石川平野遺跡(配水管16号)(3)	竪穴建物跡・柱穴	121	写真55	浪岡沢遺跡(農道32号)(23)	土器埋設遺構	219
写真24	下石川平野遺跡(配水管16号)(4)	土坑(1)	122	写真56	浪岡沢遺跡(農道32号)	出土遺物(1)	220
写真25	下石川平野遺跡(配水管16号)(5)	土坑(2)	123	写真57	浪岡沢遺跡(農道32号)	出土遺物(2)	221
写真26	下石川平野遺跡(配水管16号)(6)	溝跡(1)	124	写真58	浪岡沢遺跡(農道32号)	出土遺物(3)	222
写真27	下石川平野遺跡(配水管16号)(7)	溝跡(2)・埴土遺構	125	写真59	浪岡沢遺跡(農道32号)	出土遺物(4)	223
写真28	下石川平野遺跡(配水管16号)(8)	出土遺物(1)	126	写真60	浪岡沢遺跡(農道32号)	出土遺物(5)	224
写真29	下石川平野遺跡(配水管16号)(9)	出土遺物(2)	127	写真61	浪岡沢遺跡(農道32号)	出土遺物(6)	225
写真30	下石川平野遺跡(給水栓8号)	調査完了状況・出土遺物	128	写真62	浪岡沢遺跡(農道32号)	出土遺物(7)	226
写真31	下石川平野遺跡(給水栓9号)(1)	調査完了状況・竪穴建物跡(1)	129	写真63	旭(2)遺跡(農道39号)	遺跡遠景・作業状況・調査区完掘(1)	230
写真32	下石川平野遺跡(給水栓9号)(2)	竪穴建物跡(2)・出土遺物	130	写真64	旭(2)遺跡(農道39号)	遺物出土状況・調査区完掘(2)	231
				写真65	旭(2)遺跡(農道39号)	調査区完掘(3)・出土遺物	232

# 第1編 調査の概要と遺跡の環境

## 第1章 調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

平成19年から4年間にわたり浪岡野沢地区県営畑地帯総合整備に伴う発掘調査が行われる中、平成21年7月に同事業の野沢2期地区として埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて青森県教育庁文化財保護課(以下「文化財保護課」)と東青地域県民局地域農林水産部水利防災課(以下「水利防災課」)による継続的な協議が行われた。

平成24年5月、文化財保護課が当該地区に計画されている農道の試掘調査を実施し、本調査範囲が確定した。

同年9月、試掘調査の結果を基に水利防災課、文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター(以下「埋蔵文化財調査センター」)が現地協議を行い、下石川平野遺跡(農道23号、24号)、旭(1)遺跡(農道35号)、旭(2)遺跡(農道37号)の調査範囲を確認した。平成25年5月上旬と6月下旬に三者による現地協議を経て、7月から下石川平野遺跡(農道23号、24号、配水管12～15号、給水栓10号)の発掘調査を実施し、翌年度に報告書を刊行した(第556集)。

平成25年11月及び平成26年2月及び4月上旬の現地協議を経て、同年4月下旬から旭(2)遺跡(農道37号)、6月から下石川平野遺跡(農道30号、31号)と旭(1)遺跡(農道35号)の発掘調査を実施し、翌年度に報告書を刊行した(第569集)。同年9月には三者による次年度の現地協議が行われた。

今回の報告に係る発掘調査については平成26年9月及び平成27年4月上旬に三者による現地協議を行い、同年4月下旬から浪岡蛭沢遺跡(農道32号)と下石川平野遺跡(農道27号)、8月から旭(2)遺跡(農道39号)の発掘調査を実施することとなった。

なお、事業者側から土木工事等のための発掘に関する通知は、東青地域県民局長から平成25年5月22日付、東県局農水第304号でなされ、これを受けて青森県教育委員会教育長から、埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査の実施を平成25年5月30日付、青教文第459号で通知されている。(中嶋)

### 第2節 調査の方法

#### 1 発掘調査の方法

平成27年度に調査対象となったのは、下石川平野遺跡は農道27号、配水管16号、給水栓8・9号、浪岡蛭沢遺跡は農道32号、旭(2)遺跡は農道39号である。このうち、下石川平野遺跡(農道27号)、浪岡蛭沢遺跡(農道32号)は平成24年度に、旭(2)遺跡(農道39号)は平成25年度に文化財保護課による確認調査、下石川平野遺跡(配水管16号、給水栓8・9号)は平成25年度に当センターによる周辺路線の発掘調査が行われており、縄文時代と古代の遺構(堅穴建物跡等)・遺物が確認されている。このため、縄文時代と古代の遺構調査に重点をおき、各集落の時期・構造等を把握できるような調査方法を採用した。

[地区の名称と略称] 調査地区の名称は畑地帯総合整備事業で用いている工事区域名をそのまま使用し、下石川平野遺跡は農道27号・配水管16号・給水栓8号・給水栓9号、浪岡蛭沢遺跡は農道32号、

旭(2)遺跡は農道39号とした。また、略称として農道は「N」、配水管は「H」、給水栓は「K」を使用し、それぞれ「N27」・「H16」・「K8」・「K9」、「N32」、「N39」とした。

〔測量基準点・水準点の設置・グリッド設定〕測量原点及びレベル原点には工事用の既存成果を利用し、各調査対象区域内に標準の国土座標値と標高値を備えた任意の基準杭を設置し、これらを実測基準点として使用した。調査の進捗に応じ、これら実測基準点を与点として調査路線周辺に基準杭等を増設して使用した。各調査路線の公共座標軸との位置関係および基準主要点については、各遺構配置図に示した。

グリッドは各農道の中心線を基準に起点(No.0)から5mごとに1グリッドとした。グリッドの名称は、地区の名称とグリッドの番号を組み合わせて呼称した。下石川平野遺跡(農道27号)では、起点(No.0)から5mまでは「N27-1」、5~10mまでは「N27-2」である。農道に伴う流末水路も調査対象となっている浪岡沢遺跡(農道32号)では、農道から流末水路まで一連の工事用杭No.が付されていたことから、グリッド番号も農道から流末水路まで通し番号を付した。旭(2)遺跡(農道39号)では農道部分と流末水路部分の工事用杭No.が連続していなかったことから、流末水路はその起点(No.0)から新たに5mごとに1グリッドとし、グリッド名称には略称「R」を付した。起点(No.0)から5mまでは「N39-R1」、5~10mまでは「N39-R2」である。

〔基本土層〕各遺跡の基本土層については表土から順にローマ数字を付けて呼称し、細分が必要な場合は小文字のアルファベットを付した。

〔表土等の調査〕文化財保護課が実施した確認調査、および埋蔵文化財調査センターが実施した周辺の発掘調査成果を踏まえ、状況を確認しながら重機を使用し、掘削の省力化を図るように努めた。表土から遺構確認面までの土層から出土した遺物は、適宜層位毎に取り上げた。

〔遺構の調査〕検出遺構には、原則として確認順に種類別の番号を付けて精査した。堆積土層観察用のセクションベルトは、遺構の形態、大きさ等に応じて、基本的には4分割又は2分割で設定したが、遺構の重複や付属施設の有無等により必要に応じて追加した。遺構内の堆積土層には、算用数字を付けて、ローマ数字を付けた基本土層と区別した。遺構の平面図は、主に(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構の堆積土層断面図や竪穴建物跡に伴うカマド等の平面図、土器埋設遺構の平面図、出土遺物の形状実測図等は、簡易遣り方測量等で縮尺1/20・1/10の実測図を作成した。遺構内の出土遺物は遺構単位で層位ごとに、又は堆積土一括で取り上げたが、床面(底面)やカマドの出土遺物については、トータルステーションや簡易遣り方測量により、必要に応じて縮尺1/20・1/10のドットマップ図・形状実測図等を作成した。

〔遺物包含層の調査〕上層から層位毎に人力で掘削した。遺物が密集して出土した区域では、トータルステーションや簡易遣り方測量により、縮尺1/20・1/10のドットマップ図や形状実測図を作成したが、遺物が散発的に出土した区域では、原則としてグリッド単位で層位毎に取り上げた。

〔写真撮影〕原則として35mmモノクローム、35mmカラーリバーサル各フィルム及びデジタルカメラを併用し、発掘作業状況、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の検出状況・精査状況・完掘後の全景等について記録した。デジタルカメラは約1,800万画素のものを使用した。

## 2 整理・報告書作成作業の方法

平成27年度の調査では、以下の成果を得た。

下石川平野遺跡からは、縄文時代及び古代の竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡2棟、柱穴26基、土坑19基、溝跡14条、溝状土坑2基、焼土遺構7基が検出され、縄文時代・古代の土器類13箱、石器類2箱、合計段ボール箱15箱分が出土した。

浪岡堂沢遺跡からは、縄文時代または古代の竪穴建物跡2棟、柱穴16基、土坑48基、溝跡2条、溝状土坑1基、土器埋設遺構3基が検出され、縄文時代と古代の土器類11箱、石器類3箱、合計段ボール箱14箱分が出土した。

旭(2)遺跡からは、縄文時代の土器・石器が段ボール1箱分出土した。

これらの遺構と遺物をもとに、主に古代の集落と縄文時代の土坑群の時期と構造等を解明するため、竪穴建物跡をはじめとする各遺構の構築時期と集落の変遷等の検討に重点を置いて整理・報告書作成作業を行った。

〔図面類の整理〕遺構の平面図は主にトータルステーションによる測量で作成したので、整理作業ではこれを原則として縮尺20分の1で図化し、簡易遣り方測量で作成した堆積土層断面図やカマド等の付属施設の実測図等との図面調整を行った。また、遺構一覧表等を作成して、発掘作業時の所見等を整理した。

〔写真類の整理〕35mmモノクロームフィルムは撮影順に整理してネガアルバムに収納し、35mmカラーリバーサルフィルムは発掘作業状況、包含層遺物の出土状態、遺構毎の検出・精査状況等に整理して調査路線ごとにスライドファイルに収納した。また、デジタルカメラのデータは35mmカラーリバーサルフィルムと同様に整理してタイトルを付けた。

〔遺物の洗浄・注記と接合・復元〕遺構内出土遺物を優先的に接合し、復元作業を早期に進めるようにした。遺物の注記は、調査年度、遺跡名、出土区・遺構名、層位、取り上げ番号等を略記したが、剥片石器・金属器等、直接注記できないものは、カードと共に収納するポリ袋に注記した。接合・復元にあたっては、同一個体の出土地点・出土層等も留意しながら行った。

〔報告書掲載遺物の選別〕遺物全体の分類を適切に行い、遺構の構築・廃絶時期等を示す遺物、遺存状態が良く同類の中で代表的な遺物、所属時代・型式・器種等の分かる遺物等を主として選別した。

〔遺物の観察・図化〕十分に観察した上で、各遺物の特徴を適切に分かり易く表現するように図化した。特に縄文土器の復元個体や、拓本では表現しきれない隆帯・突起等の凹凸のある遺物については、実測図を作成するように心掛けた。また、種類ごとに遺物台帳・観察表・計測表等を作成した。なお一部の石器の実測・トレース業務については、(株)アルカに委託した。

〔遺物の写真撮影〕業者に委託して行ったが、実測図等では表現しがたい質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意した。

〔理化学的分析〕出土火山灰の噴出源を特定するための火山灰分析を行った。

〔遺構・遺物のトレース・版下作成〕遺構・遺物の実測図やその他挿図のトレースは、(株)CUBIC製「トレースくん」(遺物実測支援システム)やAdobe社製「Illustrator」を用いたデジタルトレースで行った。実測図版・写真図版等の版下作成については、パソコンによるデジタルデータ加工作業(Adobe社製「PhotoShop」・「Indesign」)で行った。遺構内出土遺物のうち、床面(底面)出土遺物や竪

穴建物跡のカマド出土遺物等については、原則として遺構の平面図にそのドットマップ図・形状実測図等を掲載した。

〔遺構の検討・分類・整理〕遺構毎に種類・構造的特徴・出土遺物・他の遺構との新旧関係等に関するデータを整理し、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。

〔遺物の検討・分類・整理〕遺物を時代・時期・種類毎に整理し、出土遺物全体の分類・器種構成・個体数等について検討した。

## 第3節 調査の経過

### 1 発掘調査の経過

平成27年度の発掘調査では、調査委託者の要望により下石川平野遺跡と浪岡蛋沢遺跡から調査を開始し、浪岡蛋沢遺跡の調査終了後は旭(2)遺跡調査を実施した。下石川平野遺跡は神・平山が、浪岡蛋沢遺跡、旭(2)遺跡は小田川・鈴木を担当した。発掘調査体制は以下のとおりである。

調査主体 青森県埋蔵文化財調査センター

所長	三上 盛一
次長(総務GM兼務)	川上 彰雄
調査第一GM	中嶋 友文
総括主幹	小田川 哲彦(発掘調査担当者)
文化財保護主幹	神 康夫(発掘調査担当者)
文化財保護主幹	鈴木 和子(発掘調査担当者)
文化財保護主査	平山 明寿(発掘調査担当者)

専門的事項に関する指導・助言

調査員	三浦 圭介	青森中央学院大学非常勤講師(考古学)
〃	福田 友之	青森県考古学会会長(考古学)
〃	島口 天	青森県立郷土館学芸主幹(地質学)

各遺跡における発掘作業の経過は以下のとおりである。

〔下石川平野遺跡〕

- 4月上旬 青森県東青地城県民局地域農林水産部水利防災課、青森県教育庁文化財保護課と打合せを行い、今年度調査対象とする路線や発掘作業の進め方、障害物の有無等について確認した。
- 4月下旬 農道27号中央付近の空き地を借地し、調査事務所、器材庫、発掘作業員休憩所や仮設トイレの設置、駐車場の整備等、事前の準備作業を行った。
- 4月30日 発掘器材等を調査事務所や器材庫に搬入し、環境整備を行った。調査区の確認後、農道27号北側(N27-38グリッド以北)にトレンチを設定し、掘り作業に着手した。
- 5月上旬 トレンチ調査によって遺構確認面までの深さや遺物包含層の状況、既設水道管の埋設状況等を確認できたことから、N27-37グリッド以北部分の砂利を含む表土について、重機を使用して除去した。以降、農道27号の調査においては、既設水道管の埋設状況等をトレ

ンチで確認した後に重機による表土除去作業を繰り返すこととなった。

- 5月下旬 N27-10～20グリッドで竪穴建物跡や溝跡、土坑などが検出され、遺構精査に着手した。
- 6月中旬 N27-10～20グリッドでの遺構精査と並行して、農道27号南側(N27-40グリッド以南)の調査も進めることとした。N27-70グリッド以南付近の表土を除去したところ、この部分では激しい攪乱があるものの、遺構が所々に点在することが確認された。遺構の精査と埋め戻し、迂回路となる鉄板の敷き直し、表土除去、遺構確認・精査を繰り返す。
- 6月下旬 農道27号北側の遺構精査が終了したことから、給水栓8号の粗掘り・遺構確認を行うが、遺構は検出されず、写真撮影と地形測量後、埋め戻した。
- 7月上旬 N27-51～65グリッドにおいて溝跡や焼土遺構などが散発的に検出され、精査を進めた。
- 7月中旬 N27-40～49グリッドにおいて火山灰が密に堆積する溝跡(SD07)を検出した。給水栓9号の粗掘り・遺構確認を行うが、砂利が厚く、掘削に時間を要した。
- 7月24日 現地見学会を開催した。県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業における浪岡蛭沢遺跡の調査成果も含めて展示を行った。平日にもかかわらず35名の参加があった。
- 8月上旬 給水栓9号では竪穴建物跡の掘方や柱穴など各遺構精査を行う。配水管16号ではグリッド設定を行い、調査の準備を進めた。
- 8月中旬 配水管16号の粗掘り作業を、南側のH16-60グリッド付近から開始する。調査区幅が約50cmと狭いものの、遺構や遺物が比較的多く検出され、図化や写真撮影などを進めた。
- 9月上旬 配水管16号のH16-12グリッド以北は農道拡幅工事も行われるため、調査区幅が約6mと広く、迂回路用の鉄板の敷き直しを行う必要があり、調査に時間を要した。
- 9月中旬 農道27号中央部にある給水塔(給水栓12号)脇のN27-37・38グリッド部分は未調査であったが、SD07の延伸が想定できたことから、給水塔の使用頻度が下がるこの時期に遺構検出を行った。結果、予想通り延伸部分が検出された。
- 9月25日 出土遺物、記録図面類、調査器材等をトラックにて搬出し、調査区の埋め戻し作業、碎石を敷き均す農道の復旧作業を行い、下石川平野遺跡の調査を完了した。

#### [浪岡蛭沢遺跡]

- 4月下旬～5月中旬 調査器材を搬出し、環境整備を行い、N32-1～12およびN32-12～24グリッド西半部分から調査を開始した。N32-14～19グリッドにあたる平坦面では遺構はほとんど検出されなかったが、その南北側の緩斜面で縄文時代の土坑を多く検出し精査を行った。遺構の主体は縄文時代前期末葉のフラスコ状土坑である。また、南側斜面では平安時代の竪穴建物跡1棟を検出した。調査区北側のN32-8以北はやや急な斜面へと変化し、遺構は検出されなかったが、斜面の裾で古代の溝跡1条を検出・精査した。
- 5月下旬～6月上旬 N32-12～24グリッド東半の調査を行った。西半と同様、調査区中央の平坦面では遺構・遺物は少なく、その南北の緩斜面地で縄文時代の土坑、溝状土坑、土器埋設遺構などを検出し、精査を行った。南側緩斜面では平安時代の竪穴建物跡1棟を検出、精査した。また、N32-24～32の表土剥ぎを重機により行った。
- 流末水路部分の調査を開始した。流末水路は調査区の南側にある水田(開析谷)へ向かつ

で落ちる急傾斜地形となることが現況地形から予測されたが、調査の結果、N32-35以北はなだらかな斜面地が続き、N32-35以南で急崖となっていることを確認した。遺構は検出されず、縄文時代の土器片がわずかに出土した。

6月中旬～7月上旬 N32-23～32の調査を行った。平成24年度の文化財保護課の確認調査を踏まえ、縄文時代の捨て場の存在を考慮して調査を開始した。N32-24以北から続く緩斜面が急傾斜へと変換し、その急斜面地が再び緩斜面へと変化するN32-26～29付近までの地点で、黒色土の堆積を確認した。遺物は黒色土上部から出土したのみで、下位ではほとんど出土しなかった。急斜面から緩斜面への変換地では、調査区北端と同様、古代の溝跡1条を検出し、精査した。その他、縄文時代の土坑を検出、精査した。6月中旬に島口調査員による地質の現地指導を受けた。

7月中旬～7月下旬 重機での埋め戻しが困難な場所について人力で埋め戻しを行い、旭(2)遺跡の調査準備を併行して行った。24日には下石川平野遺跡現地見学会の会場において浪岡沢遺跡のパネル展示を行い、調査成果を公開した。7月31日に調査を終了した。

#### [旭(2)遺跡]

7月下旬～8月上旬 浪岡沢遺跡の調査と併行して事前準備を進め、流末水路部分から調査を開始した。人力による表土除去後、遺構検出作業を行った。N39-R3以南は南側に向かって下る沢地形となっており、特にN39-R4からN39-R6にかけては、急傾斜となっている状況を確認した。調査は対象区を小区画に分割して行い、調査終了部分は順次埋め戻しを行った。

農道部分の調査は流末水路と同様、対象区を小区画に分割して調査を行った。最初に、敷鉄板で農作業車両用の迂回路を確保し、N39-29～40グリッドについて重機で表土掘削を行った後、人力で遺構検出作業を行った。縄文時代の小破片が少量出土したが、遺構は検出されなかった。

8月中旬～下旬 調査区内には風倒木痕が多く存在しており、平成25年度の確認調査による検出遺構は、風倒木痕などの誤認であったことが明らかとなった。このため、8月12日に文化財保護課と現地協議を行い、N39-24以東は先行してトレンチ調査を行い、必要に応じて調査区を拡張することとした。

また、流末水路部分の調査については、農道部分で遺構が検出されず遺物出土量も少量であったこと、N39-R8地点で現地表面からの深さが約3mにまで達したことから、安全を考慮してそれ以南の調査は実施しないこととした。

N39-17～22グリッドのトレンチ調査を実施した。遺物が1点出土したのみで、遺構は検出されなかった。このため、当該グリッドについては、トレンチ調査で調査を終了した。N39-24～29グリッドについて、重機で表土掘削を行った後、人力で遺構検出作業を行ったが、遺構は検出されなかった。

9月上旬～中旬 重機で調査区の埋め戻しを行い、その後、重機での埋め戻しが困難な場所について人力で埋め戻しを行った。9月25日に調査を終了した。

## 2 整理・報告書作成作業の体制と経過

平成27年度調査の報告書作成事業は平成28年4月1日から平成29年3月31日までの期間で行った。平成28年度の整理・報告書作成体制は、以下のとおりである。

整理主体 青森県埋蔵文化財調査センター

所長	田村 博美
次長(総務GM兼務)	川上 彰雄
調査第一GM	中嶋 友文
総括主幹	小田川 哲彦(報告書作成担当者)
文化財保護主幹	神 康夫(報告書作成担当者)
文化財保護主幹	鈴木 和子(報告書作成担当者)
文化財保護主査	平山 明寿(報告書作成担当者)

整理・報告書作成作業の経過、業務委託実施状況等は、以下のとおりである。

- 4～5月 写真類と発掘作業で作成した図面類の整理作業を行った。図面類は、必要に応じて図面調整を行った。出土遺物は、路線、遺構、グリッド、層位ごとに出土遺物の点数と重量の計測を行い、遺物台帳等を作成した。計測作業の終了後、遺構・グリッド・調査路線ごとに土器類の接合作業を行い、その後復元作業を行った。遺物の検討・分類・整理作業を経て、土器類・石器類とも報告書掲載予定遺物を選定した。選定された遺物には路線ごとの整理番号を付し、遺物整理一覧表を作成した。剥片石器の実測図等作成委託を実施した。
- 6～9月 遺物の実測作業と拓本作業を行った。島口天学芸主幹(青森県立郷土館)に地形及び地質について、柴正敏教授(弘前大学大学院理工学研究科)に火山灰分析について原稿執筆を依頼した。
- 10～12月 遺物実測図のトレース作業を行い、遺構・遺物図版の版組を開始した。遺物の写真撮影を行い、写真図版作成にも着手した。
- 調査成果を総合的に検討しながら原稿や図版、写真図版等を作成し、報告書の内容・ページ数を確認し、印刷業者を選定した。
- 1～2月 原稿・版下等を揃え、報告書の割付・編集を行い、入稿した。
- 3月 校正を経て報告書を刊行し、記録類・出土品を整理して収納した。

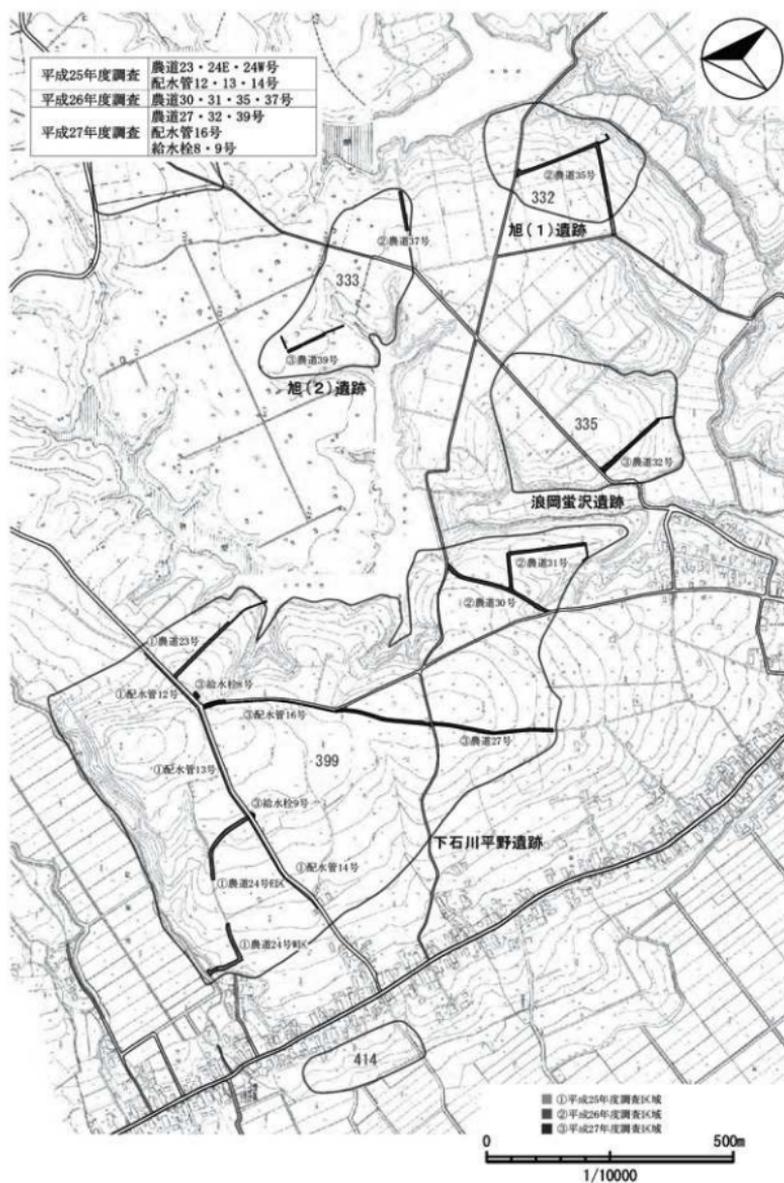


図1 下石川平野遺跡外 調査路線図(平成25~27年度調査)

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡

下石川平野遺跡・浪岡蛭沢遺跡・旭(2)遺跡の所在する青森市浪岡地域(旧南津軽郡浪岡町)は、東北自動車道、国道7号浪岡バイパス、国道101号浪岡五所川原道路等の建設事業に伴い、数多くの遺跡が調査されている。これまでに確認された遺跡の時代は、縄文時代から中・近世に至るが、平安時代に関するものが圧倒的に多く、下石川平野遺跡から南東約3.5kmの道の駅「なみおか」付近から北へ約3kmの間には、大沢迦川右岸に面した丘陵縁辺に「大沢迦遺跡群」と称される平安時代の集落が連続して立地しており、うち、高屋敷館遺跡が国史跡となっている。また、下石川平野遺跡の南東約5.5kmには中世に北畠氏が居城とした国史跡浪岡城跡が所在しているほか、北方約4kmの五所川原市内には平安時代の国史跡五所川原須恵器窯跡が所在している。

青森市浪岡地域で調査される平安時代の遺跡の特徴として、竪穴建物跡に掘立柱建物跡とそれらを取り囲む外周溝を伴う事例や、製鉄関連遺構、円形周溝などの検出例が多い事が挙げられる。遺物の主体は土師器であるが、連弁・蓮華文が墨書された坏、馬の絵が線刻された甕、擦文土器の特徴を部分的に持つものなども存在する。須恵器は他地域よりも出土量が多いが、これは前述の五所川原須恵器窯跡群との関連性が考えられている。土器以外では、木椀・硯・製鉄関連遺物や鍋杖状鉄製品・鉄線などの宗教的遺物などや、銅鉤や銅製の柄頭などの律令的遺物が特筆される遺物である。一方、縄文時代の資料は、集落跡の存在は希薄であり、遺物包含層や貯蔵穴が散在する様子が窺われる。

下石川平野遺跡・浪岡蛭沢遺跡・旭(2)遺跡の所在する青森市浪岡大字吉野田及び大字下石川は、五所川原市との境界近くの青森市の南西部にあたり、現在は果樹園の広がる地域である。大字吉野田は明治22年(1889年)に樽沢・郷山前・銀と合併して発足した旧野沢村に属し、1954年(昭和29年)に浪岡町と合併した地域である。大字下石川は明治22年(1889年)に羽野木沢・依本・持籠沢・原子・高野・前田野目と合併して発足した旧七和村に属し、昭和31年(1956年)に下石川のみが浪岡町に編入した地域である。この周辺での発掘調査例は多くなく、近年になって寺屋敷平遺跡・中平遺跡・上野遺跡・長溜池遺跡等で行われている。

寺屋敷平遺跡と中平遺跡は、浪岡野沢地区畑地帯総合整備事業で平成18～22年にかけて調査された。寺屋敷平遺跡は平安時代の竪穴建物跡や土坑・溝跡・井戸跡等と、縄文時代早期以降各時期の遺物が出土している。中平遺跡は縄文時代後期の掘立柱建物跡や貯蔵穴等が環状に巡る遺構群や、平安時代の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡や、土師器製作遺構と土師器焼成遺構が検出された。特筆される遺物は平安時代の銅製鈴や馬を模した土製品である。上野遺跡は平成18・20年に県道五所川原浪岡線交通安全施設整備事業で調査された。平安時代の竪穴建物跡・土坑・溝跡、円形周溝等や近世街道の「下之切通り」と推定される道路跡が確認された。また、第15号竪穴建物跡から緑軸陶器片が出土している。また、平成27年からは一般県道常海橋銀線道路改築事業で上野遺跡・熊沢溜池遺跡・郷山前村元遺跡が調査され、現在も継続中である。長溜池遺跡は平成12年に県立浪岡養護学校実習地整備事業で調査され、縄文時代から近世までの遺物や、平安時代の円形周溝と近世の土葬墓が検出されている。なお、本報告と同じ県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業では、平成25年度から下石川平野遺跡(農道23・24・30・31号、配水管12～14号)、旭(1)・(2)遺跡が調査されている。

五所川原市内で近隣する遺跡では、五所川原須恵器遺跡群の中でも初期の窯跡と考えられるKY1号窯跡(広野遺跡)や、国道101号浪岡五所川原道路(津軽自動車道)建設で調査され、須恵器制作に携わる工人に関連する集落と考えられている隠川(4)・(12)遺跡等がある。

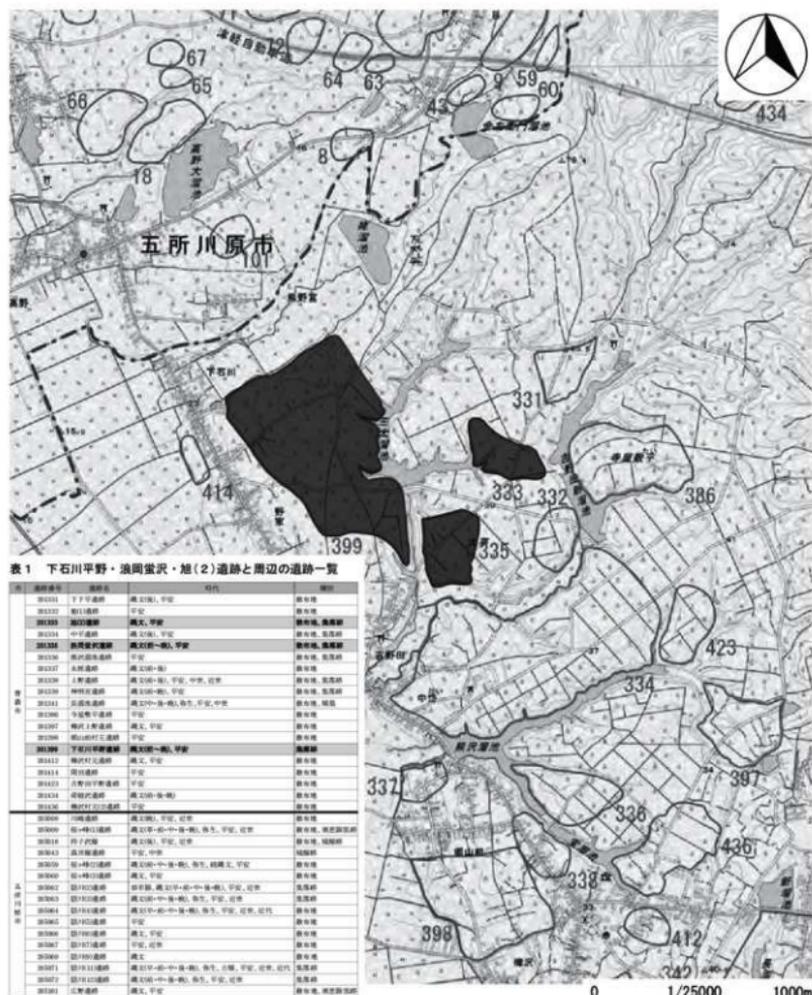


図2 下石川平野・浪岡沢沢・旭(2)遺跡位置図

## 第2節 下石川平野遺跡・浪岡蛭沢遺跡周辺地域の地形と地質

青森県立郷土館 学芸主任 島口 天

### 1 遺跡周辺地域の地形

遺跡周辺の地形と地質については、長森ほか(2013)を引用して島口(2015)で述べたので、ここでは省略する。図3に、本地域における段丘の分布を示し、本遺跡(H27)及び関連遺跡の位置を記す。

### 2 遺跡内における地形と地質

浪岡蛭沢遺跡及び下石川平野遺跡は高位段丘面上に立地し、両遺跡の間には大平断層が存在する。

高位段丘面は、五所川原市野里付近から青森市浪岡付近にかけて津軽平野の東縁に沿って分布する。大平断層は、浪岡付近に分布する高位段丘に西側隆起の低断層崖を形成しており、走向は北北西-南南東である。本断層による高位段丘の上下変位量は2-10mである。大平断層の西側には、地形面が西へ傾き下がる異常傾斜がみられ、高位段丘面は西に下がり津軽平野下に没している(長森ほか, 2013)。

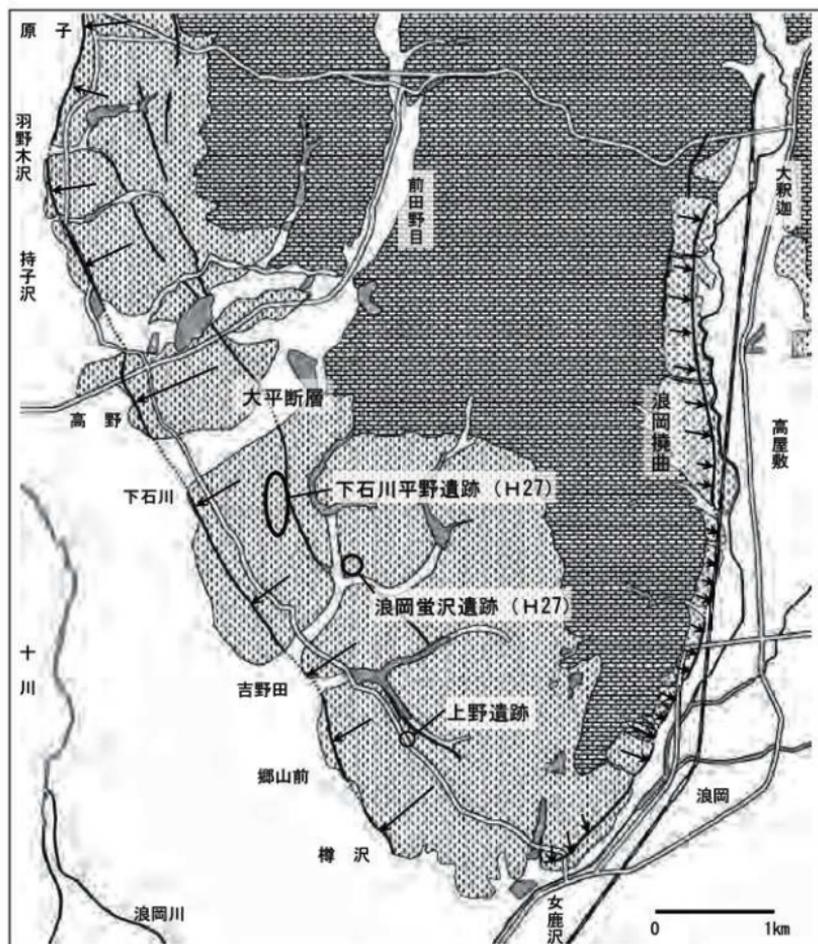
浪岡蛭沢遺跡内における頂部付近の層序の調査では、黒～黒褐色土層(第Ⅰ～Ⅲ層)の下位に黄褐色砂質火山灰層(第Ⅴ層)、黄褐色砂質粘土層(第Ⅵ層)、黄褐色～灰白色粘土層(第Ⅶ層)、灰褐色砂質シルト層(レンズ状)(第Ⅷ層)、褐色粘土層(第Ⅸ層)、灰白色粘土層(第Ⅹ層)が順に見られた。一方、これより低い場所では、黒～黒褐色土層の下位に黄褐色砂質火山灰層(第Ⅴ層)、灰白色粘土層(第Ⅹ層)が順に見られた。第Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ層に相当する層は、上野遺跡で十和田八戸テフラの再堆積層と考えられた(島口, 2010)。また、第Ⅹ層には植物根跡が含まれることから、湿地性の堆積物と考えられた。

下石川平野遺跡内における層序の調査では、黒～黒褐色土層(第Ⅰ～Ⅲ層)の下位に黄褐色砂質火山灰層(第Ⅴ層)のみが見られ、その下位には淡青灰色のシルト層(第Ⅹ層)が確認された。シルト層には、生痕化石と思われる淡灰色粘土で充填された細い円筒状の管が含まれる。砂質火山灰層からシルト層にかけて植物根跡が含まれていたが、樹木の根の跡と考えられた。

これまでの調査結果から、この地域に分布する高位段丘を覆う地層の最上部では、黒～黒褐色土層の下位に十和田八戸テフラの再堆積層が発達する。ただし、この再堆積層は岩相や色調が異なる3つの層からなり、その違いの原因は不明である。最上位の黄褐色砂質火山灰層はどこでもふつうに見られるが、他の2層は場所によって欠落する。大平断層の西側と東側で、特に大きな違いは見られない。

#### 引用文献

- 長森英明・宝田晋治・吾妻 崇(2013) 青森西部地域の地質。地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)。産総研地質調査総合センター, 67 p.
- 島口 天(2010) 上野遺跡の地形と地質。青森県埋蔵文化財調査報告書 第486集 上野遺跡Ⅱ, 青森県埋蔵文化財調査センター編, 青森県教育委員会, p. 8-10.
- 島口 天(2015) 下石川平野遺跡及び周辺地域の地形と地質。青森県埋蔵文化財調査報告書 第556集 下石川平野遺跡, 青森県埋蔵文化財調査センター編, 青森県教育委員会, p. 13-15.



【凡例】

- |   |                         |   |                   |
|---|-------------------------|---|-------------------|
|  | 磯田山層・八甲田第1期火砕流堆積物・前田野目層 |  | 高位段丘堆積物           |
|  | 低位段丘堆積物                 |  | 断層 (点線は伏在部分)      |
|   |                         |  | 活撓曲 (矢印の長さは菱形の範囲) |

図3 段丘分布図[長森ほか(2013)を元に作成]

## 第2編 下石川平野遺跡

### 第1章 農道27号

#### 第1節 調査区と遺構・遺物の概要、基本層序

##### 1 調査区と遺構・遺物の概要

農道27号の調査区は長さ約450m、幅約5.5mの南北に細長く延びる形状で、2,380㎡を調査した。N27-1～40グリッドは配水管16号、N27-40～88グリッドは配水管18号の工事区域を含む。

調査区域外の東側には開析谷を堰き止めて造られた三太溜池が存在しており、調査区は三太溜池と津軽平野に挟まれた小丘陵のほぼ頂部に位置しており、大部分は北側から南側へやや傾斜がみられるものの概ね平坦な地形であった。

検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

竪穴建物跡(S1)	1棟(平安時代)
掘立柱建物跡(SB)	2棟(平安時代)
柱穴(SP)	19基(平安時代)
土坑(SK)	11基(平安時代)
溝跡(SD)	5条(平安時代)
焼土遺構(SN)	6基(平安時代)
溝状土坑(SV)	2基(縄文時代)

縄文時代の遺構は調査区南側で確認した溝状土坑2基のみである。平安時代の遺構は調査区北側のN27-10～19グリッドと南側のN27-37～53グリッド周辺に多く、調査区南側では散発的である。

農道27号から出土した遺物は、土器類9箱、石器類1箱の合計10箱で、大半は平安時代の遺物で、縄文時代の遺物はごく少量である。

##### 2 基本層序

下石川平野遺跡では、検出された遺構・遺物を調査区ごとに章立てして記述しているが、基本層序についてはここでまとめて記載する。今回の調査では、基本層序はN27-13グリッドおよびH16-55・56グリッドで精査・確認した。基本的には平成25・26年度の調査報告書に掲載した内容と同様である。丘陵頂部では、リング畑の造成や耕作等によって第Ⅱ～Ⅲ層が失われているのが大半で、表土直下で遺構確認面であることが多い。各土層の特徴等は次のとおりである。

###### 第Ⅰ層 10YR2/2～10YR3/2 黒褐色シルト

現在の表土もしくは耕作土である。上部には草木根が発達している。道路部分では砕石(砂利)が本層に相当し、草根の多寡や構成物によって細分できる箇所では、草木根を主体とする表層部を第Ⅰa層、砕石を主体とする第Ⅰb層、それ以外のものを第Ⅰc層に細分した。

## 第II層 10YR2/2 黒褐色シルト

白頭山苦小牧火山灰を含む平安時代の土層とみられるが、丘陵上ではほとんど削平されており、配水管16号の埋没沢(H16-3~12・55~59)や農道27号北側南端(N27-36~38)などで確認できた。白頭山苦小牧火山灰が主体となる箇所は第II a層と細分した。

## 第III層 10YR2/1~10YR2/2 黒~黒褐色シルト

縄文時代から古代までの土層とみられるが、丘陵上では削平されているところが多い。配水管16号の埋没沢(H16-3~12・55~59)や農道27号北側中央(N27-17・18)および南端(N27-36~38)などで確認できた。10YR6/6明黄褐色ローム粒を含む。

## 第IV層 10YR5/8黄褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合層

第III層と第V層との漸移層である。丘陵上や農道部分では、表土を除去するとすぐ本層が表出する場合が多い。

## 第V層 10YR5/8~10YR7/8 黄褐~黄橙色砂質火山灰

本層上面が最終遺構確認面である。十和田八戸テフラの再堆積層と推測され、色調等によってa~d層に細分された。第V a層は10YR5/8黄褐色と10YR6/8明黄褐色の混合層、第V b層は10YR7/8黄橙色粘土質、第V c層は10YR7/6明黄褐色、第V d層は10YR8/3浅黄褐色である。下石川平野遺跡では第VI~IX層が欠層する。

## 第X層 10YR7/1 灰白色粘土質シルトと10YR5/4にぶい黄褐色シルトの混合層

粘土~シルト質で、湿地堆積物の可能性がある。

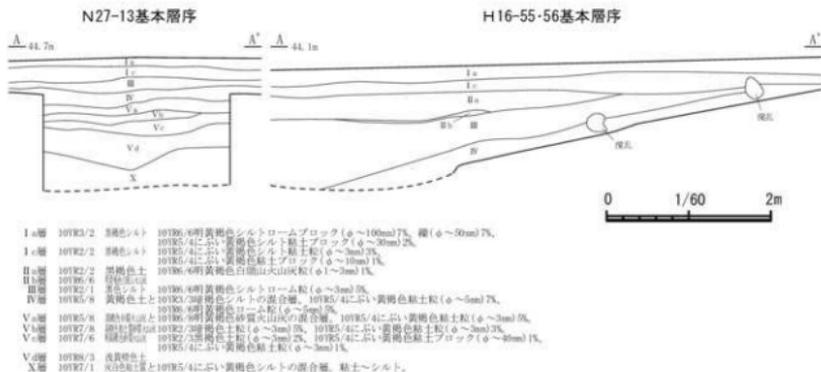


図4 下石川平野遺跡(農道27号) 基本層序

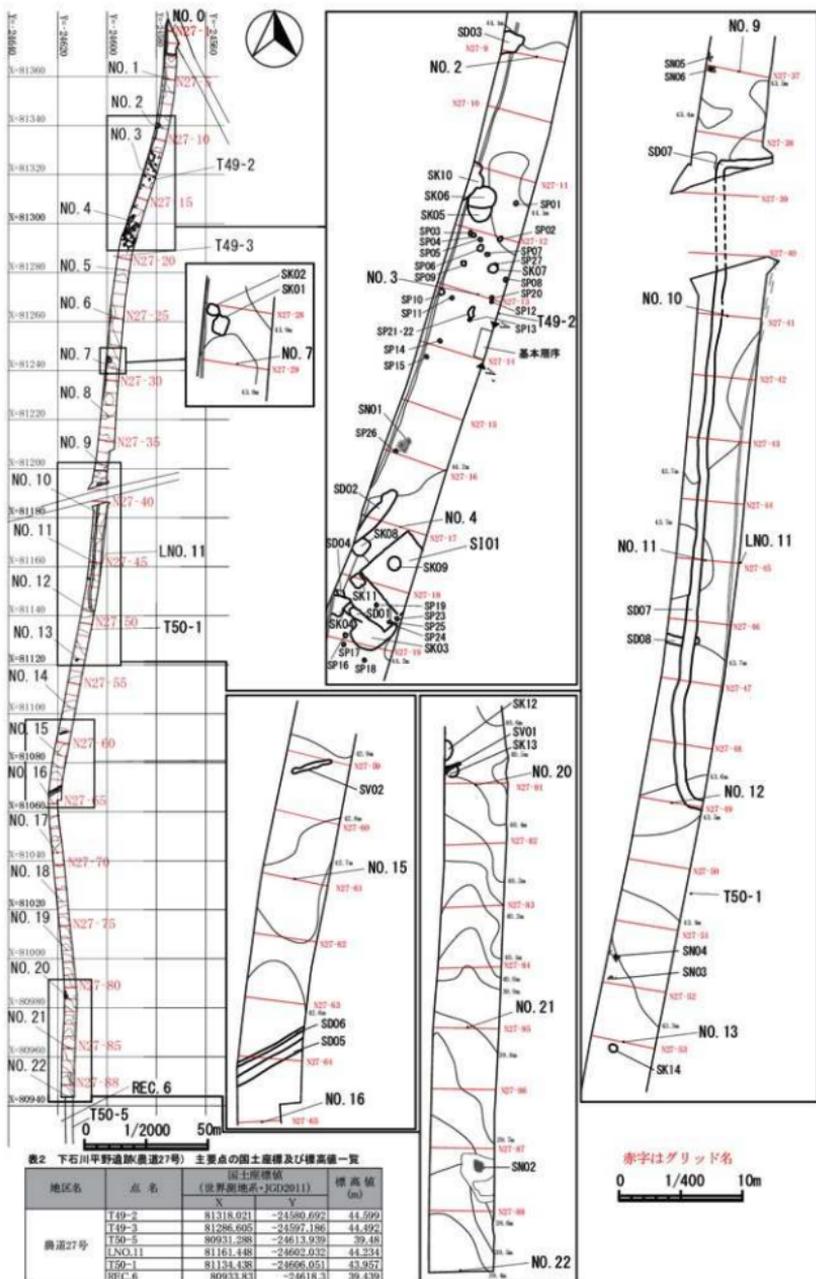


図5 下石川平野遺跡(農道27号) 遺構配置図

## 第2節 検出遺構と出土遺物

### 1 検出遺構

#### (1) 竪穴建物跡

検出された竪穴建物跡は、平安時代の竪穴建物跡1棟である。

##### 第1号竪穴建物跡(SI01、図6～8)

[位置・確認]調査区北側中央のN27-17・18グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.1～44.2m、第V層で掘方と壁溝のみを検出した。SK09と重複し、本遺構が古い。調査区壁面の観察では、第III層を掘り込んで構築されている。N27-16～19グリッドに位置するSD01・02・04は本竪穴建物跡の外周溝とみられる。SK03・04・08も関連している可能性がある。

[平面形・規模]北東隅は調査区域外に延びている。調査区内で検出したのは全体の4分の3程度と推定され、本来は約5m四方の方形と考えられる。壁長は、北東壁(1.89m)・北西壁(5.03m)・南西壁(4.74m)・南東壁(0.64m)である。カマドは検出されなかったが、調査区壁面で観察された焼土層が火床面と考えられ、建物の軸方向はN-131°-Eと推測される。

[床面・壁溝]貼床(4層)により平坦に整えられていたものと考えられる。壁溝は幅10～26cm、深さ7～29cmで、壁際に連続して巡らされているとみられる。壁溝内から柱穴が確認されている。

[柱穴]13基(Pit1～13)を検出した。Pit1～13は壁溝内から確認されたものである。いずれも柱痕は確認されなかった。Pit9・10が主柱穴と考えられる。Pit10から須恵器が1点(3.3g)出土している。

[カマド]調査区域内では検出されなかったものの、調査区壁面で観察された焼土層がカマド火床面の可能性がある。

[堆積土]掘方埋土しか確認されなかった。黒褐色土と明黄褐色ロームとの混合土を主体とする。

[出土遺物]土師器3点(39.5g)、須恵器1点(7.8g)、縄文土器4点(27.0g)が出土し、うち土師器坏(図8-1)・甕(図8-5)、須恵器坏(図8-2)・壺(図8-3)、縄文土器(図8-4)を図示した。

外周溝-第1・2・4号溝跡、第3・4・8号土坑(SD01・02・04、SK03・04・08)

[位置・確認]調査区北側中央のN27-16～19グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.1～44.2mで、第V層で確認した。

[平面形・規模・底面]試掘トレンチ等のため遺構番号を分けているが、第1・2・4号溝跡は本来一連の溝跡と考えられる弧状の溝跡で、西部が調査区域外に延びている。幅47～114cm、確認面からの深さは9～55cmである。溝跡の屈曲部には土坑状に膨らむ部分(第3・4・8号土坑)があり、確認面からの深さは44～47cmである。底面は地山をそのまま底面としており、断面形は逆台形状をなす。溝跡は第3号土坑に向かって傾斜しており、溝底面の比高差は4～16cmである。

[堆積土]堆積土上位～中位は、黒～黒褐色土が主として堆積し自然堆積と思われるが、最下層は黄褐色ロームとの混合層であり、人為的に埋め戻されている。SK03・04・08の堆積土中に火山灰がブロック状に混入しており、理化学的分析の結果、SK03・04は十和田火山灰、SK08は白頭山苦小牧火山灰と推定された(第2編第5章第1節参照)。また、SK08は堆積土上位に粘土が確認された。

[出土遺物]第1号溝跡から土師器4点(20.5g)、第2号溝跡から土師器22点(194.4g)・須恵器4点(113.7g)・縄文土器2点(5.2g)、第3号土坑から土師器75点(1,008.9g)・須恵器6点(153.7g)・

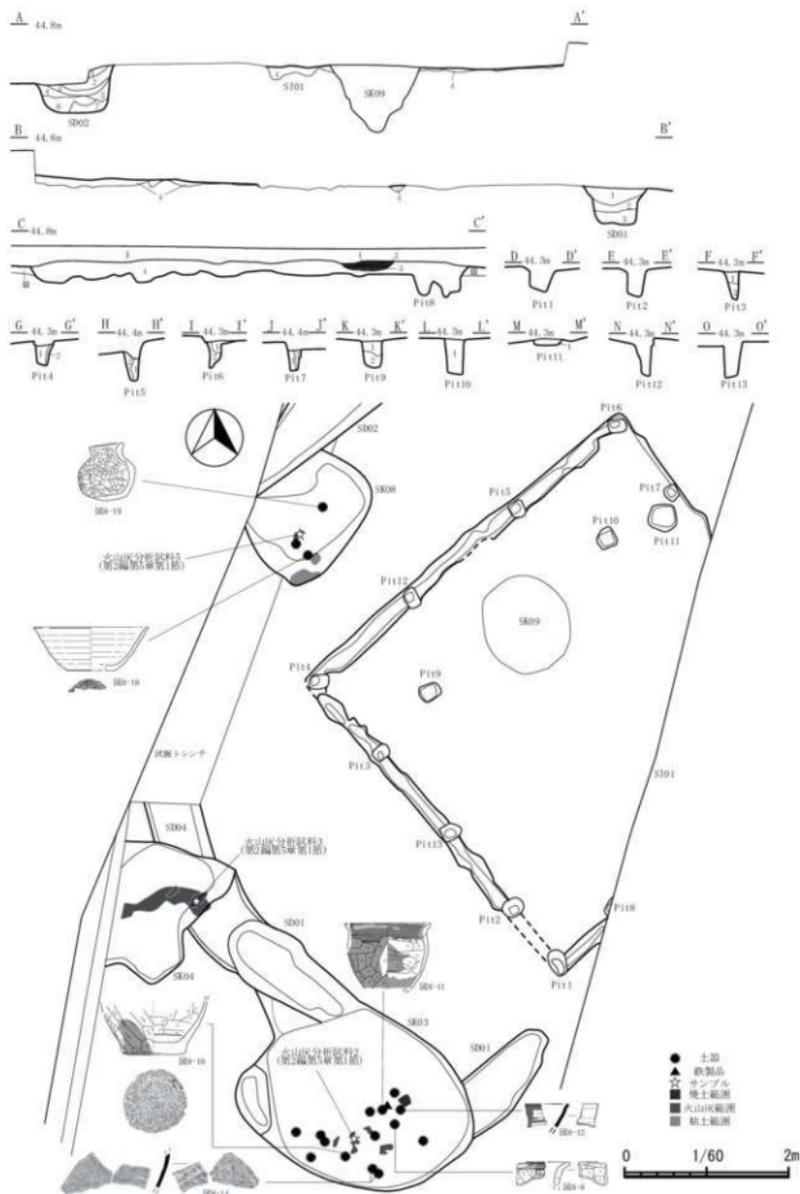


図6 下石川平野遺跡(農道27号) 第1号竪穴建物跡(1)

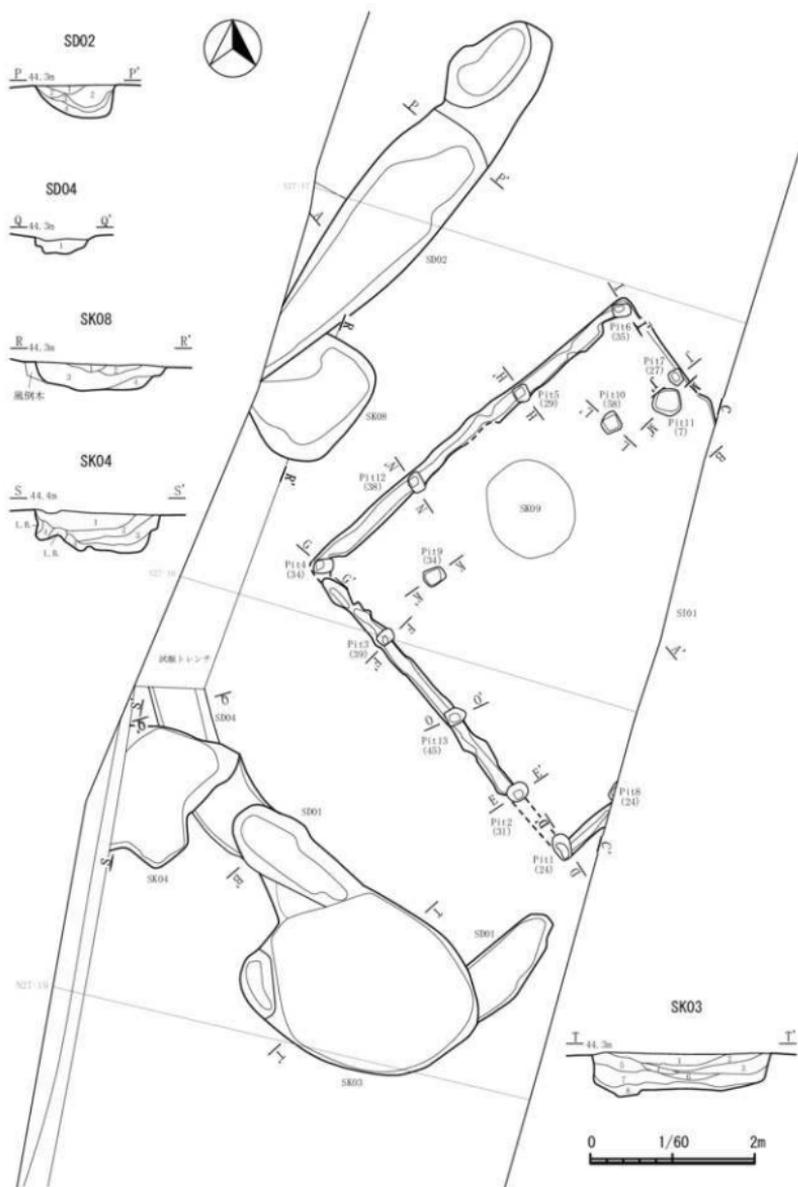


図7 下石川平野遺跡(農道27号) 第1号竪穴建物跡(2)

鉄洋1点(12.0g)・縄文土器4点(42.1g)、第4号土坑から須恵器1点(5.7g)、第8号土坑から土師器5点(142.9g)が出土した。第4号溝跡からは遺物は出土しなかった。うち土師器(図8-6・8-21)・甕(図8-7~11・20・22・24)・小壺(図8-19)、須恵器(図8-12・16)・壺(図8-13~15・23)・甕(図8-25)、縄文土器(図8-17)を図示した。

[小結]出土遺物、火山灰、堆積土の様相などから、平安時代の遺構であり、10世紀前葉には廃絶していたと考えられる。

S101			
1層	5YR5/8	赤褐色土	7.5YR5/6褐色焼土層。
2層	7.5YR4/6	褐色土	5YR5/8明赤褐色焼土ブロック(φ2~15cm)2%、炭化物(φ2~3cm)1%。
3層	5YR4/8	赤褐色土	10YR2/2灰白色土が露出の層理面にある。7.5YR4/6褐色焼土10%、7.5YR5/6褐色焼土ブロック(φ10~15cm)3%、10YR3/3暗褐色土1%。
4層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム(φ1~60cm)と10YR5/8明黄褐色ローム(φ1~30cm)の混合物。
S101 P11			
1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR7/8黄褐色ローム(φ1~80cm)と10YR6/6明黄褐色ローム(φ1~30cm)の混合物。
S101 P12			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~50cm)10%。
S101 P13			
1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~50cm)の混合物。
2層	10YR3/8	暗褐色土	10YR4/4褐色土の混合物。
S101 P14			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ10~30cm)7%、ローム粒(φ1~9cm)2%。
2層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色土の混合物。
S101 P15			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~9cm)2%、(φ10~12cm)2%、10YR7/4に多い黄褐色ローム粒(φ1~7cm)1%。
2層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10~60cm)と10YR7/4明黄褐色ローム(φ1~5cm)、(φ10~30cm)の混合物。
S101 P16			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ1~20cm)と7.5YR5/8明黄褐色ローム(φ10~25cm)の混合物。
2層	10YR2/2	黒褐色土	7.5YR5/8褐色ローム(φ1~5cm)2%、(φ10~12cm)1%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~9cm)2%、炭化物(φ1~9cm)1%。
S101 P17			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR5/8黄褐色ローム(φ1~9cm)2%、(φ10~15cm)2%、炭化物(φ1~5cm)1%。
2層	10YR2/2	黒褐色土	10YR5/8黄褐色ローム(φ20~70cm)10%、(φ1~5cm)2%、10YR6/8黄褐色ローム粒(φ1~7cm)2%。
S101 P18			
1層	10YR2/2	黒褐色土	炭化物(φ1~9cm)3%、10YR7/8黄褐色ローム(φ1~5cm)2%、(φ10~20cm)1%、10YR6/8黄褐色ローム粒(φ1~7cm)1%。
2層	10YR3/8	暗褐色土	10YR5/8黄褐色ローム(φ10~12cm)、(φ1~9cm)と10YR3/3暗褐色土(φ10~25cm)の混合物。 5YR5/8明赤褐色土(20×100mm)ブロック状に露出。
S101 P110			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR5/4に多い黄褐色ローム(φ1~9cm)10%、(φ10~60cm)3%、炭化物(φ1~7cm)2%。
S101 P111			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム(φ10~50cm)7%、(φ1~9cm)3%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~9cm)2%。
S201			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR7/8黄褐色ロームブロック(φ10~15cm)2%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~9cm)2%、炭化物粒(φ1~3cm)1%。
2層	10YR2/2	黒褐色土	10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ10~20cm)2%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~9cm)1%、炭化物粒(φ1~3cm)1%。
3層	10YR3/6	暗褐色土	10YR5/8黄褐色ローム(φ1~80cm)と10YR2/2暗褐色土(φ1~50cm)の混合物。
S202(A-1)			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~2cm)7%、10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10~15cm)2%、炭化物粒(φ1~5cm)1%。
2層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~15cm)と炭化物粒(φ1~5cm)の混合物。
3層	10YR2/1	黒色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~9cm)3%。
4層	10YR3/3	暗褐色土	10YR2/2暗褐色土と10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~25cm)との混合物。
5層	10YR3/8	暗褐色土	10YR4/4褐色土と10YR2/2暗褐色土の混合物。
6層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色土と10YR4/6黄褐色土の混合物。
7層	10YR7/6	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合物。
S202(B-1)			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR8/8黄褐色ローム粒(φ1~2cm)2%、10YR7/8黄褐色ロームブロック(φ10~15cm)1%、炭化物粒(φ1~5cm)1%。
2層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~3cm)10%、ロームブロック(φ10~20cm)3%、10YR5/8黄褐色土ブロック(φ10~20cm)3%、炭化物粒(φ1~9cm)1%。
3層	10YR2/3	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10~60cm)13%、ローム粒(φ1~3cm)10%、7.5YR5/8明黄褐色土ブロック(φ10~20cm)2%。
4層	10YR3/8	暗褐色土	10YR5/8褐色土と7.5YR5/8褐色土と10YR2/2暗褐色土の混合物。
S204			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~30cm)と10YR5/8黄褐色ローム(φ1~25cm)の混合物。炭化物(φ3~10cm)7%。
S205			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~7cm)7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1~9cm)2%、7.5YR5/8明赤褐色焼土ブロック(φ10~12cm)1%、炭化物粒(φ1~9cm)1%、炭化物(φ10~11cm)1%、10YR5/8黄褐色土ブロック(φ1~9cm)1%、10YR3/3暗褐色土1%。
2層	10YR2/1	黒色土	炭化物(φ1~1cm)1%。
3層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色土(φ1~5cm)2%、ブロック(φ10~15cm)1%、焼土ブロック(φ10cm)1%、炭化物粒(φ1~9cm)1%。
4層	10YR2/3	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~2cm)1%、焼土ブロック(φ10cm)1%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~2cm)1%。
5層	10YR2/1	黒色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~2cm)の混合物。ロームブロック(φ15cm)1%。
6層	10YR2/2	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~9cm)3%、10YR5/8黄褐色土ブロック(φ10~12cm)1%、炭化物粒(φ1~7cm)2%。
7層	10YR2/2	暗褐色土	10YR7/8明黄褐色ローム粒(φ1~7cm)7%、炭化物粒(φ1~9cm)1%。
8層	10YR2/2	暗褐色土	10YR5/8黄褐色土ブロック(φ1~9cm)1%、10YR7/4に多い黄褐色ロームブロック(φ10~40cm)10%、10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10~25cm)7%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1~4cm)2%、焼土ブロック(φ40cm)1%、炭化物粒(φ1~9cm)1%。
9層	10YR3/4	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10~30cm)とローム粒(φ1~5cm)の混合物。10YR3/4黄褐色土(φ1~9cm)3%、10Y2/1黒色土2%。
S206			
1層	10YR2/3	暗褐色土	10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~9cm)1%。
2層	10YR2/2	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~9cm)1%。
3層	10YR2/2	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~2cm)2%、ロームブロック(φ10~20cm)1%。
4層	10YR5/6	黄褐色土	10YR5/8黄褐色土と10YR2/2暗褐色土の混合物。
S207			
1層	10YR2/3	暗褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~9cm)13%、(φ10~15cm)2%、10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ10~15cm)2%、炭化物粒(φ1~3cm)1%。
2層	10YR2/1	黒色土	10YR2/2暗褐色土(φ1~3cm)2%、ロームブロック(φ10cm)3%、炭化物粒(φ2~9cm)1%。
3層	10YR2/2	暗褐色土	10YR2/2暗褐色土(φ1~9cm)3%、ロームブロック(φ10~20cm)7%、10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10~25cm)2%。
4層	10YR2/2	暗褐色土	10YR2/2黄褐色土(山肌100×10cm)、5YR5/8明赤褐色焼土(φ10~20cm)1%、(φ1~2cm)1%、炭化物粒(φ1~3cm)1%、10YR7/8明黄褐色土(φ1~9cm)、ロームブロック(φ10~7cm)と10YR5/8黄褐色ローム(φ1~9cm)、ロームブロック(φ10~30cm)の混合物。

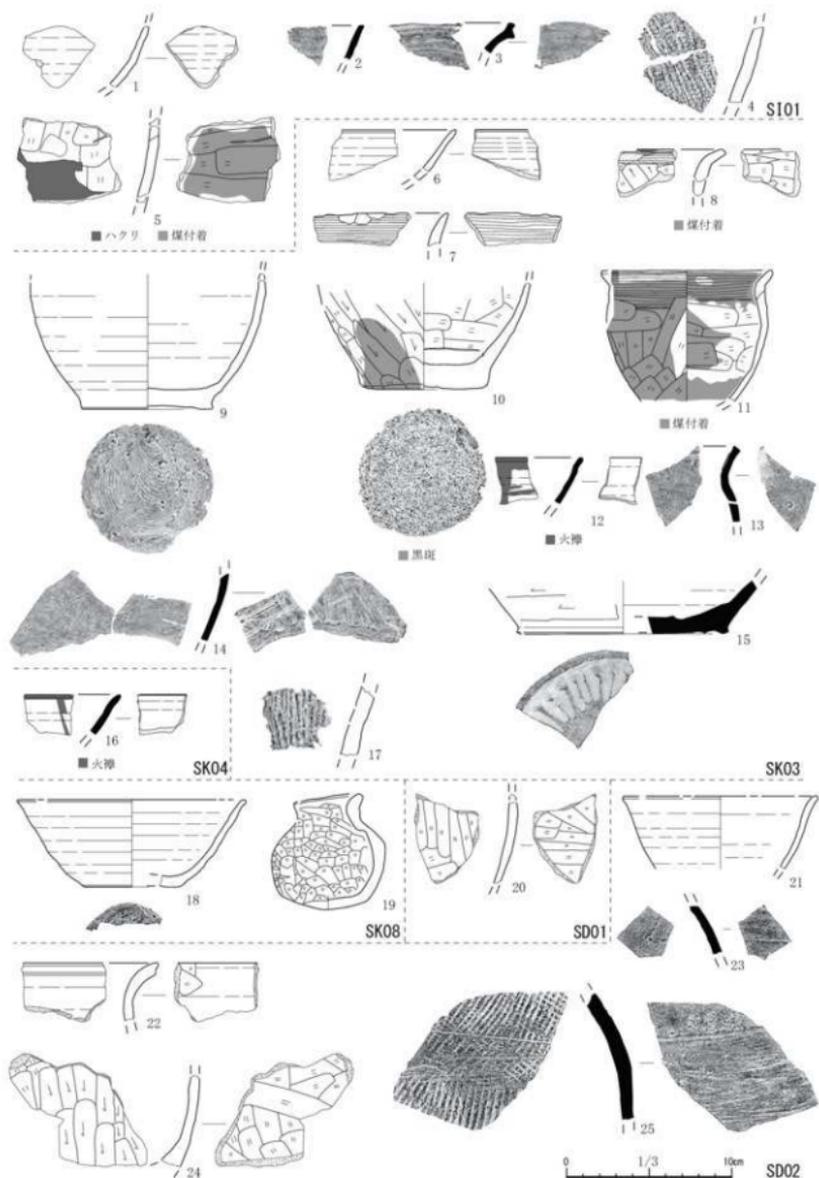


図8 下石川平野遺跡(農道27号) 第1号竪穴建物跡出土遺物

## (2) 掘立柱建物跡・柱穴

農道27号からは合計19基の柱穴が検出された。柱穴はN27-11~14グリッド及びN27-18・19グリッド周辺に集中しており、柱穴間隔や柱筋が均等でないものの、2軒の掘立柱建物跡を復元した。各柱穴の位置や計測値等諸特徴は、図5遺構配置図や図9・10、表3の計測表に示した。

表3 下石川平野遺跡(農道27号) 柱穴計測表

SP 番号	図版番号	グリッド	標高 (m)	規模(cm)			備考
				長軸	短軸	深さ	
1	図9	N27-11	44.0	37	31	37	柱の当たりあり。
2	図9	N27-11・12	44.0	47	31	29	
3	図9	N27-12	44.1	40	23	11	柱の当たりあり。
4	図9	N27-12	44.1	29	74	25	柱の当たりあり。
5	図9	N27-12	44.1	33	30	26	SB01を構成するビット。柱の当たりあり。
6	図9	N27-12	44.1	56	47	36	
7	図9	N27-12	44.1	32	19	35	
8	図9	N27-12	44.1	40	26	44	
9	図9	N27-12	44.1	43	39	26	柱の当たりあり。
10	図9	N27-13	44.1	51	(38)	28	
11	図9	N27-13	44.1	31	30	15	SB01を構成するビット。柱の当たりあり。
12	図9	N27-13	44.1	28	24	51	柱の当たりあり。
13	図9	N27-13	44.1	28	26	42	SB01を構成するビット。柱の当たりあり。
14	図9	N27-13	44.1	31	25	23	
15	図9	N27-14	44.1	31	21	19	柱の当たりあり。
16	図10	N27-18	44.1	38	33	11	
17	図10	N27-19	44.1	28	25	28	SB02を構成するビット。
18	図10	N27-19	44.1	30	25	17	SB02を構成するビット。
19	図10	N27-18	44.1	27	24	12	SB02を構成するビット。
20	図9	N27-12	44.1	29	28	10	柱の当たりあり。
21	図9	N27-13	44.1	(30)	(20)	12	柱の当たりあり。
22	図9	N27-13	44.1	(34)	(18)	13	柱の当たりあり。
23	図10	N27-18	44.2	32	28	23	SB02を構成するビット。
24	図10	N27-18	44.2	24	(15)	17	SD01より古い。
25	図10	N27-18	44.1	30	23	24	
26	図10	N27-15	44.1	31	28	14	
27	図9	N27-12	44.1	37	(11)	19	SB01を構成するビット。SK07より古い。

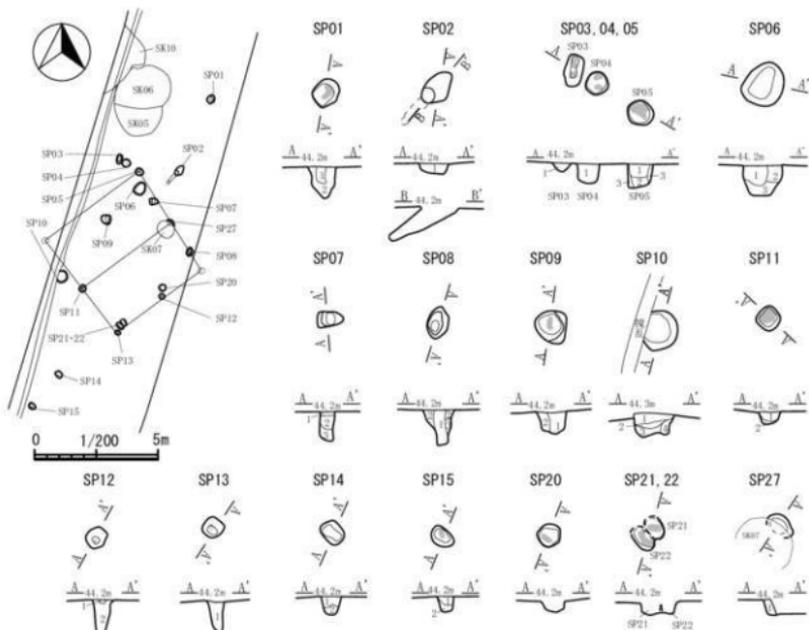
## 第1号掘立柱建物跡(SB01、図9)

[位置・確認]調査区北側北方のN27-12・13グリッドに位置する。ほぼ同規模の柱穴であるSP05・11・13・27が1×2間で配置されるとみられることから、掘立柱建物跡と認定した。遺構確認面の標高は44.1m、第V層で検出された。SK07と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模]現状では梁行1間×桁行2間の長方形の掘立柱建物跡と推定される。主軸方向はN-32°-WもしくはN-37.5°-W、柱間寸法は梁行4.3~4.7m、桁行は4.8m以上と推測される。SP05・11で柱の当たりを確認した。柱穴規模は、径約30cm・深さ15~42cmである。

[堆積土]いずれも黒〜黒褐色土を基調とする。

[出土遺物・遺構の時期等]SB01を構成する柱穴からは遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明であるが、周辺遺構の配置状況から平安時代の遺構の可能性が高いと考えられる。



- 柱の当たり
- 0 1/60 2m
- SP01  
1層 10192/2 黒色シロト 10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~20mm)2%。  
2層 10192/2 黒色シロトと10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~70mm)の混合層。
- SP02  
1層 10192/1 黒色シロト 10196/6明黄褐色ロームブロック(φ10~80mm)20%、10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~9mm)2%。  
2層 10192/2 黒色シロト 10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~8mm)2%。
- SP03  
1層 10192/2 黒色シロト 10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~30mm)20%。
- SP04  
1層 10192/2 黒色シロト 10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~30mm)20%。
- SP05  
1層 10192/1 黒色シロト 10193/8黄褐色ローム軟(φ1~5mm)1%。  
2層 10192/1 黒色シロトと10193/8黄褐色ロームブロック(φ1~7mm)の混合層。
- SP06  
1層 10192/2 黒色シロトと10196/6明黄褐色ロームブロック(φ10~50mm)の混合層。  
2層 10192/2 黒色シロト、10196/6明黄褐色ロームブロック(φ10~90mm)3%、10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~9mm)1%。  
3層 10196/8 緑色ロームと10192/2黒褐色シルト層の混合層。
- SP07  
1層 10192/1 黒色土 10194/28明黄褐色土10%、10196/6明黄褐色ローム20%。  
2層 10192/1 黒色土 10196/6明黄褐色ロームブロック(φ20mm)、ローム軟(φ1~7mm)3%。  
3層 10192/3 黒褐色土と10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~9mm)の混合層。
- SP08  
1層 10192/1 黒色土 10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~9mm)2%。  
2層 10192/2 黒色シロトと10193/8黄褐色ローム軟(φ1~9mm)1%。  
3層 10192/1 黒色土と10197/8黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)の混合層。
- SP09  
1層 10192/1 黒色土 10193/8明黄褐色ロームブロック(φ10~80mm)5%、ローム軟(φ1~5mm)2%。  
2層 10192/1 黒色土 10193/8明黄褐色ローム軟(φ1~7mm)10%。
- SP10  
1層 10192/1 黒色シロト 10196/6明黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)3%、10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~5mm)2%、7.5195/8黄褐色ローム軟(φ1~6mm)2%。  
2層 10192/1 黒色シロト 10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~5mm)2%、7.5195/8黄褐色ローム軟(φ1~6mm)2%。  
3層 10192/1 黒色シロト 10194/6褐色ロームブロック(φ10~20mm)2%、10194/6褐色ローム軟(φ1~3mm)2%。  
4層 10192/1 黒色シロト 10197/8黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)2%、10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~5mm)2%。
- SP11  
1層 10192/1 黒色土、10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~7mm)1%。  
2層 10192/2 黒色シロト、10196/6明黄褐色ローム軟(φ1~20mm)の混合層。
- SP12  
1層 10196/8 緑色ロームと10192/2黒褐色シルト層の混合層。  
2層 10192/1 黒色土 10193/8黄褐色ローム軟(φ1~9mm)1%。
- SP13  
1層 10192/2 黒褐色土。  
2層 10192/2 黒褐色土と10192/2黒褐色シルト層の混合層。  
3層 10192/1 黒色土 10193/8黄褐色ローム軟(φ1~9mm)1%。
- SP14  
1層 10192/2 黒褐色土。  
2層 10192/2 黒褐色土と10196/6明黄褐色ロームブロック(φ10~15mm)1%。  
3層 10192/2 黒褐色土と10196/6明黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)の混合層。
- SP15  
1層 10192/1 黒色シロトと7.5195/8黄褐色ローム軟(φ1~3mm)2%。  
2層 10192/2 黒色シロトと10193/8黄褐色ローム軟(φ1~3mm)の混合層。
- SP20  
1層 10192/2 黒褐色土 10197/8黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)3%、ローム軟(φ1~9mm)2%。  
2層 10192/2 黒褐色土 10197/8黄褐色ローム軟(φ1~9mm)10%、ロームブロック(φ10~15mm)2%。
- SP21, 22  
1層 10192/2 黒褐色土 10197/8黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)7%。  
2層 10192/1 黒色土 10197/8褐色ローム(φ1~9mm)7%、(φ10~12mm)2%、10195/8黄褐色ローム軟(φ1~7mm)1%。
- SP27  
1層 10192/1 黒色土 10197/8褐色ローム(φ1~9mm)7%、(φ10~12mm)2%、10195/8黄褐色ローム軟(φ1~7mm)1%。

第1号掘立柱建物跡

0 1/100 5m

図9 下石川平野遺跡(農道27号) 掘立柱建物跡・柱穴(1)

## 第2号掘立柱建物跡(SB02、図10)

[位置・確認]調査区北側中央のN27-18・19グリッドに位置する。ほぼ同規模の柱穴であるSP17・18・19が1×1間で配置されるとみられることから、掘立柱建物跡と認定した。遺構確認面の標高は44.1~44.2m、第V層で検出された。

[平面形・規模]現状では梁行1間×桁行1間の長方形の掘立柱建物跡と推定される。主軸方向はN-38~39°-Eで、柱間寸法は、梁行2.0~2.1m、桁行4.2~4.3mを測る。柱痕や柱の当りは確認されなかった。柱穴規模は、径約30cm・深さ12~28cmである。

[堆積土]いずれも黒~黒褐色土を基調とする。

[出土遺物・遺構の時期等]SB02を構成する柱穴からは遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明であるが、周辺遺構の配置状況から平安時代の遺構の可能性が高いと考えられる。

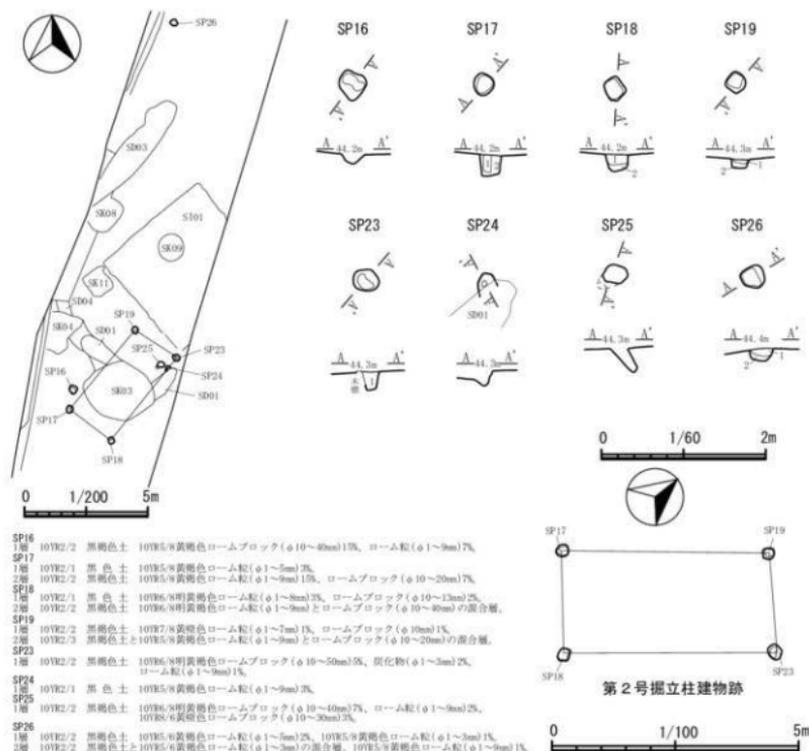


図10 下石川平野遺跡(農道27号) 掘立柱建物跡・柱穴(2)

### (3) 土坑

14基の土坑が検出された。うち、3基(SK03・04・08)は第1号竪穴建物跡に付属する外周溝に関連するとみられる。

#### 第1号土坑(SK01、図11・13)

[位置・確認]調査区北側南方のN27-28グリッドに位置し、遺構確認面の標高は43.8m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模]規模は長軸172cm、短軸130cmの隅丸形状である。確認面からの深さは21cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなしている。

[堆積土]黒色土主体の単層で、最大で径7cmのロームブロックが混入し、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]土師器2点(32.2g)、須恵器1点(4.3g)が出土した。そのうち土師器甕(図13-1)、須恵器坏(図13-2)を図示した。堆積土の様相や出土遺物などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

#### 第2号土坑(SK02、図11)

[位置・確認]調査区北側南方のN27-27・28グリッドに位置し、遺構確認面の標高は43.8m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模]規模は長軸109cm、短軸90cmの不整楕円形である。確認面からの深さは27cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなしている。

[堆積土]黒色土主体で2層に分層できた。底面付近には径6～22cm大のロームブロックを含んでおり、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相から、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

#### 第3号土坑(SK03、図6～8)

調査区北側中央のN27-18-19グリッドに位置する。SI01の付属施設とみられることから、SI01の中で報告している。

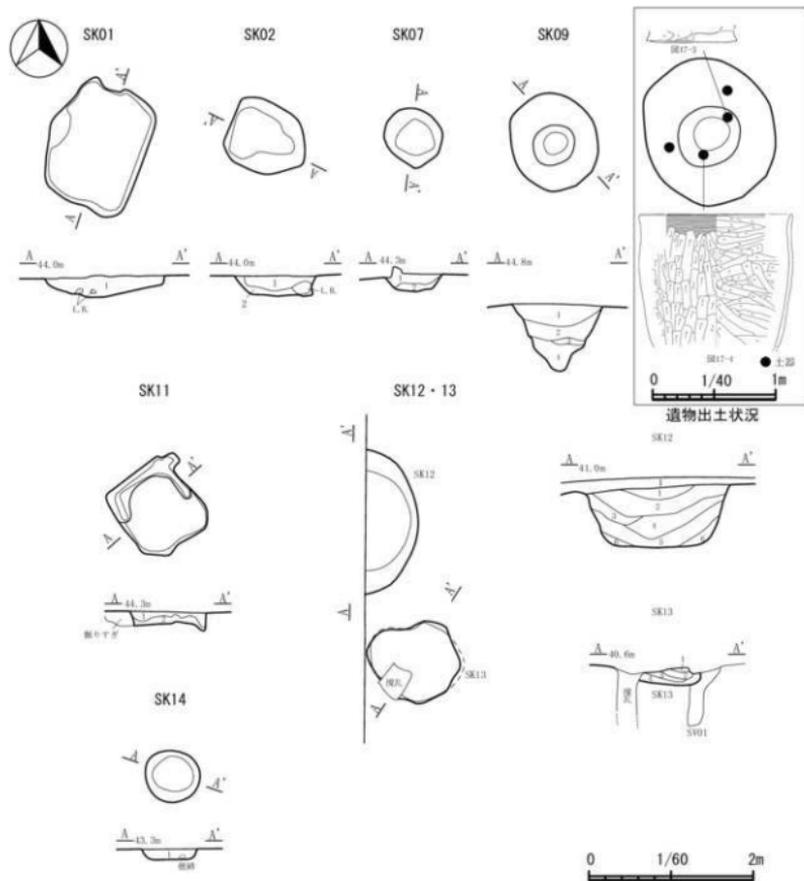
#### 第4号土坑(SK04、図6・7)

調査区北側中央のN27-18グリッドに位置する。SI01の付属施設とみられることから、SI01の中で報告している。

#### 第5号土坑(SK05、図12～14)

[位置・確認]調査区北側北方のN27-11グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.1m、第V層で確認した。SK06と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模]北半がSK06と重複しており、確認できた規模は長軸(197)cm、短軸(156)cmの半円形であるが、本来は円形を呈している可能性がある。確認面からの深さは18cmである。地山をそのままほぼ平坦な底面とし、断面形は皿状をなしている。



- SK01**  
1層 10YR2/1 赤褐色土  
2層 10YR2/1 赤褐色土
- SK02**  
1層 10YR2/1 赤褐色土  
2層 10YR2/1 赤褐色土
- SK07**  
1層 10YR2/1 赤褐色土  
2層 10YR2/1 赤褐色土
- SK09**  
1層 10YR3/4 暗褐色土  
2層 10YR2/2 暗褐色土  
3層 10YR5/4 暗褐色土  
4層 10YR5/8 暗褐色土
- SK11**  
1層 10YR2/1 赤褐色土  
2層 10YR6/8 黄褐色土
- SK12**  
1層 10YR2/1 赤褐色土  
2層 10YR6/8 黄褐色土
- SK13**  
1層 10YR6/8 黄褐色土  
2層 10YR5/6 黄褐色土
- SK14**  
1層 10YR3/4 暗褐色土
- 1層 10YR2/1 赤褐色土  
2層 10YR6/8 黄褐色土  
3層 10YR2/1 赤褐色土  
4層 10YR2/1 赤褐色土  
5層 10YR2/1 赤褐色土  
6層 10YR2/1 赤褐色土  
7層 10YR2/1 赤褐色土  
8層 10YR2/1 赤褐色土  
9層 10YR2/1 赤褐色土  
10層 10YR2/1 赤褐色土  
11層 10YR2/1 赤褐色土  
12層 10YR2/1 赤褐色土  
13層 10YR2/1 赤褐色土  
14層 10YR2/1 赤褐色土  
15層 10YR2/1 赤褐色土  
16層 10YR2/1 赤褐色土  
17層 10YR2/1 赤褐色土  
18層 10YR2/1 赤褐色土  
19層 10YR2/1 赤褐色土  
20層 10YR2/1 赤褐色土  
21層 10YR2/1 赤褐色土  
22層 10YR2/1 赤褐色土  
23層 10YR2/1 赤褐色土  
24層 10YR2/1 赤褐色土  
25層 10YR2/1 赤褐色土  
26層 10YR2/1 赤褐色土  
27層 10YR2/1 赤褐色土  
28層 10YR2/1 赤褐色土  
29層 10YR2/1 赤褐色土  
30層 10YR2/1 赤褐色土  
31層 10YR2/1 赤褐色土  
32層 10YR2/1 赤褐色土  
33層 10YR2/1 赤褐色土  
34層 10YR2/1 赤褐色土  
35層 10YR2/1 赤褐色土  
36層 10YR2/1 赤褐色土  
37層 10YR2/1 赤褐色土  
38層 10YR2/1 赤褐色土  
39層 10YR2/1 赤褐色土  
40層 10YR2/1 赤褐色土  
41層 10YR2/1 赤褐色土  
42層 10YR2/1 赤褐色土  
43層 10YR2/1 赤褐色土  
44層 10YR2/1 赤褐色土  
45層 10YR2/1 赤褐色土  
46層 10YR2/1 赤褐色土  
47層 10YR2/1 赤褐色土  
48層 10YR2/1 赤褐色土  
49層 10YR2/1 赤褐色土  
50層 10YR2/1 赤褐色土  
51層 10YR2/1 赤褐色土  
52層 10YR2/1 赤褐色土  
53層 10YR2/1 赤褐色土  
54層 10YR2/1 赤褐色土  
55層 10YR2/1 赤褐色土  
56層 10YR2/1 赤褐色土  
57層 10YR2/1 赤褐色土  
58層 10YR2/1 赤褐色土  
59層 10YR2/1 赤褐色土  
60層 10YR2/1 赤褐色土  
61層 10YR2/1 赤褐色土  
62層 10YR2/1 赤褐色土  
63層 10YR2/1 赤褐色土  
64層 10YR2/1 赤褐色土  
65層 10YR2/1 赤褐色土  
66層 10YR2/1 赤褐色土  
67層 10YR2/1 赤褐色土  
68層 10YR2/1 赤褐色土  
69層 10YR2/1 赤褐色土  
70層 10YR2/1 赤褐色土  
71層 10YR2/1 赤褐色土  
72層 10YR2/1 赤褐色土  
73層 10YR2/1 赤褐色土  
74層 10YR2/1 赤褐色土  
75層 10YR2/1 赤褐色土  
76層 10YR2/1 赤褐色土  
77層 10YR2/1 赤褐色土  
78層 10YR2/1 赤褐色土  
79層 10YR2/1 赤褐色土  
80層 10YR2/1 赤褐色土  
81層 10YR2/1 赤褐色土  
82層 10YR2/1 赤褐色土  
83層 10YR2/1 赤褐色土  
84層 10YR2/1 赤褐色土  
85層 10YR2/1 赤褐色土  
86層 10YR2/1 赤褐色土  
87層 10YR2/1 赤褐色土  
88層 10YR2/1 赤褐色土  
89層 10YR2/1 赤褐色土  
90層 10YR2/1 赤褐色土  
91層 10YR2/1 赤褐色土  
92層 10YR2/1 赤褐色土  
93層 10YR2/1 赤褐色土  
94層 10YR2/1 赤褐色土  
95層 10YR2/1 赤褐色土  
96層 10YR2/1 赤褐色土  
97層 10YR2/1 赤褐色土  
98層 10YR2/1 赤褐色土  
99層 10YR2/1 赤褐色土  
100層 10YR2/1 赤褐色土

図11 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑(1)

[堆積土] 黒褐色土主体で2層に分層された。黄褐～明黄褐色ローム粒を含み、人為堆積と考えられる。  
 [出土遺物・遺構の時期等] 土師器104点(831.1g)、須恵器16点(161.7g)、縄文土器2点(2.1g)が出土した。のうち土師器坏(図13-3・4)・甕(図13-5～15)、須恵器坏(図14-1～4)・甕(図14-5)を図示した。堆積土の様相、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構であるが、その機能は不明である。

#### 第6号土坑(SK06、図12・14～16)

[位置・確認] 調査区北側北方のN27-11グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.0～44.1m、第V層で確認した。SK05・10と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 長軸247cm、短軸179cmの楕円状である。確認面からの深さは47cmである。地山をそのまま若干の起伏のある底面とし、断面形は丸底状をなしている。

[堆積土] 黒褐色土主体で、黄褐～明黄褐色ローム粒を含み、人為堆積の可能性がある。堆積土中に火山灰がブロック状に混入しており、理化学的分析の結果、白頭山苦小牧火山灰と推定された(第2編第5章第1節参照)。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器765点(11,767.0g)、土製支脚10点(253.0g)、須恵器56点(2,264.6g)、鉄滓3点(46.2g)、縄文土器1点(14.1g)・石器1点(4.3g)が出土し、土師器坏(図14-6～10・12)・皿(図14-11)・甕(図14-13～16・図15-1～12)・埴(図16-1・2)・小杯(図16-3～5)、土製支脚(図16-6)、須恵器坏(図16-7～9)・壺(図16-10～12)、縄文土器(図16-13)を図示した。堆積土の様相、遺構の重複関係、火山灰、出土遺物などから、平安時代の遺構であるが、その機能は不明である。

#### 第7号土坑(SK07、図11・17)

[位置・確認] 調査区北側、N27-12グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.1m、第V層で確認した。SP27と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 規模は長軸74cm、短軸68cmのほぼ円形である。確認面からの深さは22cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は丸底状をなしている。

[堆積土] 2層に分層された。1層は黒色土主体層で、2層は黒色土と明黄褐色ロームとの混合土層で、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器5点(34.1g)が出土し、うち土師器甕(図17-1)を図示した。堆積土の様相、出土遺物などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

#### 第8号土坑(SK08、図6～8)

調査区北側、N27-17グリッドに位置する。SI01の付属施設とみられることから、SI01の中で報告している。

#### 第9号土坑(SK09、図11・17)

[位置・確認] 調査区北側、N27-17グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.1～44.2mである。SI01と重複し、本遺構が新しい。



[平面形・規模]長軸121cm、短軸105cmのほぼ円形である。確認面からの深さは73cmである。地山をそのまま底面とし、断面形はV字状をなしている。

[堆積土]黒～暗褐色土主体で4層に分層された。いずれの層にも黄褐～黄橙色ロームが混入しており、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]土師器8点(644.8g)が出土した。そのうち土師器杯(図17-2)・甕(図17-3・4)を図示した。堆積土の様相、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

#### 第10号土坑(SK10、図12・17～19)

[位置・確認]調査区北側北方のN27-11グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.0～44.1m、第V層で確認した。SK06と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模]西半は調査区域外に延びており、また、南東がSK06と重複しているが、確認できた規模は長軸363cm、短軸(135)cmで、本来は円形を呈していたものと考えられる。確認面からの深さは20～39cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は皿状をなしている。

[堆積土]黒褐色土主体で8層に分層された。ロームを多量に含むことから、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]土師器201点(2,641.2g)、須恵器30点(698.8g)、鉄滓2点(9.5g)・軽石1点(2.4g)が出土した。そのうち土師器杯(図17-5～9)・高台杯(図17-10・図18-10)・甕(図17-11～13・図18-1～9・11)・埴(図18-12～14)・小杯(図18-15・16)、須恵器杯(図18-17～19)・壺(図19-1)、軽石(図19-2)を図示した。堆積土の様相、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構であるが、その機能は不明である。

#### 第11号土坑(SK11、図11・19)

[位置・確認]調査区北側、N27-17・18グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.1m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模]規模は長軸102cm、短軸95cmの不整形形状である。確認面からの深さは24cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は箱状をなしている。

[堆積土]明黄褐色土主体で2層に分層された。1層は黒褐色土との混合層である。2層はにぶい黄褐色粘土がブロック状に混入しており、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]土師器甕底部片1点(12.2g)が出土し、それを図示した(図19-3)。堆積土の様相、出土遺物などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

#### 第12号土坑(SK12、図11)

[位置・確認]調査区南側、N27-80グリッドに位置し、遺構確認面の標高は40.6～40.7m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模]西半が調査区域外に延びており全体の様相は不明であるが、確認できた規模は長軸177cm、短軸(72)cmで、おそらく円形をなすものとみられる。確認面からの深さは70～76cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は丸底状で壁は湾曲しながら立ち上がっている。

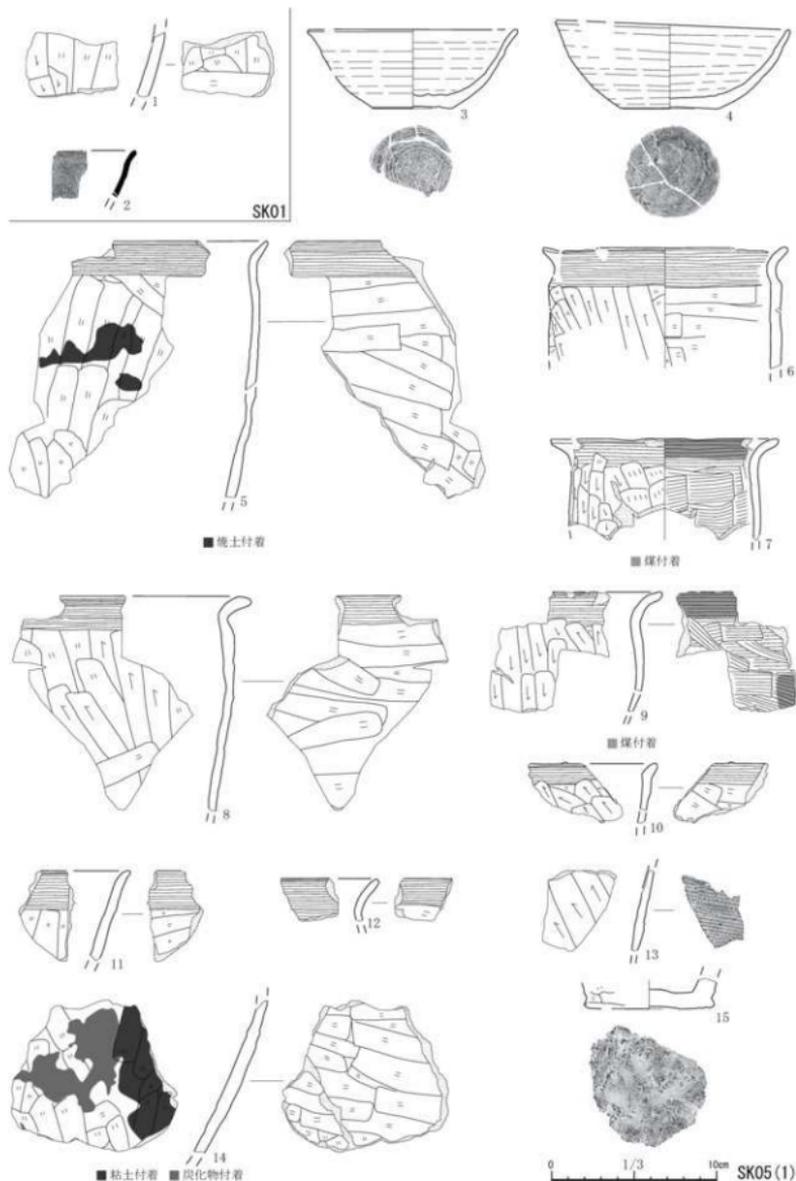


图13 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(1)

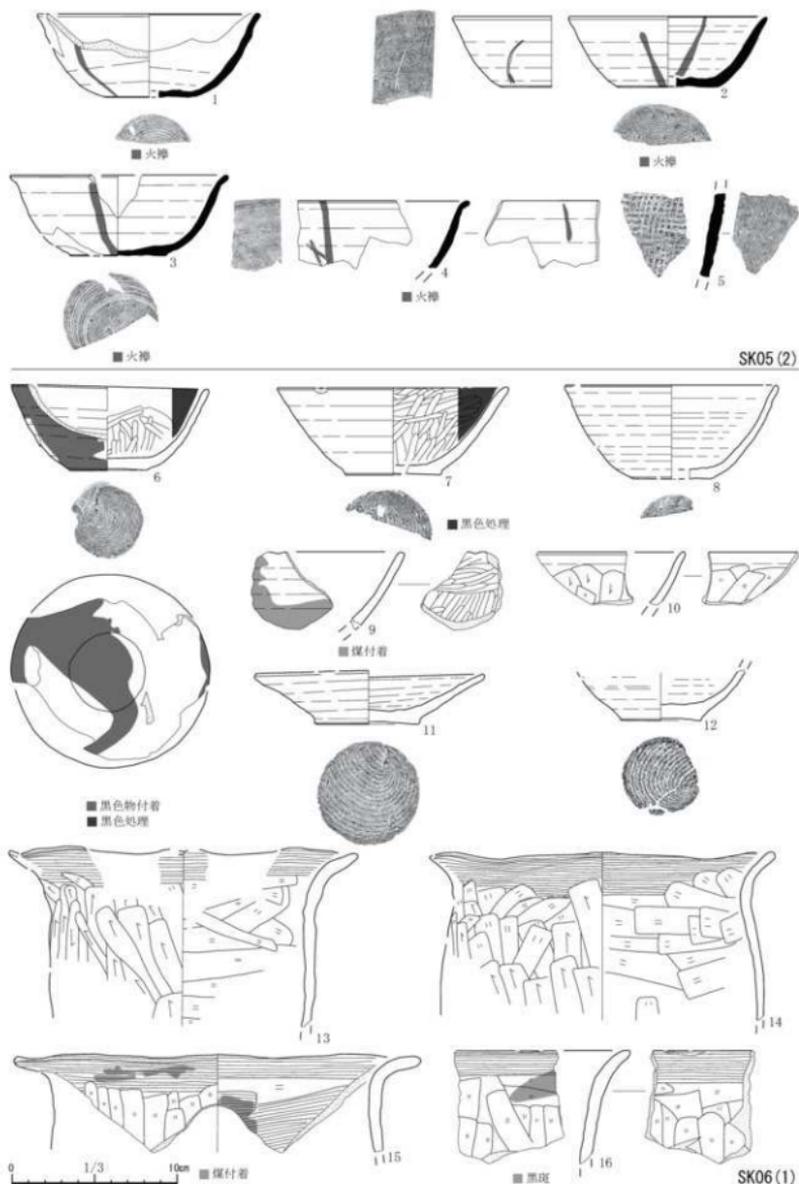


図14 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(2)

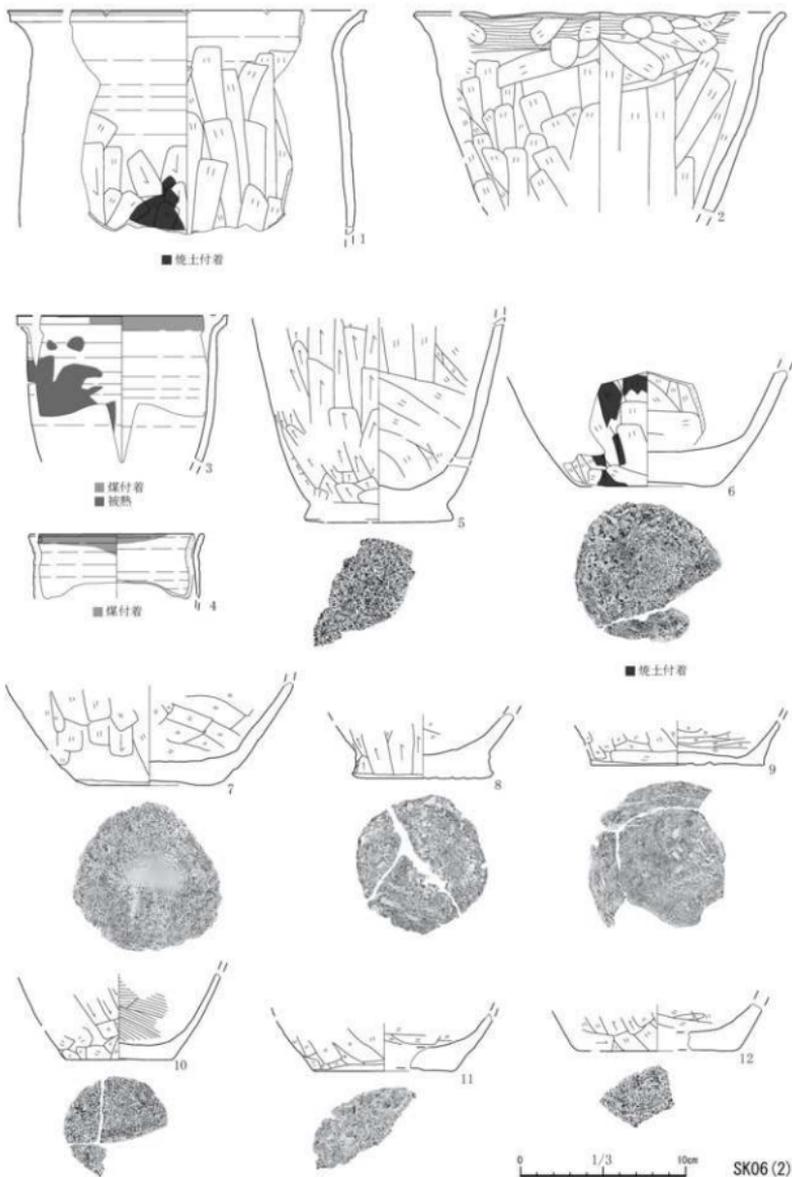


図15 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(3)

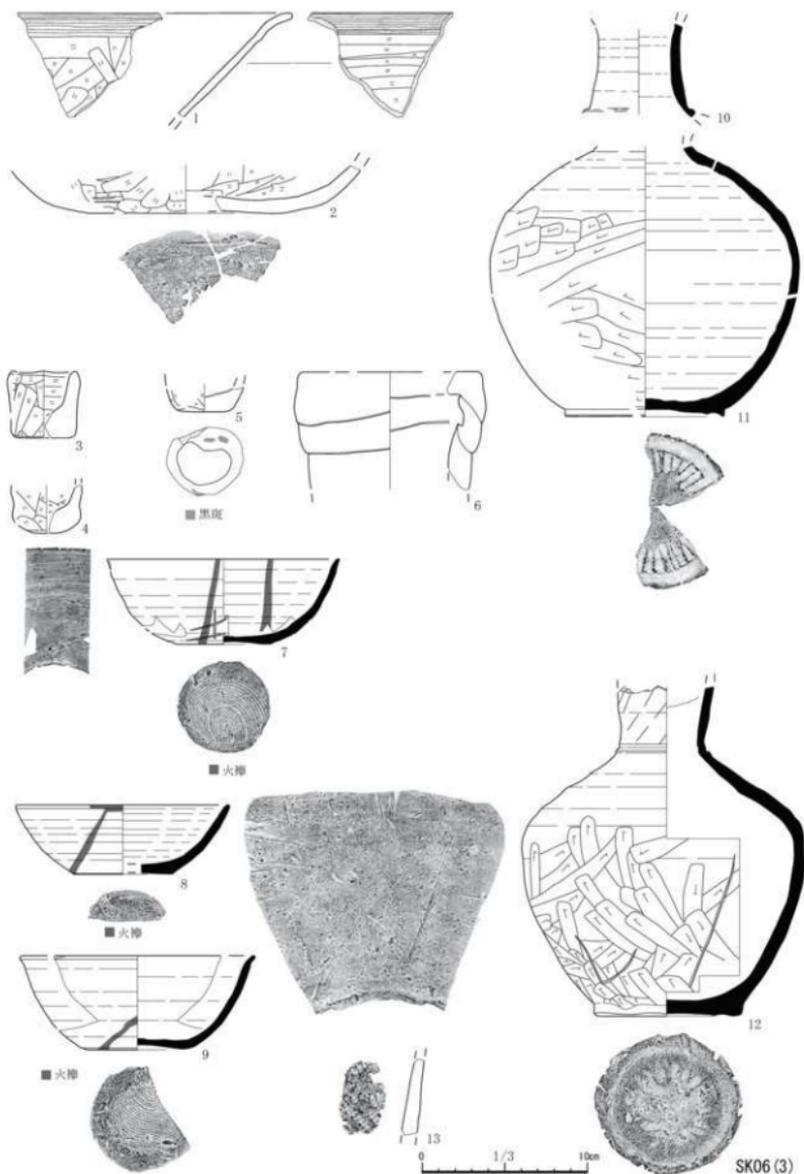


図16 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(4)

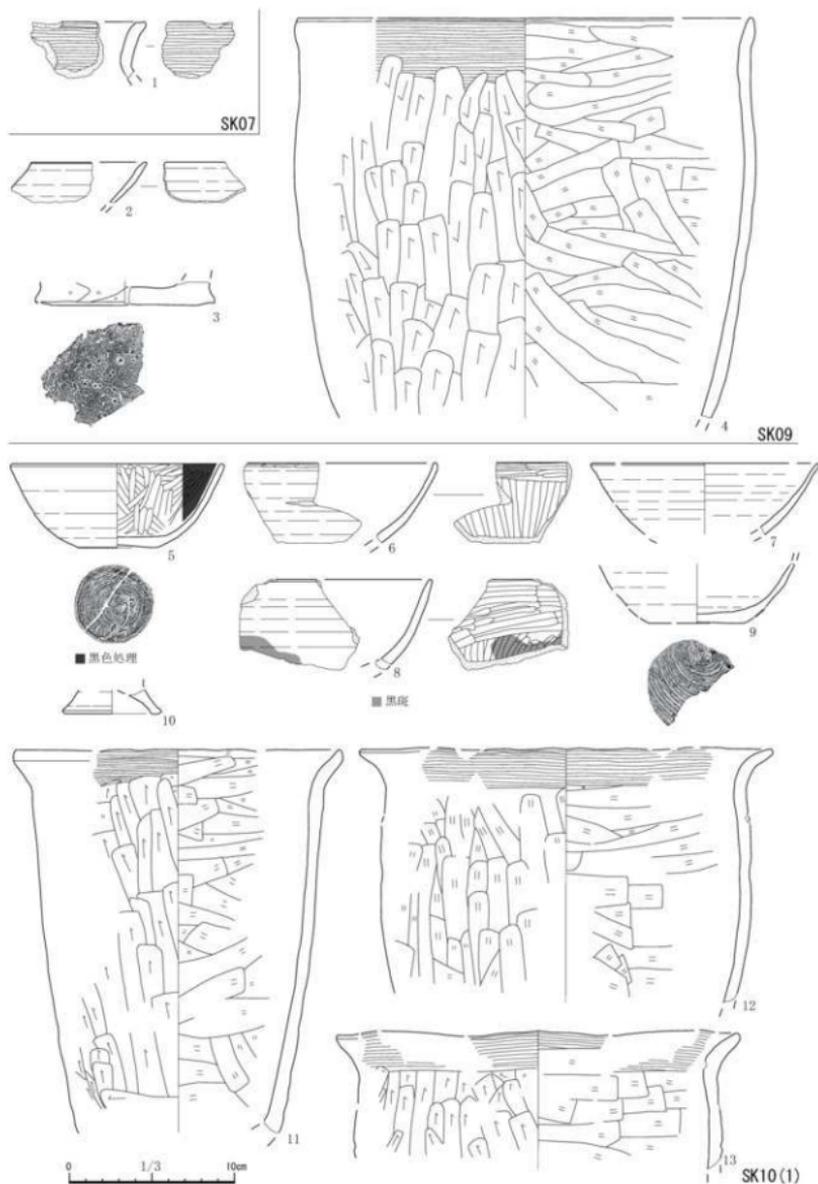


図17 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(5)

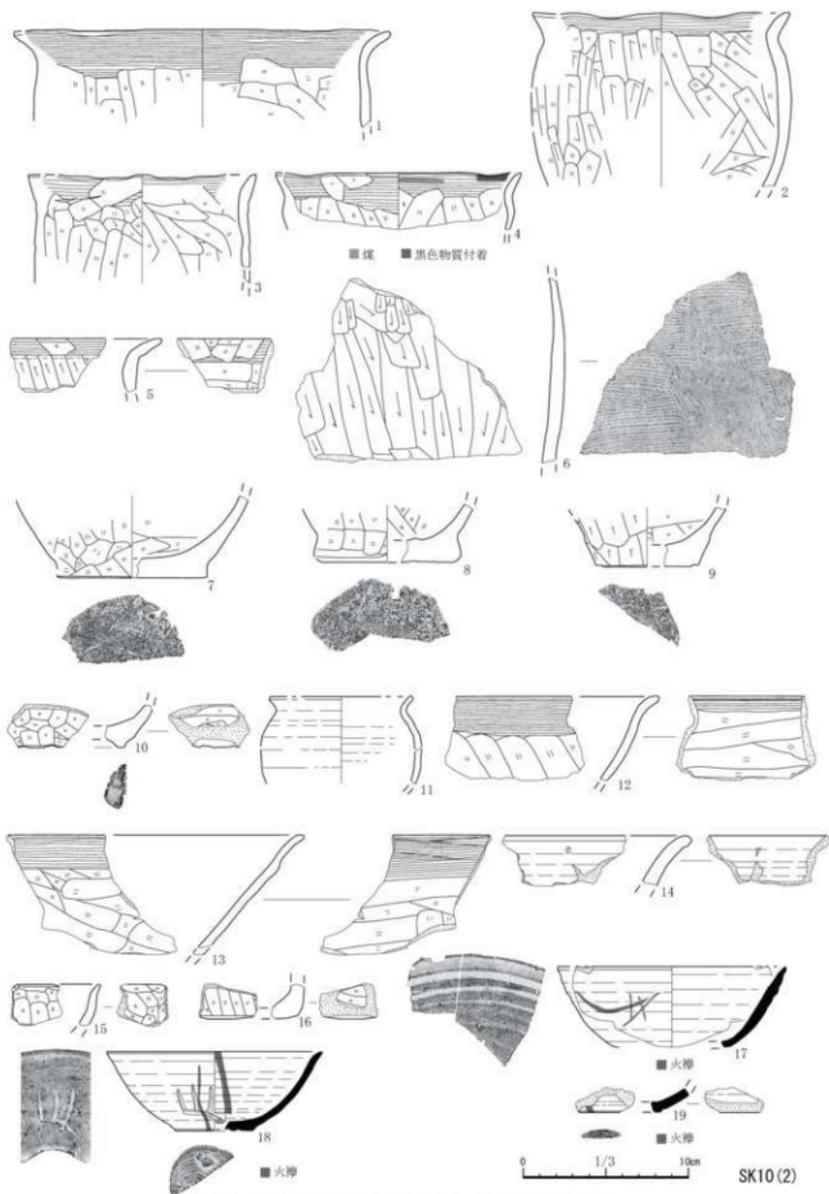


図18 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(6)

[堆積土]上位は黒色土が主として堆積しており、下位は黒褐色土が主として堆積している。底面付近には黄褐色ロームを多く含んでおり、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

### 第13号土坑 (SK13、図11)

[位置・確認]調査区西側北部、N27-80グリッドに位置し、遺構確認面の標高は40.5m、第V層で確認した。SV01と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模]一部が攪乱によって壊され、さらにSV01と重複していることから不明な部分もあるが、確認できた規模は長軸113cm、短軸100cmの不整形であるが、本来は東西方向に長軸を有する楕円形を呈しているものと思われる。確認面からの深さは19~24cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は壁がしっかり立ち上がる皿状をなすが、北側や東側ではオーバーハングをなしている。

[堆積土]上位は明黄褐色もしくは黄褐色ロームと黒褐色土の互層をなしている。底面付近は黒色土が堆積している。人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

### 第14号土坑 (SK14、図11)

[位置・確認]調査区南側、N27-53グリッドに位置し、遺構確認面の標高は43.2m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模]規模は長軸66cm、短軸63cmのほぼ円形で、確認面からの深さは13cmである。地山をそのまま平坦な底面とし、断面形は皿状をなしている。

[堆積土]暗褐色土が堆積し、底面付近にはにぶい黄褐色土を含んでいる。人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

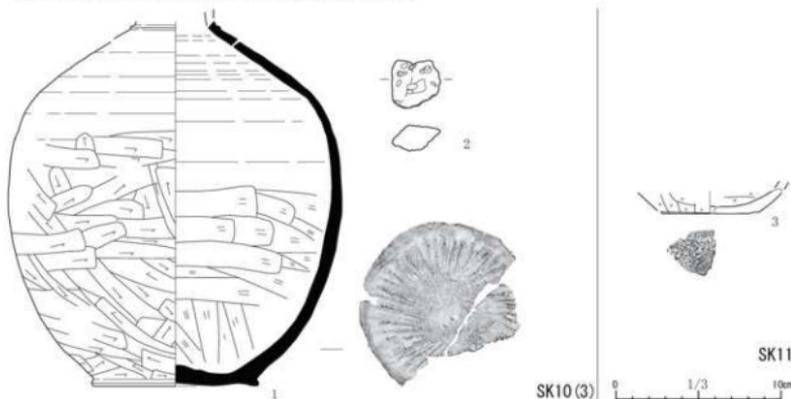


図19 下石川平野遺跡(農道27号) 土坑出土遺物(7)

#### (4) 溝跡

農道27号からは合計8条の溝跡が検出された。うち、第1・2・4号溝跡は第1号堅穴建物跡(SI01)の付属遺構(外周溝)とみられる。その他の溝跡はN27-8・9グリッド、N27-38~49グリッド、N27-63・64グリッドに分散して位置し、まとまりはみられない。溝跡のほとんどは調査区を東西に横断するように検出されたものが多く、全容が分かるものはなかった。

##### 第1号溝跡(SD01、図6~8)

調査区南側、N27-18グリッドに位置する。SI01の付属遺構とみられることから、SI01の中で報告している。

##### 第2号溝跡(SD02、図6~8)

調査区南側、N27-16・17グリッドに位置する。SI01の付属遺構とみられることから、SI01の中で報告している。

##### 第3号溝跡(SD03、図20)

[位置・確認]調査区北側、N27-8・9グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.0~44.1m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。第III層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模・底面]調査区の西壁から北東に伸びる直線状の溝跡で、南南部が調査区域外に伸びていて、遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(1.84)m、最大幅は185cm、確認面からの深さは57cmであるが、調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは68cmである。底面は地山をそのまま底面としており、断面形は半円状に近い。北東端と南西端では、溝底面の比高差は約6cmあり、南西側に傾斜して構築されている。

[堆積土]堆積土は黒褐色土と黄褐色ロームの混合土を主体とし、人為的に埋め戻されている。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

##### 第4号溝跡(SD04、図6・7)

調査区南側、N27-18グリッドに位置する。SI01の付属遺構とみられることから、SI01の中で報告している。

##### 第5号溝跡(SD05、図20・23)

[位置・確認]調査区南側、N27-63・64グリッドで検出された。遺構確認面の標高は約42.5mで、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面]調査区を北東-南西に横切る直線状の溝跡で、北側にはSD06が併走している。両端とも調査区域外に伸びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(6.6)m、幅は68~79cm、確認面からの深さは53~65cmである。底面は地山をそのまま底面としており、やや起伏があり、断面形は下半がコ字状で壁が直立するが、上部の壁は外側に開いている。底面の標高は北東端

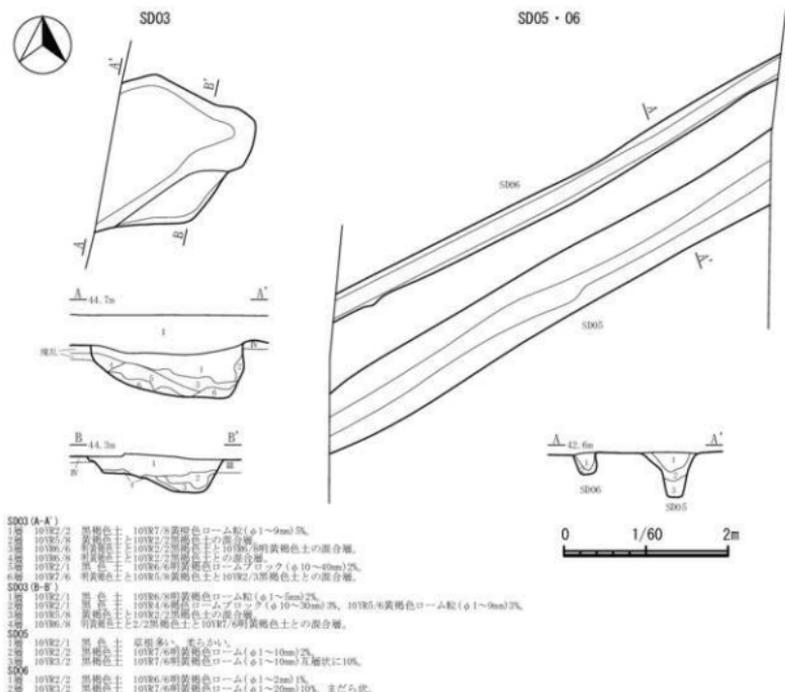


図20 下石川平野遺跡(農道27号) 溝跡(1)

42.3m、南西端42.2mで、南西端へわずかに傾斜している。

[堆積土] 上位は黒色土が堆積するが、中位以下は黒褐色土が主として堆積し、明黄褐色ロームが互層状に流入している。これは壁の崩落土とみられることから、自然に堆積したものと思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器2点(3.8g)、石器1点(335.9g)が出土し、そのうち縄文土器(図23-1)と凹石(図23-2)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

#### 第6号溝跡(SD06、図20)

[位置・確認] 調査区南側、N27-63・64グリッドで検出された。遺構確認面の標高は約42.5mで、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区を北東-南西に横切る直線状の溝跡で、南側にはSD05が併走している。両端とも調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(6.3)m、幅は25~30cm、確認面からの深さは19~25cmである。地山をそのまま底面としており、やや凹凸がある。底面

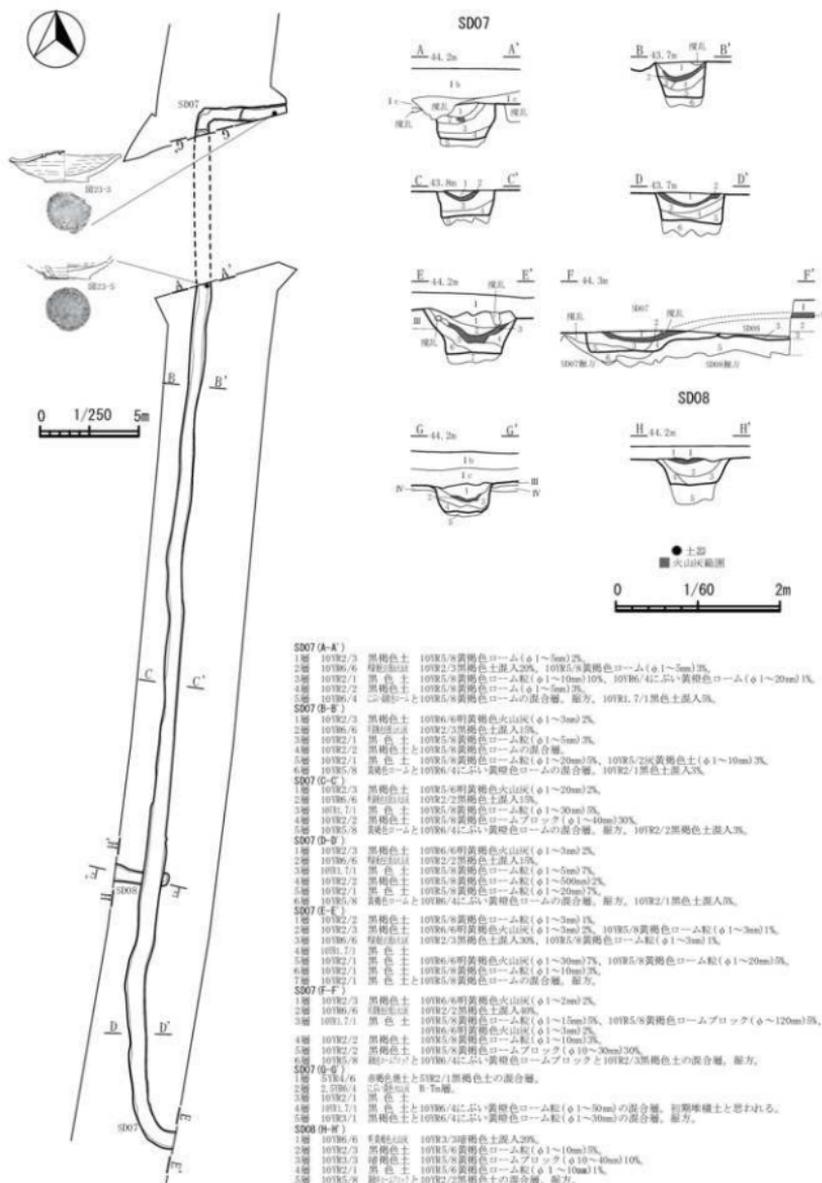


図21 下石川平野遺跡(農道27号) 溝跡(2)

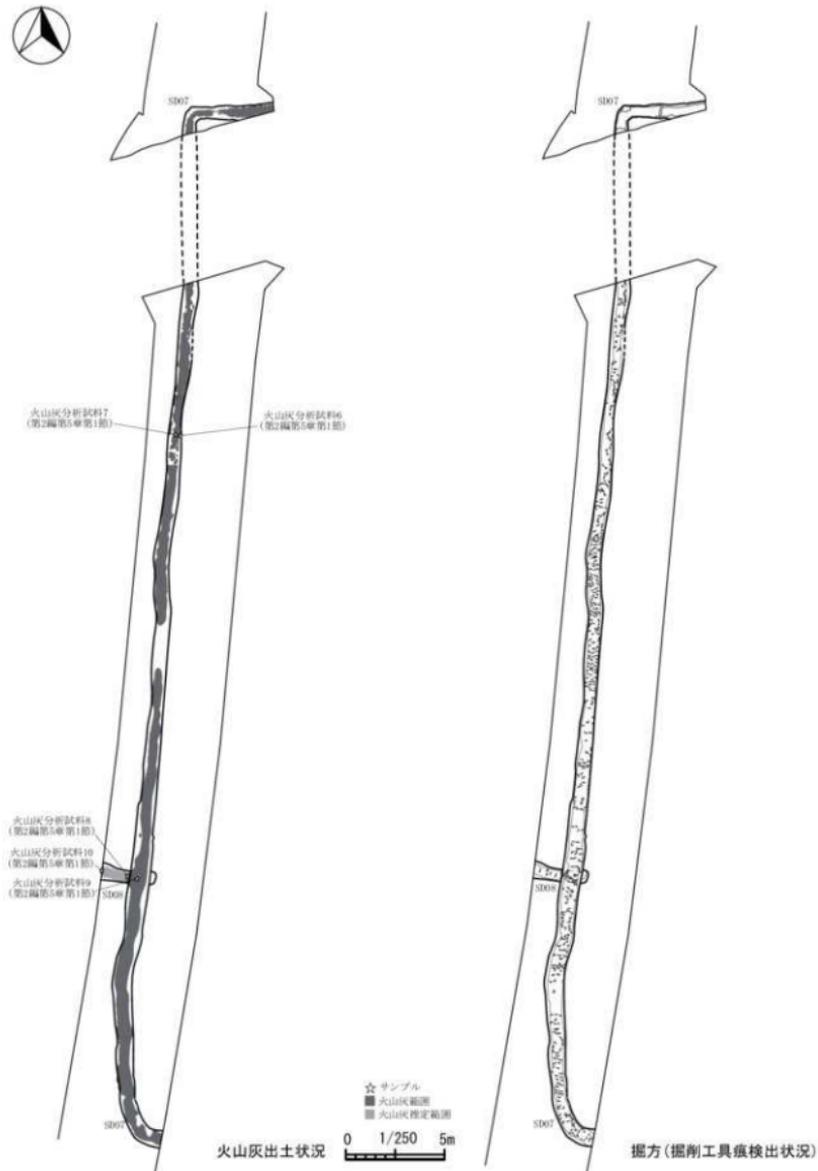


図22 下石川平野遺跡(農道27号) 溝跡(3)

の幅は14～20cmで壁は垂直に近い立ち上がりとなっており、断面形はコ字状をなす。底面の標高は北東端42.0m、南西端41.8mで、南西端へ傾斜している。

[堆積土]堆積土は黒褐色土が主として堆積しており、底面付近には明黄褐色ロームがやや多く混入する。これは壁の崩落土とみられることから、自然に堆積したものである。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

#### 第7号溝跡(SD07、図21～23)

[位置・確認]調査区中央部分、北側と南側にまたがるN27-38～49グリッドで検出された。遺構確認面の標高は北端部で43.5m、中央部(N27-43～46グリッド付近)で43.7m、南端部で43.5mである。第IV～V層で確認した。本遺構はSD08より新しい。

[平面形・規模・底面]調査区を南北に縦走する直線状の溝跡であるが、北端及び南端部はいずれも東側へ折れ曲がってコ字状に検出されたが、その先は調査区域外に伸びていて遺構の全容を把握することができない。南北方向には約53mあることから、可能性の一つとして、1辺約50mの方形を呈することも想定できるが、断定することはできない。確認できた長さは約(53)m、幅は63～101cm、確認面からの深さは22～62cmである。底面は掘方を有し底面を平らに整えており、断面形は逆台形状をなす。溝底面の比高差は、調査区北側(N27-38グリッド)では南端と東端で6～9cmあり、東側に傾斜して構築されている。また、調査区南側ではN27-40グリッドの北端とN27-48・49グリッドの南東端では7～10cmあり、北側に傾斜して構築されている。掘方底面から掘削工具痕が検出され、同様のものはSD08でも検出されている。

[堆積土]堆積土は黒色土もしくは黒褐色土が主として堆積し自然堆積と思われる。部分的にロームが多く混入する部分は流水作用によって運搬・堆積された可能性がある。堆積土上部には明黄褐色の火山灰が溝跡のほぼ全面にわたって堆積しており、理化学的分析の結果、白頭山苦小牧火山灰と推定された(第2編第5章第1節参照)。

[出土遺物・遺構の時期等]土師器32点(429.8g)、須恵器3点(42.6g)、鉄滓1点(16.5g)、縄文土器2点(35.0g)、石器1点(315.4g)が出土し、そのうち土師器皿(図23-3)・坏(図23-4・5)・甕(図23-6・7)、須恵器坏(図23-8・9)・壺(図23-10)・甕(図23-11)、縄文土器(図23-12・13)・石器(図23-14)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、火山灰、出土遺物等から平安時代の白頭山苦小牧火山灰降下以前の溝跡である。本遺構の機能は、その形状や走行方向から区画を目的として作られ、東側に何らかの施設があって、それを圍繞する可能性がある。

#### 第8号溝跡(SD08、図21・22)

[位置・確認]調査区南側、N27-46グリッドで検出された。遺構確認面の標高は43.7mで、第IV層で確認した。本遺構はSD07より古い。

[平面形・規模・底面]調査区を東西に横切る直線状の溝跡で、西側が調査区域外に伸びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(2.8)m、幅は62～88cm、確認面からの深さは9～12cmであるが、調査区壁際の土層観察によると、本来は深さ30cm以上の溝であった。底面は15～30cmの深さの

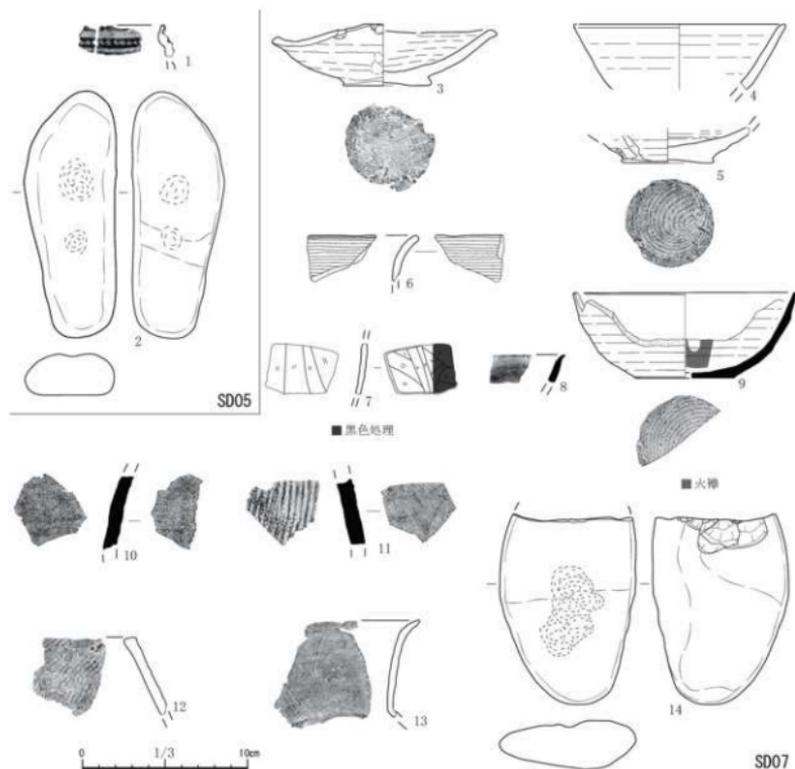


図23 下石川平野遺跡(農道27号) 溝跡出土遺物

掘方を有しており、平坦な底面に整えられている。壁は丸みを帯びながら立ち上がり、断面形は皿状をなしている。東西両端の溝底面には比高差がほとんどなく、水平に作られたものとみられる。掘方底面から、SD07と同様、掘削工具痕が検出された。

[堆積土]初期堆積土とみられる第4層は黒色土で、自然堆積したものとみられる。しかし上土層の第2・3層はロームを比較的多く含むことから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。第1層には白頭山苦小牧火山灰と推定される火山灰(第2編第5章第1節参照)がみられ、本層はSD07のF-F'セクション(図21)の第2層と同一層と考えられる。また、本溝跡がある程度埋め戻された段階でSD07が作られ、SD07が埋没途中で降下した白頭山苦小牧火山灰がSD07・08両溝に堆積していることが確認できた。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、火山灰等から平安時代の白頭山苦小牧火山灰降下以前の溝跡である。本遺構の機能は、その形状や走行方向から区画の可能性が考えられる。

## (5) 焼土遺構

農道27号からは6基の焼土遺構が検出された。

### 第1号焼土遺構 (SN01、図24・25)

[位置・確認] 調査区北側、N27-15グリッドに位置し、第Ⅲ層で確認した。

[平面形・規模] 焼土規模は長軸118cm、短軸5～45cmの不整な鉄アレイ状をなし、被熱により深さ約8cmまで赤色化している。焼土は黒褐色土と混入しており、焼土化は顕著でない。焼土の上部や周辺に粘土がみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器45点(338.4g)、鉄滓1点(9.7g)が出土し、うち、土師器甕(図25-1～3)を図示した。平安時代と推測される。詳細は不明である。

### 第2号焼土遺構 (SN02、図24)

[位置・確認] 調査区南側、南端部のN27-87グリッドに位置し、第V層で検出した風倒木痕内で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 焼土規模は長軸約110cm、短軸約84cmの不整楕円形をなし、被熱により深さ約4～12cmまで赤色化している。焼土は褐色を呈しており、その上位に黒褐色土が被覆している。また焼土の下位にはローム・焼土・炭化物を含む黒褐色土があり、掘方と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。平安時代と推測されるが、詳細は不明である。

### 第3号焼土遺構 (SN03、図24)

[位置・確認] 調査区南側、N27-51グリッドに位置し、第V層で検出した風倒木痕内で確認した。他遺構との重複は認められなかった。約1.5m北側にはSN04が位置している。

[平面形・規模] 焼土規模は東西約80cm、南北約30cmの範囲に広がっている。そのうち主体となっている焼土は、長軸約50cm、短軸約30cmの不整楕円形をなし、焼土の厚さは最大約8cmである。焼土の上位には黒褐色土が被覆していた。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。平安時代と推測されるが、詳細は不明である。

### 第4号焼土遺構 (SN04、図24)

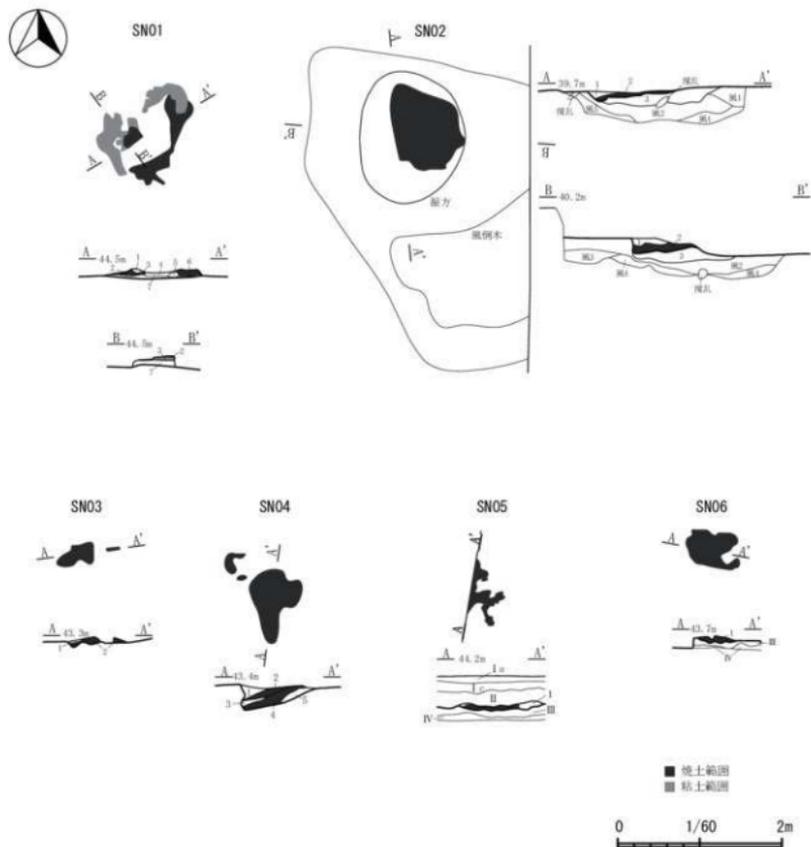
[位置・確認] 調査区南側、N27-51グリッドに位置し、第V層で検出した風倒木痕内で確認した。他遺構との重複は認められなかった。約1.5m南側にはSN03が位置している。

[平面形・規模] 焼土規模は南北約110cm、東西約90cmの範囲に広がっている。そのうち主体となっている焼土は、長軸約90cm、短軸約65cmの不整楕円形をなし、焼土の厚さは最大約20cmである。焼土の上位にはロームと黒褐色土の混合土が被覆し、下位には焼土粒を含む黒色土が堆積していた。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。平安時代と推測されるが、詳細は不明である。

### 第5号焼土遺構 (SN05、図24)

[位置・確認] 調査区北側、N27-36グリッドに位置し、第Ⅲ層で確認した。第Ⅱ層に被覆されてい



- SN01**
- 1層 10R5/2 灰黄褐色土 7.5R5/8明赤褐色焼土粒(φ1~5mm)2%  
 2層 10R5/2 灰黄褐色土 10R3/2黑褐色土7.5R5/8明赤褐色焼土ブロック(φ1~20mm)の混合層  
 3層 10R1/4 褐色土 10R2/2黑褐色土、10R1/1黑色炭化物粒(φ1~2mm)1%、7.5R5/9明赤褐色焼土粒(φ1~2mm)1%  
 4層 10R2/2 灰褐色土 5R5/8明赤褐色焼土粒(φ1~5mm)2%、10R5/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%  
 5層 10R2/2 灰褐色土 10R8/3浅黄褐色焼土粒(φ1~2mm)2%、5R5/8明赤褐色焼土粒(φ1~2mm)1%  
 6層 10R2/2 灰褐色土 7.5R5/8明赤褐色焼土ブロック(φ10~15mm)2%、7.5R5/8明赤褐色焼土粒(φ1~2mm)2%  
 7層 10R2/2 灰褐色土 10R5/6黄褐色ローム粒(φ1~2mm)3%、5R5/8明赤褐色焼土粒(φ1~2mm)1%
- SN02**
- 1層 10R2/2 灰褐色土 10R3/2暗褐色土10%  
 2層 7.5R4/6 褐色焼土 10R2/2黑褐色土30%、10R5/9黄褐色ローム(φ1~3mm)1%  
 3層 10R2/2 灰褐色土 庭方、10R2/3黑褐色土10%、10R5/6黄褐色ローム(φ1~10mm)2%、7.5R4/6褐色焼土(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~15mm)1%  
 庭内水
- 1層 10R2/2 灰褐色土 10R5/6黄褐色土20%  
 2層 10R2/1 褐色土 7.5R5/6明赤褐色焼土1%  
 3層 10R7/1 褐色土 10R5/6黄褐色土15%、炭化物(φ1~10mm)1%  
 4層 10R7/1 褐色土 10R2/2黑褐色土2%  
 5層 10R3/2 灰褐色土 10R1/1黑色土20%、7.5R4/6明赤褐色焼土粒1%
- SN03**
- 1層 10R2/2 灰褐色土 7.5R5/8明赤褐色焼土粒(φ1~4mm)3%
- SN04**
- 1層 10R7/6 黄褐色土 10R2/3黑褐色土混入、7.5R5/4暗褐色焼土粒(φ1~3mm)1%  
 2層 10R3/4 暗褐色土 7.5R5/4暗褐色焼土粒(φ1~30mm)10%、10R7/6黄褐色ロームブロック(φ1~50mm)3%、10R1/1黑色炭化物粒(φ1~2mm)1%  
 3層 10R7/6 黄褐色土 10R2/3黑褐色土混入、10R1/1黑色炭化物粒(φ1~2mm)1%  
 4層 7.5R3/4 暗褐色土と10R3/4暗褐色土の混合層、10R1/1黑色炭化物粒(φ1~2mm)1%  
 5層 10R2/1 褐色土 7.5R3/4暗褐色焼土粒(φ1~30mm)1%
- SN05**
- 1層 5R4/6 赤褐色焼土と5R2/1灰褐色土の混合層
- SN06**
- 1層 5R4/6 赤褐色焼土 5R2/1灰褐色土30%

図24 下石川平野遺跡(農道27号) 焼土遺構

る。他遺構との重複は認められなかった。西半は調査区外に延びている。

[平面形・規模] 焼土規模は長軸約70cm、短軸約40cmの不整形状をなしている。焼土層は赤褐色土と黒褐色土を混合しており、層厚は10cm程であるが、焼土化は顕著でない。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。平安時代と推測されるが、詳細は不明である。

#### 第6号焼土遺構 (SN06、図24)

[位置・確認] 調査区北側、N27-37グリッドに位置し、第Ⅲ層で確認した。

[平面形・規模] 焼土規模は長軸約70cm、短軸約50cmの不整形状をなし、被熱により深さ約10cmまで赤色化している。焼土層は赤褐色土と黒褐色土を混合しており、焼土化は顕著でない。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。平安時代と推測されるが、詳細は不明である。

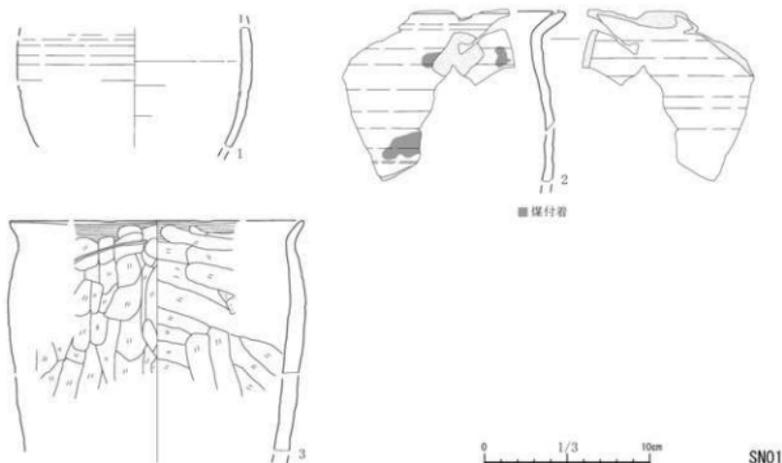


図25 下石川平野遺跡(農道27号) 焼土遺構出土遺物

#### (6) 溝状土坑

農道27号からは2基の溝状土坑が検出され、いずれも調査区南側の平坦面で検出された。

#### 第1号溝状土坑 (SV01、図26)

[位置・確認] 調査区南側、N27-80グリッドに位置し、遺構確認面の標高は40.5m、第Ⅴ層で確認した。本遺構はSK13と重複し、SK13より古い。

[平面形・規模・底面]南東半が調査区域外に延びていて全体の様相は不明であるが、確認できた規模は、長さ(1.55)m、幅17~22cmの溝状で、確認面からの深さは72~77cmである。下部40cmは垂直に立ち上がるが、上部約30cmは大きく開口しており、壁が崩落したものとみられる。底面は幅9~10cmでやや起伏があつて、長軸方向の北東端は確認面より24cmオーバーハングしている。

[堆積土]堆積土は5層に分層されるが、黒色土を主体としていてロームが互層状に堆積している。ロームは壁上部の崩落土とみられ、自然堆積したものと思われる。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構形状、遺構の重複関係等から縄文時代の落とし穴と考えられる。

## 第2号溝状土坑(SV02、図26)

[位置・確認]調査区南側、N27-58・59グリッドに位置し、遺構確認面の標高は約42.8m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかったが、風倒木痕によって一部乱されている。

[平面形・規模・底面]確認面での平面形は、長さ3.3m、幅35~42cmの溝状で、確認面からの深さは87~100cmで、中央部分がやや深い。底面は幅12~18cmで、長軸方向の底面は、東端では37cm、西端では25cm、それぞれオーバーハングしている。

[堆積土]堆積土は上部が風倒木の影響を受けているが、下部の純然たる堆積土は2層に分層された。上位は黒色土が、下位は褐灰色土と黄褐色ロームとの混合層が堆積している。上位は自然堆積、下位は人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構形状等から縄文時代の落とし穴と考えられる。

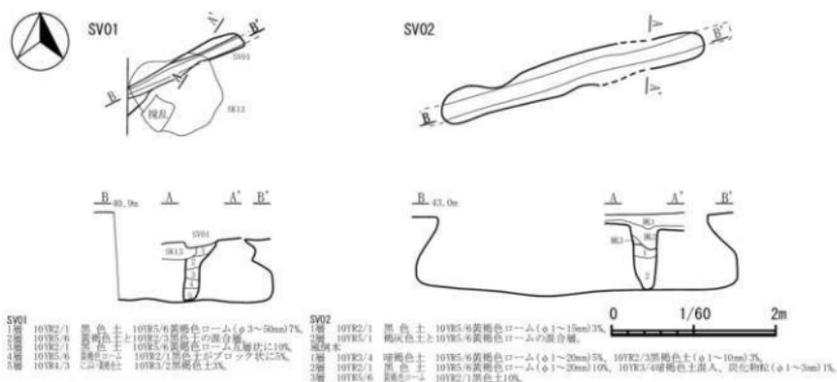


図26 下石川平野遺跡(農道27号) 溝状土坑

## 2 遺構外の出土遺物

遺構外の遺物は、縄文時代のもので平安時代のものであり、段ボール箱で約3箱分出土した。

土器の出土点数は1,706点(13,623.3g)で、調査区北側からは1,680点(13,336.6g)、調査区南側からは23点(255.7g)出土した。表面採集のものは3点(31.0g)である。調査区北側から出土したものが98%を占めるが、特にN27-3~24グリッドにおいて1,634点(12,892.5g)が出土しており、とりわけN27-11グリッドから463点(3,478.0g)と全体の1/4に相当する量が出土している。

石器の出土点数は23点(2,996.8g)で、すべて縄文時代のものである。調査区北側からは20点(2,955.6g)、調査区南側からは3点(41.2g)と、土器同様に調査区北側出土のものが大半を占める。遺物の出土層位は、一部攪乱から出土したものもあるものの、ほとんどが第1層からである。

### (1) 縄文時代の出土遺物(図27・28)

遺構外出土の縄文時代の遺物は、縄文土器と石器が出土した。縄文土器の出土総量は149点(1,071.3g)で、調査区北側から135点(903.6g)、調査区南側から14点(167.7g)が出土している。重量で50g以上出土したグリッドは、N27-5グリッド:24点(214.0g)・N27-7グリッド:26点(67.1g)・N27-14グリッド:3点(57.9g)・N27-16グリッド:6点(72.7g)・N27-18グリッド:5点(51.2g)・N27-21グリッド:14点(69.2g)・N27-30グリッド:9点(76.2g)・N27-33グリッド:3点(52.8g)・N27-84グリッド:9点(129.0g)である。時期は、縄文時代中期・後期・晩期で、中期のものが調査区南側南端から、後期のものが調査区北側北端から出土している。うち、土器12点、石器15点を図示した。

図27-1~3は縄文時代中期の土器である。深鉢の口縁部・頸部で、口唇部と口縁部文様帯内に縦位の貼り付けが施され、口縁部文様帯中には口縁に沿って側面圧痕が施される。焼成は軟質で脆く、胎土は粗く砂っぽい。縄文時代中期前葉の円筒上層a式に比定される。

図27-4~6は縄文時代後期の土器である。深鉢の口縁部や胴部で、器面に弧状や斜行する沈線が施されている。図27-4は小波状口縁の口縁部片で、派頂部から短い隆帯が垂下し、隆帯下には沈線によって円形のモチーフが施されている。内面にも、口縁部に沿って沈線が施されている。青森県史の後期3期(後期前葉「十腰内I群」併行)に比定される。

図27-7~9は縄文時代晩期の土器で、鉢もしくは皿の口縁部・胴部である。図27-7は波状口縁(山形突起)で、器面に沈線及び刺突を有する。図27-8・9は口縁に平行した沈線と磨消を持つ。青森県史の晩期4期(晩期中葉「大洞C<sub>2</sub>式」併行)に比定されよう。

図27-10~12は地文が無文の鉢もしくは皿の口縁部・底部で、時期を明確にできないものである。図27-10は、口縁部が強く外反しており、深鉢もしくは壺と思われる。焼成は良好で、山形もしくは鋸歯状に沈線が施されている。図27-11は肥厚する口唇部を有する鉢もしくは皿の口縁部である。平口縁で、器厚は厚く、器面はミガキによって平滑にされている。図27-12は薄手の底部である。

石器の出土総量は前述のように23点で、うち15点を図示した。器種は石鏃・石槍・石匙・スクレイパー・調整剥片・使用剥片・凹石がある。

図27-13は有茎平基の石鏃、図27-14は石槍である。図27-15は縦型の石匙で、背面側は素材面を大きく残している。図27-16~20はスクレイパーである。二次調整がほとんど施されない剥片の一例

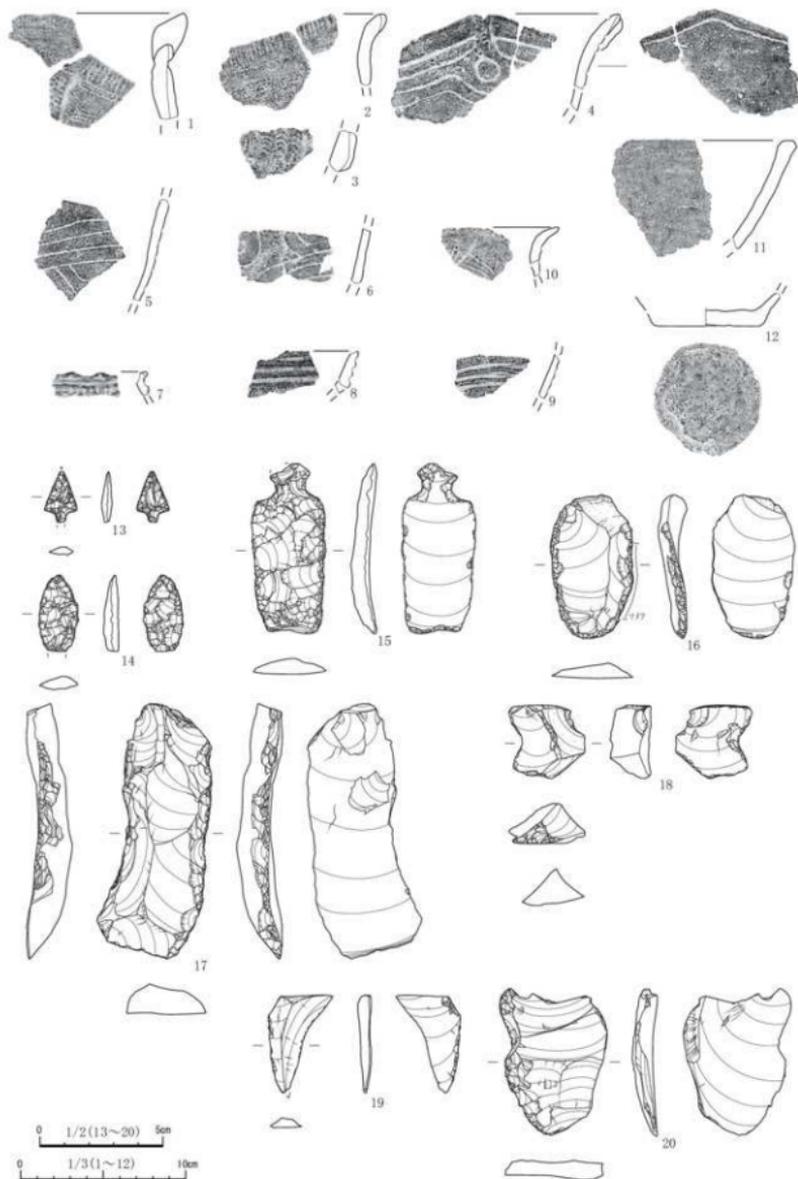


图27 下石川平野遺跡(農道27号) 遺構外出土遺物(1)

縁から三側縁に刃部を形成しているが、刃部調整は粗い。図27-16は表皮が、図27-17は打点が残っている。また、図27-16の刃部には摩滅が、図27-18～20には微細刻離痕が認められる。図28-1は調整剥片、図28-2は使用剥片である。石材は図27-13が玉珪で、その他は珪質頁岩である。

凹石（図28-3～7）は円～楕円状の扁平稜の平坦面にあばた状の凹孔がみられるものであるが、凹孔はあまりくぼんでいない。図28-3・4は両面に、図28-5～7は片面に凹孔があるもので、図28-3は端部に敲打痕がみられるものである。石材は、図28-3が玄武岩、他は凝灰岩である。

## （2）平安時代の出土遺物（図29～31）

遺構外からは、土師器1,466点(11,079.4g)、須恵器91点(1,472.6g)、鉄滓4点(159.8g)が出土し、うち、土師器41点、須恵器17点を図示した。土師器は調査区北側で1,459点(11,025.2g)・調査区南側で4点(23.2g)、須恵器は調査区北側で86点(1,407.8g)・調査区南側で5点(64.8g)の出土である。土師器・須恵器共にN27-3～24グリッド、特にN27-10～12・14・15グリッドに集中し、とりわけN27-11グリッドからは土師器441点(3,248.0g)・須恵器22点(230.0g)が出土した。

土師器は、坏・甕・壺・埴・小杯が出土している。図29-1～5は土師器坏である。ロクロ整形無調整・回転糸切りものを基本とするが、図29-1・2は内面黒色処理されたものである。図29-4は平成24年の試掘トレンチ(Tr8)出土のものと接合した。

図29-6～22・図30-1～12は土師器甕である。図29-6～22が口縁部、図30-1～4が胴部、図30-5～9が底部である。図29-18～22はロクロ整形のものである。図30-1～4は内面がハケメ調整のもので、第5号土坑出土の図13-7・9・13も同様である。底外面は、図30-5は砂底、図30-6・8・9はナデ、図30-7はケズリである。図29-7は内外面に、図29-11は外面に煤が付着している。図29-13は外面が黒色処理されたものである。図30-7は被熱により器面が剥離している。図30-10・11は小甕であるが、図30-10は小壺、図30-11は坏の可能性もある。

図30-12は壺と思われる。器面調整は、外面および口唇部にミガキ・内面は横ナデが施されている。口縁部から下方に向かって斜めに削がれた箇所があり、そこも丁寧に磨かれている。

図30-13～17は埴である。図30-14・16・17はロクロ成形のもので、同一個体の可能性がある。図30-17は胴下半にタタキ痕跡がみられる。図30-15は、胴下部に沈線状の刻みが縦位に入っており、刻書の可能性がある。

図30-18・19は小杯の胴部で、同一個体の可能性がある。

須恵器は、坏・壺・甕が出土した。図31-1～4は須恵器坏である。図31-1・2は内外面に火擦痕がみられるもの、図31-4は刻書(立カ)があるものである。

図31-5～10は須恵器壺である。図31-5が頸部、図31-6・7が胴部、図31-8～10が底部で、図31-5には刻書(★カ)がみられる。底外面は、図31-8が菊花状で、図31-10は輪高台状である。なお、図31-10は鉢の可能性もある。

図31-11～17は須恵器甕である。図31-11・12は頸部、図31-13～17は胴部で、図31-16・17の胴部内面には、千鳥足状の当て具痕がみられる。



图28 下石川平野遺跡(農道27号) 遺構外出土遺物(2)



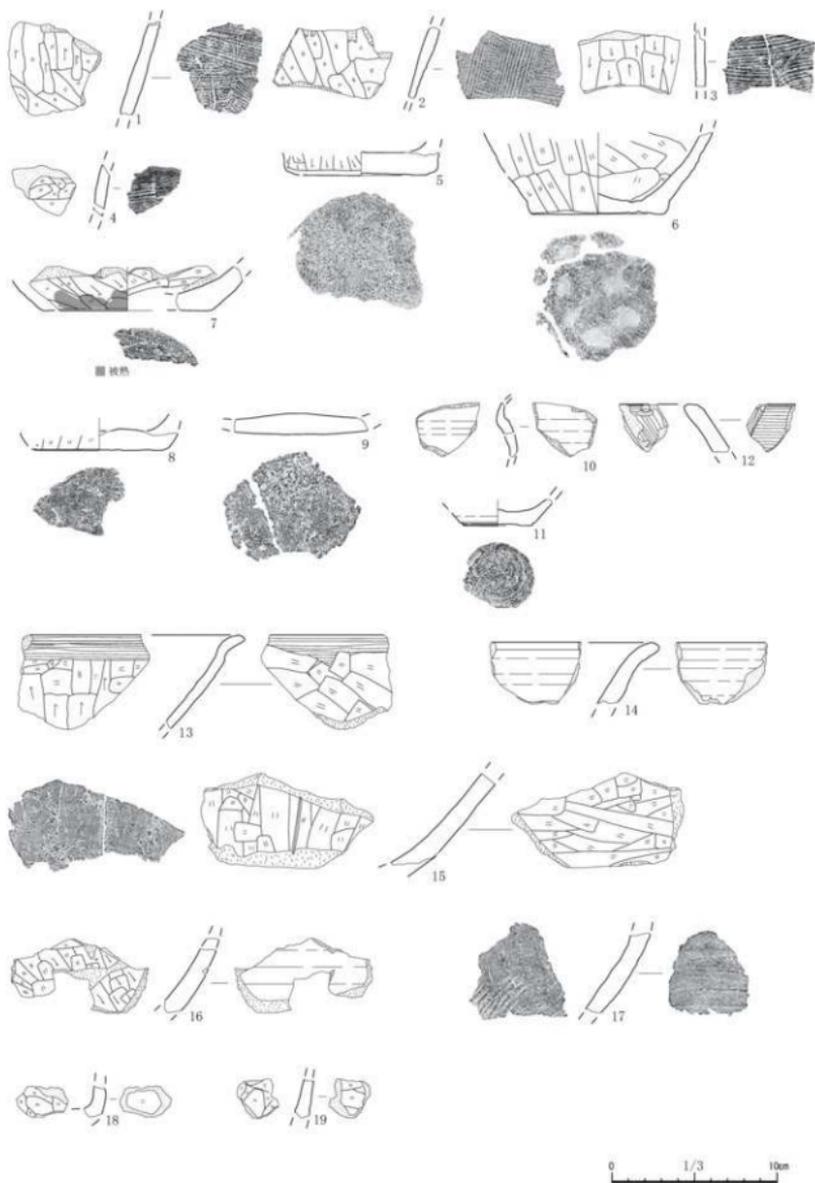


図30 下石川平野遺跡(農道27号) 遺構外出土遺物(4)

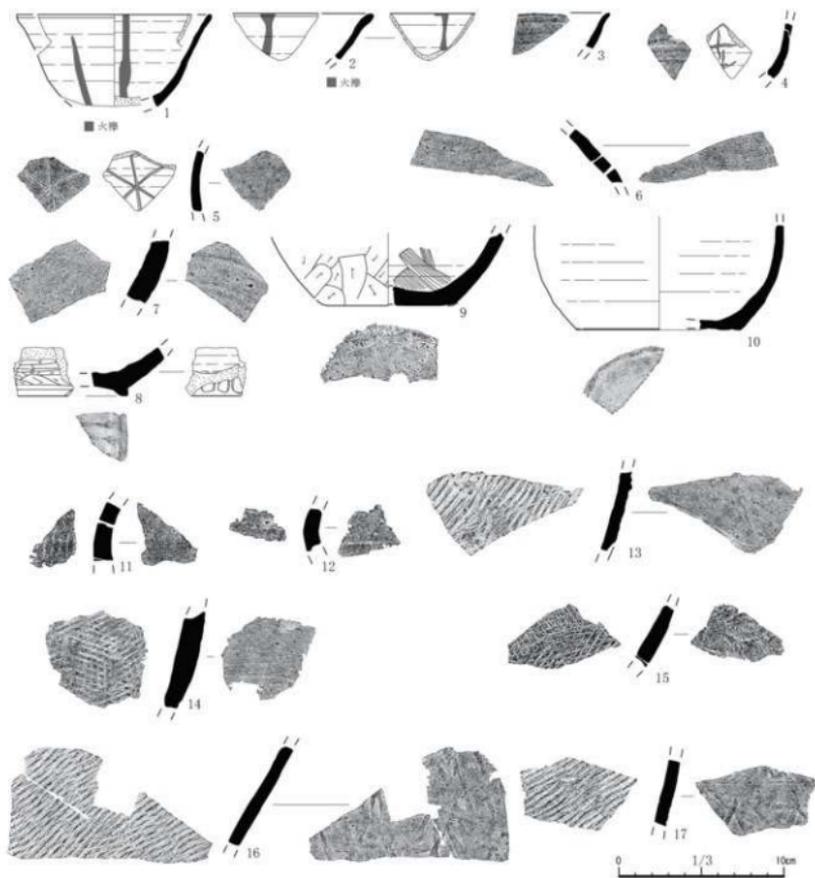


图31 下石川平野遺跡(農道27号) 遺構外出土遺物(5)

## 第2章 配水管16号

### 第1節 調査区と遺構・遺物の概要

配水管16号は、長さ約280m、幅約0.5～8mで、合計420㎡を調査した。H16-60グリッド以南は農道27号の工事区域に含まれている。

調査区は南北に細長く延びる形状で、H16-9～12グリッド付近とH16-56～60グリッド付近には調査区内に沢地形が存在し、調査区外には開析谷を堰き止めて造られた三太溜池が存在している。そのため、調査区の南北端はそれぞれ沢や溜池へと下る緩やかな斜面地となっている。その他の大部分は北側から南側へやや傾斜がみられるものの概ね平坦な地形であった。

検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

竪穴建物跡(SI)	1棟(平安時代)
柱穴(SP)	6基 ※単独のもののみ
土坑(SK)	8基(縄文時代1基・平安時代7基)
溝跡(SD)	9条(平安時代)
焼土遺構(SN)	1基(平安時代)

遺構は調査区北側H16-3～5グリッド周辺とH16-26～38グリッド周辺、H16-42～55グリッド周辺に分散してみられる。

配水管16号から出土した遺物は、土器類2箱、石器類1箱の合計3箱で、大半は平安時代の遺物で、縄文時代の遺物はごく少量である。

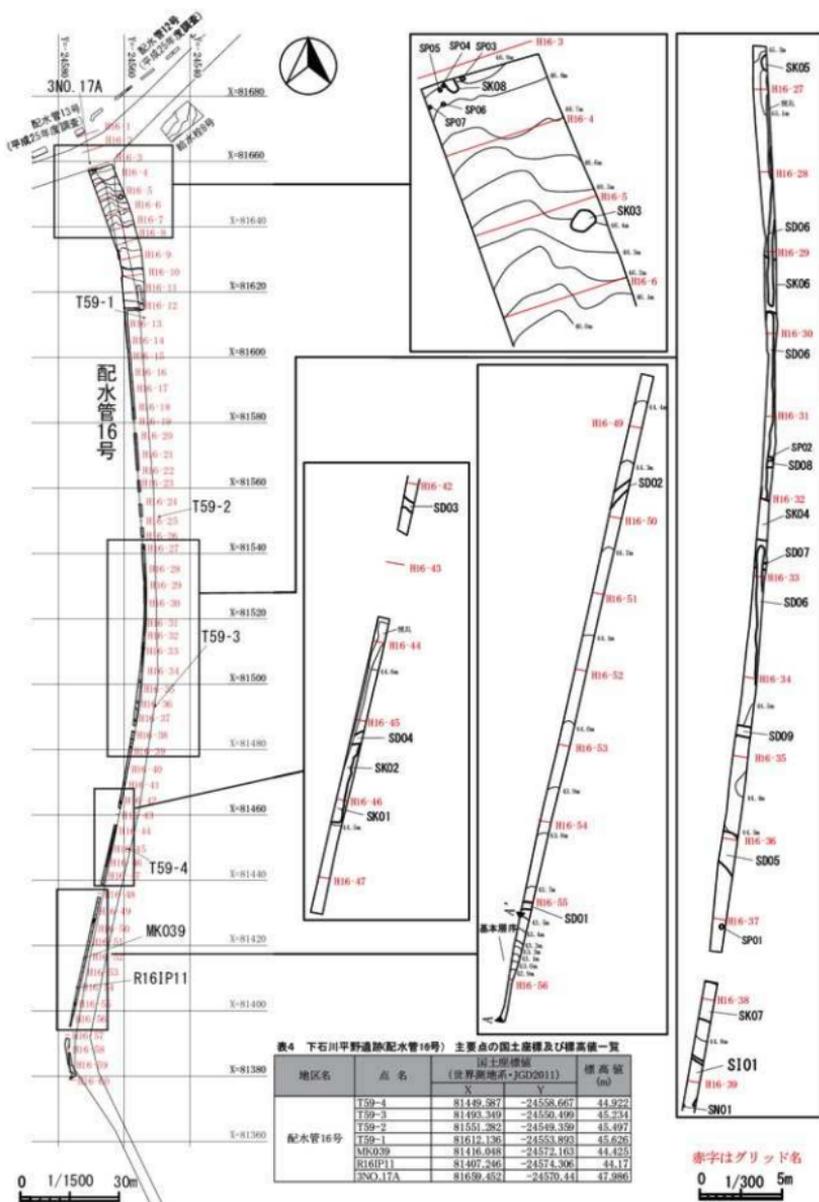


図32 下石川平野遺跡(配水管16号) 遺構配置図

## 第2節 検出遺構と出土遺物

### I 検出遺構

#### (1) 竪穴建物跡

配水管16号からは平安時代の竪穴建物跡が1棟検出された。

##### 第1号竪穴建物跡 (S101、図33)

[位置・確認] 調査区南側、H16-38・39グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.7～44.8m、第V層で確認した。2条の溝が90°の配置をもって検出されたことから、これを建物跡の壁溝と推定した。畑の耕作土(第I層)が一部床面まで達している。調査区壁面の観察では、第III層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模] 建物跡の大半は調査区域外に延びている。調査区内で検出したのは全体の5分の1以下と推定され、本来の平面形は一辺4.5m以上の方形と考えられる。調査区壁面の観察では、掘り込み面から床面の深さは20cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマドは検出されていない。

[床面・壁溝] 第IV層を床面としている。床面はほぼ平坦である。掘方はない。壁溝は幅17～25cm、深さ9～17cmで、北東壁と南東壁の一部に巡らされている。壁溝長は北東壁で(0.83)m・南東壁で残存長(0.43)mである。

[柱穴] 確認されなかった。

[カマド] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] 3層に分層された。黒～黒褐色土主体で、ロームを含む。人為堆積の可能性がある。

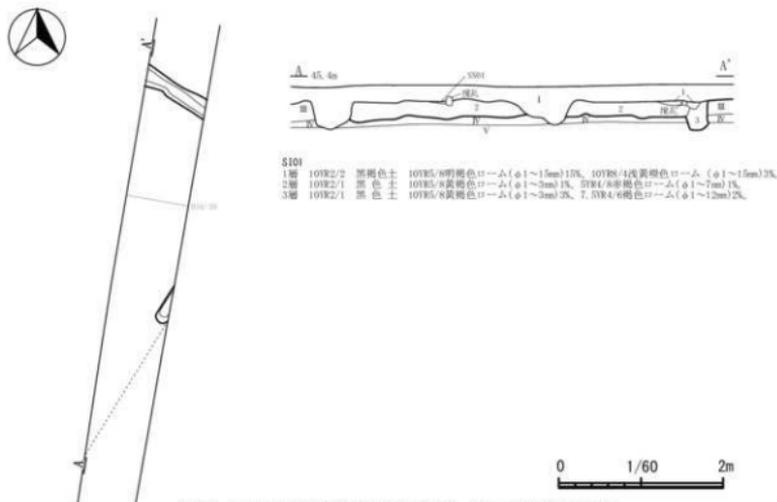


図33 下石川平野遺跡(配水管16号) 第1号竪穴建物跡

[出土遺物]遺物は出土しなかった。

[小結]堆積土の様相などから、平安時代時代の遺構である可能性があるが、詳細は不明である。

## (2) 掘立柱建物跡・柱穴

配水管16号からは合計6基の柱穴が検出され、そのうち4基の柱穴が第8号土坑周辺に位置しており、何らかの施設であった可能性があるものの、詳細は不明である。各柱穴の位置や計測値等諸特徴は、図32遺構配置図や図34、表5の計測表に示した。

表5 下石川平野遺跡(配水管16号) 柱穴計測表

SP 番号	図版番号	グリッド	標高 (m)	規模 (cm)			備考
				長軸	短軸	深さ	
1	図34	H16-37	44.6	29	25	24	
2	図34	H16-31	44.9	(36)	(33)	41	SD06・SD08より古い。
3	図34	H16-3	47.3	29	26	27	
4	図34	H16-3	47.3	20	18	18	
5	図34	H16-3	47.3	21	18	22	
6	図34	H16-3	47.2	23	21	28	
7	図34	H16-3	47.3	20	18	30	

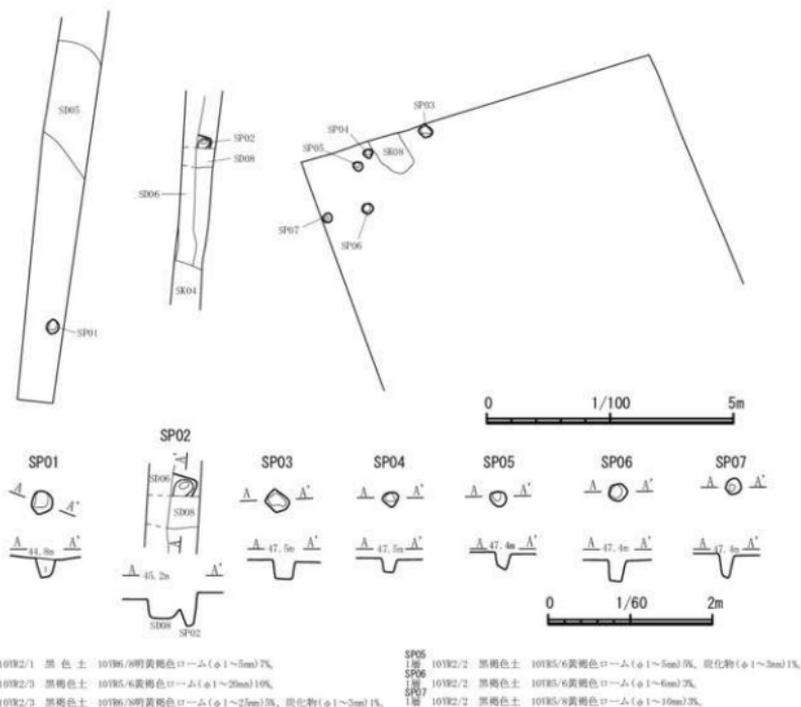


図34 下石川平野遺跡(配水管16号) 柱穴

### (3) 土坑

配水管16号からは8基の土坑が検出された。時期は平安時代のものが大半である。

#### 第1号土坑 (SK01、図35・37)

[位置・確認] 調査区南側、H16-45・46グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.5m、第V層で確認した。北側にはSK02が位置しているが、攪乱のため重複関係は不明である。調査区壁面の観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模] 西側過半は調査区域外に延びており、また、北端が攪乱を受けているため、確認できた規模は長軸(353)cm、短軸(64)cmの楕円形であるが、本来は隅丸方形を呈していた可能性もある。確認面からの深さは17~24cmであるが、調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは26~29cmである。地山をそのまま底面とし、やや起伏がある。断面形は皿状と推測される。

[堆積土] 単層で、黒褐色土と黄褐色土が混合しており、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器4点(26.1g)が出土し、うち2点(図37-1・2)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

#### 第2号土坑 (SK02、図35)

[位置・確認] 調査区南側、H16-45グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.5m、第V層で確認した。SD04と重複し、SD04が新しい。南側にSK01が位置するが、攪乱のため重複関係は不明である。

[平面形・規模] 西側過半は調査区域外に延びており、また、北端がSD04と重複しているほか、攪乱を受けているため、確認できた規模は長軸(162)cm、短軸(51)cmの楕円形であるが、本来は隅丸方形を呈していた可能性がある。確認面からの深さは15~21cmである。地山をそのまま底面とし、やや起伏がある。断面形は不明である。

[堆積土] 単層で、明黄褐色土と黒褐色土が混合しており、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

#### 第3号土坑 (SK03、図35・37)

[位置・確認] 調査区北端、H16-5グリッドに位置し、遺構確認面の標高は46.3~46.4m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 規模は長軸163cm、短軸121cmの楕円形である。確認面からの深さは40cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 黒~黒褐色土主体で5層に分層された。褐~黄褐色ロームを含み人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 確認面から土師器2点(11.2g)、縄文土器46点(467.7g)・石器1点(22.3g)が出土した。うち縄文土器2点(図37-3・6)、石器1点(図37-5)、土師器坏1点(図37-4)を図示した。図37-3は深鉢の頸部、図37-6は無文の深鉢である。後者は遺構外出土のものと接合し、口縁の一部や底部を欠くものの、器形が復元できたものである。ともに縄文時代後期前葉と思われる。図37-5は表面が平滑に研磨されたため磨製石器の破片と思われるが、半円状打製石器の可能

性もある。図37-4はロクロ成形の坏の胴部片である。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

#### 第4号土坑 (SK04、図35・37)

[位置・確認] 調査区中央、H16-31・32グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.8～45.0m、第V層で確認した。調査区壁面の観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模] 東西端は調査区外に延びているため平面形は不明である。規模は長軸273cm、短軸(98)cmで、確認面からの深さは41～49cmであるが、調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは53cmである。地山をそのまま底面とし、やや起伏が見られ、逆台形状をなしている。

[堆積土] 黒～黒褐色土主体で8層に分層された。褐～黄褐色ロームを含み人為堆積の可能性がある。堆積土中に火山灰がブロック状に混入しており、理化学的分析の結果、白頭山苦小牧火山灰と推定された(第2編第5章第1節参照)。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器27点(346.2g)、須恵器4点(46.1g)が出土した。うち土師器坏(図37-7)・甕(図37-8～10)、須恵器坏(図37-11～14)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、火山灰、出土遺物などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

#### 第5号土坑 (SK05、図35)

[位置・確認] 調査区中央、H16-26グリッドに位置し、遺構確認面の標高は45.1m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 東半は調査区外に延びているが、確認できた規模は長軸103cm、短軸(44)cmの円形である。確認面からの深さは32cmであるが、調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは39cmである。地山をそのまま底面とし、断面形はコ字状をなしている。

[堆積土] 2層に分層された。黒褐色土と黄褐～明黄褐色ロームの混合層で人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

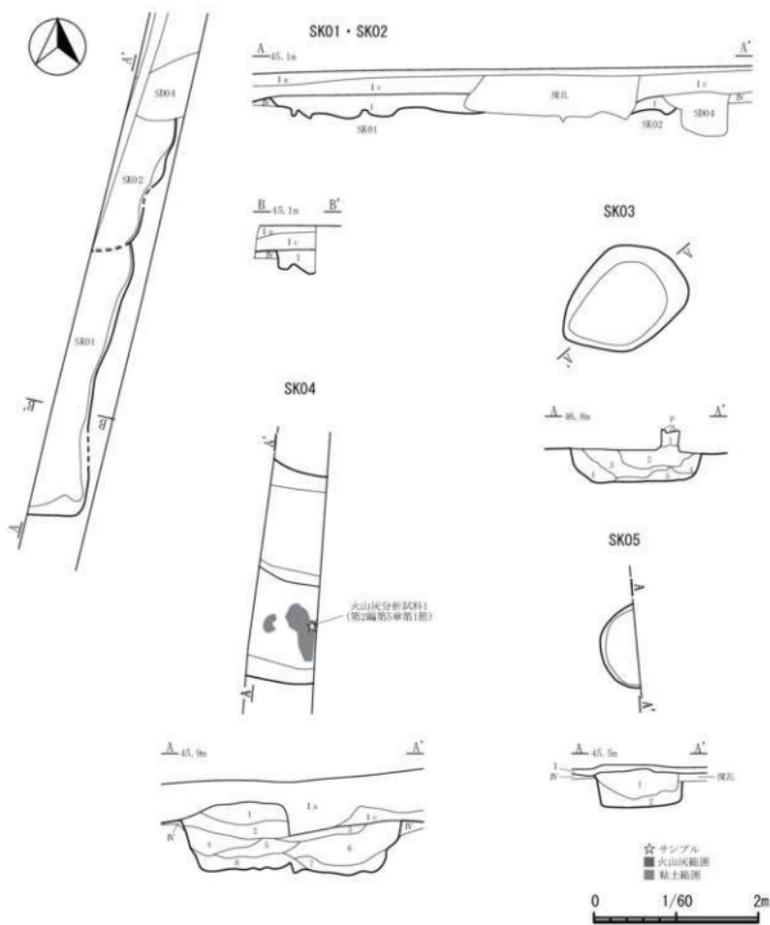
#### 第6号土坑 (SK06、図36・37)

[位置・確認] 調査区中央、H16-29グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.9～45.2m、第V層で確認した。SD06と重複し本遺構が古い。調査区壁面の観察では第IV層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模] 東西端は調査区外に延びているため、確認できた規模は長軸344cm、短軸(93)cmで、平面形は不明である。確認面からの深さは34～62cmであるが、調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは64cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 黒褐色土を主体とし、6層に分層された。明黄褐色ロームやにぶい黄褐色ロームを含むことから、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器5点(18.9g)、須恵器1点(18.0)gが出土した。うち、土師器甕(図37-15)、須恵器甕(図37-16)を図示した。図37-16は火ぶくれにより器表面がふくれている。



- SK01  
1層 10YR2/3 黒褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。  
2層 10YR6/6 明黄褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合層。
- SK02  
1層 10YR6/6 明黄褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合層。
- SK03  
1層 10YR2/3 黒褐色土 遺物含む。草根やあり。  
2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム(φ1~2cm)2%。  
3層 10YR2/1 黒色土 10YR4/6褐色ローム(φ1~3cm)1%。  
4層 10YR2/1 黒色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。  
5層 10YR2/1 黒色土 10YR4/6褐色ローム(φ1~10cm)2%。
- SK04  
1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム(φ~20mm)2%、10YR4/6褐色ローム(φ~10mm)1%、  
10YR5/6黄褐色粘土(φ1~5mm)1%、10YR1/6黄褐色土(φ1~10mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。  
2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム(φ1~10mm)2%、10YR5/6明褐色土(φ1~3cm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。  
3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム(φ1~20mm)の混合層。  
4層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム(φ1~10mm)1%、1.5YR4/6褐色粘土(φ10mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。  
5層 10YR2/1 黒褐色土と10YR5/6黄褐色ローム(φ1~25mm)の混合層。10YR5/6黄褐色粘質土(φ1~25mm)1%。  
6層 10YR2/1 黒色土 10YR4/6褐色ローム(φ1~20mm)2%、10YR5/6黄褐色ローム(φ1~10mm)1%。  
7層 10YR2/1 黒色土 10YR4/2褐色ローム(φ1~25mm)2%、10YR1/4暗褐色ローム(φ1~5mm)2%。  
8層 10YR5/6 黄褐色土と10YR2/2黒褐色土と10YR6/4に5:1黄褐色粘土(φ5~40mm)の混合層。
- SK05  
1層 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/6黄褐色ローム(φ1~10mm)との混合層。  
2層 10YR6/6 緑粘ロームと10YR2/2黒褐色土(φ1~40mm)との混合層。

図35 下石川平野遺跡(配水管16号) 土坑(1)

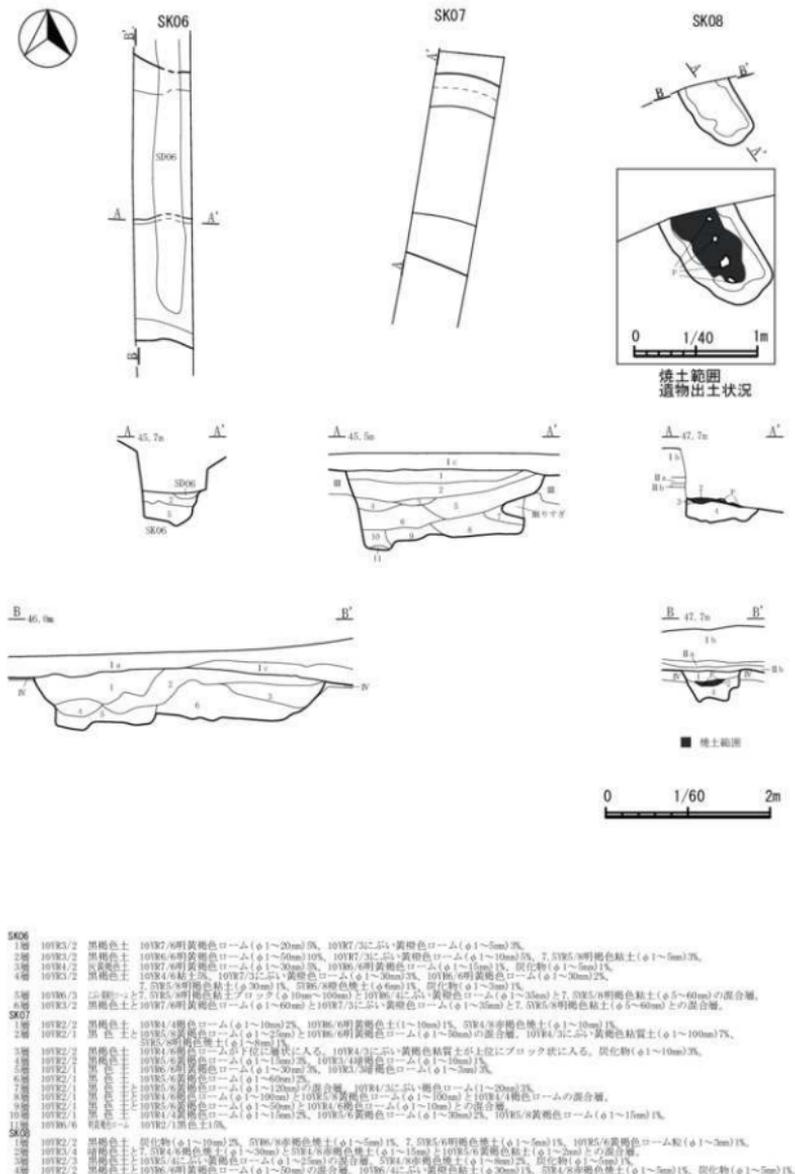


図36 下石川平野遺跡(配水管16号) 土坑(2)

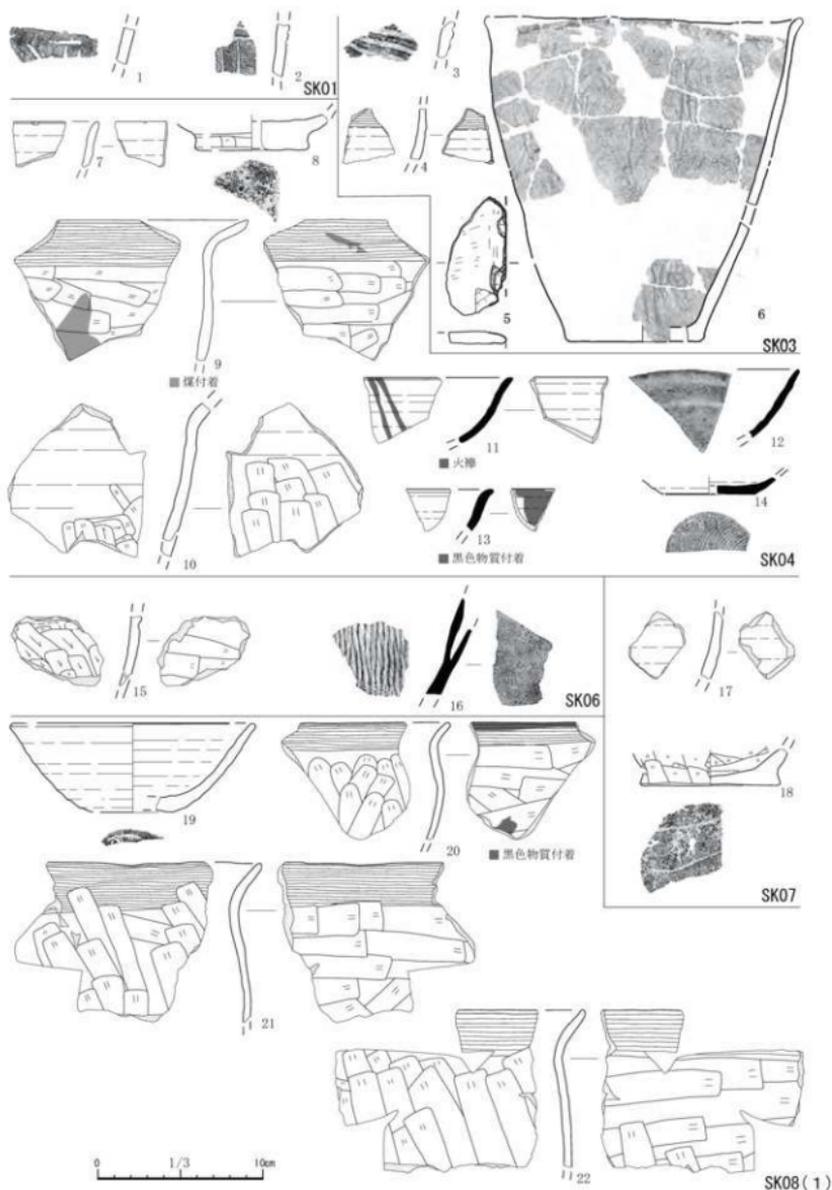


图37 下石川平野遺跡(配水管16号) 土坑出土遺物(1)

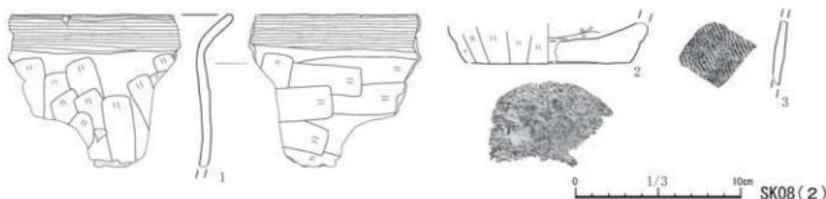


図38 下石川平野遺跡(配水管16号) 土坑出土遺物(2)

堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

#### 第7号土坑(SK07、図36・37)

[位置・確認]調査区南部、H16-37・38グリッドに位置し、遺構確認面の標高は44.7m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。調査区壁面の観察では、第III層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模]東西端は調査区外に延びているため、確認できた規模は長軸115cm、短軸(82)cmで、平面形は不明である。確認面からの深さは68~74cmである。調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは97cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は北壁がフラスコ状をなしている。

[堆積土]黒~黒褐色土を主体とし、11層に分層された。黄褐色ロームや明黄褐色ロームを含むことから、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]土師器が10点(149.1g)出土し、うち壺2点(図37-17・18)を図示した。図37-17はロクロ成形の小壺の胴部、図37-18は木葉痕のある底部である。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

#### 第8号土坑(SK08、図36~38)

[位置・確認]調査区北端、H16-3グリッドに位置し、遺構確認面の標高は46.8~46.9m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかったが、周辺にSP03~07が位置している。調査区壁面の観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模]北半は調査区外に延びているため、確認できた規模は長軸(87)cm、短軸62cmの楕円形である。確認面からの深さは29cmで、調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは38cmである。地山をそのまま底面とし、やや起伏がある。断面形は逆台形状に近い。

[堆積土]黒褐~暗褐色土主体で4層に分層された。2層は赤褐色焼土粒との混合層となっている。

[出土遺物・遺構の時期等]土師器40点(554.8g)、縄文土器1点(10.8g)が出土した。そのうち土師器坏(図37-19)・壺(図37-20~22・図38-1・2)、縄文土器(図38-3)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられ、カマド煙道部先端であった可能性がある。

#### (4) 溝跡

配水管16号からは合計9条の溝跡が検出された。調査区南半H16-27～36グリッドとH16-42～45グリッド、特にH16-42・45・49・55グリッドにまとまりがみられる。検出された溝跡のほとんどは、調査区をほぼ東西に横切る直線もしくは弧状気味のものであり、溝跡の東西端が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であり、性格や機能が特定できるものはない。

##### 第1号溝跡 (SD01、図39)

[位置・確認] 調査区南側、H16-54・55グリッドで検出された。遺構確認面の標高は43.6m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区をほぼ東西に横切る弧状気味の溝跡で、東西端が調査区域外に延びていて、遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(0.62)m、幅は43cm、確認面からの深さは16～20cmである。底面は地山をそのまま平坦な底面としており、ほぼ平坦で、断面形は逆台形状をなす。底面は西端と東端で比高差がほとんどなく水平である。

[堆積土] 堆積土は黒褐色土主体の単層で、褐色土の粒やブロックが混入する。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代以降のものと考えられるが、本遺構の機能は不明である。

##### 第2号溝跡 (SD02、図39)

[位置・確認] 調査区南側、H16-49グリッドで検出された。遺構確認面の標高は44.2m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。調査区壁面の観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模・底面] 調査区を北東-南西に横切る直線状の溝跡で、東西端が調査区域外に延びているため遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(1.6)m、幅は41～49cm、確認面からの深さは10～15cmで、調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは22cmである。地山をそのまま底面としており、やや凹凸がある。断面形は皿状をなす。底面は西端と東端で比高差がほとんどなく水平である。

[堆積土] 堆積土は黒褐色土主体の単層で、黄褐色土のブロックが混入する。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代以降のものと考えられるが、本遺構の機能は不明である。

##### 第3号溝跡 (SD03、図39)

[位置・確認] 調査区南側、H16-42グリッドで検出された。遺構確認面の標高は44.7mで、第V層で確認した。本他遺構との重複は認められなかった。調査区壁面の観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模・底面] 調査区を北西-南東に横切る直線状の溝跡で、東西端が調査区域外に延びているため遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(0.71)m、幅は49～66cm、確認面からの深さは12～26cmで、調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは29cmである。地山をそのまま底面

としており、断面形は半円状をなす。底面は西端と東端で比高差がほとんどなく水平である。

[堆積土]堆積土は黒褐色土主体の単層で、黄褐色土のブロックが混入する。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代以降のものと考えられるが、本遺構の機能は不明である。

#### 第4号溝跡(SD04、図39)

[位置・確認]調査区南側、H16-45グリッドで検出された。遺構確認面の標高は44.5m、第V層で確認した。本遺構はSK02より新しい。調査区壁面の観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模・底面]調査区を北東-南西に横切る直線状の溝跡で、東西端が調査区域外に延びているため遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(0.68)m、幅は66cm、確認面からの深さは30~39cmで、調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは44cmである。地山をそのまま底面としており、やや凹凸があり、断面形は箱形に近い。北東端と南西端では、溝底面の比高差は約15cmあり、北南側に傾斜して構築されている。

[堆積土]黒~黒褐色土が主体で3層に分層された。黄褐色の粘土やロームが混入する。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代以降のものと考えられるが、本遺構の機能は不明である。

#### 第5号溝跡(SD05、図39・41)

[位置・確認]調査区中央、H16-35・36グリッドで検出された。遺構確認面の標高は、北部で44.3~44.4m、南部で44.2~44.3m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。調査区壁面の観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模・底面]調査区を北西-南東に横切る弧状気味の溝跡で、東西端が調査区域外に延びているため遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(1.0)m、幅は185cm、確認面からの深さは76~85cmで、調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは92cmである。地山をそのまま底面としており断面形は逆台形状をなす。底面は西端と東端で比高差がほとんどなく水平である。

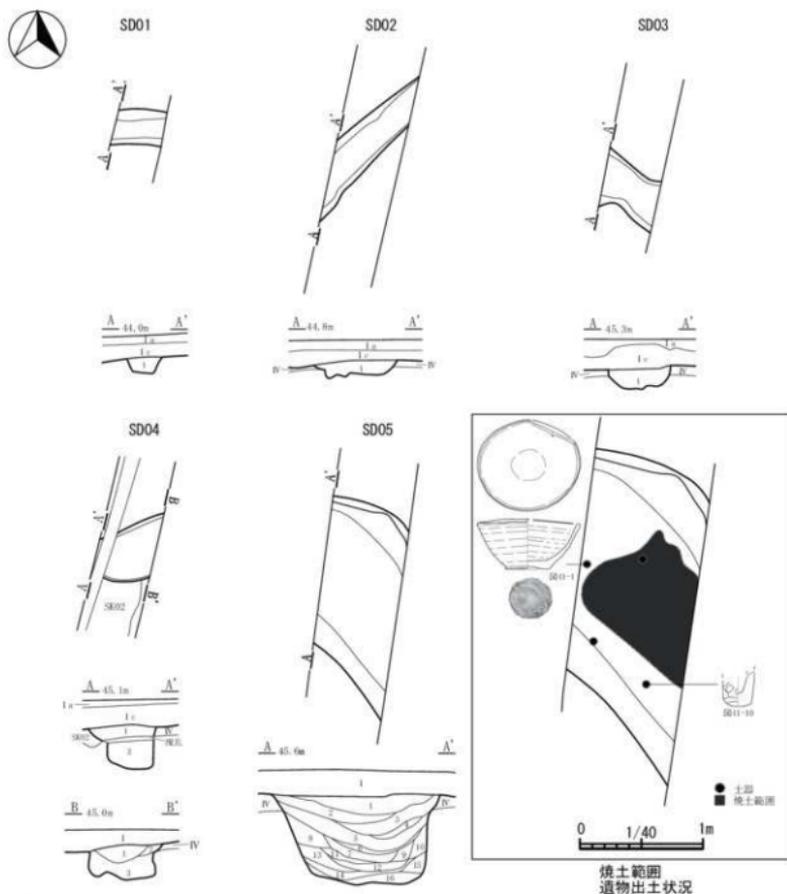
[堆積土]黒~黒褐色土が主体で16層に分層された。焼土や炭化物が混入しており、人為的に埋め戻されている。

[出土遺物・遺構の時期等]土師器59点(877.1g)、須恵器3点(54.4g)、縄文土器1点(3.8g)が出土し、土師器坏(図41-1~3)・甕(図41-4~8)・小杯(図41-9・10)、須恵器坏(図41-11~13)、縄文土器(図41-14)を図示した。図41-1の土師器坏の口縁部には刻書が見られる。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物等から平安時代以降のものと考えられるが、本遺構の機能は不明である。

#### 第6号溝跡(SD06、図40・41)

[位置・確認]調査区中央、H16-27~34グリッドで検出された。遺構確認面の標高は北端部で45.1m、南端部で44.5m、第V層で確認した。本遺構はSK06、SD07・08、SP02より新しい。第IV層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模・底面]調査区を北東-南東に横切る弧状気味の溝跡で、南北端が調査区域外に延びて



- SD01  
1層 101R2/2 黒褐色土 101R4/6褐色土ブロック(φ1~10mm)2%, 101R4/6褐色土粒(φ1~2mm)1%
- SD02  
1層 101R2/2 黒褐色土 101R5/9黄褐色土ブロック(φ1~20mm)10%
- SD03  
1層 101R2/3 黒褐色土 101R7/6明黄褐色土ロームブロック(φ5~50mm)2%
- SD04  
1層 101R2/1 黒色土 101R5/6黄褐色粘土(φ1~50mm)2%,  
2層 101R2/2 黒褐色土 101R5/6黄褐色土ローム粒(φ1~50mm)2%,  
3層 101R5/6 黄褐色土と101R2/2黒褐色土の混合層, 101R4/6褐色土(φ1~30mm)3%,  
SD05  
1層 101R3/4 暗褐色土と101R3/2黒褐色土の混合層, 101R6/6明黄褐色土ローム(φ1~25mm)2%, 101R5/6黄褐色火山灰(B-Tm?) (φ1~10mm)2%, 51R5/9明赤褐色粘土(φ1~5mm)1%, 炭化物(φ1~5mm)1%,  
2層 101R2/1 黒色土 101R6/6明黄褐色土(φ1~25mm)2%, 51R5/9明赤褐色粘土(φ1~5mm)2%, 炭化物(φ1~3mm)1%,  
3層 101R2/3 黒褐色土 101R7/3に広い黄褐色粘土層(φ100mm)、ブロック(φ80mm)、(φ1~10mm)の混合層, 51R5/9明赤褐色粘土(φ1~7mm)1%, 炭化物(φ1~3mm)1%,  
4層 101R2/2 黒褐色土 101R4/6褐色土ローム(φ1~10mm)2%, 101R5/6暗褐色土ローム(φ1~10mm)2%, 51R5/9明赤褐色粘土(φ1~5mm)1%, 炭化物(φ1~3mm)1%,  
5層 101R2/2 黒褐色土 101R3/4に広い黄褐色土層(1R), 101R5/6黄褐色土ローム(φ1~5mm)1%, 炭化物(φ1~3mm)1%,  
6層 101R2/2 黒褐色土 101R5/4に広い黄褐色土ローム(φ1~15mm)と51R4/2褐色粘土(φ1~20mm)と51R5/9明赤褐色粘土(φ1~5mm)と炭化物(φ1~15mm)の混合層,  
7層 101R2/2 黒褐色土と101R5/6黄褐色土ローム(φ1~15mm)と51R5/9明赤褐色粘土(φ1~10mm)と51R7/6明黄褐色土ブロック(φ70mm)と炭化物(φ1~10mm)の混合層,  
8層 101R2/2 黒褐色土 51R5/9明赤褐色粘土(φ1~20mm)3%, 炭化物(φ1~10mm)1%,  
9層 101R2/2 黒褐色土 101R5/6黄褐色土ローム(φ1~10mm)10%, 101R6/6明黄褐色土ローム(φ1~10mm)2%, 7, 51R6/6褐色粘土(φ1~10mm)2%, 炭化物(φ1~3mm)1%,  
10層 7, 51R5/9 明赤褐色粘土と51R4/2褐色粘土と101R2/2黒褐色土と炭化物(φ1~3mm)との混合層, 焼土層状に入っている。  
11層 黒色土 101R6/6明黄褐色土(φ1~30mm)2%, 7, 51R5/9明赤褐色粘土(φ1~10mm)2%, 炭化物(φ1~2mm)1%,  
12層 101R2/1 黒色土と101R6/6明黄褐色土ローム(φ1~50mm)と7, 51R6/6褐色粘土(φ1~30mm)と炭化物(φ1~3mm)の混合層,  
13層 101R2/2 黒褐色土と101R5/6黄褐色土ローム層状(φ1~10mm)と101R4/6褐色土との混合層,  
14層 101R2/2 黒褐色土と101R2/2黒褐色土の混合層, 炭化物(φ1~5mm)1%,  
15層 101R5/6 黄褐色土と101R2/2黒褐色土の混合層,  
16層 101R2/2 黒褐色土と101R6/6明黄褐色土ローム(φ5~200mm)と101R5/6黄褐色土ローム(φ5~60mm)の混合層, 炭化物(φ1~5mm)1%.

図39 下石川平野遺跡(配水管16号) 溝跡(1)

いるため遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(33.16)m、幅は26～54cm、確認面からの深さは3～36cmで、掘り込み面から底面の深さは38cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は、H16-29グリッド付近では逆台形状、H16-31グリッド付近ではコ字状、H16-33グリッド付近では葉研状をなす。H16-27グリッドの北端とH16-34グリッドの南端では、溝底面の比高差は約66cmあり、南側に傾斜して構築されている。

[堆積土]黒～黒褐色土主体で3層に分層された。黄褐色ロームや明黄褐色ロームを含むことから、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]堆積土中から土師器が5点(51.1g)出土し、うち土師器甕の口縁部片1点を図示した(図41-15)。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物等から平安時代以降のものと考えられるが、本遺構の機能は不明である。

#### 第7号溝跡(SD07、図40)

[位置・確認]調査区中央、H16-32グリッドで検出された。遺構確認面の標高は44.9m、第V層で確認した。本遺構はSP02より新しい。調査区壁面の観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模・底面]調査区を北西-南東に横切る直線状の溝跡で、東西端が調査区域外に延びているため遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(0.95)m、幅は38～60cm、確認面からの深さは17～22cmで、調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは32cmである。地山をそのまま底面とし、底面にはやや凹凸がある。断面形は逆台形状をなす。北西端と北東端では、溝底面の比高差は約12cmあり、北西側に傾斜して構築されている。

[堆積土]2層に分層された。黒褐色土と黄褐色ロームや明黄褐色ロームとの混合層で、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係等から平安時代以降のものと考えられるが、本遺構の機能は不明である。

#### 第8号溝跡(SD08、図40)

[位置・確認]調査区中央のH16-31グリッドで検出された。遺構確認面の標高は44.7～44.9m、第V層で確認した。本遺構はSP02より新しく、SD06より古い。

[平面形・規模・底面]調査区をほぼ東西に横切る直線状の溝跡で、東西端が調査区域外に延びているため遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(0.64)m、幅は35～40cm、確認面からの深さは12～34cmである。地山をそのまま平坦な底面としており、断面形は逆台形状をなす。西端と東端では、溝底面の比高差は約6cmあり、東側に傾斜して構築されている。

[堆積土]黒～黒褐色土を主体とし2層に分層された。2層中に明黄褐色ロームが混入する。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係等から平安時代以降のものと考えられるが、本遺構の機能は不明である。

#### 第9号溝跡(SD09、図40・41)

[位置・確認]調査区中央のH16-34グリッドで検出された。遺構確認面の標高は44.4～44.5mで、第



V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面]調査区をほぼ東西に横切る直線状の溝跡で、東西端が調査区域外に延びているため遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは0.92m、幅は64cm、確認面から底面までの深さは33cmである。調査区壁面の観察では、掘り込み面から底面の深さは47cmである。掘方を有し底面を平らに整えており、断面形は逆台形状をなす。西端と東端では、溝底面の比高差は約5cmあり、東側に傾斜して構築されている。

[堆積土]黒褐～褐色土を主体として4層に分層された。第4層は掘方埋土である。にぶい赤褐色焼土粒や黄褐色ロームが混入しており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等]土師器が28点(362.8g)出土し、うち土師器坏(図41-16)・甕(図41-17～20)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物等から平安時代以降のものと考えられるが、本遺構の機能は不明である。

## (5) 焼土遺構

配水管16号からは1基の焼土遺構が検出された。

### 第1号焼土遺構(SN01、図40)

[位置・確認]H16-39グリッドに位置し、第1層除去後に確認した。第1号竪穴建物跡の堆積土上部に構築されている。

[平面形・規模]焼土規模は長軸23cm、短軸(13)cmの円形状をなし、被熱により深さ約3cmまで赤色化している。焼土は黒色土と混合しており、焼土化は顕著でない。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しなかった。第1号竪穴建物跡より新しいが、詳細は不明である。

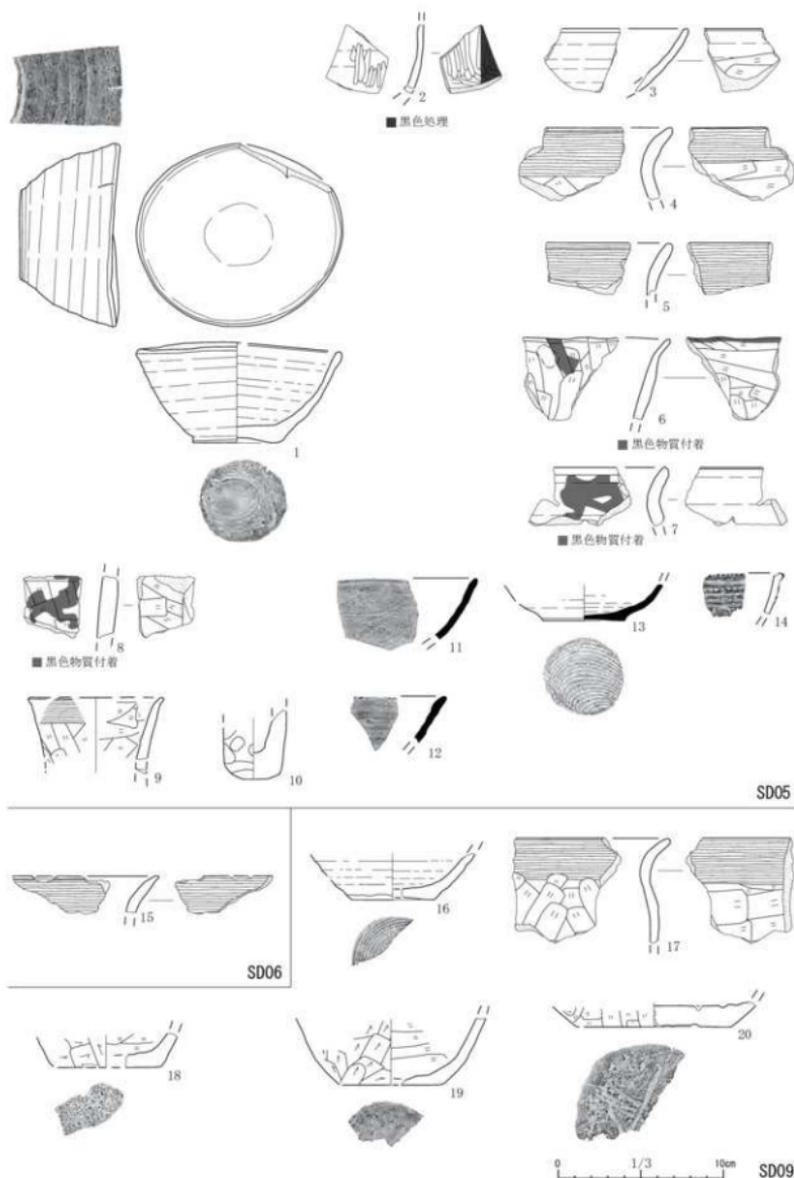


图41 下石川平野遺跡(配水管16号) 溝跡出土遺物

## 2 遺構外の出土遺物

遺構外の遺物は、縄文時代のもつと平安時代のもつとがあり、段ボール箱で約1箱分出土した。

### (1) 縄文時代の出土遺物(図42・43)

遺構外からは、縄文時代の土器が97点(1,261.8g)、石器が7点(3,632.5g)出土し、うち、土器19点、石器7点を図示した。

図42-1は口縁部文様帯中に横位および斜位の側面圧痕を施し、口縁部と胸部の境に低い隆帯と刺突が見られるもの、図42-2は口縁部文様帯中に横位の側面圧痕と刺突が見られるもの、図42-3は絡条体第1類が縦位施文されるもので、縄文時代前期後葉の円筒下層c式～d式に比定される。

図42-4は口縁部文様帯中に横位の側面圧痕を施し、口唇部と口縁部文様帯内に縦位の貼り付けが施されるもの、図42-5～7は口縁部文様帯中に側面圧痕や結東第1種の羽状縄文が施されるもの、図42-8・9は胸部に結東第1種の羽状や斜縄文が縦位施文されるもので、縄文時代中期前葉の円筒上層a式に比定される。

図42-10～18は縄文時代後期前葉と考えられるもので、器面に弧状や斜行する沈線が施されるものである。図42-19も無文の底部であるが、同時期と推測される。

図42-20は無茎平基の石織、図42-21は磨製石斧、図42-22は端辺を打ち欠いているもの、図43-1～4は凹石である。

### (2) 平安時代の出土遺物(図43・44)

遺構外からは、土師器246点(1,985.2g)、須恵器22点(205.8g)、鉄滓1点(17.7g)、石器1点(139.8g)が出土し、うち、土師器21点、須恵器8点、石器1点を図示した。土師器坏(図43-5～9)・甕(図43-10～23・図44-1・2)、須恵器坏(図44-3・4)・壺(図44-5～7)・甕(図44-8～10)、硯(図44-11)である。

土師器坏は、図43-5は内外面ミガキ調整で内面黒色処理されたもの、それ以外はロクロ整形無調整のものである。土師器甕は、図43-10～16が口縁部、図43-17・18が胸部、図43-19～23・図44-1・2が底部で、図43-15・16はロクロ整形のもの、図44-1・2はロクロ整形の小甕底部である。

須恵器坏(図44-3・4)は口縁部である。図44-3の内面は剥落している。須恵器壺は、図44-5が口縁部、図44-6が肩部、図44-7が胸部である。須恵器甕(図44-8～10)は胸部である。外面はタタキ痕が顕著であるが、内面の当て具痕は明瞭でない。

図44-11の砥石は近現代の可能性もある。



図42 下石川平野遺跡(配水管16号) 遺構外出土遺物(1)

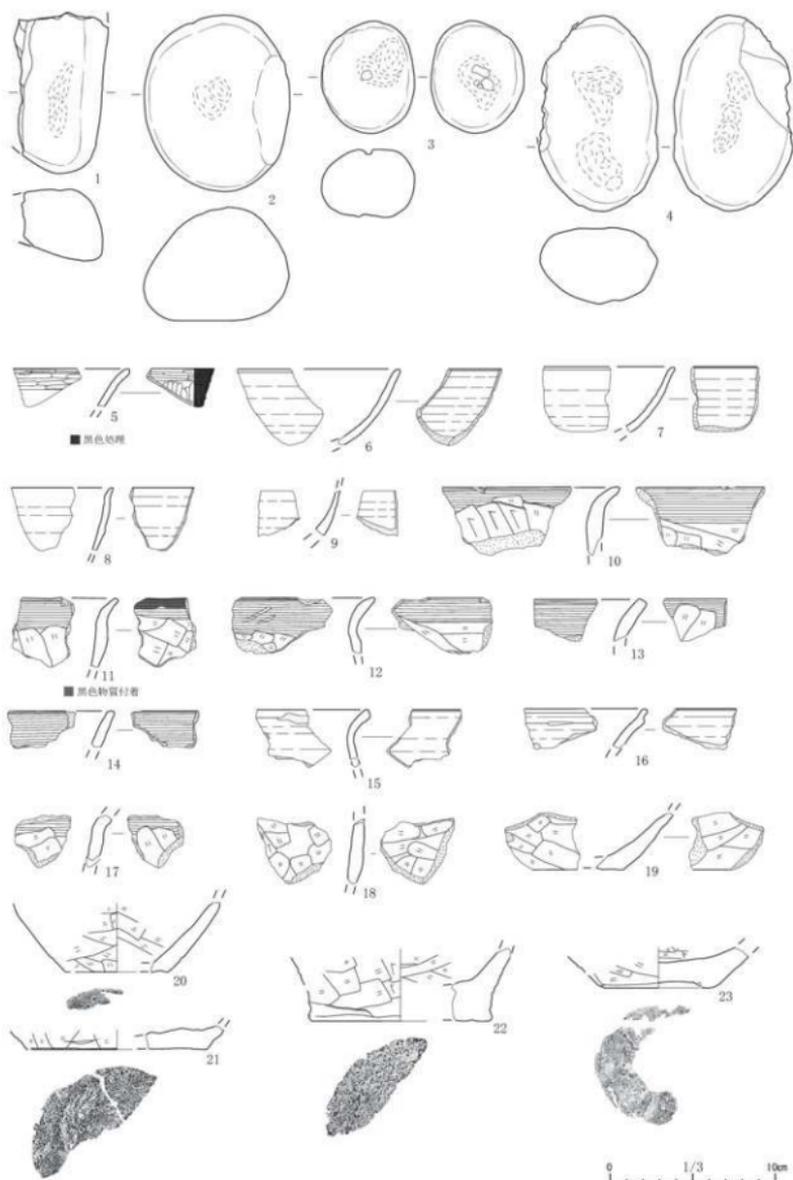


図43 下石川平野遺跡(配水管16号) 遺構外出土遺物(2)

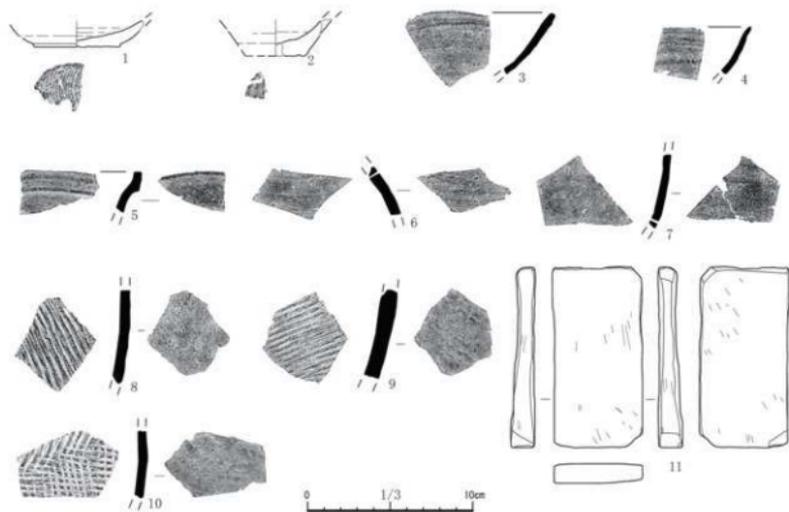


図44 下石川平野遺跡(配水管16号) 遺構外出土遺物(3)

### 第3章 給水栓8号の検出遺構と出土遺物

給水栓8号は、長さ約13m、幅約7mの長方形を呈する調査区で、合計90㎡を調査した。北側と東側に平成25年度に調査した配水管12号、農道23号が近接し、西側には本書に掲載している配水管16号が位置している。

調査区は配水管16号のH16-9～12グリッドで検出された沢に面する、南東方向へ降りていく緩斜面上に位置しており、現状は畑地である。基本層序は、調査区壁面での観察では、第Ⅲ層が遺存しているものの、白頭山苦小牧火山灰を確認できないため第Ⅱ層は削平されているものとみられる。調査範囲が狭く、遺物も散発的で、遺構も検出されなかったことから、グリッドは設定していない。排土置き場の確保等のため、調査区を東西に2等分し、まず東半分を調査したのち、埋め戻して残り西半を調査した。

検出された遺構はない。遺構外から出土した遺物について記載する。

#### 第1節 検出遺構と出土遺物

遺構外の遺物は、縄文時代と平安時代の土器が段ボール箱で約1箱分出土した。石器は出土しなかった。

##### 1 縄文時代の出土遺物(図45)

縄文時代の土器は9点(123.9g)出土し、うち、4点を図示した。図45-1は幅の狭い口縁部文様帯中に横位の側面圧痕を施し、口縁部と同部の境には低い隆帯が見られるもので、縄文時代前期後葉の円筒下層d式に比定される。

図45-2～4は縄文時代後期から晩期の時期と思われる粗製土器である。図45-2・3は深鉢の胴部片で、図45-2は器面にRLを施すもの、図45-3は無文のものである。図45-4は台付鉢の脚部片である。

##### 2 平安時代の出土遺物(図45)

平安時代の土器は30点(193.1g)出土した。土師器26点(146.5g)・須恵器4点(46.6g)である。うち、土師器6点・須恵器2点を図示した。

図45-5は土師器杯の底部である。ロクロ整形で、底外面は回転糸切りであるが凹凸がみられる。図45-6～8は土師器甕の口縁部片で、図45-8は沈線状の段がみられるものである。図45-9・10は甕で、図45-9はロクロ整形の小甕と思われるが、杯の可能性もある。図45-10は底外面にナデが施されていると思われる。図45-11・12は須恵器甕の胴部片で、図45-11は胴上部、図45-12は胴下部である。共に外面にはタキ痕が顕著であるが、内面の当て具痕は明瞭でない。

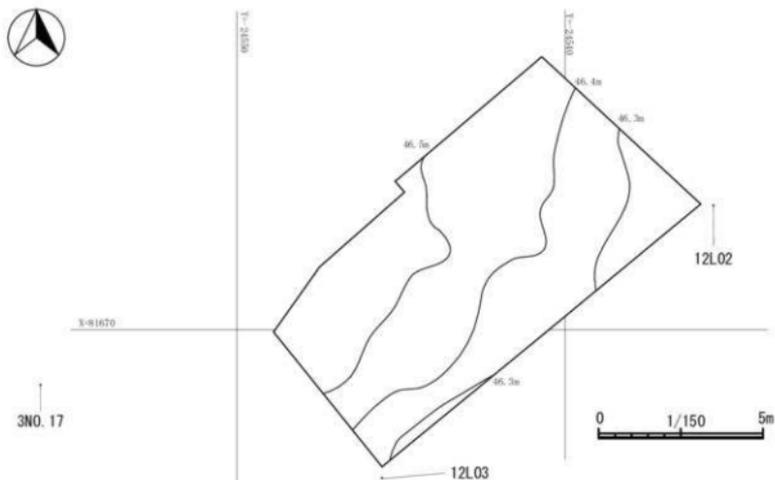


表6 下石川平野遺跡(給水栓8号) 主要点の国土地産標及び標高値一覧

地区名	点名	国土地産標 (世界国地表・JGD2011)	標高値 (m)
給水栓8号	12L02	8167.814	-24335.488
	12L03	81665.17	-24545.575
	3NO.17	81668.316	-24555.954

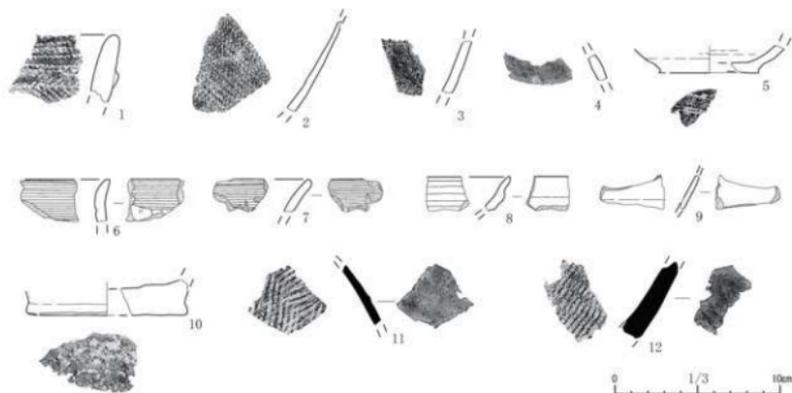


図45 下石川平野遺跡(給水栓8号) 調査区域図・出土遺物

## 第4章 給水栓9号の検出遺構と出土遺物

給水栓9号は、長さ約7～14m、幅約5mの台形を呈する調査区で、合計50㎡を調査した。北側には平成25年度に調査した配水管13・14号と農道24号E区の起点もしくは終点部が近接している。

調査区はかつての公衆用道路用地であることから、現状は砕石層が数十cm敷き詰められ、さらに堅く叩き締められていたため、掘削には困難が伴った。基本層序は、調査区南端では第Ⅲ層が遺存している箇所があるものの、調査区北半では砕石層(第Ⅰb層)がローム層である第Ⅴ層まで食い込んでおり、第Ⅱ～Ⅳ層は削平されているものとみられる。

給水栓8号と同様、調査範囲が狭く、遺物も散発的であったため、調査用のグリッドは設定していない。

検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

竪穴建物跡(SI)	1棟(平安時代)
柱穴(SP)	1基 ※単独のもののみ

給水栓9号から出土した遺物は、縄文時代と平安時代の土器が段ボール箱で約1箱分出土した。石器は出土しなかった。縄文時代の土器が多く、平安時代の土器は総量の約1/4程である。

### 第1節 検出遺構と出土遺物

#### 1 検出遺構

##### (1) 竪穴建物跡

給水栓9号からは平安時代の竪穴建物跡が1棟検出された。

##### 第1号竪穴建物跡(SI01、図46・47)

[位置・確認] 調査区南端に位置する。遺構確認面の標高は45.0～45.2m、第Ⅴ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。第Ⅰb層(砕石)による削平を受けており、削平深度は掘り込み面のみならず、一部掘方堆積土まで達している。

[平面形・規模] 南側の大半は調査区域外に延びている。調査区内で検出したのは全体の3分の1程度と推定され、本来の平面形は一辺5m以上の方形と考えられる。壁長及び確認面から床面の深さは、北西壁(0.89)m・深さ10cm、北東壁(4.8)m・深さ17～19cmである。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。後述のようにカマドは調査区内では検出されなかったが、南東壁にあるものと仮定して北西壁から推定すると、建物の軸方向はN-100° - E前後と予想される。

[床面・壁溝] 地山の黄褐色ロームを主体とする貼床(5層)により整えられている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 壁際から4基(Pit1～4)を検出し、いずれも柱痕は確認されなかった。各Pitの平面形は楕円状で、規模はPit1が(35)×32cmで深さ51cm、Pit2が55×30cmで深さ20cm、Pit3が39×26cmで深さ17cm、Pit4が47×26cmで深さ12cmを測る。Pit3から縄文土器が1点(37.5g)出土している。(図47-10)

[カマド] 調査区域内では検出されなかった。南東壁にあるものと推定される。

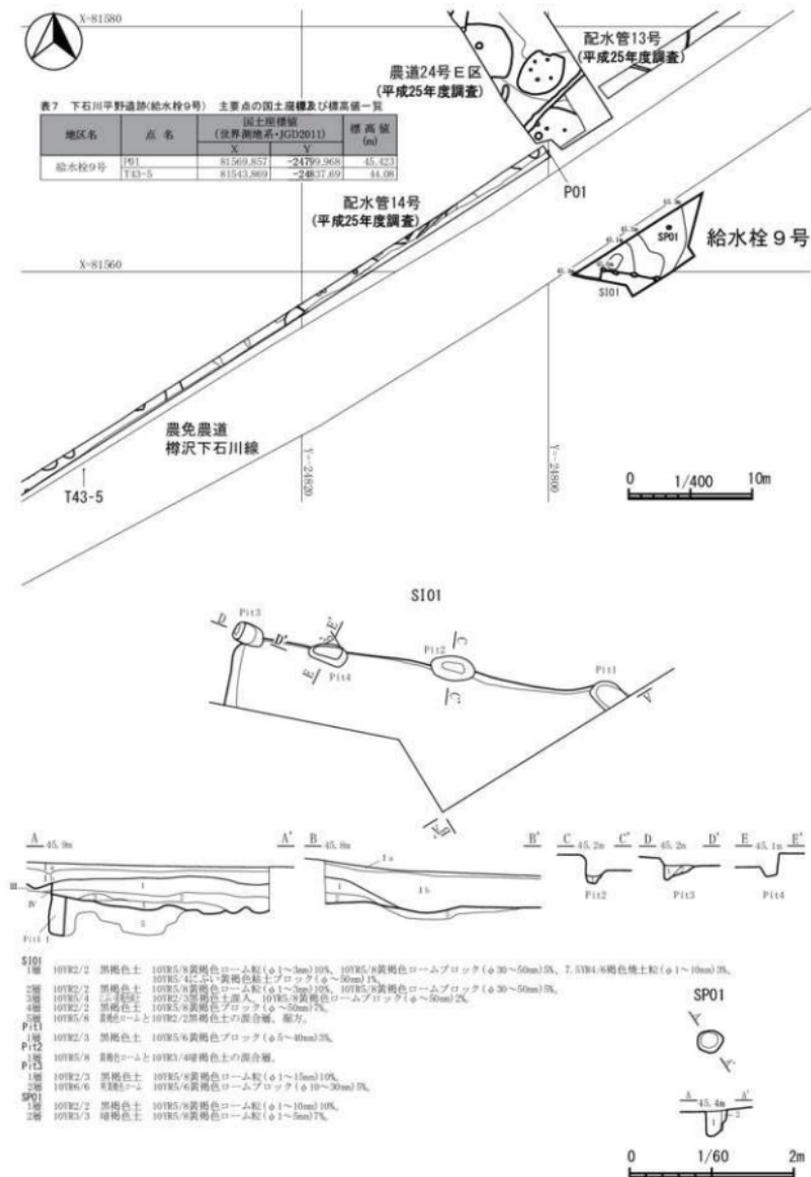


図46 下石川平野遺跡(給水栓9号) 遺構配置図・第1号竪穴建物跡・柱穴

【堆積土】黒褐色土主体で5層に分層された。5層は貼床である。黄褐色ロームを多量に混入することから人為堆積と思われる。

【出土遺物】土師器31点(286.7g)、縄文土器71点(586.2g)が出土した。出土内訳は、堆積土中から土師器31点(286.7g)・縄文土器51点(360.2g)、掘方中から縄文土器19点(188.5g)、柱穴(Pit 3)から縄文土器1点(37.5g)である。そのうち土師器3点、縄文土器9点を図示した。図47-1～3は土師器で、ロクロ整形されたものである。図47-1・2は坏で、図47-1は口縁部に黒色物質が付着したものの、図47-2は内面が黒色処理されたものである。図47-3は甕の底部で、底外面は砂底である。図47-4～12は縄文土器である。図47-4・5は口縁部、図47-6～8は頸部、図47-9～11は胴部、図47-12は底部である。図47-10はPit 3出土のものである。

【小結】出土遺物、堆積土の様相から、平安時代と考えられるが、詳細な時期は不明である。

## (2) 柱穴

給水栓9号からは合計1基の柱穴が検出された。柱穴の位置や計測値等諸特徴は、図46や表8の計測表に示した。なお、縄文土器1点(11.1g)が出土している。(図47-13)

表8 下石川平野遺跡(給水栓9号) 柱穴計測表

SP 番号	図版番号	グリッド	標高 (m)	規模(cm)			備考
				長軸	短軸	深さ	
1	図46		45.2	32	28	33	

## 2 遺構外の出土遺物

遺構外の遺物は、縄文時代のものや平安時代のものがあり、段ボール箱で約0.5箱分出土した。石器は出土しなかった。

### (1) 縄文時代の出土遺物(図47)

縄文土器19点(237.8g)が出土し、うち4点を図示した。いずれも深鉢の小平で、胎土中に繊維を混入する。図47-14はRRLを縦位施文していると思われる口縁部片、図47-15は口縁部文様帯中にLRの側面圧痕を横位に施している頸部片である。図47-16・17は胴部で、図47-16は単軸絡条体第1類(LR)を縦走させていると思われる、図47-17はRの単軸絡条体第1類を縦走させている。これらは縄文時代前期後葉の円筒下層c式から円筒下層d式の範疇に収まるものと考えられる。

### (2) 平安時代の出土遺物(図47)

土師器は2点(29.5g)出土し、全てを図示した。坏(図47-18)と甕(図47-19)で、いずれもロクロ整形のもので、図47-18の底外面は回転糸切りである。

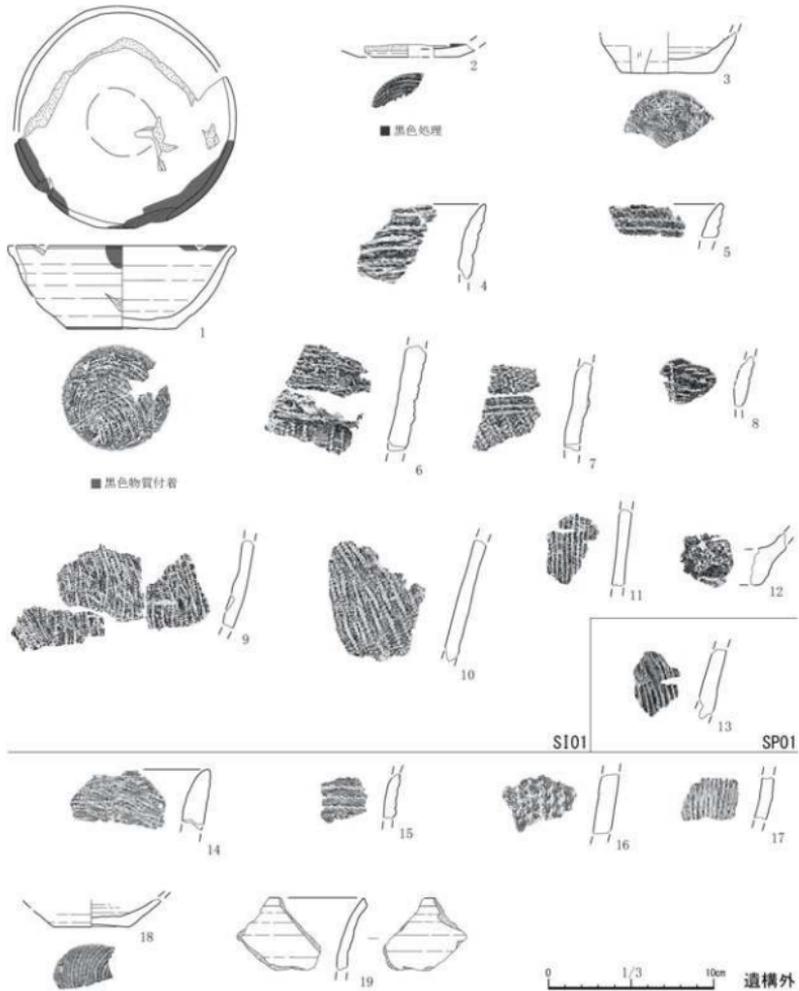


図47 下石川平野遺跡(給水栓9号) 出土遺物

## 第5章 理化学的分析

### 第1節 下石川平野遺跡出土の火山灰について

弘前大学大学院・理工学研究科

柴 正敏

標記遺跡より採集された火山灰サンプル10試料について、以下の観察を行った。

これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など粒径数マイクロメートル以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。その結果を表1に示した。

火山ガラスは、その形態、屈折率、共存鉱物、化学組成などにより給源火山を推定することができる(町田・新井、2003)。火山ガラスの化学組成を決定する方法として、近年、電子プローブマイクロアナライザー(以下E PMA)がもちいられるようになってきた。本報告では、2試料の火山ガラスについてE PMA分析を行った。使用したE PMAは弘前大学大学院・理工学研究科所属の日本電子製JXA-8800RL、使用条件は加速電圧15 kV、試料電流 $6 \times 10^{-9}$ アンペアである。

本遺跡出土の火山ガラスは、その形態、色(特に褐色ガラスの有無)、共存鉱物(表1)及びその化学組成(表2及び3)により、以下のように帰属される：

- (1) 白頭山苦小牧テフラ(B-Tm)のガラスのみからなると推定される試料  
(アルカリ長石、ヘデンバージャイト及びエジリンオージャイトを含み、褐色ガラス、石英(斑晶)及びホルンブレンドを含まないもの)  
・試料番号1、4、5、6、7、8、9及び10(8試料)
- (2) 十和田aテフラ(To-a)のガラスからなると推定される試料  
(褐色ガラス及び石英(斑晶)を含み、ホルンブレンドを含まないもの)  
・試料番号2及び3(計2試料)

表2及び3には、試料番号6及び7のB-TmガラスのE PMA分析値を示した。B-Tmのガラス組成は、アルカリ粗面岩質(B-Tm(1)、表2-1・表3-1)及びアルカリ流紋岩質(B-Tm(2)、表2-2・表3-2)であり、半年～1年間の休止期を挟んで起こった2度の10世紀噴火の後半部を代表するものに帰属できる。

#### 参考文献

- 青木かおり・町田 洋(2006)、日本に分布する第四紀後期広域テフラの主元素組成 —  $K_2O-TiO_2$  図によるテフラの識別。地質調査研究報告、第57巻、第7/8号、239-258。
- Hayakawa, Y. (1985), Pyroclastic geology of Towada Volcano. Bulletin of Earthquake Research

Institute, vol.60, 507-592.

Machida, H. (1999), Quaternary widespread tephra catalog in and around Japan : Recent progress. 第四紀研究, 第38巻, 194-201.

町田 洋・新井房夫(2003), 新編火山灰アトラス ー日本列島とその周辺ー. 東京大学出版会, pp.336.

柴 正敏・重松直樹・佐々木 実(2000), 青森県内に分布する広域テフラに含まれる火山ガラスの化学組成(1). 弘前大学理工学部研究報告, 第1巻, 第1号, 11-19.

柴 正敏・中道哲郎・佐々木 実(2001), 十和田火山, 降下軽石の化学組成変化 ー宇樽部の一露頭を例としてー. 弘前大学理工学部研究報告, 第4巻, 第1号, 11-17.

柴 正敏・佐々木 実(2006), 十和田火山噴出物のガラス組成変化, 月刊地球, 第28巻, 第5号, 322-325.

表1 下石川平野遺跡火山灰試料

試料番号	採取場所	層位	テフラの種類	ガラス及び構成鉱物
1	SK04 H16-32	堆積土	B-Tm	ガラス(bw > pm), アルカリ長石, ヘデンバージャイト, エジリンオージャイト, 単斜輝石, 不透明鉱物
2	SK03 N27-19	堆積土	To-a	ガラス(pm), 褐色ガラス, 石英, 斜長石, 斜方輝石, 単斜輝石, 不透明鉱物
3	SK04	堆積土	To-a	ガラス(pm), 褐色ガラス, 石英, 斜長石, 斜方輝石, 単斜輝石, 不透明鉱物
4	SK06	堆積土	B-Tm	ガラス(bw > pm), アルカリ長石, ヘデンバージャイト, エジリンオージャイト, 単斜輝石, 不透明鉱物
5	SK08 N27-17	堆積土	B-Tm	ガラス(bw > pm), アルカリ長石, ヘデンバージャイト, エジリンオージャイト, 単斜輝石, 不透明鉱物
* 6	SD07	堆積土上位 (黄褐色)	B-Tm	ガラス(bw > pm), アルカリ長石, ヘデンバージャイト, エジリンオージャイト, 単斜輝石, 不透明鉱物
* 7	SD07	堆積土中位 (灰褐色)	B-Tm	ガラス(bw > pm), アルカリ長石, ヘデンバージャイト, エジリンオージャイト, 単斜輝石, 不透明鉱物
* 8	SD07	堆積土上位	B-Tm	ガラス(bw > pm), アルカリ長石, ヘデンバージャイト, エジリンオージャイト, 単斜輝石, 不透明鉱物
9	SD07	堆積土中位	B-Tm	ガラス(bw > pm), アルカリ長石, ヘデンバージャイト, エジリンオージャイト, 単斜輝石, 不透明鉱物
10	SD08	堆積土上位	B-Tm	ガラス(bw > pm), アルカリ長石, ヘデンバージャイト, エジリンオージャイト, 単斜輝石, 不透明鉱物

bw: バブルウォール型ガラス, pm: 軽石型ガラス

\*: EPMA分析を行った試料

表2-1 下石川平野遺跡の火山灰(試料番号6)

B-Tm(1)										
重量%										
No.	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
1	71.23	0.19	9.50	3.70	0.15	0.05	0.14	5.24	4.48	94.68
2	71.10	0.24	10.94	3.71	0.06	0.02	0.38	5.15	4.81	96.43
3	70.62	0.08	9.48	3.69	0.06	0.06	0.27	5.06	4.47	93.79
4	74.87	0.14	10.42	4.18	0.08	0.04	0.29	5.67	4.54	100.23
5	73.20	0.20	9.43	3.87	0.03	0.00	0.20	5.52	4.61	97.07
	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
最少値	70.62	0.08	9.43	3.69	0.03	0.00	0.14	5.06	4.47	93.79
最大値	74.87	0.24	10.94	4.18	0.15	0.06	0.38	5.67	4.81	100.23
平均値	72.20	0.17	9.96	3.83	0.08	0.04	0.26	5.33	4.58	96.44
標準偏差	1.786	0.064	0.690	0.207	0.044	0.022	0.093	0.258	0.141	2.493
100%に規格化した値										
No.	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
1	75.24	0.21	10.04	3.91	0.16	0.05	0.15	5.53	4.73	100.00
2	73.73	0.25	11.35	3.85	0.07	0.02	0.40	5.34	4.99	100.00
3	75.30	0.08	10.11	3.93	0.07	0.06	0.28	5.40	4.77	100.00
4	74.70	0.14	10.40	4.17	0.08	0.04	0.29	5.66	4.53	100.00
5	75.42	0.20	9.71	3.99	0.03	0.00	0.21	5.69	4.75	100.00
	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
最少値	73.73	0.08	9.71	3.85	0.03	0.00	0.15	5.34	4.53	100.00
最大値	75.42	0.25	11.35	4.17	0.16	0.06	0.40	5.69	4.99	100.00
平均値	74.88	0.18	10.32	3.97	0.08	0.04	0.27	5.52	4.76	100.00
標準偏差	0.697	0.066	0.625	0.121	0.046	0.024	0.095	0.154	0.164	0
白頭山C(1)	74.6	0.2	10.7	4.4	0.1	0.0	0.2	4.7	4.7	
町田・新井(2003)										

FeO\*: 全鉄をFeOとして算出されている

表2-2 下石川平野遺跡の火山灰(試料番号6)

B-Tm(2)										
重量%										
No.	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
1	66.86	0.35	14.54	4.57	0.14	0.08	1.04	6.23	5.74	99.55
2	64.12	0.47	14.25	4.61	0.08	0.15	1.29	6.11	5.93	97.01
	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
最少値	64.12	0.35	14.25	4.57	0.08	0.08	1.04	6.11	5.74	97.01
最大値	66.86	0.47	14.54	4.61	0.14	0.15	1.29	6.23	5.93	99.55
平均値	65.49	0.41	14.40	4.59	0.11	0.12	1.16	6.17	5.84	98.28
標準偏差	1.937	0.086	0.208	0.029	0.042	0.047	0.177	0.086	0.138	1.795
100%に規格化した値										
No.	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
1	67.16	0.35	14.61	4.59	0.14	0.08	1.04	6.26	5.77	100.00
2	66.10	0.48	14.69	4.75	0.09	0.15	1.33	6.30	6.12	100.00
	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
最少値	66.10	0.35	14.61	4.59	0.09	0.08	1.04	6.26	5.77	100.00
最大値	67.16	0.48	14.69	4.75	0.14	0.15	1.33	6.30	6.12	100.00
平均値	66.63	0.41	14.65	4.67	0.11	0.12	1.19	6.28	5.94	100.00
標準偏差	0.753	0.095	0.056	0.115	0.041	0.05	0.202	0.028	0.249	0
白頭山C(2)	69.3	0.4	13.8	4.5	0.1	0.0	0.7	5.9	5.3	
町田・新井(2003)										

FeO\*: 全鉄をFeOとして算出されている

表3-1 下石川平野遺跡の火山灰(試料番号7)

B-Tm(1)										
重量%										
No.	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
1	73.75	0.23	10.58	3.91	0.08	0.00	0.27	5.42	4.81	99.05
2	74.16	0.21	9.79	3.88	0.02	0.00	0.21	5.50	4.31	98.08
3	70.92	0.28	9.84	3.91	0.01	0.00	0.23	5.12	4.53	94.85
4	74.83	0.26	10.04	3.82	0.07	0.04	0.24	5.24	4.53	99.08
	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
最少値	70.92	0.21	9.79	3.82	0.01	0.00	0.21	5.12	4.31	94.85
最大値	74.83	0.28	10.58	3.91	0.08	0.04	0.27	5.50	4.81	99.08
平均値	73.41	0.25	10.06	3.88	0.05	0.01	0.24	5.32	4.55	97.76
標準偏差	1.724	0.033	0.364	0.043	0.036	0.018	0.026	0.173	0.203	1.999
100%に規格化した値										
No.	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
1	74.45	0.23	10.68	3.95	0.08	0.00	0.27	5.47	4.86	100.00
2	75.62	0.21	9.98	3.96	0.02	0.00	0.21	5.61	4.40	100.00
3	74.77	0.30	10.37	4.12	0.02	0.00	0.25	5.40	4.78	100.00
4	75.53	0.26	10.14	3.86	0.07	0.04	0.25	5.29	4.57	100.00
	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
最少値	74.45	0.21	9.98	3.86	0.02	0.00	0.21	5.29	4.40	100
最大値	75.62	0.30	10.68	4.12	0.08	0.04	0.27	5.61	4.86	100
平均値	75.09	0.25	10.29	3.97	0.05	0.01	0.24	5.44	4.65	100
標準偏差	0.570	0.038	0.306	0.111	0.036	0.018	0.025	0.135	0.206	0.000
白頭山C(1)	74.6	0.2	10.7	4.4	0.1	0.0	0.2	4.7	4.7	
町田・新井 (2003)										

FeO\*: 全鉄をFeOとして算出されている

表3-2 下石川平野遺跡の火山灰(試料番号7)

B-Tm(2)										
重量%										
No.	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
1	71.28	0.30	14.11	3.84	0.17	0.10	0.88	6.78	5.28	102.73
2	67.35	0.02	18.35	3.30	0.02	0.00	0.12	6.93	7.18	100.26
3	67.00	0.32	13.86	4.47	0.13	0.07	0.97	6.22	5.46	98.50
4	62.62	0.35	13.03	4.05	0.04	0.02	0.79	4.93	5.55	91.37
5	68.05	0.29	14.20	4.23	0.07	0.04	0.96	6.27	5.31	99.43
	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
最少値	62.62	0.02	13.03	3.30	0.02	0.00	0.12	4.93	5.28	91.37
最大値	71.28	0.35	18.35	4.47	0.17	0.10	0.97	6.93	7.18	102.73
平均値	67.26	0.26	14.71	3.38	0.09	0.05	0.74	6.23	5.76	98.46
標準偏差	3.099	0.133	2.085	1.737	0.062	0.038	0.358	0.79	0.804	4.263
100%に規格化した値										
No.	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
1	69.39	0.29	13.73	3.74	0.16	0.10	0.86	6.60	5.14	100.00
2	67.17	0.02	18.30	3.30	0.02	0.00	0.12	6.92	7.16	100.00
3	68.02	0.33	14.07	4.54	0.14	0.07	0.98	6.31	5.55	100.00
4	68.54	0.38	14.26	4.43	0.04	0.03	0.87	5.39	6.07	100.00
5	68.44	0.30	14.28	4.26	0.07	0.04	0.97	6.30	5.34	100.00
	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Total
最少値	67.17	0.02	13.73	3.30	0.02	0.00	0.12	5.39	5.14	100.00
最大値	69.39	0.38	18.30	4.54	0.16	0.10	0.98	6.92	7.16	100.00
平均値	68.31	0.26	14.93	3.45	0.09	0.05	0.76	6.30	5.85	100.00
標準偏差	0.809	0.140	1.896	1.790	0.060	0.037	0.363	0.569	0.810	0.000
白頭山C(2)	69.3	0.4	13.8	4.5	0.1	0.0	0.7	5.9	5.3	
町田・新井 (2003)										

FeO\*: 全鉄をFeOとして算出されている



## 平安時代の様相について

平安時代は下石川平野遺跡の主体となる時代である。調査区のほぼ全てから遺構・遺物が確認されており、遺跡全域を活動範囲にしていたと考えられる(図C)。ただし、遺構密度は地域的な偏りがみられ、堅穴建物跡は農道30・31号(遺跡南東部)と農道24号W・E区(遺跡北西部)から比較的密に確認されている。

堅穴建物跡のカマドの多くは半地下式で南東壁に構築されているが、遺跡南東部の農道31号南側では地下式のものや地下式から半地下式に作り替えられたカマドも認められる。地下式のカマドを持つ堅穴建物跡は、周辺の浪岡沢遺跡・中平遺跡・上野遺跡でも確認されている。

また、堅穴建物跡は掘立柱建物跡もしくは外周溝が組み合わされるものがあり、掘立柱建物跡は堅穴建物跡の南東壁に取り付く。今回の調査区内では掘立柱建物跡と外周溝の両方が組み合わされるものは確認されなかった。近隣遺跡では、堅穴建物跡に掘立柱建物跡が組み合わされるものが中平遺跡や上野遺跡から、外周溝が組み合わされるものが旭(2)遺跡・中平遺跡・寺屋敷平遺跡から確認されている。

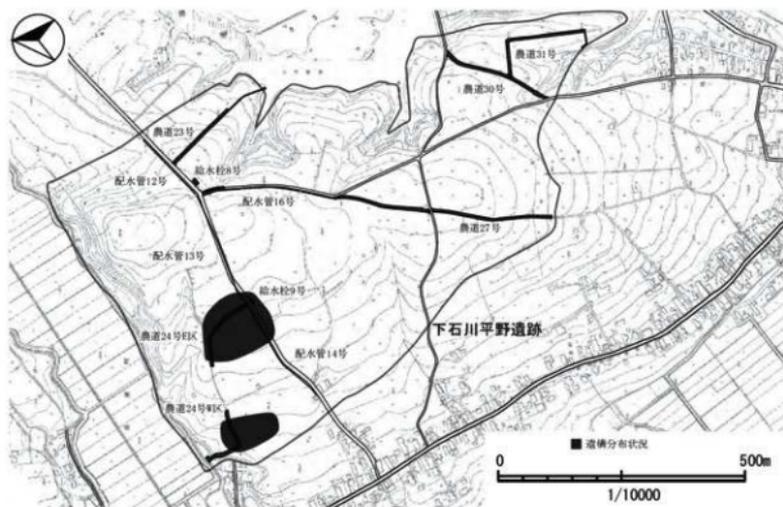
溝跡は圍繞施設の可能性のあるものが農道27号(遺跡中央部)から検出されている。

遺物は土師器・須恵器・土製品・製塩土器・石製品・鉄関連遺物・窯壁片等が出土している。土師器はロクロ整形で器面無調整のものが主体を占め、非ロクロ整形のものや内面黒色処理されたものは僅かである。ロクロ整形で器面無調整の坏の法量は、口径が13.0～14.4cm、底径・器高が5.0～6.4cm、器高指数(器高÷口径)が0.35以上のものが大半を占める(図D)。坏の中には少数であるが墨書や刻書が施されたもの、灯明皿に転用されたものがある。甕・埴は非ロクロ整形のものが多く、希に内面にハケメ調整が施されるものや、口縁部内面に煤が帯状に付着しているものがある。埴の中には焼土・黒色物質・粘土等が内外面に付着しているものがみられる。

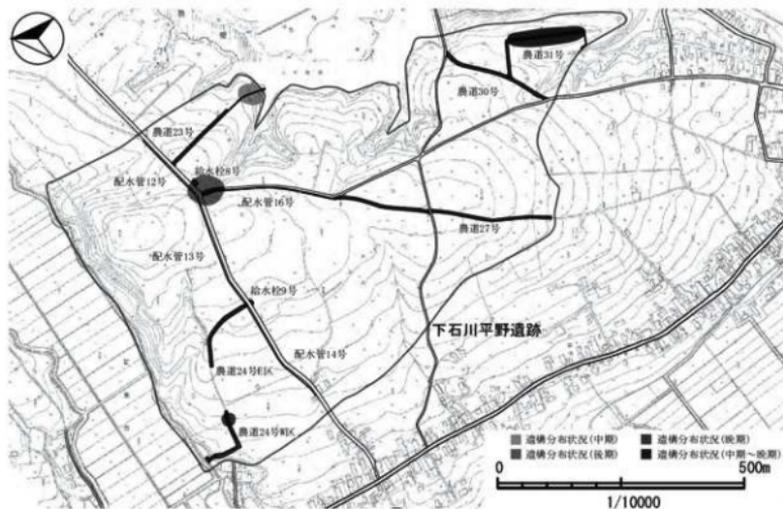
須恵器は多くの堅穴建物跡から出土しており、出土量は比較的多い。胎土分析の結果から史跡五所川原須恵器窯跡もしくはその周辺で生産されたものである可能性が高い(第569集第6編第1章第5節参照)。須恵器小壺には、内部にアズキ・ダイズ等の種子が収められていたものがある。

土鈴や土玉等の土製品は堅穴建物跡内から出土したものが多く、1棟の堅穴建物跡内から複数個出土したものもある。土鈴・玉類は旭(1)遺跡・旭(2)遺跡・中平遺跡からも出土している。土鈴は青森市浪岡地域(旧南津軽郡浪岡町)での出土例が多く、地域的な特徴となっている。

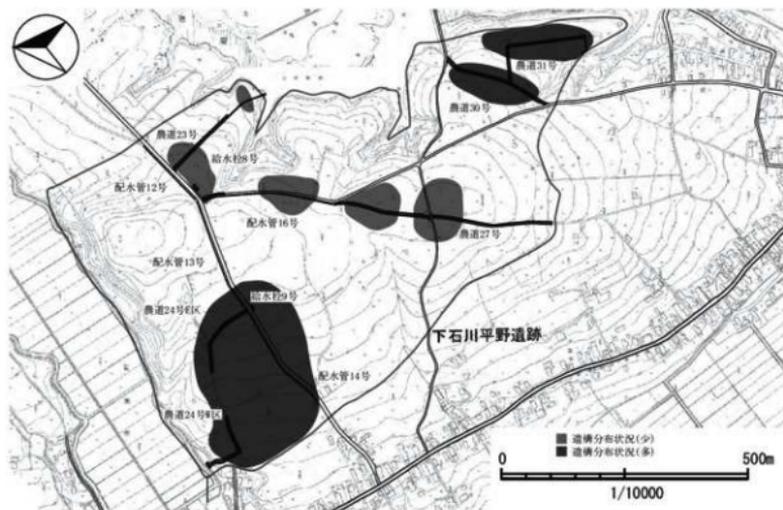
下石川平野遺跡の年代は出土遺物や遺構の形態・重複等から9世紀後半～10世紀後半で、9世紀後半～10世紀中葉に盛期があったものと考えられる。集落の中心は堅穴建物跡が比較的密に確認された遺跡南東部と北西部と考えられ、地下式カマド等の古い様相を持つものは遺跡南西部、新しい様相を持つ須恵器がみられるものは遺跡北西部で認められ、地区によって時期差があるものと思われる。遺跡中央部は遺構密度が薄いものの、圍繞施設と思われる溝跡を伴うことから、やや特殊な場の使われ方をされた可能性が考えられる。



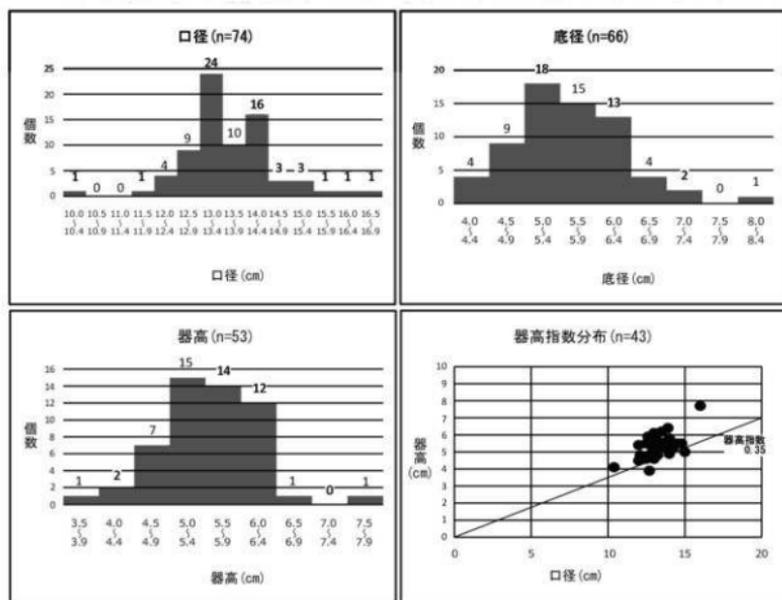
図A 下石川平野遺跡 遺構分布状況(縄文時代前期)



図B 下石川平野遺跡 遺構分布状況(縄文時代中期～晩期)



図C 下石川平野遺跡 遺構分布状況(平安時代)



図D 下石川平野遺跡 土師器坏法量分布図

## 引用・参考文献

- 青森県 2013 『青森県史』資料編 考古2 縄文後期・晩期
- 青森県教育委員会 2003 『宮元遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第359集
- 青森県教育委員会 2004 『宮元遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第380集
- 青森県教育委員会 2008 『寺屋敷平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第450集
- 青森県教育委員会 2009 『中平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第474集
- 青森県教育委員会 2010 『上野遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第486集
- 青森県教育委員会 2010 『中平遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第490集
- 青森県教育委員会 2012 『中平遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第518集
- 青森県教育委員会 2012 『青森県遺跡詳細分布調査報告書24』青森県埋蔵文化財調査報告書第523集
- 青森県教育委員会 2013 『青森県遺跡詳細分布調査報告書25』青森県埋蔵文化財調査報告書第536集
- 青森県教育委員会 2014 『青森県遺跡詳細分布調査報告書26』青森県埋蔵文化財調査報告書第549集
- 青森県教育委員会 2015 『下石川平野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第556集
- 青森県教育委員会 2016 『下石川平野遺跡Ⅱ・旭(1)遺跡・旭(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第569集
- 北東北古代集落遺跡研究会 2014 『9～11世紀の土器編年構築と集落遺跡の特質からみた、北東北世界の実態的研究』
- 五所川原市教育委員会 2003 『五所川原須恵器窯跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第25集
- 五所川原市教育委員会 2005 『KY1号窯跡「五所川原須恵器窯跡」における初現期窯跡の発掘調査報告書』  
五所川原市埋蔵文化財調査報告書第26集
- 東北古代土器研究会 2008 『研究報告4 東北古代土器集成—須恵器・窯跡編—(出羽)』
- 岩井 浩介 2004 「弘前市早稲田遺跡出土資料の再検討—青森県津軽地域南半部における古代後半の土器変遷に関する一試案—」『金沢大学考古学紀要27』
- 岩井 浩人 2008 「津軽地域における古代土器食膳具の変遷—9世紀から11世紀を中心に—」  
『青山考古第24号』
- 岩井 浩人 2009 「津軽南域における古代の土器様相」『扶桑 田村晃一先生喜寿記念論文集』
- 齋藤 淳 2010 「野尻遺跡群の土器編年について」『研究紀要』第15号 青森県埋蔵文化財調査センター

表9 下石川平野遺跡(農道27号) 土器・土製品観察表

図 番 号	遺物 番号	遺物名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面調整)	時期				
8	1	S101	掘方	土師器	杯	胴部	—	—	(5.8)	ロクロ	ロクロ		平安時代				
8	2	S101	N27-11	P110	埴輪土	瓶蓋部	—	—	(2.1)	ロクロ	ロクロ		平安時代				
8	3	S101	N27-17	掘方	瓶蓋部	口縁部	—	—	(1.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代				
8	4	S101	N27-17	掘方	縄文	深鉢	胴部	—	—	(4.6)	良土上		縄文時代 前期後葉				
8	5	S101	N27-17	掘方	土師器	甕	胴部	—	—	(5.2)	ナデ、輪轆痕	ナデ、輪轆痕	外面焼熱、内面灰付着。	平安時代			
8	6	S303	N27-19	埴輪土	土師器	片	口縁部	—	—	(5.1)	ロクロ	ロクロ		平安時代			
8	7	S303	N27-19	埴輪土	土師器	甕	口縁部	—	—	(2.0)	横ナデ	横ナデ		平安時代			
8	8	S303	N27-19	埴輪土	P10	土師器	甕	口縁部	—	—	ナデ、ヘラケズリ、横ナデ		外面灰付着。	平安時代			
8	9	S303	遺構外	N27-17	1層・カクラン	土師器	甕	胴部～底部	—	7.8	(8.4)	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代			
8	10	S303	N27-19	埴輪土	P5	土師器	甕	胴部～底部	—	7.6	(6.6)	ヘラナデ、ヘラケズリ	底外面砂粒、外面に黒皮あり。	平安時代			
8	11	S303	N27-19	埴輪土	P14	土師器	甕	口縁～胴部	(10.4)	—	(8.1)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ	内外面灰付着。	平安時代		
8	12	S303	N27-19	埴輪土	P11	瓶蓋部	片	口縁部	—	—	(2.9)	ロクロ	ロクロ	外面に火傷痕あり。	平安時代		
8	13	S303	N27-19	埴輪土	瓶蓋部	底	口縁部	—	—	(4.7)	ロクロ	ロクロ		平安時代			
8	14	S303	N27-19	埴輪土	P6・P7	瓶蓋部	底	胴部	—	—	(4.1)	ケズリ	ナデ		平安時代		
8	15	S303	N27-19	埴輪土	瓶蓋部	底	底部	—	(12.8)	(3)	ケズリ	ロクロ	底外面菊花状。	平安時代			
8	16	S304	N27-18	埴輪土	瓶蓋部	片	口縁部	—	—	(2.5)	ロクロ	ロクロ	外面に火傷痕あり。	平安時代			
8	17	S303	N27-19	埴輪土	縄文	深鉢	胴部	—	—	(4.3)	車輪給糸付第1層(R)縦走		縄文時代 前期後葉				
8	18	S308	遺構外	埴輪土	P3	土師器	片	口縁～底部	(14.0)	(5.6)	5.4	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代		
8	19	S308	埴輪土	P1	土師器	小盃	口縁～底部	(4.2)	(4.2)	7.2	ナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代			
8	20	S301	埴輪土	土師器	甕	胴部	—	—	(5.5)	ナデ	ナデ		平安時代				
8	21	S302	埴輪土	土師器	片	口縁	(11.9)	—	—	(4.5)	ロクロ	ロクロ		平安時代			
8	22	S302	埴輪土	土師器	甕	口縁部	—	—	(3.6)	ロクロ	ロクロ		平安時代				
8	23	S302	埴輪土	瓶蓋部	底	胴部	—	—	(3.0)	ロクロ	ロクロ		平安時代				
8	24	S302	埴輪土	土師器	甕	胴部	—	—	(5.7)	ナデ、ケズリ	ナデ。		平安時代				
8	25	S302	埴輪土	瓶蓋部	甕	胴部	—	—	(7.8)	タタキ	ナデ。		平安時代				
13	1	S301	N27-28	埴輪土	土師器	甕	胴部	—	—	(4.0)	ヘラナデ、ヘラケズリ	ナデ		平安時代			
13	2	S301	N27-28	埴輪土	瓶蓋部	片	口縁部	—	—	(2.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代			
13	3	S305	S306	N27-11	埴輪土	埴輪土	片	口縁～底部	(12.8)	4.8	4.9	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代		
13	4	S305	S306	N27-11	埴輪土	底面直上	P123	土師器	片	略定形	14.5	5.8	5.5	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切、焼熱。	平安時代
13	5	S305	S306	N27-10	埴輪土	遺構外	P93・P94	土師器	甕	口縁～胴部	—	—	(15.9)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ	外面焼土付着。	平安時代
13	6	S305	S306	N27-11	埴輪土	埴輪土	片	口縁～胴部	(15.0)	—	(7.5)	ナデ、ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代		
13	7	S305	S306	N27-11	埴輪土	埴輪土	片	口縁～胴部	(14.0)	—	(6.3)	ケズリ、ナデ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	内面灰付着。図13-9と同一体。	平安時代		
13	8	S305	S306	N27-11	埴輪土	埴輪土	片	口縁～胴部	—	—	(13.4)	ナデ、ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代		
13	9	S305	S306	N27-11	埴輪土	埴輪土	片	口縁	—	—	(7.4)	ケズリ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	内面灰付着。図13-7と同一体。	平安時代		
13	10	S305	N27-11	埴輪土	土師器	甕	口縁部	—	—	(3.7)	ナデ、ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代			
13	11	S305	N27-11	埴輪土	土師器	甕	口縁部	—	—	(5.6)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代			
13	12	S305	N27-11	埴輪土	土師器	甕	口縁部	—	—	(2.6)	横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代			
13	13	S305	N27-11	埴輪土	土師器	甕	胴部	—	—	(5.0)	ヘラケズリ	ハケメ		平安時代			
13	14	S305	遺構外	N27-11	1層	土師器	甕	胴部	—	—	(9.4)	ナデ	ナデ	外面焼土、炭化物付着。	平安時代		
13	15	S305	N27-11	埴輪土	P4	土師器	甕	底部	—	(8.6)	(1.8)	ナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代		

図 番 号	遺物 番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調査 (文様)	内面調査 (文様)	備考 (底面調査)	時期		
14	3805	遺構外	N27-11 埴輪土	埴輪土	P56・P95	首志部	円	口径～底部	13.4	5.8	5.0	ロクロ	ロクロ	底外面同軸糸切。内外面に火傷痕あり。	平安時代
	3806		N27-11 埴輪土						13.4	5.8	5.0	ロクロ	ロクロ		
	3806		N27-11 埴輪土												
14	3805	遺構外	N27-11 埴輪土	P2・P3	首志部	円	口径～底部	(12.2)	(6.2)	4.3	ロクロ	ロクロ	底外面同軸糸切。内外面に火傷痕あり。外面に刻書あり。	平安時代	
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P30	首志部	円	口径～底部	(13.6)	(7.0)	5.2	ロクロ	ロクロ	底外面同軸糸切。外面に火傷痕あり。	平安時代	
	3805		N27-11 埴輪土												
14	3805	遺構外	N27-11 埴輪土	P45	1層	首志部	円	口径	—	—	(4.2)	ロクロ	ロクロ	内外面に火傷痕あり。外面に刻書あり。	平安時代
	3806		N27-12												
14	3805	遺構外	N27-11 埴輪土	首志部	甕	胴部	—	—	(5.2)	タタキ			平安時代		
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P82	1層	土師器	円	口径～底部	(14.2)	4.7	5.3	ロクロ	ミガキ	底外面同軸糸切。内外面黒色処理。外面黒色物質付着。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P21	土師器	円	口径～底部	(14.2)	(5.8)	5.4	ロクロ	ミガキ	底外面同軸糸切。内外面黒色処理。	平安時代	
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P39	1層	土師器	円	口径～底部	(13.1)	(4.8)	5.8	ロクロ	ロクロ	底外面同軸糸切。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P100	土師器	円	口径	—	—	(4.8)	ロクロ	ミガキ	外面付着。	平安時代	
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P34	土師器	円	口径部	—	—	(3.3)	ロクロ、ケズリ、ナゲ	ロクロ、ナゲ		平安時代	
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P16	1層	土師器	皿	略方形	13.9	6.2	3.4	ロクロ	ロクロ	底外面同軸糸切。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P18	1層	土師器	円	胴部～底部	—	(4.8)	(3.1)	ロクロ	ロクロ	底外面同軸糸切。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P10・P38・P46・P68-2	1層	土師器	甕	口径～胴部	(21.4)	—	(11.1)	ナゲ、ケズリ、横ナゲ	ナゲ、横ナゲ		平安時代
	3806		N27-11												
14	3803	遺構外	N27-19 埴輪土	P4	1層	土師器	甕	口径～胴部	(21.0)	—	(10.4)	ナゲ、ケズリ、横ナゲ	ナゲ、横ナゲ		平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 底面直上	P126	1層	土師器	甕	口径部	(25.0)	—	(6.1)	ナゲ、横ナゲ	ハケメ、横ナゲ	内外面付着。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P71	1層	土師器	甕	口径部	—	—	(7.0)	ナゲ、横ナゲ	ナゲ、横ナゲ	外面に黒痕あり。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P66	1層	土師器	甕	口径～胴部	(22.0)	—	(13.9)	ロクロ、ナゲ、ケズリ	ロクロ、ナゲ	外面後土付着。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P69	1層	土師器	甕	口径～胴部	(22.6)	—	(12.4)	ナゲ、オサエ、横ナゲ	ナゲ、オサエ、横ナゲ		平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P77	1層	土師器	甕	口径～胴部	(13.0)	—	(8.1)	ロクロ	ロクロ	内外面付着。焼痕。	平安時代
	3806		N27-11												
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P15	1層	土師器	甕	口径	—	—	—	—	内外面付着。	平安時代	
	3806		N27-15												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P69	1層	土師器	小甕	口径部	(16.6)	—	(4.0)	ロクロ	ロクロ	内外面付着。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P28	1層	土師器	甕	胴部～底部	—	(9.1)	(12.7)	ケズリ	ナゲ	底外面砂底。	平安時代
	3806		N27-10												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P82・P71	1層	土師器	甕	底部	—	8.0	(7.1)	ナゲ	ナゲ	底外面砂底。外面及び底外面後土付着。	平安時代
	3806		N27-13												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P91	1層	土師器	甕	底部	—	7.6	(6.3)	ケズリ、ナゲ	ナゲ	底外面砂底。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P50	1層	土師器	甕	底部	—	8.2	(3.8)	ケズリ	ナゲ	底外面ナゲ。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P6・P68-2	1層	土師器	甕	底部	—	(10.6)	(2.7)	ナゲ	ナゲ	底外面ヘラケズリ、ナゲ。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P9・P46	1層	土師器	甕	底部	—	6.5	(5.3)	ナゲ、ケズリ	ハケメ	底外面砂底。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P90	1層	土師器	甕	底部	—	(8.4)	(3.4)	ナゲ	ナゲ	底外面砂底。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P68-1	1層	土師器	甕	底部	—	(9.4)	(2.9)	ナゲ、ケズリ	ナゲ	底外面砂底。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P57・P63・P86	1層	土師器	埴	底部	—	—	(6.3)	ナゲ、横ナゲ	ナゲ、横ナゲ		平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P68-1	1層	土師器	小杯	口径～底部	(3.8)	(3.2)	(4.2)	ナゲ	ナゲ	底外面ナゲ。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P68-2	1層	土師器	小杯	胴部～底部	—	(4.2)	(3.0)	ナゲ	ナゲ	底外面ナゲ。外面に黒痕あり。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P85	1層	土師器	小杯	底部	—	(3.4)	(1.8)	ナゲ	ナゲ	底外面ナゲ。外面に黒痕あり。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P16・P70	1層	首志部	円	口径～底部	(14.3)	5.8	5.3	ロクロ	ロクロ	底外面同軸糸切。内外面に火傷痕あり。外面に刻書あり。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P1	1層	首志部	円	口径～底部	(13.1)	(8.0)	4.4	ロクロ	ロクロ	底外面同軸糸切。内外面に火傷痕あり。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P84・P88	1層	首志部	円	口径～底部	(14.4)	6.2	5.8	ロクロ	ロクロ	底外面同軸糸切。内外面に火傷痕あり。	平安時代
	3806		N27-11												
14	3806	遺構外	N27-11 埴輪土	P55	首志部	甕	胴部	—	—	(5.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代	

図 番 号	遺物 番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調査 (文様)	内面調査 (文様)	備考 (底面形状)	時期
16	11	SR06 道徳外	N27-11 堆積土 P22・P45・P47 N27-11 堆積土 N27-11 1層	須恵器	甕	胴部～底部	—	9.8	(16.7)	ロクロ、ケズリ	ロクロ	底外面菊花文。	平安時代
	12	SR06	N27-11 3層 P18	須恵器	甕	胴部～底部	—	9.1	(20.4)	ロクロ、ケズリ	ロクロ	底外面菊花文。外面に刻書あり。	平安時代
16	13	SR06	N27-11 堆積土	陶文	浅鉢	胴部	—	—	(4.7)	R.L.		縄文時代 中期出葉	
17	1	SR07	N27-12 1層	土師器	甕	口縁部	—	—	(3.5)	横ナデ	横ナデ		平安時代
17	2	SR09	N27-17 堆積土	土師器	杯	口縁部	—	—	(2.5)	ロクロ	ロクロ		平安時代
17	3	SR09	N27-17 堆積土 P3	土師器	甕	底部	—	(11.0)	(1.4)	ナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
17	4	SR09	N27-17 堆積土 P2	土師器	甕	口縁～胴部	(28.0)	—	(24.8)	ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
17	5	SR10	N27-11 堆積土 P18	土師器	杯	口縁～底部	(13.2)	4.8	5.2	ロクロ	ミガキ	底外面凹縁未切。内面黒色処理。	平安時代
17	6	SR10	N27-11 堆積土 P31	土師器	甕	口縁	—	—	(5.0)	ロクロ、ミガキ	ミガキ		平安時代
17	7	SR10 道徳外	N27-11 2層 P42 N27-10 1層	土師器	杯	口縁	(14.0)	—	(4.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
17	8	SR10	N27-11 3層 P48	土師器	杯	口縁	—	—	(5.6)	ロクロ	ミガキ	内外面に黒塗あり。	平安時代
17	9	SR10	N27-11 堆積土 P29	土師器	杯	底部	—	8.2	(3.7)	ロクロ	ロクロ	底外面凹縁未切。焼熱。	平安時代
17	10	SR10	N27-11 堆積土 P25	土師器	高台杯	胴部	—	(6.4)	(1.6)	ロクロ	ロクロ		平安時代
17	11	SR05 SR06	N27-11 堆積土 N27-11 堆積土 P13・P15・P49	土師器	甕	口縁～底部付定	(17.6)	—	(23.7)	ナデ、ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
	SR06 SR10 道徳外	N27-11 2層 P128 N27-11 堆積土 N27-11 1層											
17	12	SR06 道徳外	N27-11 堆積土 P94 N27-11 底面直上 P125 N27-11 1層	土師器	甕	口縁～胴部	(25.4)	—	(15.8)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ	図17-13と同一体。	平安時代
	SR06	N27-11 堆積土 P14											
17	13	SR06 道徳外	堆積土 P94 底面直上 P125 N27-11 1層	土師器	甕	口縁～胴部	(24.7)	—	(8.6)	ナデ、ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ	図17-12と同一体。	平安時代
	SR10	N27-10 1層											
18	1	SR10	N27-11 堆積土 P30	土師器	甕	口縁部	(15.0)	—	(6.0)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
18	2	SR10 道徳外	N27-11 堆積土 N27-11 1層	土師器	甕	口縁～胴部	(15.6)	—	(10.8)	ケズリ、ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
	SR10	N27-11 堆積土 P19											
18	4	SR10	N27-11 堆積土 P2	土師器	甕	口縁部	(15.0)	—	(3.5)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ	内面黒・黒色物質付着。	平安時代
18	5	SR10	N27-11 堆積土 P12	土師器	甕	口縁部	—	—	(3.3)	ケズリ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
18	6	SR10	N27-11 3層 P46	土師器	甕	胴部	—	—	(11.4)	ケズリ ハケメ、ナデ			平安時代
18	7	SR10	N27-11 堆積土 P15	土師器	甕	底部	—	(9.2)	(5.1)	ナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
18	8	SR10	N27-11 堆積土 P16	土師器	甕	底部	—	(8.2)	(3.7)	ナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
18	9	SR10	N27-11 堆積土 P14	土師器	甕	底部	—	(6.2)	(3.7)	ナデ、ケズリ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
18	10	SR10	N27-11 堆積土	土師器	高台杯	底部	—	—	(2.6)	ナデ	ナデ		平安時代
18	11	SR06 SR10	N27-11 堆積土 N27-11 堆積土	土師器	小甕	口縁～胴部	(8.6)	—	(5.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
	SR10	N27-11 堆積土											
18	12	SR10	N27-11 3層 P41	土師器	埴	口縁部	—	—	(5.2)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
18	13	SR10 道徳外	2層 P52・P53 N27-11 1層	土師器	埴	口縁～胴部	—	—	(7.4)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
18	14	SR10 道徳外	N27-11 2層 N27-11 1層	土師器	埴	口縁部	—	—	(3.2)	ロクロ	ロクロ		平安時代
18	15	SR10	N27-11 堆積土	土師器	小杯	口縁	—	—	(2.6)	ナデ	ナデ		平安時代
18	16	SR10	N27-11 堆積土	土師器	小杯	底部	—	(6.6)	(2.1)	ナデ	ナデ		平安時代
18	17	SR06 SR10 道徳外	N27-11 堆積土 N27-11 堆積土 N27-10 1層	須恵器	杯	口縁～胴部	(14.0)	—	(5.0)	ロクロ	ロクロ	外面に火焼痕。刻書あり。	平安時代
	SR06	N27-11 堆積土 P96											
18	18	SR06 SR10	N27-11 堆積土 N27-11 堆積土 P8	須恵器	杯	口縁～底部	(13.2)	4.5	4.9	ロクロ	ロクロ	底外面凹縁未切。内外面に火焼痕あり。外面に刻書あり。	平安時代
18	19	SR10	N27-11 堆積土	須恵器	杯	底部	—	—	(1.6)	ロクロ	ロクロ	外面に火焼痕あり。	平安時代

図 説 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面調整)	時期
19	1	SK06	N27-11 埴輪土	釈迦部	蓋	胴部～底面	—	(10.3)	(22.6)	ロクロ口、ケズリ	ロクロ口、ナデ	底外面菊花文。	平安時代
		SK06	N27-11 埴輪土 P59										
		SK10	N27-11 埴輪土 P8・P13・P17・P23 N27-11 3層 P47・P49・P50										
19	3	SK11	N27-17 埴輪土	土師器	甕	底面	—	(6.0)	(1.5)	ナデ	ナデ		平安時代
23	1	SK05	埴輪土	陶文	鉢小皿	口縁部	—	—	(2.0)	比漕、削突			縄文時代 後期～中期
23	3	SK07	N27-28 埴輪土下位 火山灰より下層 P1	土師器	皿	略方形	13.8	5.4	3.8	ロクロ口、オサエ	ロクロ口	底外面回転糸切。	平安時代
23	4	SK07	火山灰より下層 N27-47 埴輪土	土師器	杯	口縁部	(13.0)	—	(4.0)	ロクロ口	ロクロ口		平安時代
23	5	SK07	N27-40 底面直上 P1	土師器	杯	底面	—	5.6	(2.2)	ロクロ口、ナデ	ロクロ口	外面比漕。	平安時代
23	6	SK07	N27-48 底面直上	土師器	甕	口縁部	—	—	(2.9)	横ナデ	横ナデ		平安時代
23	7	SK07	N27-47 火山灰より上層	土師器	甕	胴部	—	—	(3.1)	ナデ	ナデ	内面黒色処理	平安時代
23	8	SK07	N27-43 埴輪土 火山灰より下層	釈迦部	杯	口縁部	—	—	(1.7)	ロクロ口	ロクロ口		平安時代
23	9	SK07	N27-42 火山灰より上層	釈迦部	杯	口縁～底面	(13.7)	6.0	5.3	ロクロ口	ロクロ口	底外面回転糸切。内 外面大撻輪あり。	平安時代
23	10	SK07	N27-43 埴輪土 火山灰より下層	釈迦部	蓋	胴部	—	—	(4.5)	ロクロ口	ロクロ口		平安時代
23	11	SK07	N27-40 埴輪土下位 火山灰の下	釈迦部	甕	胴部	—	—	(4.0)	タタキ	あて具肌。		平安時代
23	12	SK07	N27-45 火山灰より上層	陶文	蓋	口縁部	—	—	(4.8)	L R			縄文時代 後期～早期
23	13	SK07	N27-47 埴輪土 中位火山灰の下	陶文	蓋	口縁部	—	—	(6.6)	無文			縄文時代 後期～早期
25	1	SN01	N27-15 カマド跡 P1	土師器	甕	胴部	—	—	(7.4)	ロクロ口	ロクロ口		平安時代
25	2	SN01	N27-15 1層	土師器	甕	口縁～胴部	—	—	(10.6)	ロクロ口	ロクロ口	外面僅行着。被熱。	平安時代
25	3	SN01	N27-15 火床面 P2	土師器	甕	口縁～胴部	(18.0)	—	(14.3)	ナデ、オサエ、 横ナデ	ナデ、横ナデ	外面刻畫カウ	平安時代
27	1	遺構外	N27-84 1層	陶文	浅鉢	口縁部	—	—	(5.6)	降帯、L・R側 面任置、L・R軸 筋全体回転			縄文時代 中期前葉
27	2	遺構外	N27-84 1層	陶文	深鉢	口縁部	—	—	(4.1)	降帯、L・R側 面任置、L・R軸 筋全体回転			縄文時代 中期前葉
27	3	遺構外	N27-84 1層	陶文	深鉢	胴部	—	—	(2.5)	降帯、L・R軸 筋全体回転			縄文時代 中期前葉
27	4	遺構外	N27-5 1層	陶文	深鉢	口縁部	—	—	(6.0)	沈線、降帯	沈線		縄文時代 後期前葉
27	5	遺構外	N27-5 1層	陶文	深鉢	胴部	—	—	(6.3)	沈線			縄文時代 後期前葉
27	6	遺構外	N27-5 1層	陶文	深鉢	胴部	—	—	(3.3)	沈線			縄文時代 後期前葉
27	7	遺構外	N27-63 カクラン	陶文	浅鉢	口縁部	—	—	(1.5)	比漕、削突	沈線		縄文時代 後期～中期
27	8	遺構外	N27-13 1層	陶文	鉢小皿	口縁部	—	—	(2.6)	沈線、L R	沈線		縄文時代 後期～中期
27	9	遺構外	N27-7 1層	陶文	鉢小皿	胴部	—	—	(2.7)	沈線、L R			縄文時代 後期～中期
27	10	遺構外	N27-14 1層	陶文	鉢小皿	口縁部	—	—	(3.0)	沈線			縄文時代 後期～早期
27	11	遺構外	N27-14 1層	陶文	鉢小皿	口縁部	—	—	(6.7)	ミガキ	ナデ		縄文時代 後期～早期
27	12	遺構外	N27-30 1層	陶文	深鉢	底面	—	(6.5)	(2.0)				縄文時代 後期～早期
29	1	遺構外	N27-11 1層	土師器	杯	口縁	—	—	(4.5)	ロクロ口	ロクロ口	内面黒色処理。	平安時代
29	2	遺構外	N27-5 1層	土師器	杯	底面	—	(6.2)	(1.2)	ロクロ口	ミガキ	底外面回転糸切。内 面黒色処理。	平安時代
29	3	遺構外	N27-17 1層	土師器	杯	口縁～底面	(12.8)	(6.2)	4.4	ロクロ口	ロクロ口	底外面回転糸切。	平安時代
29	4	遺構外	N27-17 1層 試験 T×8	土師器	杯	口縁～底面	(13.8)	(5.5)	3.6	ロクロ口	ロクロ口	底外面回転糸切。器 5・6層 等20・7と接 合。	平安時代
29	5	遺構外	N27-17 カクラン	土師器	杯	胴部～底面	—	(5.8)	(4.4)	ロクロ口	ロクロ口	底外面回転糸切。	平安時代
29	6	遺構外	N27-18 1層	土師器	甕	口縁～胴部	(17.8)	—	(6.6)	ナデ、オサエ、 横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
29	7	遺構外	N27-15 1層	土師器	甕	口縁～胴部	—	—	(7.5)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ	内外面僅行着。	平安時代
29	8	遺構外	N27-11 1層	土師器	甕	口縁部	—	—	(5.3)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
29	9	遺構外	N27-12 1層	土師器	甕	口縁～胴部	—	—	(7.4)	ナデ、ケズリ、 横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
29	10	遺構外	N27-14 1層	土師器	甕	口縁部	—	—	(7.3)	ナデ、ケズリ、 横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
29	11	遺構外	N27-12 1層	土師器	甕	胴部	—	—	(6.6)	ナデ、ケズリ、 横ナデ	ナデ、横ナデ	外面に僅行着。	平安時代

遺物番号	遺物名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面処理)	時期
29 12	遺構外	N27-16 1層	土師器	甕	口縁部	—	—	(4.4)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
29 13	遺構外	N27-10 1層	土師器	甕	胴部	—	—	(4.2)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ	底面黒色処理。	平安時代
29 14	遺構外	N27-14 1層	土師器	甕	口縁部	—	—	(4.2)	ナデ、横ナデ、 輪縁直	ナデ、横ナデ、 輪縁直		平安時代
29 15	遺構外	N27-14 1層	土師器	甕	口縁部	—	—	(3.9)	ナデ、タズリ、 横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
29 16	遺構外	N27-14 1層	土師器	甕	口縁部	—	—	(2.6)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
29 17	遺構外	N27-12 1層	土師器	甕	口縁部	—	—	(1.7)	横ナデ	横ナデ		平安時代
29 18	遺構外	N27-15 1層	土師器	甕	口縁～胴部	—	—	(7.6)	ロクロ、ナデ、 ケズリ	ロクロ、ハケメ		平安時代
29 19	遺構外	N27-15 1層	土師器	甕	口縁部	—	—	(5.1)	ロクロ	ロクロ、ナデ		平安時代
29 20	遺構外	N27-12 1層	土師器	甕	口縁部	—	—	(2.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
29 21	遺構外	N27-16 1層	土師器	甕	口縁部	—	—	(2.8)	ロクロ	ロクロ		平安時代
29 22	遺構外	N27-16 カクラン	土師器	甕	口縁部	—	—	(3.9)	ロクロ	ナデ		平安時代
30 1	遺構外	N27-15 1層	土師器	甕	胴部	—	—	(5.8)	ナデ、タズリ	ハケメ		平安時代
30 2	遺構外	N27-15 1層	土師器	甕	胴部	—	—	(4.4)	ナデ	ハケメ		平安時代
30 3	遺構外	N27-11 1層 N27-10 1層	土師器	甕	胴部	—	—	(3.9)	タズリ	ハケメ		平安時代
30 4	遺構外	N27-10 1層	土師器	甕	胴部	—	—	(3.2)	ナデ	ハケメ		平安時代
30 5	遺構外	N27-11 1層	土師器	甕	底部	—	(9.2)	(1.4)	タズリ	ナデ	底外面砂流。	平安時代
30 6	遺構外	N27-15 1層 N27-16 1層	土師器	甕	底部	—	(8.6)	(5.1)	ナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
30 7	遺構外	N27-12 1層	土師器	甕	底部	—	(10.3)	(2.8)	ナデ、タズリ	ナデ	底外面タズリ。焼 然。	平安時代
30 8	遺構外	N27-22 1層	土師器	甕	底部	—	(8.0)	(1.1)	ナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
30 9	遺構外	N27-12 1層	土師器	甕	底部	—	—	(1.7)	ナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
30 10	遺構外	N27-16 カクラン	土師器	小甕	胴部	—	—	(3.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
30 11	遺構外	N27-11 1層	土師器	小甕	底部	—	(4.2)	(1.6)	ロクロ	ロクロ	底外面同軸糸引。坪 の可能性あり。	平安時代
30 12	遺構外	N27-10 1層	土師器	蓋?	口縁部	—	—	(3.0)	ヒガキ	横ナデ		平安時代
30 13	遺構外	N27-18 カクラン	土師器	埴	口縁部	—	—	(5.6)	ナデ、タズリ、 横ナデ、輪縁直	ナデ、横ナデ		平安時代
30 14	遺構外	N27-11 1層	土師器	埴	口縁部	—	—	(3.8)	ロクロ	ロクロ	図30-16・17と同 個体か?	平安時代
30 15	遺構外	N27-12 カクラン	土師器	埴	胴部	—	—	(15.7)	ナデ	ナデ	外面刻畫か?	平安時代
30 16	遺構外	N27-11 1層	土師器	埴	胴部	—	—	(4.6)	ナデ、タズリ	ロクロ	図30-14・17と同 個体か?	平安時代
30 17	遺構外	N27-15 1層	土師器	埴	胴部	—	—	(4.9)	タタキ、ナデ	ロクロ	図30-14・16と同 個体か?	平安時代
30 18	遺構外	N27-10 1層	土師器	小杯	胴部	—	—	(1.9)	ナデ	ナデ	図30-19と同個体 か?	平安時代
30 19	遺構外	N27-10 1層	土師器	小杯	胴部	—	—	(2.3)	ナデ	ナデ	図30-18と同個体 か?	平安時代
31 1	遺構外	N27-11 1層	灰志器	甕	口縁～胴部	(12.0)	—	(5.7)	ロクロ	ロクロ	内外面大磨成あり。	平安時代
31 2	遺構外	N27-15 1層	灰志器	甕	口縁部	—	—	(2.8)	ロクロ	ロクロ	内外面大磨成あり。	平安時代
31 3	遺構外	N27-11 榎植土	灰志器	甕	口縁部	—	—	(2.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
31 4	遺構外	N27-86 1層	灰志器	甕	胴部	—	—	(3.4)	ロクロ	ロクロ	外面刻畫。	平安時代
31 5	遺構外	N27-27 1層	灰志器	甕	胴部	—	—	(2.7)	ロクロ	ロクロ	外面刻畫。	平安時代
31 6	遺構外	N27-86 1層	灰志器	甕	胴部	—	—	(3.3)	ロクロ	ロクロ		平安時代
31 7	遺構外	N27-16 1層	灰志器	甕	胴部	—	—	(3.9)	タズリか?	ロクロ	外面自然磨成。	平安時代
31 8	遺構外	N27-17 1層	灰志器	甕	底部	—	—	(3.0)	タズリ	ロクロ	底外面菊花文。	平安時代
31 9	遺構外	N27-22 1層	灰志器	甕	底部	—	(7.8)	(4.5)	タズリ	ロクロ、 ハケメタ	底外面ナデ。	平安時代
31 10	遺構外	N27-15 1層	灰志器	甕	底部	—	(10.0)	(5.5)	ロクロ、 輪縁直?	ロクロ	底外面輪直台状。鉢 の可能性あり。	平安時代
31 11	遺構外	N27-11 1層	灰志器	甕	胴部	—	—	(3.6)	タタキ、横ナデ	横ナデ		平安時代
31 12	遺構外	N27-4 カクラン	灰志器	甕	胴部	—	—	(2.6)	横ナデ	横ナデ		平安時代
31 13	遺構外	N27-17 1層	灰志器	甕	胴部	—	—	(4.9)	タタキ	ナデ		平安時代
31 14	遺構外	N27-14 1層	灰志器	甕	胴部	—	—	(6.0)	タタキ	ナデ		平安時代
31 15	遺構外	N27-12 1層	灰志器	甕	胴部	—	—	(3.8)	タタキ	あて長柄		平安時代
31 16	遺構外	N27-18 1層	灰志器	甕	胴部	—	—	(5.1)	タタキ	千鳥足状当て長 柄		平安時代
31 17	遺構外	N27-18 1層	灰志器	甕	胴部	—	—	(4.1)	タタキ	千鳥足状当て長 柄		平安時代
16 6	3806 榎植土 3806 榎植土 遺構外	F97-F98・P110 N27-10 1層	土製土	土製土	胴部～胴部	(11.2)	—	(7.3)	輪縁	輪縁	焼然	平安時代

表10 下石川平野遺跡(農道27号) 石器観察表

図 番 号	遺物 番号	出土位置	種類	部種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考	
19	2	SK10	N27-11 埴輪土 P-12	軽石	軽石	29.5	30.0	17.5	2.4	軽石	加工痕なし?
23	2	SD05	埴輪土	礫石器	凹石	153.0	56.0	26.0	335.9	凝灰岩	横門縁。凹は両面に2個。
23	14	SD07	N27-43 底面	礫石器	凹石	(118.5)	84.0	30.0	(315.4)	凝灰岩	横門縁。凹は片面に1個。裏面に剝離あり。
27	13	遺構外	N27-35 風倒木?	剥片石器	石鏃	(26.8)	13.2	4.2	(6.8)	玉髄	有基平基
27	14	遺構外	N27-21 風倒木	剥片石器	石槍	(31.3)	16.3	6.1	(3.0)	珩質頁岩	
27	15	遺構外	N27-11 1層	剥片石器	石槍	69.5	30.4	10.5	17.3	珩質頁岩	
27	16	遺構外	N27-07 1層	剥片石器	スクレイパー	58.7	33.7	11.6	17.4	珩質頁岩	3側縁に刃部加工。
27	17	遺構外	N27-16 1層	剥片石器	スクレイパー	104.3	46.5	18.6	60.8	珩質頁岩	2側縁に刃部加工。
27	18	遺構外	N27-8 覆土	剥片石器	スクレイパー	30.0	31.1	16.6	12.1	珩質頁岩	3側縁に刃部加工。
27	19	遺構外	N27-15 1層	剥片石器	スクレイパー	40.0	26.3	5.5	3.5	珩質頁岩	1側縁に刃部加工。
27	20	遺構外	N27-07 覆土	剥片石器	スクレイパー	66.1	43.7	10.2	22.9	珩質頁岩	1側縁に刃部加工。
28	1	遺構外	N27-31 1層	剥片石器	調整剥片 (RF)	43.8	73.1	25.8	82.4	珩質頁岩	
28	2	遺構外	N27-5 1層	剥片石器	使用剥片 (UF)	62.5	38.0	15.7	23.4	珩質頁岩	
28	3	遺構外	N27-22 1層	礫石器	凹石	105.0	86.0	60.0	709.0	玄武岩	円縁。凹は両面に1個?端部に鋭き。
28	4	遺構外	N27-31 1層	礫石器	凹石	(129.0)	(84.0)	40.0	(685.3)	凝灰岩	横門縁。凹は両面に1個。
28	5	遺構外	N27-27 1層	礫石器	凹石	128.0	93.0	38.0	574.0	凝灰岩	横門縁。凹は片面に1個。
28	6	遺構外	N27-8 1層	礫石器	凹石	122.0	63.0	18.5	221.2	凝灰岩	横門縁。凹は片面に1個。
28	7	遺構外	N27-31 1層	礫石器	凹石	104.0	68.0	43.5	357.9	凝灰岩	横門縁。凹は片面に1個。

表11 下石川平野遺跡(配水管16号) 土器観察表

図号	遺物番号	発掘名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面調整)	時期
37	1 SK01	Ⅱ6-46	1層	縄文	深鉢	胴部	—	—	(2.2)	沈線			縄文時代後期前半
37	2 SK01	Ⅱ6-46	1層	縄文	深鉢	胴部	—	—	(3.2)	沈線			縄文時代後期前半
37	3 SK03	Ⅱ6-5	掘断面	縄文	深鉢	頸部(口縁付部)	—	—	(2.2)	沈線			縄文時代後期前半
37	4 SK03	Ⅱ6-5	掘断面	土師器	片	胴部(口縁付部)	—	—	(3.1)	ロクロ	ロクロ		平安時代
37	6 SK03	掘断面 遺構外	Ⅱ6-4・5	1層	縄文	深鉢	口縁部~底部	19.3	(7.0)	20.2	無文		縄文時代後期前半
37	7 SK04	Ⅱ6-32	堆積土	土師器	片	口縁部	—	—	(9.5)	ロクロ	ロクロ		平安時代
37	8 SK04	Ⅱ6-32	堆積土	土師器	小壺?	底部	—	(6.4)	(2.2)	ナデ	ナデ	底外面砂込	平安時代
37	9 SK04	Ⅱ6-32	堆積土	土師器	小壺?	口縁部	—	—	(6.6)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ	内外面煤片着	平安時代
37	10 SK04	Ⅱ6-32	堆積土	土師器	壺	胴部(口縁付部)	—	—	(9.5)	ロクロ、ナデ、クズリ	ロクロ、ナデ		平安時代
37	11 SK04	Ⅱ6-32	堆積土	須恵器	片	口縁部	—	—	(4.1)	ロクロ	ロクロ	外面に大磨痕あり	平安時代
37	12 SK04	Ⅱ6-32	堆積土	須恵器	片	口縁部	—	—	(4.2)	ロクロ	ロクロ		平安時代
37	13 SK04	Ⅱ6-32	堆積土	須恵器	片	口縁部	—	—	(2.6)	ロクロ	ロクロ		平安時代
37	14 SK04	Ⅱ6-32	堆積土	須恵器	片	底部	—	(5.6)	(1.1)	ロクロ	ロクロ	内面に黒色物質付着	平安時代
37	15 SK06	Ⅱ6-29	堆積土	土師器	壺	胴部	—	—	(4.3)	ナデ、クズリ	ナデ		平安時代
37	16 SK06	Ⅱ6-29	堆積土	土師器	壺	胴部	—	—	(5.9)	クズリ			平安時代
37	17 SK07	Ⅱ6-38	堆積土	土師器	小壺?	胴部	—	—	(4.2)	ロクロ	ロクロ		平安時代
37	18 SK07	Ⅱ6-38	堆積土	土師器	壺	底部	—	(8.2)	(2.5)	ナデ	ナデ	底外面未焼	平安時代
37	19 SK08	堆積土	土師器	片	口縁~底部	(14.8)	(4.8)	5.5	ロクロ	ロクロ	底外面砂込	平安時代	
37	20 SK08	堆積土	土師器	壺	口縁~胴部	—	—	(7.2)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代	
37	21 SK08	2層・3層	堆積土	土師器	壺	口縁~胴部	—	—	(9.9)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ	図37-22・図38-1と同個体か?	平安時代
37	22 SK08	堆積土	土師器	壺	口縁~胴部	—	—	(9.7)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代	
38	1 SK08	堆積土	土師器	壺	口縁~胴部	—	—	(9.4)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代	
38	2 SK08	堆積土	土師器	壺	底部	—	(10.0)	(2.5)	ハラナデ	ナデ		底外面ナデ?	平安時代
38	3 SK08	堆積土	縄文	深鉢	胴部	—	—	(4.0)	L				縄文時代後半?
41	1 SK05	Ⅱ6-36	14層P4	土師器	片	略丸形	12.5	5.2	6.2	ロクロ	ロクロ	底外面砂込	平安時代
41	2 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	土師器	片	胴部	—	—	(4.2)	ロクロ、ミガキ	ミガキ	内面黒色処理	平安時代
41	3 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	土師器	片	口縁部	—	—	(3.9)	ロクロ	ロクロ、ナデ		平安時代
41	4 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	土師器	壺	口縁部	—	—	(4.5)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
41	5 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	土師器	壺	口縁部	—	—	(3.2)	横ナデ	横ナデ		平安時代
41	6 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	土師器	壺	口縁部	—	—	(5.0)	ナデ、オサエ	ナデ	内外面口縁部に黒色物質付着	平安時代
41	7 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	土師器	壺	口縁部	—	—	(3.6)	ロクロ	ロクロ		外面に黒色物質付着
41	8 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	土師器	壺	胴部	—	—	(3.8)	ハラナデ、ハラクズリ	ナデ		外面に黒色物質付着
41	9 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	土師器	小杯	口縁部	(6.4)	—	(4.8)	ナデ、横ナデ	ナデ		平安時代
41	10 SK05	Ⅱ6-36	堆積土 P1	土師器	小杯	胴部下半	—	1.5	(4.3)	ナデ			平安時代
41	11 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	須恵器	片	口縁部	—	—	(3.8)	ロクロ	ロクロ		平安時代
41	12 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	須恵器	片	口縁部	—	—	(2.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
41	13 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	須恵器	片	底部	—	3.0	(2.3)	ロクロ	ロクロ	底外面砂込	平安時代
41	14 SK05	Ⅱ6-36	堆積土	縄文	鉢小皿	口縁部	—	—	(2.5)	沈線、刺突			縄文時代晩期中盤
41	15 SK06	Ⅱ6-31	堆積土	土師器	壺	口縁部	—	—	(2.2)	横ナデ	横ナデ		平安時代
41	16 SK09	Ⅱ6-34	堆積土	土師器	片	底部	—	(5.4)	(2.9)	ロクロ	ロクロ	底外面砂込	平安時代
41	17 SK09	Ⅱ6-34	堆積土	土師器	壺	口縁部	—	—	(6.5)	ナデ、横ナデ	ナデ、横ナデ		平安時代
41	18 SK09	Ⅱ6-34	堆積土	土師器	壺	底部	—	(6.4)	(2.1)	クズリ	ナデ	底外面砂込	平安時代
41	19 SK09	Ⅱ6-34	堆積土	土師器	壺	底部	—	(6.4)	(4.1)	クズリ	ナデ	底外面ナデ	平安時代
41	20 SK09	Ⅱ6-34	堆積土	土師器	壺	底部	—	(9.0)	(1.5)	ハラナデ	ナデ	底外面ナデ?、薬草状圧痕	平安時代

発掘 番号	遺物 番号	遺物名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面調整)	時期
42	1	遺構外 表瓦		陶文	深鉢	頸部(口縁付記)	—	—	(5.2)	低い縁布、R側面圧痕(口縁部)、朝突(縁布上)、車軸結象体第1種(R・朝突)	ミガキ		縄文時代前期後葉
42	2	遺構外 皿6-5 1層		陶文	深鉢	頸部(口縁付記)	—	—	(4.1)	R側面圧痕、朝突		編織痕入	縄文時代前期後葉
42	3	遺構外 皿6-56 1層		陶文	深鉢	胴部	—	—	(4.2)	車軸結象体第1種(L、L?)	ミガキ		縄文時代前期後葉
42	4	遺構外 皿6-9 1層		陶文	深鉢	口縁部	—	—	(6.1)	縁布、R L側面圧痕		編織痕入	縄文時代中期前葉
42	5	遺構外 皿6-23 1層		陶文	深鉢	口縁部	—	—	(5.4)	L R側面圧痕		編織痕入	縄文時代中期前葉
42	6	遺構外 皿6-11 1層		陶文	深鉢	口縁部	—	—	(6.2)	結束第1種(L R・R L)、車軸結象体第1種(R?)、口唇部L側面圧痕	ミガキ	編織痕入	縄文時代中期前葉
42	7	遺構外 皿6-14 1層		陶文	深鉢	口縁部	—	—	(4.4)	R側面圧痕			縄文時代中期前葉
42	8	遺構外 皿6-5 1層		陶文	深鉢	胴部	—	—	(6.1)	結束第1種(L R・R L)		編織痕入	縄文時代中期前葉
42	9	遺構外 皿6-11 1層		陶文	深鉢	胴部	—	—	(5.7)	L R側位	ミガキ	編織痕入	縄文時代中期前葉
42	10	遺構外 皿6-4 1層		陶文	深鉢	口縁部	—	—	(4.9)	沈線、朝突			縄文時代後期前葉
42	11	遺構外 皿6-4 1層		陶文	深鉢	口縁部	—	—	(5.3)	沈線、朝突			縄文時代後期前葉
42	12	遺構外 皿6-45 1層		陶文	深鉢	口縁部	—	—	(5.8)	沈線			縄文時代後期前葉
42	13	遺構外 皿6-4 1層		陶文	深鉢	胴部	—	—	(5.4)	沈線、朝突			縄文時代後期前葉
42	14	遺構外 皿6-42 1層		陶文	深鉢	胴部	—	—	(5.5)	沈線			縄文時代後期前葉
42	15	遺構外 皿6-56 IV層		陶文	鉢	口縁部	—	—	(7.6)	L R、沈線			縄文時代後期前葉
42	16	遺構外 皿6-96 1層		陶文	深鉢	胴部	—	—	(5.2)	L R、沈線			縄文時代後期前葉
42	17	遺構外 皿6-45 1層		陶文	深鉢	胴部	—	—	(5.3)	沈線			縄文時代後期前葉
42	18	遺構外 皿6-29 1層		陶文	深鉢	胴部	—	—	(5.1)	沈線			縄文時代後期前葉
42	19	遺構外 皿6-7 1層		陶文	深鉢	底部	—	5.3	(1.4)	無文	無文		縄文時代後期前葉
43	5	遺構外 皿6-44 1層		土師器	杯	口縁部	—	—	(2.3)	ミガキ	ミガキ	内面黒色処理	平安時代
43	6	遺構外 皿6-56 II層		土師器	杯	口縁部	—	—	(4.7)	ロクロ	ロクロ	図43-7と同一個体か?	平安時代
43	7	遺構外 皿6-56 IV層		土師器	杯	口縁部	—	—	(4.1)	ロクロ	ロクロ	図43-6と同一個体か?	平安時代
43	8	遺構外 皿6-39 1層		土師器	杯	口縁部	—	—	(3.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
43	9	遺構外 皿6-4 1層		土師器	杯	胴部	—	—	(2.8)	ロクロ	ロクロ		平安時代
43	10	遺構外 皿6-13 1層		土師器	壺	口縁部	—	—	(4.2)	ヘラナゲ、ヘラケズリ、横ナゲ	ナゲ、横ナゲ		平安時代
43	11	遺構外 皿6-39 1層		土師器	壺	口縁部	—	—	(4.3)	横ナゲ、ナゲ	横ナゲ、ナゲ	内面口縁部に黒色物質付着。	平安時代
43	12	遺構外 皿6-39 1層		土師器	壺	口縁部	—	—	(5.4)	横ナゲ、ナゲ	横ナゲ、ナゲ		平安時代
43	13	遺構外 皿6-28 1層		土師器	壺	口縁部	—	—	(2.6)	横ナゲ	横ナゲ、ナゲ		平安時代
43	14	遺構外 皿6-44 1層		土師器	壺	口縁部	—	—	(2.2)	横ナゲ	横ナゲ		平安時代
43	15	遺構外 皿6-3 1層		土師器	壺	口縁部	—	—	(3.6)	ロクロ	ロクロ		平安時代
43	16	遺構外 皿6-6 1層		土師器	壺	口縁部	—	—	(2.5)	ロクロ	ロクロ		平安時代
43	17	遺構外 皿6-35 1層		土師器	壺	頸部(口縁付記)	—	—	(5.2)	横ナゲ、ナゲ	横ナゲ、ナゲ		平安時代
43	18	遺構外 皿6-15 1層		土師器	壺	胴部	—	—	(4.9)	ナゲ	ナゲ		平安時代
43	19	遺構外 皿6-13 1層		土師器	壺	底部	—	—	(5.5)	ナゲ	ナゲ	底外面ナゲ?	平安時代
43	20	遺構外 皿6-12 1層		土師器	壺	底部	—	66.25	(4.3)	ナゲ	ナゲ	底外面ナゲ?	平安時代
43	21	遺構外 皿6-37 1層		土師器	壺	底部	—	(11.0)	(1.4)	ヘラナゲ	ナゲ	底外面ナゲ?	平安時代
43	22	遺構外 皿6-32 1層		土師器	壺	底部	—	(11.0)	(4.5)	ヘラナゲ、ヘラケズリ	ナゲ	底外面磨痕。	平安時代
43	23	遺構外 皿6-12 1層		土師器	壺	底部	—	(7.0)	(2.6)	ナゲ	ナゲ	底外面ナゲ・砂痕	平安時代
44	1	遺構外 皿6-18 1層		土師器	小甕	底部	—	(5.2)	(1.7)	ロクロ	ロクロ	底外面磨痕あり、耳の可能性あり。	平安時代
44	2	遺構外 皿6-57 1層		土師器	小甕	底部	—	(3.6)	(2.3)	ロクロ	ロクロ	底外面磨痕あり。	平安時代

図 番 号	遺物 番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面調整)	時期
44	3	遺構外	Ⅱ6-41	I層	須恵器	坏	口縁部	—	—	(3.8)	ワタロ	内面調整	平安時代
44	4	遺構外	Ⅱ6-34	I層	須恵器	坏	口縁部	—	—	(2.9)	ワタロ		平安時代
44	5	遺構外	Ⅱ6-13	I層	須恵器	甕	口縁部	—	—	(2.5)	ワタロ		平安時代
44	6	遺構外	Ⅱ6-59	I層	須恵器	甕	胴部	—	—	(2.9)	ワタロ		平安時代
44	7	遺構外	Ⅱ6-36	I層	須恵器	甕	胴部	—	—	(4.6)	タタキ		平安時代
44	8	遺構外	Ⅱ6-12	I層	須恵器	甕	胴部	—	—	(5.8)	タタキ		平安時代
44	9	遺構外	Ⅱ6-5	I層	須恵器	甕	胴部	—	—	(5.5)	タタキ		平安時代
44	10	遺構外	Ⅱ6-10	Ⅱ層	須恵器	甕	胴部	—	—	(4.1)	タタキ		平安時代

表12 下石川平野遺跡(配水管16号) 石器観察表

図 番 号	遺物 番号	遺構名	出土位置	種類	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考	
37	5	SK03	堆積土上位 Ⅱ6-5	礫石器	磨製石斧	(72.0)	(37.0)	(7.5)	(22.3)	凝灰岩	欠根。半円状扁平打製石器の可能性もあり。	
42	20	遺構外	Ⅱ6-49	I層	剥片石器	石鏃	(58.7)	14.9	3.5	(9.9)	珪質頁岩	無茎平茎。欠根。
42	21	遺構外	Ⅱ6-34	I層	礫石器	磨製石斧	(57.0)	38.5	(9.0)	(25.1)	凝灰岩	欠根(刃部のみ)。
42	22	遺構外	Ⅱ6-33	I層	礫石器	打欠	133.0	141.0	109.0	1537.4	玄武岩	
43	1	遺構外	Ⅱ6-34	I層	礫石器	回石	99.0	(58.0)	44.0	(372.1)	凝灰岩	横門縁。凹は1個。欠根。
43	2	遺構外	Ⅱ6-42	I層	礫石器	回石	109.0	89.5	70.5	964.7	凝灰岩	円縁。凹は片面に1個。
43	3	遺構外	Ⅱ6-7	I層	礫石器	回石	69.5	57.5	41.5	247.7	火山岩	円縁。凹は両面に1個。
43	4	遺構外	Ⅱ6-45	I層	礫石器	回石	121.5	(73.0)	47.5	(484.6)	凝灰岩	横門縁。凹は両面に2個。
44	11	遺構外	Ⅱ6-47	I層	礫石器	砥石	112.0	56.0	15.0	139.6	砂岩	断面2.4面。





下石川平野遺跡 遠景 E→



下石川平野遺跡 遠景 W→

写真1 下石川平野遺跡(農道27号他) 空撮



N27-1～9グリッド調査区完掘 N→



N27-10～16グリッド調査区完掘 N→



N27-10～20グリッド調査区完掘 S→



N27-20～25グリッド調査区完掘 N→



N27-24～36グリッド調査区完掘 N→



N27-50～62グリッド調査区完掘 NE→

写真2 下石川平野遺跡(農道27号)(1) 調査区完掘(1)



N27-60～68グリッド調査区完掘 S→



N27-60～68グリッド調査区完掘 NW→



N27-68～79グリッド調査区完掘 N→



N27-76～82グリッド西側調査区完掘 S→



N27-86～88グリッド西側完掘 N→



N27-81～88グリッド完掘 SW→

写真3 下石川平野遺跡(農道27号)(2) 調査区完掘(2)



N27-13グリッド基本層序 W→



H16-55・56グリッド基本層序 E→

写真4 下石川平野遺跡(農道27号)(3) 基本層序



SI01 完掘 SW→



SI01 C-C'セクション W→



SI01 作業状況 NE→



SI01 作業状況 S→

写真5 下石川平野遺跡(農道27号)(4) 竪穴建物跡(1)



SD01・SK03 セクション NW→



SD02 セクション SW→



SD04 セクション NW→



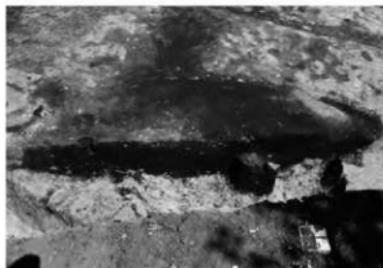
SK04 セクション E→



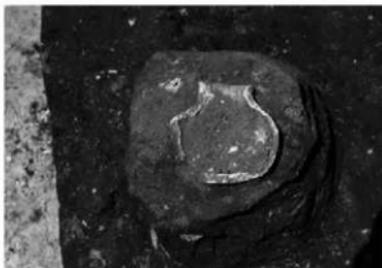
SK03 セクション NW→



SK03 遺物出土状況 SW→

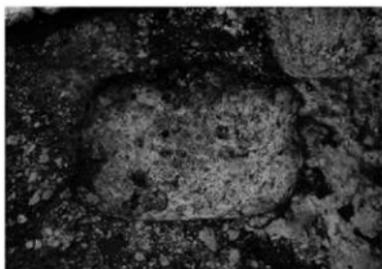


SK08 セクション W→



SK08 遺物(図8-19)出土状況 S→

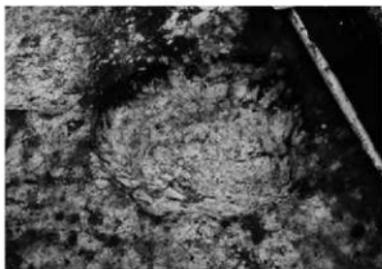
写真6 下石川平野遺跡(農道27号)(5) 竪穴建物跡(2)



SK01 完掘 SE→



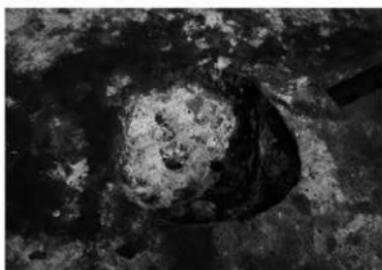
SK01 セクション SE→



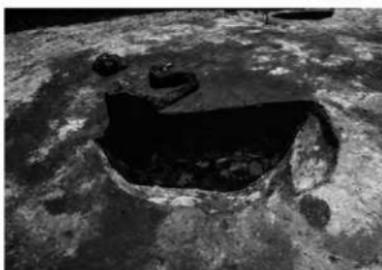
SK02 完掘 NE→



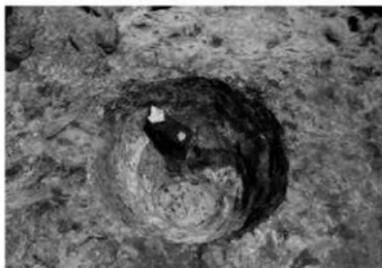
SK02 セクション NE→



SK07 完掘 NW→



SK07 セクション W→

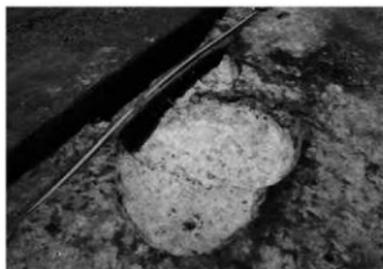


SK09 遺物出土状況 S→



SK09 遺物出土状況 S→

写真7 下石川平野遺跡(農道27号)(6) 土坑(1)



SK05・06・10 完掘 SE→



SK05・06・10 A-A'セクション NE→



SK06・10 B-B'セクション E→



SK10 C-C'セクション NE→



SK05・06・10 遺物出土状況 NW→



SK05・06・10 遺物出土状況 N→

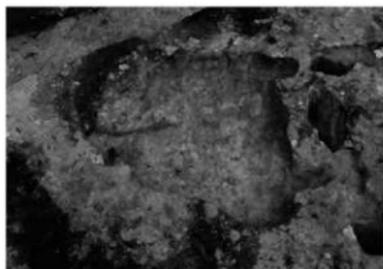


SK06・10 遺物出土状況 S→



SK06 遺物出土状況 NW→

写真8 下石川平野遺跡(農道27号)(7) 土坑(2)



SK11 完掘 SE→



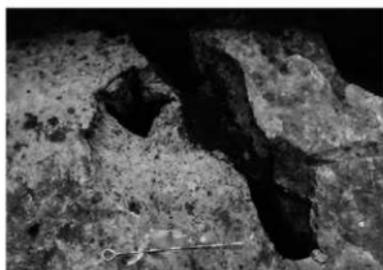
SK11 セクション SE→



SK12 セクション E→



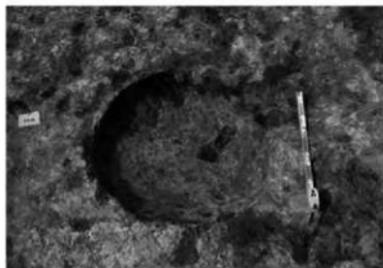
SK12・13・SV01 完掘 SE→



SK13 完掘 E→



SK13 セクション SE→



SK14 完掘 S→



SK14 セクション S→

写真9 下石川平野遺跡(農道27号)(8) 土坑(3)



SD03 完掘 E→



SD05・06 セクション SW→



SD05・06 セクション SW→



SD05・06 完掘 SW→



SD08 H-H' セクション E→



SD08 完掘 E→



SD07 B-Tm 検出状況(N27-38グリッド) NE→



SD07 完掘(N27-38グリッド) E→

写真10 下石川平野遺跡(農道27号)(9) 溝跡(1)



SD07 遺構確認状況(N27-40~49グリッド) S→



SD07 遺構確認状況(N27-40~49グリッド) N→



SD07 遺構確認状況(N27-43・44グリッド) SE→



SD07・08 遺構確認状況(N27-46グリッド) E→



SD07 B-Tm 検出状況(N27-40~49グリッド) S→



SD07 B-Tm 検出状況(N27-40~49グリッド) N→



SD07 B-Tm 検出状況(N27-43~49グリッド) NE→



SD07 B-Tm 検出状況(N27-46グリッド) NE→

写真11 下石川平野遺跡(農道27号)(10) 溝跡(2)



SD07 完掘(N27-40~49グリッド) S→



SD07 完掘(N27-40~49グリッド) N→



SD07 完掘(N27-40~44グリッド) SW→



SD07 完掘(N27-45~49グリッド) NE→



SD07 掘方完掘(N27-40~46グリッド) SW→



SD07・08 掘方完掘(N27-46~49グリッド) NE→



SD07 工具掘削痕検出(N27-44グリッド) N→



SD08 掘方完掘(N27-46グリッド) E→

写真12 下石川平野遺跡(農道27号)(11) 溝跡(3)



SD07 A-A'セクション SE→



SD07 B-B'セクション S→



SD07 C-C'セクション S→



SD07 D-D'セクション S→



SD07 E-E'セクション W→



SD07・08 F-F'セクション NE→

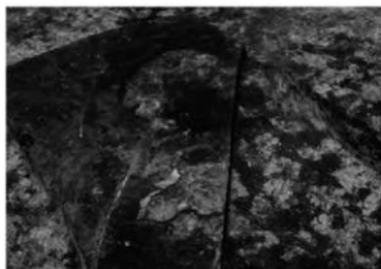


SD07 G-G'セクション N→



SD07 遺物(図23-3)出土状況 NW→

写真13 下石川平野遺跡(農道27号)(12) 溝跡(4)



SN01 火床面 SW→



SN01 A-A' セクション E→



SN02 検出 N→



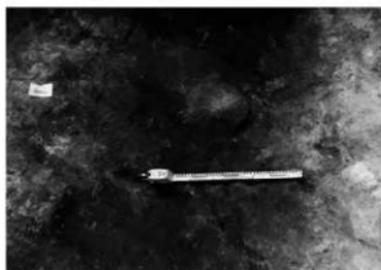
SN02 検出 N→



SN02 A-A' セクション W→



SN02 B-B' セクション N→



SN03 検出 E→



SN03 セクション S→

写真14 下石川平野遺跡(農道27号)(13) 焼土遺構(1)



SN04 検出 E→



SN04 セクション E→



SN03・04 検出 E→



SN05・06 検出 E→



SN05 セクション E→



SN06 セクション S→



SV01 完掘 NE→



SV02 完掘 SW→

写真15 下石川平野遺跡(農道27号)(14) 焼土遺構(2)・溝状土坑

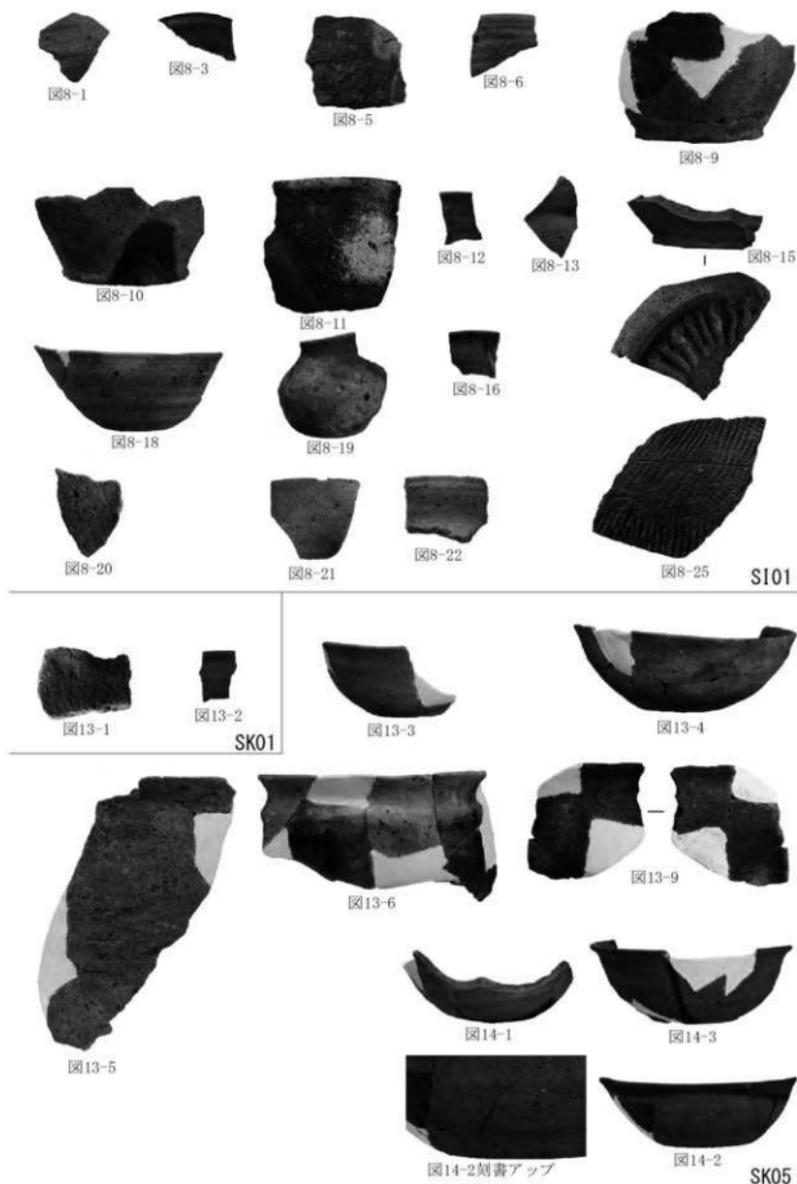


写真16 下石川平野遺跡(農道27号)(15) 出土遺物(1)



1

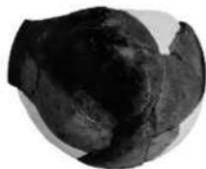


図14-6



図14-7



図14-11

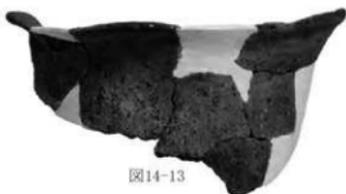


図14-13



図14-14



図15-1



図15-2

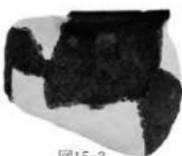


図15-3



図15-5



図15-6



図15-7



図16-10



図16-2



図16-3



図16-4



図16-5



図16-6



図16-7 刻書アップ



図16-7



図16-8



図16-9

SK06(1)

写真17 下石川平野遺跡(農道27号)(16) 出土遺物(2)

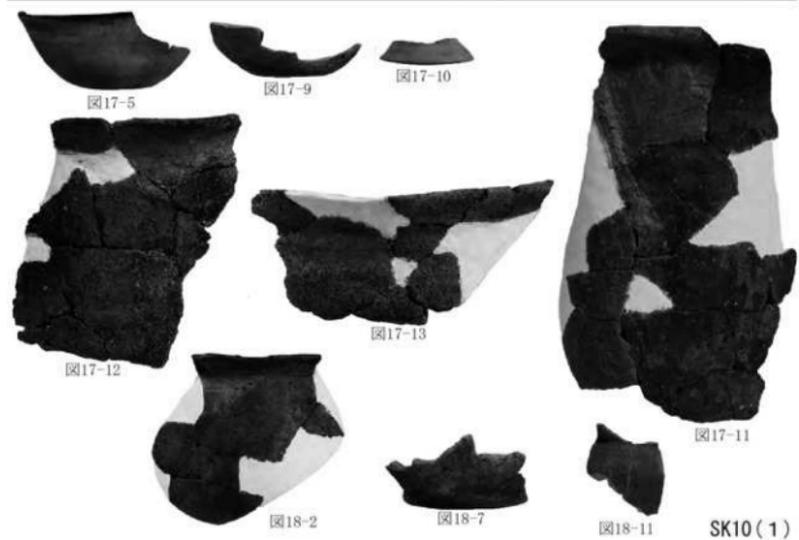
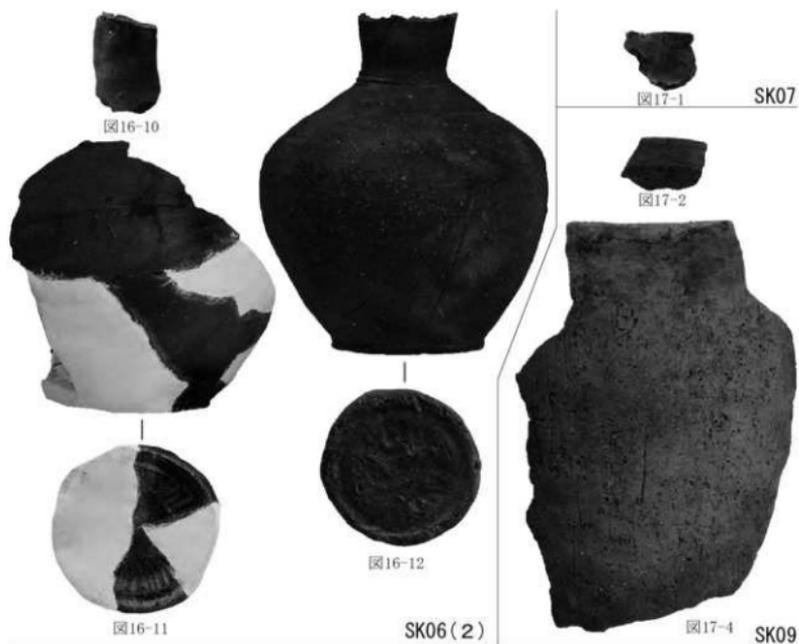


写真18 下石川平野遺跡(農道27号)(17) 出土遺物(3)

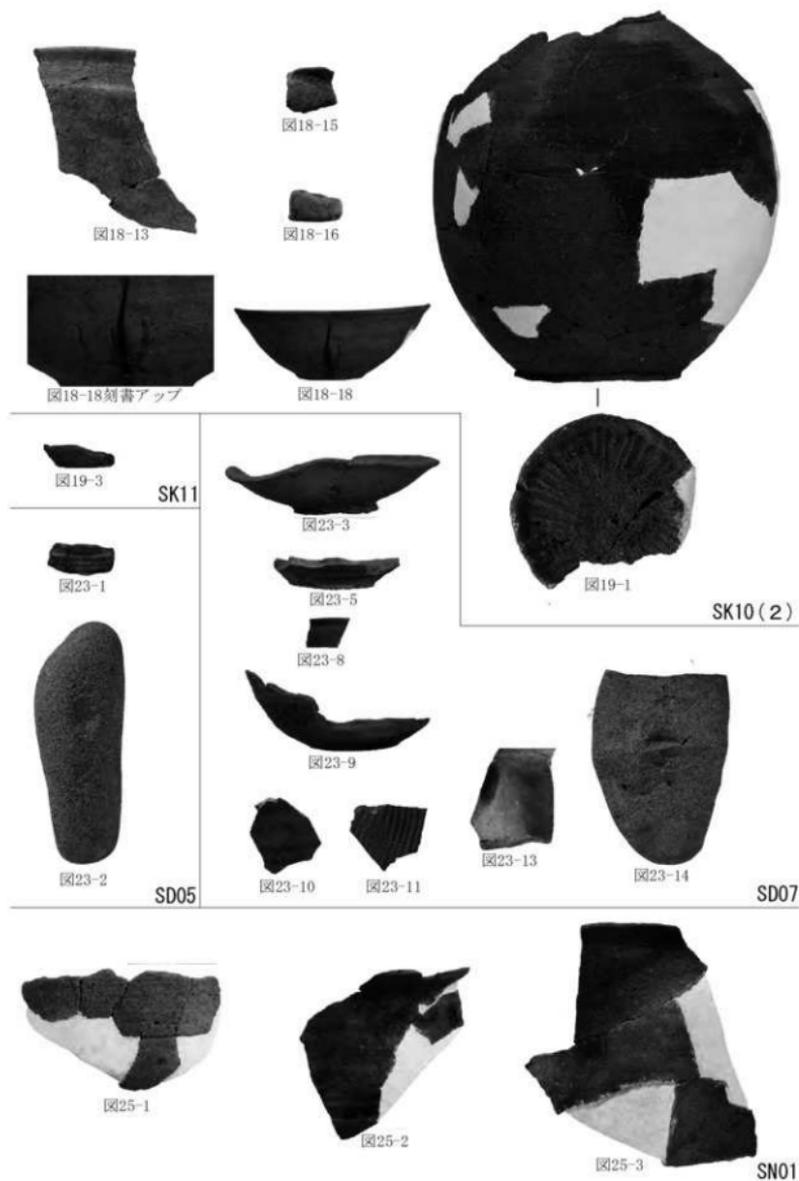


写真19 下石川平野遺跡(農道27号)(18) 出土遺物(4)

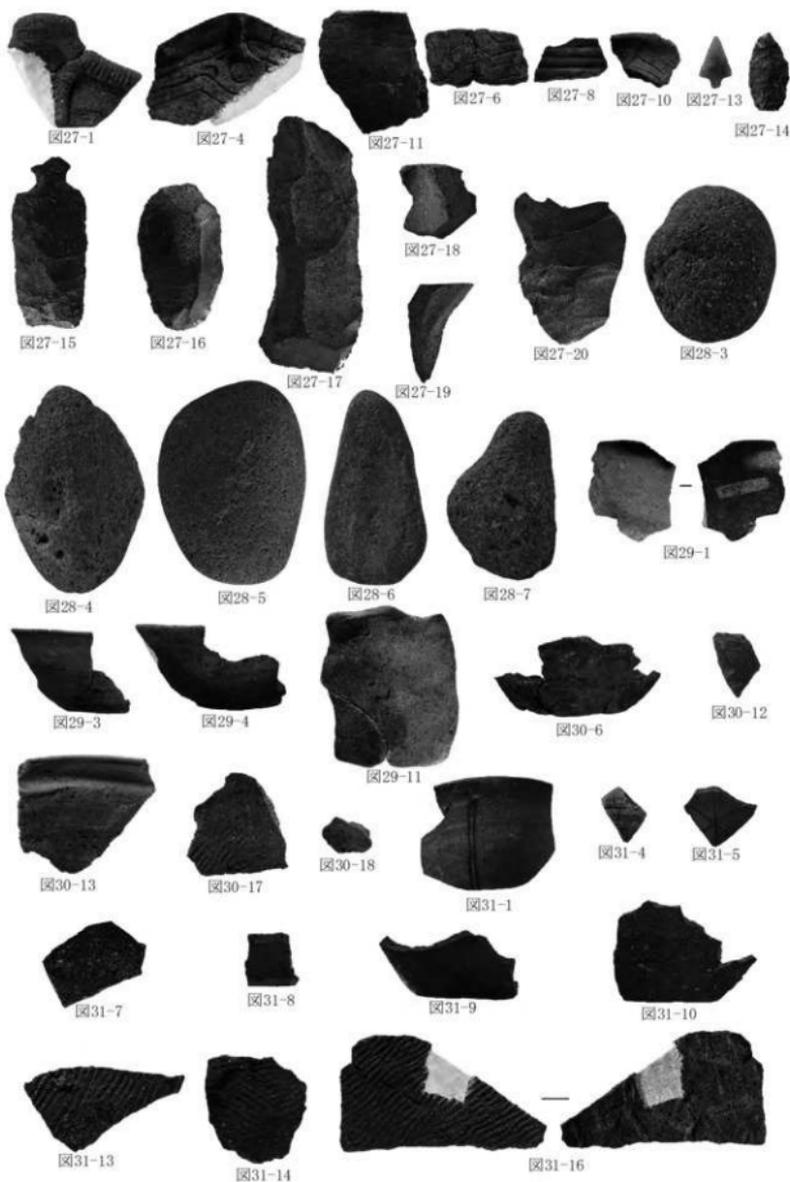


写真20 下石川平野遺跡(農道27号)(19) 出土遺物(5)



H16-35～42グリッド 調査区近景 N→



H16-33～60グリッド 調査区近景 S→



H16-33～42グリッド 調査区近景 S→



H16-9～12グリッド 調査区近景 S→



作業状況 N→



作業状況 SE→

写真21 下石川平野遺跡(配水管16号)(1) 遺跡現況・作業状況



HI6-3~10 西半調査区完掘 S→



HI6-14~18 調査区完掘 N→



HI6-14~18 調査区完掘 S→



HI6-20~26 調査区完掘 N→



HI6-20~26 調査区完掘 S→



HI6-43~47 調査区完掘 N→



HI6-43~47 調査区完掘 S→



HI6-48~56 調査区完掘 N→



HI6-48~56 調査区完掘 S→

写真22 下石川平野遺跡(配水管16号)(2) 調査完了状況



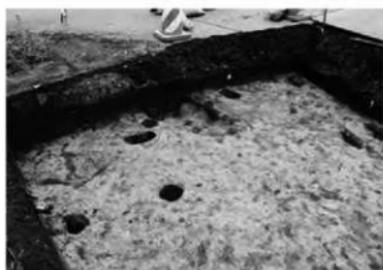
SI01 完掘 N→



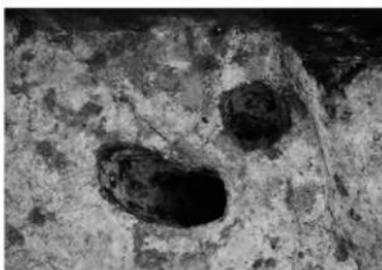
SI01 セクション E→



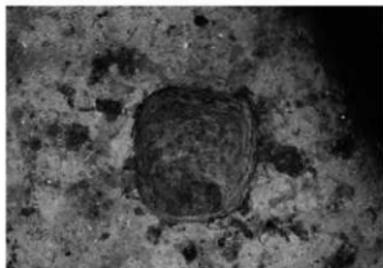
SI01 セクション SE→



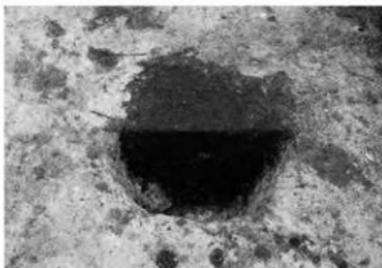
SP 検出状況 SW→



SP04・05 完掘 S→



SP01 完掘 S→



SP01 セクション S→

写真23 下石川平野遺跡(配水管16号)(3) 竪穴建物跡・柱穴



SK01・02・SD04 A-A' セクション E→



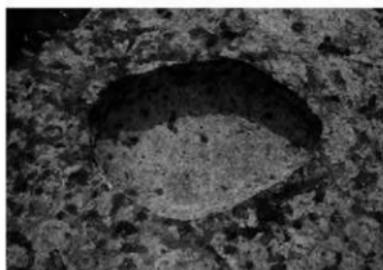
SK01 B-B' セクション N→



SK01 A-A' セクション E→



SK02・SD04 A-A' セクション E→



SK03 完掘 N→



SK03 セクション N→



SK04 セクション E→



SK04 火山灰検出状況 S E→

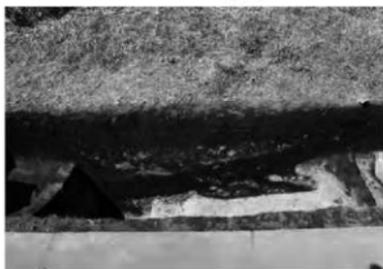
写真24 下石川平野遺跡(配水管16号)(4) 土坑(1)



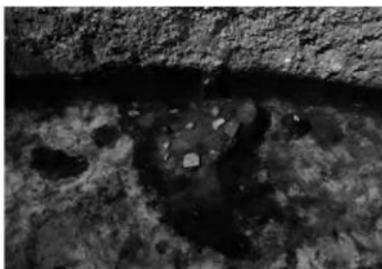
SK05 セクション・完掘 W→



SK06 B-B' セクション E→



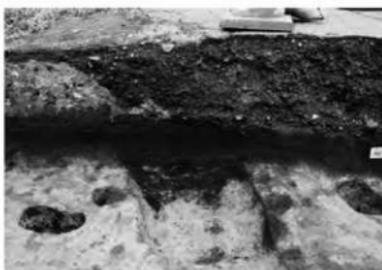
SK07 セクション E→



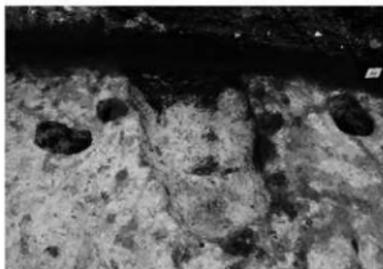
SK08 確認 S→



SK08 A-A' セクション W→



SK08 B-B' セクション S→



SK08 完掘 S→



SK08 作業状況 W→

写真25 下石川平野遺跡(配水管16号)(5) 土坑(2)



SD01 セクション・完掘 E→



SD02 完掘 NE→



SD03 セクション・完掘 E→



SD04 B-B' セクション W→



SD05 セクション・完掘 E→



SD05 火山灰・遺物出土状況 NE→



SD07 セクション・完掘 E→



SD08 セクション・完掘 E→

写真26 下石川平野遺跡(配水管16号)(6) 溝跡(1)



SD06・SK06 A-A'セクション S→



SD06・08 B-B'セクション S→



SD06 C-C'セクション S→



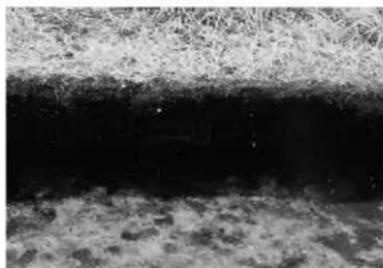
SD06 完掘 S→



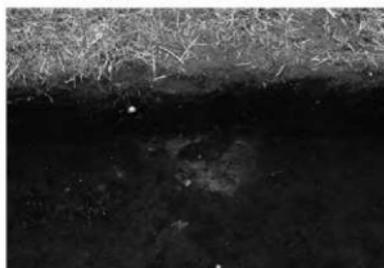
SD09 完掘 E→



SD09 掘方完掘 E→

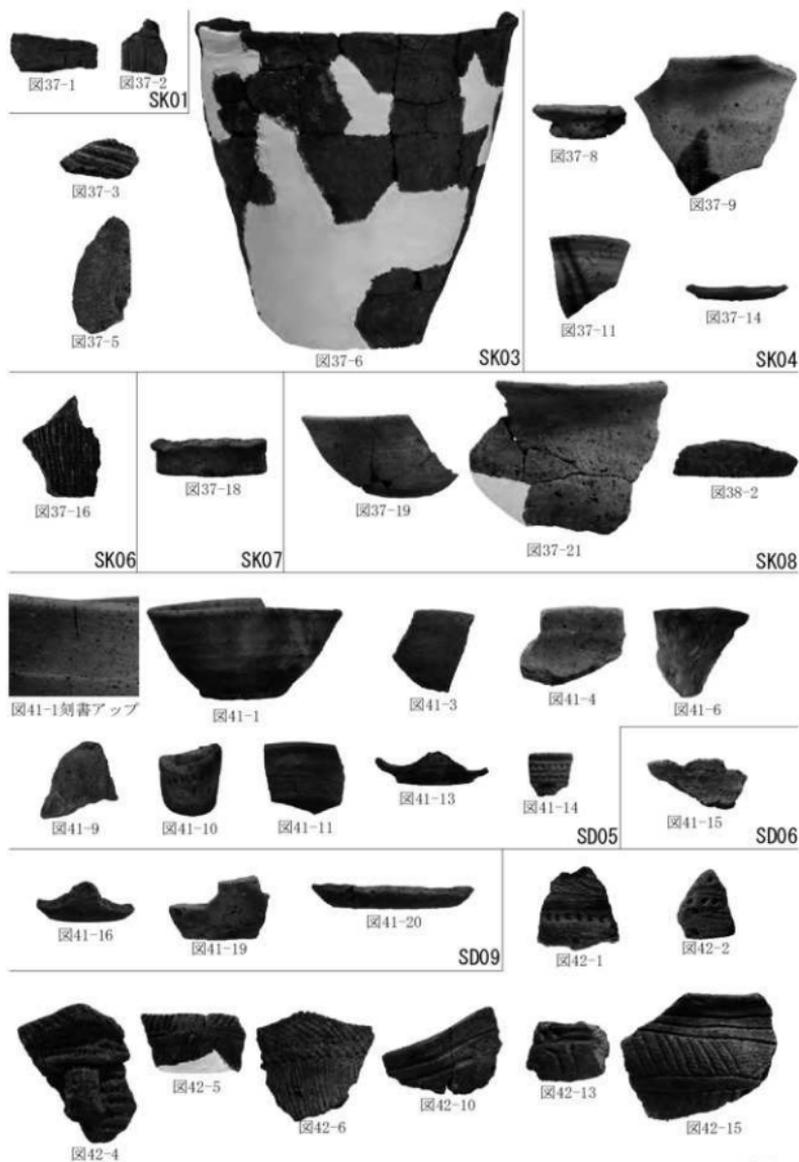


SN01 セクション E→



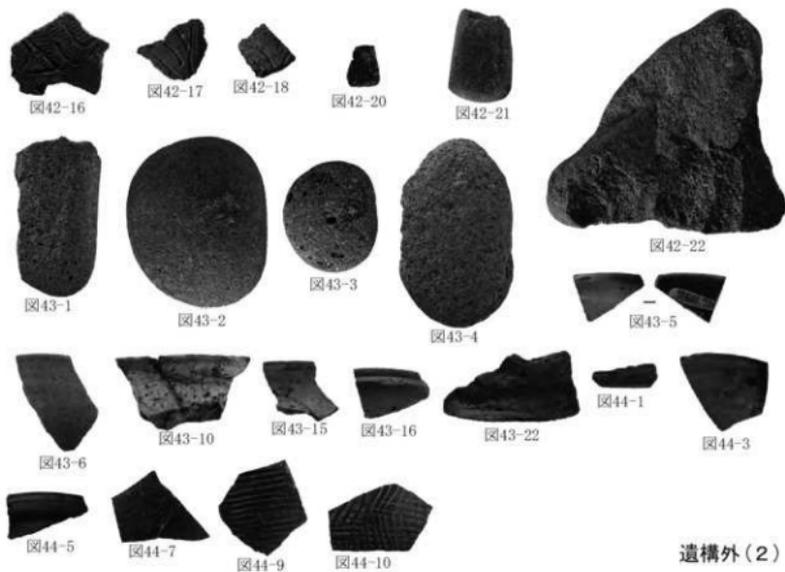
SN01 検出 E→

写真27 下石川平野遺跡(配水管16号)(7) 溝跡(2)・焼土遺構



遺構外(1)

写真28 下石川平野遺跡(配水管16号)(8) 出土遺物(1)



遺構外(2)

写真29 下石川平野遺跡(配水管16号)(9) 出土遺物(2)



東側調査区完掘 W→



図 45-1



図 45-2



図 45-4



図 45-5



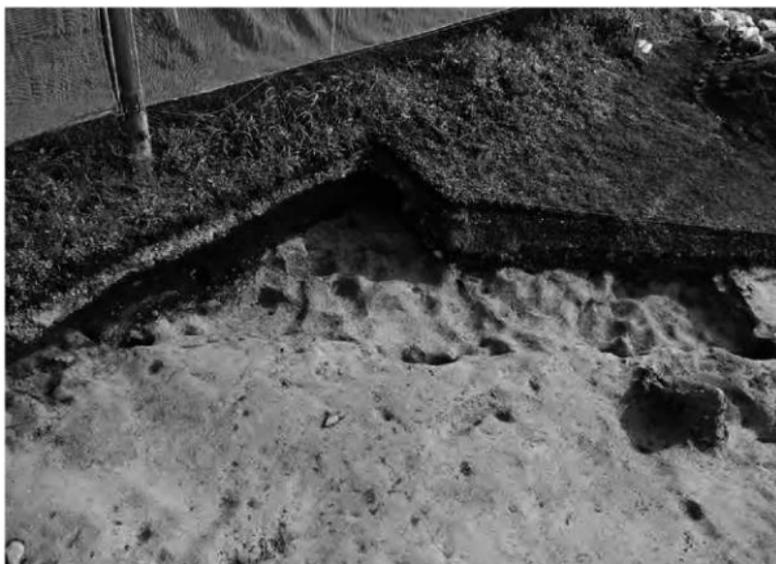
図 45-6



図 45-12



調査区完掘 SW→



SI01 完掘 NE→

写真31 下石川平野遺跡(給水栓9号)(1) 調査完了状況・竪穴建物跡(1)



SI01 A-A' セクション N→



SI01 B-B' セクション E→

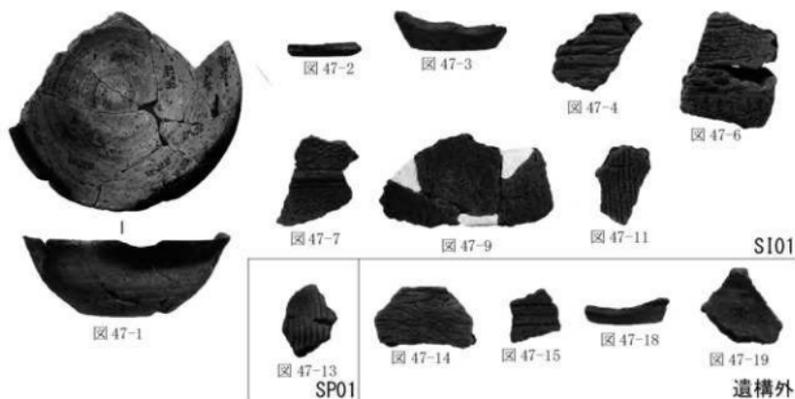


写真32 下石川平野遺跡(給水柱9号)(2) 竪穴建物跡(2)・出土遺物

## 第3編 浪岡蛭沢遺跡

### 第1章 調査区と遺構・遺物の概要、基本層序

#### 第1節 調査区と遺構・遺物の概要(図48)

農道32号は浪岡蛭沢遺跡の南西部に位置し、概ね南北に直線状に伸びる調査区となっている。農道部分と流末水路部分からなり、農道は長さ約155m、幅約5.5～10.0m、流末水路は長さ約30m、幅約1mで、合計1,000㎡を調査した。

調査地点の標高は約25～35mで、調査区はほぼ中央部のN32-12～15グリッド周辺が最も高い。ここから、北側ではN32-7グリッド、南側ではN32-24グリッド付近までは傾斜角約3～5°の比較的緩やかな斜面が続く。本調査区内で検出された縄文時代および平安時代の遺構の多くは、この平坦地または緩斜面地にある。緩斜面の南北側は傾斜角が約10～11°とやや急な斜面地となっており、北側ではN32-2、南側ではN32-28グリッド付近が急斜面の裾野にあたる。ここで地形は再び緩やかな斜面へと変化する。南北側ともに急斜面地では遺構は確認されなかったが、裾野で古代の溝跡が検出された。

そのさらに南側は開析谷に向かって急激に落ち込む地形となっており、本農道の流末水路部分がこの地形上に位置する。ここでは遺構は検出されず、後世に流れ込んだとみられる縄文時代の土器破片が数点出土した。

検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

堅穴建物跡(S1)	2棟(平安時代)
柱穴(SP)	16基 ※単独のもののみ、建物や柵列などは構成していない。
土坑(SK)	48基(縄文時代45基、時期不明3基)
溝跡(SD)	2条(平安時代)
溝状土坑(SV)	1基
土器埋設遺構(SR)	3基(縄文時代)

出土した遺物は、土器類11箱、石器類3箱の合計14箱で、大半は縄文時代前期末葉の遺物である。その他に縄文時代前期中葉・中期・後期・晩期、平安時代の遺物のごく少量ずつ出土している。

以下に各遺構の詳細を記載していくが、下記の遺構は整理作業等に伴って名称の変更を行った。

第14号土坑(SK14) → 第16号柱穴(SP16)

第52号土坑(SK52) → 第15号柱穴(SP15)

また、以下については欠番とした。

第27号土坑(SK27)・第28号土坑(SK28)・第34号土坑(SK34)・第35号土坑(SK35)・

第36号土坑(SK36)・第46号土坑(SK46)・第47号土坑(SK47)・第54号土坑(SK54)・

第55号土坑(SK55)・第58号土坑(SK58)・第13号柱穴(SP13)

#### 第2節 基本層序(図49)

浪岡蛭沢遺跡における基本層序は、平坦面頂部付近のN32-20グリッド、北側緩斜面地のN32-9



グリッド、南側急斜面裾部近くのN32-32グリッドの3カ所で確認した。基本層序を確認した3地点では、いずれも第II層が欠層している。なお、遺構を検出した丘陵平坦面または緩斜面では、リング畑の造成等によって第II～III層が失われ、第I層直下で第IV層または第V層を確認した場所が多いが、斜面の北側裾部にあたるN32-1～5グリッドまたは南側裾部にあたるN32-25～28グリッドでは第II層または第III層の堆積を確認している。

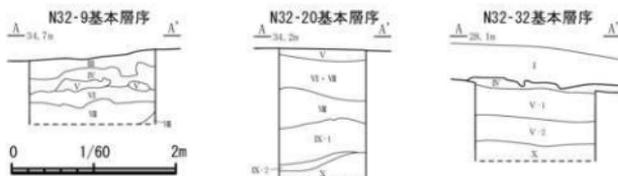


図49 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 基本層序

- 第I層 10YR1.7/1～10YR2/2 黒色～黒褐色土  
表土層で、草根がみられる。
- 第II層 10YR3/1～10YR3/2 黒褐色土  
平安時代の土層である。調査区域内ではほとんど削平されており、N32-1～5グリッドまたはN32-25～28グリッドで部分的に確認したのみである。周辺遺跡の調査では本層中に白頭山苦小牧火山灰が確認されているが、本調査区域内では火山灰の堆積は確認していない。
- 第III層 10YR2/1～10YR2/2 黒色～黒褐色土  
縄文時代から古代までの堆積土である。第II層と同様、削平されている部分が多かったが、N32-1～5グリッドまたはN32-25～28グリッドで堆積を確認した。
- 第IV層 10YR3/3～10YR3/4 暗褐色土  
第III層と第V層の漸移層。遺構の多くは本層で検出した。
- 第V層 10YR5/6～10YR5/8 黄褐色砂質火山灰
- 第VI層 10YR5/4～10YR7/8 にぶい黄褐色～黄橙色砂質粘土
- 第VII層 10YR5/6～10YR7/1 黄褐色～灰白色粘土  
第VI層より粘質でよく締まっている。なお、第V層～第VII層は十和田八戸テフラの再堆積とみられるが、浪岡堂沢遺跡では、第VI層と第VII層が再堆積により混合した状態で確認される部分が多かったため、明確に分層できない場合は一括し、第VI・VII層と表記した。
- 第VIII層 10YR4/4～10YR6/1 褐色～褐灰色砂質シルトに砂層が層状に混入  
調査区域内では、基本層序を確認したN32-20グリッドで最も厚い堆積が確認できたが、堆積が確認できない場所もあり、局地的な堆積である。層状に混入する砂層は全体的には淘汰が悪い。水流による堆積とみられる。
- 第IX層 10YR4/6～10YR5/3 褐色～にぶい黄褐色粘土  
第X層の乾燥化が進んだ状態の堆積層とみられる。
- 第X層 10YR6/4～10YR7/1 にぶい黄橙色～灰白色粘土  
植物根の痕跡とみられる茶褐色の斑点が全体的にみられる。

## 第2章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 検出遺構

#### 1 竪穴建物跡

平安時代の竪穴建物跡が2棟検出された。

##### 第1号竪穴建物跡(S101、図50)

[位置・確認]調査区中央南側、N32-22・23グリッドに位置する。遺構確認面の標高は33.0~33.5m、第IV層で確認した。SK24・SK25と重複し、本遺構が新しい。

[規模・平面形]西隅がわずかに調査区域外にあるが、確認した壁長は北東壁3.2m、北西壁(2.7m)、南東壁3.2m、南西壁(1.6)mで、概ね一辺3.2mの方形を呈していたとみられる。確認面から床面までの深さは、北東壁19~66cm、北西壁47~67cm、南東壁13~38cm、南西壁19~23cmである。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。建物の軸方向はN-147° -Eである。

[床面・壁溝]第VI・VII層をそのまま床面として概ね平坦であるが、SK24・SK25と重複する部分では床面がやや沈んで凹んだ状態となっている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴]検出されなかった。

[カマド]南東壁際の北寄りでカマドを検出した。火床面と袖の一部が残存していたのみで遺存状態が悪く、建物廃棄時に大きく壊されたものとみられる。袖は粘土で構築されており、約10cmまでの高さで残存し、袖の内側は被熱していた。袖に芯材が用いられていたかどうかは不明である。火床面の範囲は53×49cmで、深さ約5cmまで被熱が及び、硬化していた。支脚として使用されていたとみられる遺物は出土していない。

煙道部は地下式で、南東壁から約86cmの所に煙出しが位置する。煙道の軸方向はN-147° -Eである。幅は約24cmで、カマド底面から約5°の傾斜で低く掘り込まれている。煙出しは直径41×28cmの楕円形で、42cmの深さでほぼ垂直に掘り込まれ、煙道に連結している。煙出し上層にはローム主体の堆積が確認できたことから、廃棄時に人為的に埋め戻したとみられる。

[その他の施設]その他の施設は検出されなかった。

[堆積土]2~4層には全体的にロームブロックや炭化物などの混入物が含まれており、床面直上に自然堆積層が確認できないことから、廃絶後、比較的早い段階で人為的に埋め戻されたものと考えられる。1層は比較的均質な黒褐色土の堆積であり、自然堆積の様相が強いとみられる。

[出土遺物]遺物は、堆積土中から土師器23点(234.3g)、須恵器1点(37.5g)、縄文土器32点(404.7g)、石器1点が出土している。土器類はいずれも破片である。このうち、土師器環(図50-1)・甕(図50-2・3)、須恵器甕(図50-4)、縄文土器深鉢(図50-5)を図示した。図50-2と図50-3はそれぞれ土師器甕の口縁部破片と底部で、図50-3は砂底である。図50-4は須恵器甕の体部破片で、外面に平行叩き、内面に当て具痕がみられる。図50-6は縄文時代のスクレイパーである。

[小結]出土遺物、堆積土の様相、遺構の構造から、10世紀前葉頃には廃絶していたと考えられる。

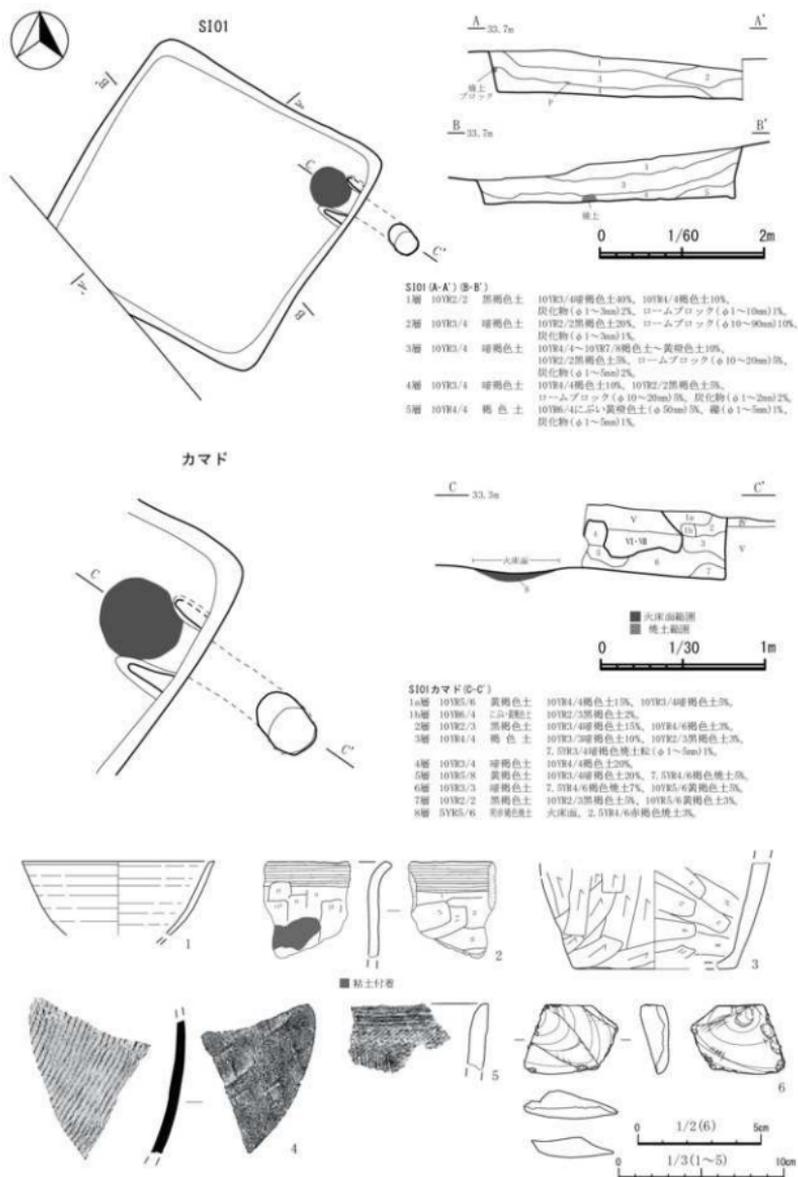


図50 浪岡蛭沢遺跡(農道32号) 第1号竪穴建物跡

## 第2号竪穴建物跡(S102、図51)

[位置・確認]調査区中央、N32-19~21グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.1~34.3m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[規模・平面形]調査区域内では建物跡の西端部を検出したのみで、大部分は東側調査区域外にある。確認した壁長は北西壁(0.93)m、南西壁7.1m、南東壁(0.3)mである。確認面から床面までの深さは、北西壁44~45cm、南西壁13~52cm、南東壁22~27cmである。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。カマドは検出されていないが、南東側にカマドがあるとすれば建物の軸方向はN-138°-Eである。[床面・壁溝]床面は掘方を有し、貼床(13・14層)によって平坦に整えられている。南西壁で部分的に壁溝を検出した。壁溝の検出長は1.8m、幅は9~17cm、深さは10~17cmである。

[柱穴]ピット1基(Pit2)を検出した。規模と平面形は42×28cmの楕円形、深さ18cmである。南西壁のほぼ中央に位置しており、壁柱穴である。その他の柱穴は検出されなかった。

[カマド]検出されなかった。

[その他の施設]建物北寄りでSK1、調査区壁際でPit1を検出した。規模と平面形は、SK1は(66)×57cmのほぼ円形で、深さ28cmを測る。Pit1は(57)×(15)cm、半分以上が調査区域外に伸びているため平面形は不明である。深さ15cmである。いずれも機能は不明である。

[堆積土]下位の5層以下は全体にローム混じりで、建物崩壊に伴う堆積か人為的に埋め戻された堆積とみられる。上位の1・4層は比較的均質な黒褐色土の堆積であり、自然堆積の様相が強い。建物廃棄後にある程度埋め戻され、その後自然堆積により埋没したとみられる。13・14層は貼床である。なお、南側部分の土層堆積状況から、2棟ないし3棟の建物が重複していた可能性も考えられたが、壁や床面、掘方に重複の痕跡が確認できなかったことから、1棟の建物として精査を行った。

[出土遺物]堆積土中および床面から土師器4点(215.1g)と縄文土器26点(365.7g)が出土している。また、貼床内からは土師器4点(12.1g)、石器1点、付属施設であるSK1からは土師器5点(23.8g)が出土している。このうち、土師器坏(図51-1)・甕(図51-2)、縄文時代後期後葉~晩期の深鉢(図51-3)を図示した。図51-1は床面直上から出土しており、底外面に回転糸切痕がみられる。図51-2は甕の底部破片で、3層から出土した。図51-4は貼床内から出土した縄文時代の石筥または籠状石器である。

[小結]出土遺物、堆積土の様相から、10世紀前葉頃には廃絶していた可能性が高いと考えられる。

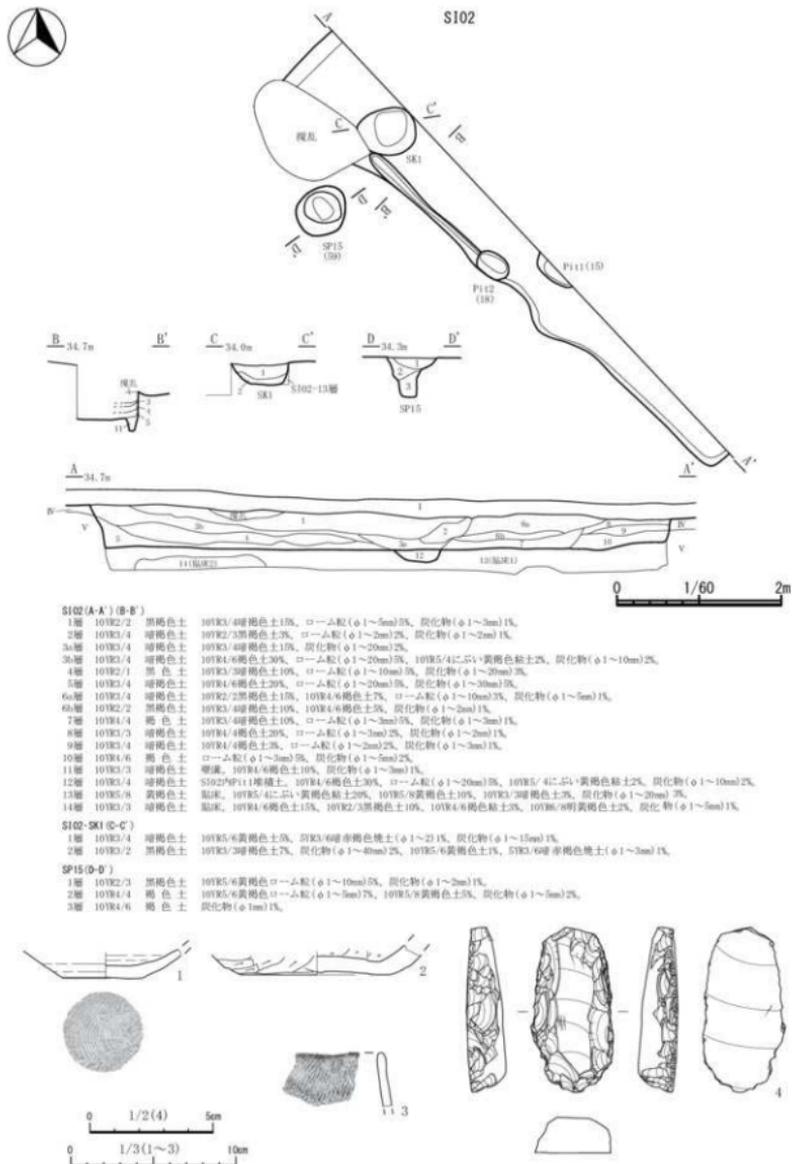


图51 浪岡蛭沢遺跡(農道32号) 第2号竪穴建物跡

## 2 柱穴

農道32号からは合計16基の柱穴を検出した。掘立柱建物跡、柱穴列などの構造物を構成するとみられる柱穴は確認できなかった。各柱穴の位置は図48の遺構配置図に、計測値などは表16の計測表に示した。

表16 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 柱穴計測表

SP 番号	図版番号	グリッド	標高 (m)	規模 (cm)			備考
				長軸	短軸	深さ	
01	図48	N32-10	34.1	26	16	22	
02	図48	N32-11	34.3	31	25	34	
03	図48・52	N32-19	34.2	36	31	39	石匙1点出土(図52-1)。
04	図48・52	N32-19	34.2	38	34	40	縄文土前期末葉土器3点(131.0g)出土(図52-2)。
05	図48	N32-19	34.2	38	37	61	
06	図48	N32-19	34.2	27	27	35	
07	図48・56	N32-19	34.2	(24)	(21)	62	SK37より新しい。
08	図48	N32-13	34.3	25	(17)	28	
09	図48・58	N32-12	34.4	(24)	(10)	42	
10	図48	N32-21	33.9	40	37	28	SP11より新しい。
11	図48	N32-21	33.9	(23)	(22)	29	SP10より古い。
12	図48	N32-15	34.3	20	(13)	20	
13	—	—	—	—	—	—	欠番
14	図48	N32-20	34.1	24	22	21	
15	図48・ 51・52	N32-20	34.2	66	58	59	旧SK52。縄文前期末葉土器1点(8.3g)出土。 石鏝1点出土(図52-3)。
16	図48・ 52・53	N32-15	34.2	(38)	44	61	旧SK14。柱痕あり。SK01より古い。 縄文前期末葉土器29点(729.5g)、凹石1点出土(図52-4・ 5)。
17	図48	N32-19	34.2	—	—	—	SK16より古い。図がなく、写真でのみ確認。

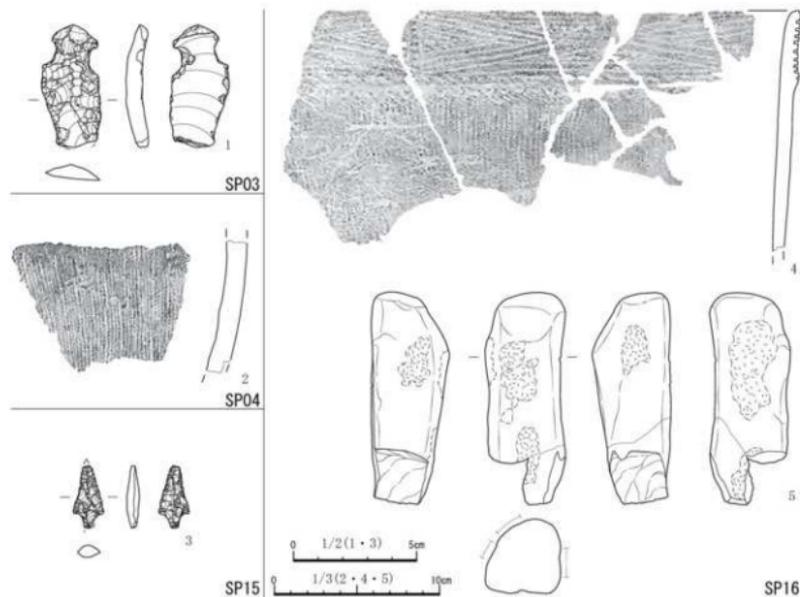


図52 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 柱穴

### 3 土坑

48基の土坑が検出された。多くは縄文時代のフラスコ状土坑である。フラスコ状土坑は、前期末葉と後期後葉～晩期の大きく2時期に分かれる。フラスコ状土坑以外の土坑は、遺物を伴わないことから時期が明確でないものもある。

なお調査現場でSK14・SK52として精査を行った遺構はSP16・SP15に遺構番号を変更した。また、SK27・SK28・SK34・SK35・SK36・SK46・SK47・SK54・SK55・SK58と付番して精査した遺構は、精査の結果、欠番とした。

#### 第1号土坑 (SK01、図53・61)

[位置・確認]調査区中央、N32-14・15グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.2～34.3m、第IV層上面で遺物が散布する状況を確認し、トレンチ調査を併用しながらプランを確認した。SP16と重複し、本遺構が新しい。

[規模・平面形]開口部の西側部分が調査区域外にある。調査区内での開口部長軸(119)cm、短軸131cmの楕円形、底面長軸158cm、短軸155cmの円形である。深さは112cmである。壁は底面から中位屈曲部までは概ね内傾し、屈曲部から開口部まではやや開いて立ち上がっていたとみられる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第VI・VII層中に構築されており、中央部がわずかに低く落ち込んだ形状である。また、底面の中央よりやや西側で直径22×20cmのビットを検出した。深さは15cmである。

[堆積土]6層に分層される。下位の3～6層はローム主体またはロームブロックを多く含む褐色～黒褐色土の堆積で、人為的な埋戻しによる堆積とみられる。上位の1・2層は概ね自然堆積であると考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等]上位層を中心に縄文土器の破片が156点(1,658.9g)出土している。このうち深鉢(図61-1～4)を図示した。土器はいずれも円筒下層d式とみられる。その他、堆積土中から出土した土製品(図61-5)と石器(図61-6・7)を図示した。図61-6はスクレイパー、図61-7は磨製石斧である。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構と考えられる。

#### 第2号土坑 (SK02、図53)

[位置・確認]調査区北側、N32-6グリッドに位置する。遺構確認面の標高は32.5～32.8m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[規模・平面形]開口部長軸119cm、短軸102cmの円形、底面長軸109cm、短軸105cmの円形である。底面は開口部より全体的に約10～20cm北東側に位置する。深さは98cmである。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは大きく開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層中に構築されており、ほぼ平坦である。また、底面のほぼ中央で直径32×30cm、深さ12cmのビットを検出した。

[堆積土]5層に分層される。黒色または黒褐色土が主体で、崩落を伴う自然堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土していないが、堆積土の様相、遺構の形状などから、縄文時代後期後葉～晩期の遺構の可能性が高いと思われる。

### 第3号土坑 (SK03、図53・61)

[位置・確認] 調査区北側、N32-7・8グリッドに位置する。遺構確認面の標高は33.4～33.6m、第IV～V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[規模・平面形] 開口部長軸176cm、短軸151cmの楕円形、底面長軸152cm、短軸134cmの楕円形である。深さは146cmである。壁は底面から中位屈曲部まではやや内傾し、屈曲部から開口部までは緩やかに開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第X層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 5層に分層される。下位の3～5層はローム主体またはロームブロックを多く含む黒褐色土や褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されている。上位の1・2層は壁の崩落を伴う自然堆積の様相が強い。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器の破片が21点(346.1g)出土しており、このうち深鉢(図61-8・9)を図示した。図61-8は下位にあたる4層から出土した。土器はいずれも円筒下層d式とみられる。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構と考えられる。

### 第4号土坑 (SK04、図53・61)

[位置・確認] 調査区中央、N32-19グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.2～34.3m、第V層で確認した。SK15、SR02と重複し、本遺構が新しい。

[規模・平面形] 開口部長軸198cm、短軸155cmの楕円形、底面長軸186cm、短軸184cmの楕円形である。深さは101cmである。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 6層に分層される。開口部近くまで人為的に埋め戻しを行っているが、最上層の1層は自然堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器の破片が13点(156.7g)出土しており、このうち前期末葉とみられる胴部破片(図61-10)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高いと思われる。

### 第5号土坑 (SK05、図54)

[位置・確認] 調査区中央、N32-19・20グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.1～34.2m、調査区壁際の第V層で検出し、その後、調査区壁の断面で第IV層上面から掘り込まれていることを確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形] 西側が調査区域外にあるため平面形は不明である。調査区壁面で確認した開口部の長軸は(167)cm、底面長軸(147)cm、短軸(71)cmである。深さは103cmである。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは大きく開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第VI・VII層中に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 7層に分層される。全体的にロームや炭化物を含む黄褐色～暗褐色土で、人為的に埋め戻されていると考えられる。3層は焼土主体の層で、本遺構に近接した場所建物跡など焼土を伴う遺構が存在した可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土していない。堆積土の様相、遺構の形状などから、縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

#### 第6号土坑(SK06、図54・61)

[位置・確認]調査区北側、N32-9グリッドに位置する。遺構確認面の標高は33.7～33.8m、第IV層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形]西側が調査区域外にあるため平面形は不明である。調査区内で確認した規模は、開口部長軸(105)cm、短軸(45)cm、底面長軸(122)cm、短軸(75)cmである。深さは103cmである。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは大きく開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土]3層に分層される。全体的に黒褐色または暗褐色土が主体で、自然堆積の様相が強い。

[出土遺物・遺構の時期等]縄文土器の破片が7点(71.7g)出土しており、このうち後期後葉～晩期とみられる土器片(図61-11・12)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代後期後葉～晩期の遺構の可能性が高い。

#### 第7号土坑(SK07、図54・61)

[位置・確認]調査区北側、N32-9・10グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.0～34.2m、第IV層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形]開口部長軸194cm、短軸185cmの円形、底面長軸177cm、短軸169cmの円形である。深さは143cmである。壁は底面から中位屈曲部までは直立気味または袋状に開いてから内傾し、屈曲部から開口部までは大きく開いて立ち上がる。断面形は北東側に大きく入り込んだ不整なフラスコ状を呈する。底面は第X層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土]10層に分層される。最下層にロームが堆積することから、廃棄後間もなく壁が崩落したか、人為的に埋められたとみられるが、その上位は概ね壁の崩落を伴う自然堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等]縄文土器・土製品の破片が66点(1,015.9g)出土しており、このうち後期後葉～晩期の土器片・土製品(図61-13～15)、前期末葉の土器片(図61-16～18)を図示した。図61-15は皿状の土製品で、遺構外から出土した図76-13・14と類似した製品とみられる。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代後期後葉～晩期前半の遺構の可能性が高い。

#### 第8号土坑(SK08、図54・61)

[位置・確認]調査区北側、N32-10グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.5～34.6m、第IV層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形]開口部の一部が調査区域外にある。調査区内で確認した規模は、開口部長軸191cm、短軸(185)cm、底面長軸168cm、短軸162cmで、開口部、底面ともに概ね円形を呈する。深さは140cmである。壁は底面から中位屈曲部までは直立気味に立ち上がってから内傾し、屈曲部から開口部までは湾曲しながら開いて立ち上がる。断面形は不整なフラスコ状を呈する。底面は第IX層中に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土]10層に分層される。全体的にローム主体またはロームの混入が多く、人為的に埋め戻されているとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等]縄文土器の破片が23点(240.0g)出土しており、このうち後期後葉～晩期とみられる土器片(図61-19～22)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代後期後葉～晩期の遺構の可能性が高い。

#### 第9号土坑(SK09、図54・61・62)

[位置・確認]調査区中央北側寄り、N32-11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.5～34.6m、第IV層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形]東側の一部が調査区域外にある。調査区内で確認した規模は、開口部長軸164cm、短軸(158)cm、底面長軸145cm、短軸143cmで、開口部、底面ともに概ね円形を呈する。底面は開口部より全体的に約10～20cm南東側に位置する。深さは155cmである。壁は底面から中位屈曲部までは袋状に膨らみ、丸みを持って立ち上がる。屈曲部から開口部までは直立気味に立ち上がってから大きく開く。断面形は不整なフラスコ状を呈する。底面は第X層上面に構築されており、概ね平坦である。また、底面のほぼ中央で直径44×32cm、深さ19cmのビットを検出した。

[堆積土]6層に分層される。全体的にローム主体またはロームの混入が多くみられる堆積で、人為的に埋め戻されていると考えられる。上位の1～3層には炭化物が多く混入する。

[出土遺物・遺構の時期等]1層を主体に縄文土器の破片が84点(2,003.0g)出土している。図示した図61-23・24、図62-1～4は円筒下層d2式の深鉢の口縁部破片、図62-5・6は、円筒下層d式の深鉢の底部破片である。石器はスクレイパー(図62-7)、調整剥片(図62-8)、磨製石斧(図62-9)が堆積土中から出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構と思われる。

#### 第10号土坑(SK10、図54)

[位置・確認]調査区南側、N32-23グリッドに位置する。遺構確認面の標高は33.0～33.3m、第IV層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形]開口部長軸122cm、短軸122cmの不整形円形、底面長軸108cm、短軸84cmの楕円形で、深さは88cmである。壁は底面から中位屈曲部まではやや膨らみ、屈曲部から開口部までは開いて立ち上がる。断面形は不整なフラスコ状を呈する。底面は第X層上面に構築されており、やや凹凸がある。また、底面のほぼ中央で直径19×18cm、深さ10cmのビットを検出した。

[堆積土]8層に分層される。全体的にローム主体またはロームの混入が多くみられ、人為的に埋め戻されていると考えられる。最上層1層はローム主体で、埋め戻しの最終段階に意図的にロームで蓋をしたような状況がうかがえる。

[出土遺物・遺構の時期等]図示していないが、縄文時代前期末葉と後期後葉～晩期とみられる破片土器片がそれぞれ2点と1点(計25.4g)出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代後期後葉～晩期の遺構の可能性が高い。

**第11号土坑**(SK11、図55)

[位置・確認]調査区中央部、N32-18・19グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.2～34.3m、第V層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形]長軸96cm、短軸67cmの楕円形で、深さは70cmである。壁は底面からやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形状である。底面は第VI・VII層中に構築されており、概ね平坦である。

[堆積土]7層に分層される。全体的にロームブロックの混入が多くみられ、人為的に埋め戻されていると考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等]図示していないが、縄文時代前期とみられる土器の小破片が2点(5.5g)出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期の遺構の可能性が高い。

**第12号土坑**(SK12、図55)

[位置・確認]調査区中央北側寄り、N32-11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.4～34.6m、第IV層で確認した。SK23と重複するが、本遺構の完掘時に壁面で重複を確認したことから、平面的な重複関係は確認していない。

[規模・平面形]開口部長軸209cm、短軸179cmの楕円形、底面長軸168cm、短軸167cmの円形で、深さは123cmである。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは大きく開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層中に構築されており、平坦である。

[堆積土]7層に分層される。下位はローム混じりの暗褐色土、中位はロームを多く含む堆積が確認できることから、人為的に埋め戻されていると考えられる。最上層1層は、混入物もみられるが比較的均質であることから、自然堆積の可能性が高い。

[出土遺物・遺構の時期等]図示していないが、縄文時代前期末葉と後期後葉～晩期とみられる破片土器がそれぞれ8点(計61.9g)出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代後期後葉～晩期の遺構の可能性が高い。

**第13号土坑**(SK13、図55・62)

[位置・確認]調査区中央北寄り、N32-11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.3～34.4m、第IV層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形]南西側半分以上が調査区域外にあるため平面形は不明である。調査区内で確認した規模は、開口部長軸(159)cm、短軸(60)cm、底面長軸(131)cm、短軸(74)cmで、深さは148cmである。壁は底面から中位屈曲部まではやや直立気味に立ち上がり、内傾し、屈曲部から開口部までは真っ直ぐ立ち上がり、開口部近くで大きく開く。断面形は不整なフラスコ状を呈する。底面は開口部より全体的に少し北側に位置する。底面は第X層上面に構築されており、平坦である。

[堆積土]6層に分層される。全体的にロームの混入がみられ、人為的に埋め戻された可能性が高い。

[出土遺物・遺構の時期等]縄文土器の破片が21点(356.0g)出土しており、このうち前期末葉とみられる深鉢の底部破片(図62-10)を図示した。また、扁平打製石器2点(図62-11・12)が出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構と考えられる。

#### 第14号土坑 (SK14→SP16)

精査の結果、SP16に遺構番号を変更した。

#### 第15号土坑 (SK15、図53)

[位置・確認]調査区中央部、N32-19グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.2~34.3m、第IV層で確認した。SK04と重複し、本遺構が古い。

[規模・平面形]SK04との重複により開口部の南東側は残存していないが、SK04よりも深いため底面は全形を確認した。底面の規模と平面形は、長軸176cm、短軸150cmの楕円形で、深さは121cmである。壁は、底面から中位屈曲部まではやや膨らみをもって立ち上がってから強く内傾し、屈曲部から開口部までは直立気味に立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第X層中に構築されており、やや凹凸がある。

[堆積土]8層に分層される。全体的にローム主体またはロームの混入が多く、最下層近くにロームの堆積がみられることから、廃棄後間もなく人為的に埋め戻されていると考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等]図示していないが、縄文時代前期末葉の破片土器が9点(123.0g)出土している。重複関係、堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

#### 第16号土坑 (SK16、図55)

[位置・確認]調査区中央部、N32-19グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.2~34.3m、第V層で確認した。SP17と重複し、本遺構が新しい。

[規模・平面形]開口部長軸63cm、短軸49cmの楕円形、底面長軸74cm、短軸62cmの楕円形で、深さは28cmである。壁は底面から開口部まで内傾して立ち上がり、断面形は台形状を呈する。底面は第VI・VII層中に構築されており、平坦である。

[堆積土]2層に分層され、人為的に埋め戻されているとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等]図示していないが、縄文時代前期末葉の破片土器が3点(66.9g)出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

#### 第17号土坑 (SK17、図55・63)

[位置・確認]調査区中央南寄り、N32-21・22グリッドに位置する。遺構確認面の標高は33.7~34.0m、第V層で確認した。SK18と重複し、本遺構が新しい。

[規模・平面形]開口部長軸176cm、短軸150cmの楕円形、底面長軸169cm、短軸149cmの楕円形で、深さは142cmである。壁は底面から中位屈曲部までは直立気味に立ち上がってからわずかに内傾し、屈曲部から開口部までは開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第X層上面に構築されており、平坦である。底面は開口部より全体的に南西側に位置する。

[堆積土]9層に分層される。下位はローム主体、中位はロームや炭化物混じりの人為堆積である。底部直上にロームが厚く堆積しており、廃絶後すぐに埋め戻されたとみられる。1層は自然堆積である。[出土遺物・遺構の時期等]縄文土器の破片が22点(456.0g)出土しており、このうち円筒下層d式

とみられる深鉢(図63-1~3)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構と思われる。

#### 第18号土坑(SK18、図55・63)

[位置・確認]調査区中央南寄り、N32-21・22グリッドに位置する。遺構確認面の標高は33.6~33.9m、第V層で確認した。SK17と重複し、本遺構が古い。

[規模・平面形]北側がSK17との重複により壊されているため全形は不明であるが、開口部長軸135cm、短軸(121)cm、底面長軸156cm、短軸(109)cmで、楕円形を呈していたとみられる。深さは119cmである。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第X層上面に構築されており、やや湾曲して中央部が低い。また、底面のほぼ中央に直径29×25cm、深さ10cmのピットを検出した。

[堆積土]8層に分層される。2~7層に炭化物の混入がみられ、特に6層は混入率が高い。人為的に埋め戻されているとみられる。1層は自然堆積である。

[出土遺物・遺構の時期等]縄文土器の破片が20点(479.0g)出土しており、円筒下層d式とみられる深鉢(図63-4)を図示した。重複関係、堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構と思われる。

#### 第19号土坑(SK19、図56)

[位置・確認]調査区中央南寄り、N32-22グリッドに位置する。遺構確認面の標高は33.3~33.6m、第V層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形]西側半分以上が調査区域外にあるため全形は不明である。調査区内で確認した規模は、開口部長軸(183)cm、短軸(66)cm、底面長軸(165)cm、短軸(52)cmで、深さは142cmである。壁は底面から開口部まで直立して立ち上がり、断面形は不整な箱型を呈する。底面は第X層中に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土]4層に分層される。全体的にローム主体またはローム混じりで、最下層はローム主体の堆積であることから、廃棄後間もなく人為的に埋め戻されていると考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土していないが、堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高いと思われる。

#### 第20号土坑(SK20、図56・63)

[位置・確認]調査区中央部、N32-20グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.1~34.2m、第V層で確認した。重複する遺構は認められなかったが、北東部が風倒木で壊されている。

[規模・平面形]開口部長軸103cm、短軸101cmの円形、底面長軸124cm、短軸122cmの円形で、深さは81cmである。壁は底面から中位屈曲部までは緩やかに内傾し、屈曲部から開口部までは直立気味に立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層上面に構築されており、若干起伏がみられる。図化していないが、断面図や完掘写真から、底面のやや北東寄りにピットがあったとみられる。

[堆積土]6層に分層される。最下層の6層はロームが若干混入するが比較的均質な黒褐色土で、自然

堆積とみられる。上位の1～5層は、崩落を伴う人為的な埋め戻しによる堆積の様相が強い。

[出土遺物・遺構の時期等]縄文土器の破片が7点(201.5g)出土しており、このうち円筒下層d式とみられる深鉢(図63-5)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高いと思われる。

#### 第21号土坑(SK21、図56)

[位置・確認]調査区中央南寄り、N32-19・20グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.1～34.2m、第V層で確認した。SK37と重複し、本遺構が新しい。また、風倒木により南東側が壊されている。[規模・平面形]開口部長軸147cm、短軸137cmの円形、底面長軸161cm、短軸160cmの円形で、深さは116cmである。底面は開口部より全体的に約10cm南東側に位置する。壁は底面から中位屈曲部までは内傾して立ち上がり、屈曲部から開口部までは緩やかに開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土]7層に分層される。全体的にローム主体またはローム混じりで、人為的に埋め戻されている。[出土遺物・遺構の時期等]図示していないが、堆積土中から縄文時代前期末葉の破片土器が6点(43.9g)出土している。重複関係、堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

#### 第22号土坑(SK22、図56・63)

[位置・確認]調査区中央部北寄り、N32-10・11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.2～34.3m、第IV層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形]南西側が調査区域外にあるため全形は不明であるが、開口部、底面ともに概ね円形を呈するとみられる。調査区内で確認した規模は、開口部長軸174cm、短軸(152)cm、底面長軸158cm、短軸(138)cmで、深さは98cmである。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは大きく開いて立ち上がり、断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土]5層に分層される。最下層の5層にはロームブロックやローム粒の混入がみられ、人為的な堆積である。上位層は自然堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等]縄文土器の破片が10点(132.4g)出土しており、このうち後期～晩期とみられる図63-6・7を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代後期～晩期の遺構と思われる。

#### 第23号土坑(SK23、図56・63)

[位置・確認]調査区中央北寄り、N32-11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.4～34.5mである。SK12と重複する。SK12をほぼ完掘した段階で壁面で重複を確認し、その後改めて第IV層で上端を平面的に検出した。このため、SK12との平面的な重複関係は確認していない。

[規模・平面形]開口部長軸132cm、短軸(101)cm、底面長軸169cm、短軸166cmで、平面形は円形を呈していたものとみられる。深さは117cmである。壁は底面から中位屈曲部までは強く内傾し、屈曲部か

ら開口部までは大きく開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層中に構築されており、ほぼ平坦である。また、底面のほぼ中央に直径27×27cm、深さ10cmのピットを検出した。

[堆積土] 8層に分層される。ロームや炭化物をわずかに含む黒褐色または暗褐色土が主体で、崩落を伴う自然堆積の様相を呈しているとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器が破片で23点(375.0g)出土し、このうち晩期の鉢類(図63-8~10)と後期後葉~晩期の深鉢(図63-11)を図示した。図63-8・9はそれぞれ大洞BC式・B1式とみられる。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代後期後葉~晩期の遺構と考えられる。

#### 第24号土坑・第25号土坑(SK24・SK25、図57・63)

[位置・確認] 調査区中央南側、N32-22グリッドに位置する。重複するSI01の床面で検出した。当初1つの土坑として精査を進めたが、断面で2つの土坑の重複であることを確認した。SK25よりSK24が新しい。

[規模・平面形] SI01との重複により上部の大部分は壊されている。また、上記したように断面で2つの土坑の重複であることを確認したことから、各遺構の平面形と規模は不明である。SK24の深さは139cm、SK25は確認できた深さは(61)cmである。底面は第X層中に構築されている。底面に直径19×18cm、深さ約10cmのピットを検出しており、位置関係からSK25に付属する施設とみられる。

[堆積土] SK24は12層に、SK25は4層に分層される。全体的にローム主体またはロームの混入が多く、人為的に埋め戻されているとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文時代前期末葉の破片土器がSK24から4点(53.2g)、SK25から2点(73.8g)出土している。その他に、SK24とSK25一括で取り上げた縄文時代の土器片が6点(113.6g)ある。このうちSK25から出土した円筒下層d式とみられる深鉢(図63-13)と、同じく円筒下層d式とみられるSK24・SK25一括で取り上げた深鉢片(図63-12)を図示した。SK25の4層上面からは石棒(図63-14)が出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物等から、ともに縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

#### 第26号土坑(SK26、図57・64)

[位置・確認] 調査区北部、N32-9グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.2~34.4m、第IV層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形] 開口部長軸115cm、短軸110cmの不整形円形、底面長軸81cm、短軸78cmの楕円形で、深さは32cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。底面は第VI・VII層上面に構築されており、やや凹凸がみられた。

[堆積土] 4層に分層される。ロームや炭化物が混入する暗褐色または黒褐色土が主体で、人為堆積の可能性が高い。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器前期末葉と晩期の破片土器・土製品が合わせて7点(58.6g)出土している。このうち皿状の土製品とみられる図64-1を図示した。欠損品であるが、遺構外から出土している図76-13・14と類似した製品とみられる。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代後期後葉~晩期の遺構の可能性が高い。

### 第27号・第28号土坑(欠番)

土坑として精査を行なったが、攪乱と判断したため欠番とした。

### 第29号土坑(SK29、図57・64・65)

[位置・確認]調査区南部、N32-24グリッドに位置する。遺構確認面の標高は32.5~32.9m、第IV層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形]開口部長軸197cm、短軸170cmの楕円形、底面長軸186cm、短軸160cmの楕円形で、深さは124cmである。壁は底面から中位屈曲部までは直立気味または内傾し、屈曲部から開口部までは開いて立ち上がる。断面形は概ねフラスコ状を呈する。底面は第IX層中に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土]13層に分層される。2~13層は、ローム主体またはロームや炭化物混じりの人為堆積とみられ、最上層の1層は炭化物の混入がみられるが、自然堆積の可能性もある。

[出土遺物・遺構の時期等]底面の東壁際で完形土器(図64-2)が横位で、屈曲部近くの西壁際から完形土器(図64-3)が横位で、同じく屈曲部近くの南壁際から略完形土器(図64-4)が斜位で出土した。いずれも円筒下層d1式とみられる。その他、縄文土器の破片が280点(3,319.5)gと多く出土し、円筒下層d式とみられる深鉢片(図64-5~13)を図示した。石器は石匙(図65-1)・石剣(図65-2)・扁平打製石器(図65-3)が出土した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代前期末葉の遺構と考えられる。

### 第30号土坑(SK30、図57)

[位置・確認]調査区北部、N32-8・9グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.3~34.5m、第IV層で確認した。SK31と重複し、本遺構が古い。

[規模・平面形]北西部はSK31との重複、北西部は攪乱を受けて遺存していないが、平面形は開口部、底面ともに概ね円形を呈していたとみられる。残存部の規模は、開口部長軸(161)cm、短軸(126)cmの楕円形、底面長軸(140)cm、短軸(124)cmで、深さは35cmである。壁は底面からやや開いて立ち上がる。底面は第V層中に構築されており、凹凸がみられる。

[堆積土]2層に分層される。2層は暗褐色土とロームの混合層で、人為的に埋め戻されたとみられる。1層は自然堆積の可能性が高い。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土していない。堆積土の様相、遺構の形状、重複関係などから縄文時代後期後葉~晩期以前の遺構と考えられる。

### 第31号土坑(SK31、図57・65)

[位置・確認]調査区北部、N32-8グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.2~34.4m、第IV層で確認した。SK30と重複し、本遺構が新しい。

[規模・平面形]開口部長軸146cm、短軸127cmの楕円形、底面長軸150cm、短軸144cmの円形で、深さは110cmである。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第VI・VII層中に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 5層に分層される。1・2層はロームブロックやローム粒が比較的多く混入し、人為的に埋め戻されているとみられる。下位層は自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器の破片が6点(67.6g)出土しており、このうち後期後葉～晩期の深鉢(図65-4)と前期末葉の深鉢(図65-5)の破片を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代後期後葉～晩期の遺構の可能性が高い。

### 第32号土坑(SK32、図58)

[位置・確認] 調査区北部、N32-8・9グリッドに位置する。遺構確認面の標高は33.7～33.8m、第V層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形] 開口部長軸127cm、短軸105cmの楕円形、底面長軸104cm、短軸97cmの円形で、深さは47cmである。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは開いて立ち上がり、断面形はフラスコ状を呈する。底面は第VI・VII層中に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層され、ロームや炭化物が混入することから人為的に埋め戻されているとみられる。  
[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、堆積土中から縄文時代前期末葉の破片土器が1点(14.8g)出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物から縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

### 第33号土坑(SK33、図58・65)

[位置・確認] 調査区南側、N32-24・25グリッドに位置する。遺構確認面の標高は31.8～32.1m、第V層で確認した。SK38と重複し、本遺構が新しい。

[規模・平面形] 南西側の一部が調査区域外にある。開口部長軸(143)cm、短軸143cmの楕円形、底面長軸167cm、短軸154cmの円形で、深さは86cmである。壁は底面から中位屈曲部までは強く内傾し、屈曲部から開口部までは直立気味に立ち上がり、断面形は不整なフラスコ状を呈する。底面は第IX層中に構築されており、やや湾曲し、中央部が周囲より深い。

[堆積土] 6層に分層される。全体的にロームや炭化物の混入がみられ、人為的に埋め戻されているとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 底面の南壁際で完形土器(図65-6)が横位で出土した。その他、縄文土器の破片が68点(446.2g)出土しており、深鉢片(図65-7・8)を図示した。いずれも円筒下層d式とみられる。また、スクレイパー2点(図65-9・10)が出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代前期末葉の遺構と考えられる。

### 第34号・第35号・第36号土坑(欠番)

土坑として精査を行なったが、攪乱と判断したため欠番とした。

### 第37号土坑(SK37、図56・65)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、N32-19・20グリッドに位置する。SK21精査時の土層断面で確認した。SK21、SP07と重複し、いずれの遺構よりも本遺構が古い。

[規模・平面形] 土層断面で遺構を確認したことから、規模と平面形は不明である。深さは76cmであ

る。壁は底面から中位まではほぼ直立して立ち上がり、そこから開口部に向けて大きく開く。底面は第VI・VII層中に構築されている。

[堆積土] 2層に分層される。ロームブロックやローム粒が混入しており、人為的に埋め戻されているとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器の破片が3点(43.1g)出土しており、このうち円筒下層d式とみられる深鉢の破片(図65-11)を図示した。重複関係、堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

#### 第38号土坑(SK38、図58)

[位置・確認] 調査区南側、N32-24・25グリッドに位置する。SK33底面下で確認した。SK33と重複し、本遺構が古い。

[規模・平面形] 上端はSK33との重複により壊されており、規模や平面形は不明である。底面長軸111cm、短軸95cmの円形で、確認できた深さは45cmである。壁は底面から強く内傾して立ち上がっていたとみられるが、残存部が少なく詳細は不明である。底面は第X層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 最下層に堆積した1層のみ確認した。炭化物の混入が多く、人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していない。重複関係から縄文時代前期末葉以前の遺構と考えられる。

#### 第39号土坑(SK39、図58・65)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、N32-12・13グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.3~34.4m、第V層で確認した。SK44と重複し、本遺構が新しい。

[規模・平面形] 開口部長軸96cm、短軸(69)cmの楕円形、底面長軸128cm、短軸121cmの円形で、深さは131cmである。底面は開口部より全体的に約10~20cm北東側に位置する。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは開いて立ち上がり、断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層中に構築されており、やや起伏がみられる。

[堆積土] 5層に分層される。ロームや炭化物の混入がみられ、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器の破片が5点(124.8g)出土しており、このうち円筒下層d式とみられる深鉢片(図65-12)を図示した。石器は石匙(図65-13)、扁平打製石器(図65-14)が出土した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代前期末葉の遺構と思われる。

#### 第40号土坑(SK40、図58)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、N32-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.3~34.4m、第V層で確認した。SK48と重複し、本遺構が古い。

[規模・平面形] SK48との重複により北側の一部が壊されているが、開口部長軸190cm、短軸165cmの楕円形、底面長軸174cm、短軸142cmの楕円形で、深さは74cmである。壁は底面からやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。底面は第VI・VII層中に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] ロームと炭化物を含む褐色土の単一土層で、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していないが、重複関係から縄文時代前期末葉以前の遺構と考えられる。

#### 第41号土坑 (SK41、図59)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、N32-11・12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.4~34.5 m、第V層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形] 開口部長軸122cm、短軸114cmの円形、底面長軸170cm、短軸151cmの円形で、深さは137cmである。壁は底面から中位屈曲部までは直立気味、または内傾し、屈曲部から開口部までは開いて立ち上がる。断面形は南東側に大きく入り込んだフラスコ状を呈する。底面は第IX層中に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 最下層の5層は自然堆積の可能性もあるが、ローム主体の2層により開口部近くまで人為的に埋め戻されている。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、堆積土中から縄文時代前期末葉の土器片が2点(37.2g)出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

#### 第42号土坑 (SK42、図59・66)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、N32-11・12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.4~34.5 m、第V層で確認した。SK45と重複し、調査区壁断面で本遺構が新しいことを確認した。

[規模・平面形] 南西側が調査区域外にある。調査区内で確認した規模は、開口部長軸152cm、短軸(138)cm、底面長軸187cm、短軸(158)cmの円形で、概ね円形を呈しているとみられる。深さは140cmである。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは大きく開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層中に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 土層の堆積は、土坑中央部分(A-A')と、上位堆積土が残る調査区壁面(B-B')の2カ所で確認した。10層に分层される。最下層10層は自然堆積土、中位の2~9層は崩落土または人為堆積土とみられる。1層はローム主体の層で、人為的にロームで蓋をしたとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器の破片が13点(139.6g)出土しており、このうち後期~晩期の鉢類(図66-1・2)、前期末葉の深鉢(図66-3)を図示した。図66-1は大洞C1式とみられる。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代後期後葉~晩期の遺構の可能性が高いと思われる。

#### 第43号土坑 (SK43、図59)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、N32-11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.5m、第V層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形] 開口部長軸153cm、短軸101cmの楕円形、底面長軸131cm、短軸82cmの楕円形で、深さは23cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は浅い逆台形状を呈する。底面は第VI・VII層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] ロームを含む褐色土の単一層で、人為的に埋め戻されている。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しておらず、縄文時代の遺構と思われるが、詳細は不明である。

#### 第44号土坑 (SK44、図58・66)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、N32-13グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.3~34.4m、第IV層で確認した。SK39と重複し、本遺構が古い。上部は攪乱を受けて遺存していない。

[規模・平面形] 攪乱により開口部規模は不明である。底面長軸187cm、短軸181cmの円形で、深さは89cmである。壁は底面から中位屈曲部にかけて大きく内傾して立ち上がる。断面形は底部が大きく開いたフラスコ状を呈していたとみられる。底面は第IX層中に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 5層に分層される。全体的にローム主体またはロームや炭化物混じりで、最下層5層はローム主体であることから、廃棄後間もなく人為的に埋められたと考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 2層上面から円筒下層d1式とみられる完形土器(図66-4)が横位で潰れた状態で出土している。その他、縄文土器片が46点(596.0g)出土しており、深鉢片(図66-5~8)を図示した。いずれも円筒下層d式である。石器は、石筥(図66-9)、扁平打製石器(図66-10)、凹石(図66-11)が出土した。図66-9は底面から出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代前期末葉の遺構と思われる。

#### 第45号土坑 (SK45、図59)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、N32-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.4~34.5m、第V層で確認した。SK42と重複し、本遺構が古い。

[規模・平面形] 半分以上が西側調査区域外にあるため全形は不明である。調査区内で確認した規模は、開口部長軸(202)cm、短軸(78)cm、底面長軸(163)cm、短軸(69)cmで、深さは130cmである。壁は底面から中位屈曲部までは内傾し、屈曲部から開口部までは大きく開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 4層に分層される。ローム主体、またはロームや炭化物を含む人為堆積土である。最下層4層はローム主体であることから、廃棄後間もなく人為的に埋め戻されたものとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していないが、重複関係、堆積土の様相、遺構の形状などから縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

#### 第46号・第47号土坑 (欠番)

SK46は土坑として精査を行なったが、攪乱と判断された。SK47はSK46と同一遺構と判断したため、ともに欠番とした。

#### 第48号土坑 (SK48、図58・66)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、N32-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.4m、第IV層で確認した。SK40と重複し、本遺構が新しい。

[規模・平面形] 開口部長軸139cm、短軸129cmの円形、底面長軸181cm、短軸159cmの楕円形で、深さは

99cmである。底面は開口部より全体的に約10～20cm南西側に位置する。壁は底面から中位屈曲部にかけて内傾し、屈曲部から開口部にかけて開いて立ち上がる。断面形はやや不整なフラスコ状を呈する。底面は第IX層上面に構築されており、ほぼ平坦である。また、底面のほぼ中央で直径17×15cm、深さは7cmのピットを検出した。

[堆積土] 8層に分層される。下位5～8層は、崩落を伴う自然堆積とみられ、中位3～4層はローム主体またはロームブロックが混入する人為堆積である。上位1・2層は自然堆積の可能性が高い。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文時代前期末葉の深鉢1点(13.4g)(図66-12)が出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

#### 第49号土坑(SK49、図59)

[位置・確認] 調査区中央南より、N32-22・23グリッドに位置する。遺構確認面の標高は33.4～33.6m、第V層で確認した。SK53と重複し、本遺構が新しい。なお、本遺構は東側半分近くが調査区域外にあるが、調査区に近接した場所なりにご畑の暴風ネット支柱が埋め込まれていたことから、安全を考慮して部分的な調査に止めた。

[規模・平面形] 東側半分近くが調査区域外にあるため全形は不明である。調査区内で確認した規模は、開口部長軸169cm、短軸(133)cm、底面長軸(72)cmである。深さは132cmである。壁は底面から中位屈曲部までは直立気味に、屈曲部から開口部までは開いて立ち上がる。底面はSK53堆積土中に構築されており、ほぼ平坦とみられる。

[堆積土] 5層に分層される。下位の4・5層はロームの混入が多く人為堆積とみられるが、上位の1～3層は自然堆積の可能性が高い。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、縄文時代前期末葉の破片土器が1点(8.3g)出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

#### 第50号土坑(SK50、図60・66)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、N32-13グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.3～34.4m、第V層で確認した。重複する遺構は認められなかったが、風倒木によって上部が大きく壊されている。

[規模・平面形] 東側半分以上が調査区域外にあり、風倒木による破壊のため平面形は不明である。調査区内で確認した規模は、開口部長軸124cm、短軸(60)cm、底面長軸(192)cm、短軸(75)cmで、深さは140cmである。壁は底面から中位屈曲部までは外側へ袋状に大きく膨らんでから内傾する。断面形は不整なフラスコ状を呈する。底面は第IX層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 7層に分層される。ローム主体またはローム混じりで人為的に埋め戻されているとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器の破片が38点(488.5g)出土しており、このうち深鉢片(図66-13・14)を図示した。いずれも円筒下層d式とみられる。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

#### 第51号土坑(SK51、図60)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、N32-20グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.1～34.2m、

第IV層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形]長軸74cm、短軸51cmの楕円形で、深さは19cmである。壁は底面から開いて立ち上がり、断面形は浅い逆台形状を呈する。底面は第VI・VII層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土]2層に分層される。下位の2層は崩落土ともみられ、ロームが混入する。上位の1層は自然堆積の可能性が高い。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明である。

#### 第52号土坑 (SK52→SP15)

精査の結果、SP15に遺構番号を変更した。

#### 第53号土坑 (SK53、図59)

[位置・確認]調査区中央南寄り、N32-22グリッドに位置する。遺構確認面の標高は33.5~33.7m、第V層で確認した。SK49と重複し、本遺構が古い。なお、SK49と同様、調査区域外に近接して支柱が埋設されていたため、安全を考慮して部分的な調査に止めた。

[規模・平面形]半分近くが東側調査区域外にあり、SK49との重複や攪乱を受けていること、部分的な調査であることから、平面形状と規模も不明である。深さは188cmである。壁は底面から開口部にかけてやや開きながら立ち上がる。底面は第X層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土]12層に分層される。全体的にローム主体の堆積で、廃棄後間もなく屈曲部の壁を壊しながら人為的に埋め戻されたとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等]遺物は出土していないが、重複関係、堆積土の様相、遺構の形状などから縄文時代前期末葉以前の遺構とみられる。

#### 第54号・第55号土坑 (欠番)

土坑として精査を行なったが、攪乱と判断したため欠番とした。

#### 第56号土坑 (SK56、図60)

[位置・確認]調査区中央北寄り、N32-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.4~34.5m、第V層で確認した。SK57と重複し、本遺構が古い。

[規模・平面形]東側半分以上が調査区域外にあるため平面形は不明である。調査区内で確認した規模は、開口部長軸(126)cm、短軸(51)cmの楕円形、底面長軸(144)cm、短軸(55)cmで、深さは116cmである。壁は底面から中位屈曲部まではやや内傾し、屈曲部から開口部までは直立気味に立ち上がり、断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層中に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土]4層に分層される。全体的にローム主体の堆積で、廃棄後間もなく人為的に埋め戻されたとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等]図示していないが、縄文時代前期末葉とみられる土器の小破片が2点(6.1g)出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高い。

**第57号土坑 (SK57、図60・66)**

[位置・確認] 調査区中央北寄り、N32-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.4～34.5mである。SK56精査中に壁面でSK57堆積土を確認した。SK56と重複し、本遺構が新しい。

[規模・平面形] 半分以上が東側調査区域外にあるため平面形は不明である。また、北側は上部が攪乱されているため開口部の規模は不明である。調査区内で確認した規模は、底面長軸(127)cm、短軸(33)cmで、深さは116cmである。壁は底面から中位屈曲部までは強く内傾し、屈曲部から開口部までは開いて立ち上がる。断面形はフラスコ状を呈する。底面は第IX層中に構築されており、ほぼ平坦である。また、底面のほぼ中央で直径31×(13)cm、深さ14cmのピットを検出した。

[堆積土] 4層に分層される。ロームなどの混入が多く見られ、人為的に埋め戻されたと考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器の破片が2点(70.2g)出土しており、このうち円筒下層d式とみられる深鉢の破片(図66-15)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代前期末葉の遺構の可能性が高いと思われる。

**第58号土坑 (欠番)**

土坑として精査を行なったが、攪乱と判断したため欠番とした。

**第59号土坑 (SK59、図60)**

[位置・確認] 調査区南側、N32-30・31グリッドに位置する。遺構確認面の標高は27.8～27.9m、第IV層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形] 開口部長軸98cm、短軸64cmの楕円形、底面長軸90cm、短軸50cmの楕円形で、深さは22cmである。壁は底面から開いて立ち上がる。底面は第VI層中に構築されており、やや丸味をもつ。

[堆積土] 黒褐色主体の2層に分層され、2層は自然堆積、1層は人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しておらず、時期は不明である。

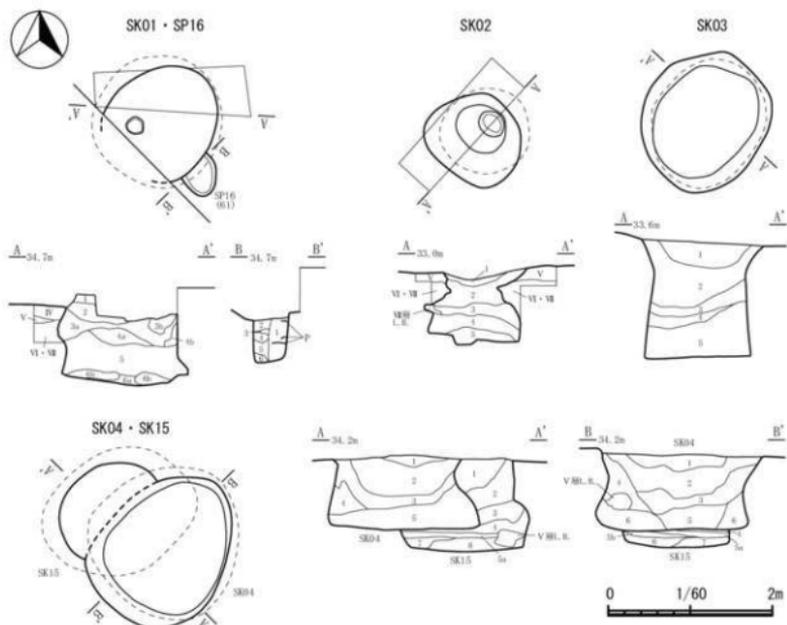
**第60号土坑 (SK60、図60・66)**

[位置・確認] 調査区南側、N32-23・24グリッドに位置する。遺構確認面の標高は33.0～33.3m、第V層で確認した。重複する遺構は認められなかったが、西側の上部が一部攪乱を受けている。

[規模・平面形] 東側半分近くが調査区域外にあるため平面形は不明である。調査区内で確認した規模は、開口部長軸(219)cm、短軸(102)cm、底面長軸(183)cm、短軸(96)cmで、深さは112cmである。壁は底面から中位屈曲部にかけてやや内傾し、屈曲部から開口部にかけて開いて立ち上がる。断面形は箱型に近い。底面は第X層上面に構築されており、ほぼ平坦である。

[堆積土] 6層に分層される。下位の4～6層はローム主体またはロームの混入が多く見られることから、廃棄後間もなく人為的に埋め戻されたと考えられる。上位1～3層は自然堆積である。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器の破片が4点(46.1g)出土しており、このうち円筒下層d式とみられる深鉢(図66-16)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから縄文時代前期末葉の遺構と思われる。



<b>SK01</b>	1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5cm)2%, 炭化物(φ3mm)1%
	2層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~18mm)1%, 炭化物(φ1~8mm)1%
	3a層	10YR2/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~6mm)3%, 炭化物(φ1~20mm)2%
	3b層	10YR5/8	黄褐色土	ローム粒(φ1~15mm)2%
	4層	10YR4/6	褐色土	10YR3/4暗褐色土15%, ローム粒(φ2~12mm)1%, 炭化物1%
	4b層	10YR4/4	褐色土	ローム粒(φ1~12mm)1%, 炭化物(φ2~5mm)1%
	5層	10YR4/3	赤土	10YR6/8褐色土3%, ローム粒(φ1~20mm)3%, 炭化物(φ1~40mm)2%
	6a層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒(φ1~28mm)4%, 炭化物(φ1~5mm)1%
	6b層	10YR4/6	褐色土	ローム粒(φ1~8mm)1%
<b>SP16</b>	1層	10YR3/3	暗褐色土	柱瓦, ローム粒(φ1~10mm)2%, 炭化物(φ1~14mm)1%
	2層	10YR4/4	褐色土	磁方, ローム粒(φ1~6mm)1%
	3層	10YR5/6	黄褐色土	磁方, ローム粒(φ1~18mm)1%
	4層	10YR4/6	褐色土	磁方, 炭化物(φ1~14mm)1%, 10YR4/6褐色土5%, ローム粒(φ1~8mm)1%, 炭化物(φ1~6mm)1%
	5層	10YR3/4	暗褐色土	磁方, 炭化物(φ1~3mm)1%
	6層	10YR4/6	褐色土	磁方, 炭化物(φ1~3mm)1%
<b>SK02</b>	1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~4mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)1%
	2層	10YR3/2	黒褐色土	10YR5/6黄褐色土10%, ローム粒(φ1~8mm)1%, 炭化物(φ1~3mm)1%
	3層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ2~14mm)2%, ロームブロック(φ1~2mm)1%
	4層	10YR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~70mm)4%, ローム粒(φ1~18mm)2%
	5層	10YR3/2	暗褐色土	ローム粒(φ1~10mm)2%, 炭化物(φ10mm以下)1%
	6層	10YR5/8	黄褐色土	炭化物(φ10mm以下)1%
	7層	10YR5/6	黄褐色土	ロームブロック(φ15~50mm)1%, ローム粒(φ1~10mm)2%, 炭化物(φ10mm以下)1%
	8層	10YR3/3	暗褐色土	ロームブロック(φ15~100mm)5%, ローム粒(φ1~20mm)3%, 炭化物(φ1~20mm)3%
	9層	10YR4/4	褐色土	ローム粒(φ1~30mm)2%, 10YR3/4暗褐色土5%, ロームブロック(φ15~100mm)5%, ローム粒(φ1~10mm)3%, 炭化物(φ10mm以下)1%

<b>SK04</b>	1層	10YR3/4	暗褐色土	10YR2/3暗褐色土30%, 10YR4/6褐色土5%, 10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~10mm)3%, 炭化物(φ1~10mm)2%
	2層	10YR4/6	褐色土	10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~20mm)10%, 炭化物(φ1~10mm)3%, 10YR2/3暗褐色土3%
	3層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/6褐色土20%, 10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~20mm)10%, 10YR2/3暗褐色土3%, 炭化物(φ1~5mm)2%, 10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~20mm)15%, 10YR5/6黄褐色土5%, 10YR2/3暗褐色土3%, 炭化物(φ1~10mm)1%
	4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR5/6黄褐色土10%, 10YR6/8明黄褐色土5%, 10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~10mm)3%, 10YR2/3暗褐色土3%, 炭化物(φ1~20mm)2%
	5層	10YR3/3	暗褐色土	10YR2/3暗褐色土30%, 10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~40mm)10%
<b>SK15</b>	1層	10YR2/3	暗褐色土	10YR3/4暗褐色土20%, 10YR4/6褐色土5%, 10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~20mm)3%, 炭化物(φ1~2mm)1%
	2層	10YR3/4	暗褐色土	10YR4/6褐色土15%, 10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~20mm)10%, 10YR2/3暗褐色土5%, 炭化物(φ1~10mm)3%
	3層	10YR7/8	黄褐色土	10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~20mm)30%, 10YR3/4暗褐色土20%, 10YR6/8明黄褐色土5%, 10YR2/3暗褐色土3%, 炭化物(φ1~5mm)2%, 10YR4/6褐色土10%
	4層	10YR3/4	暗褐色土	10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~15mm)5%, 10YR2/3暗褐色土3%, 炭化物(φ1~20mm)2%, 7.5YR4/6褐色土粒(φ1~15mm)2%
	5層	10YR3/3	暗褐色土	10YR2/3暗褐色土3%, 炭化物(φ1~2mm)1%, 10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~20mm)3%
	6層	10YR5/8	黄褐色土	10YR4/6褐色土40%, 10YR2/3暗褐色土3%, 10YR4/6褐色土10%, 10YR2/3暗褐色土5%, 10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~10mm)3%
	7層	10YR5/6	黄褐色土	10YR5/6黄褐色土2%, 炭化物(φ1~20mm)2%
	8層	10YR3/3	暗褐色土	10YR4/6褐色土20%, 10YR7/8黄褐色土10%, 炭化物(φ1~20mm)3%, 炭化物(φ1~2mm)1%

図53 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 土坑(1)

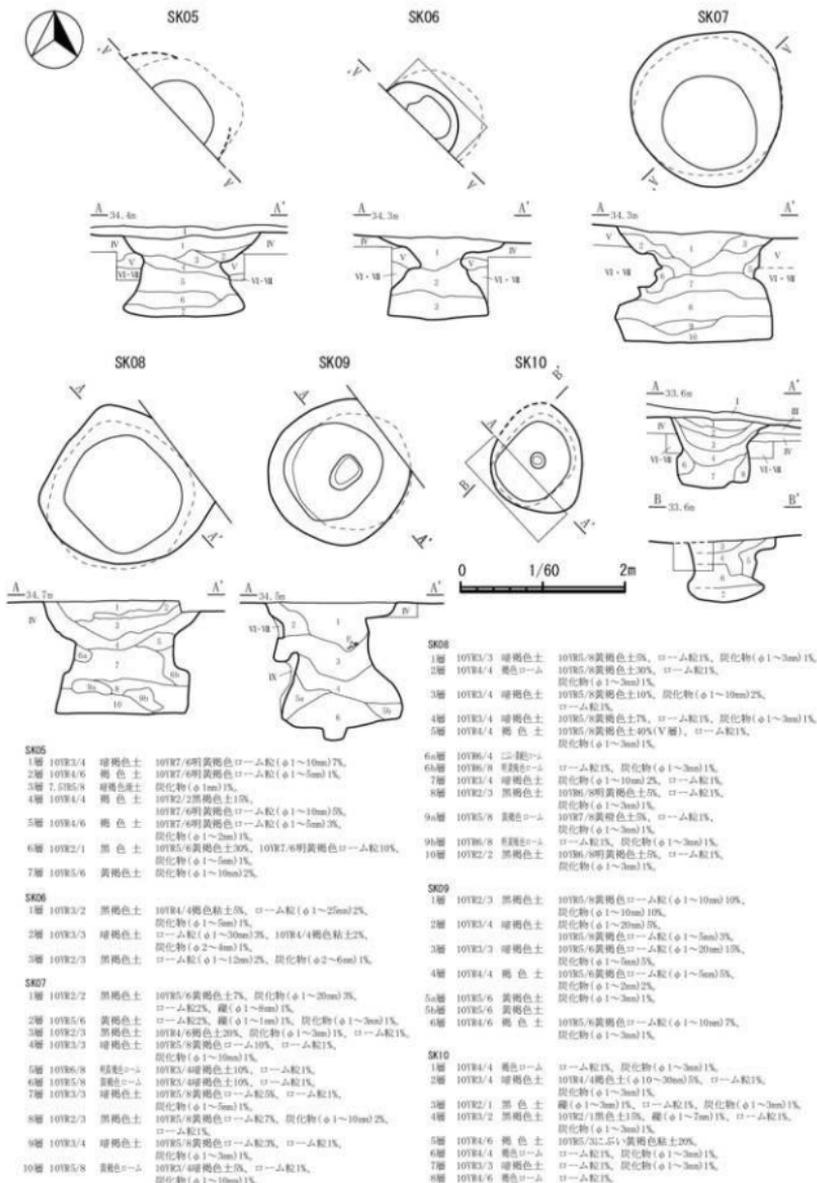
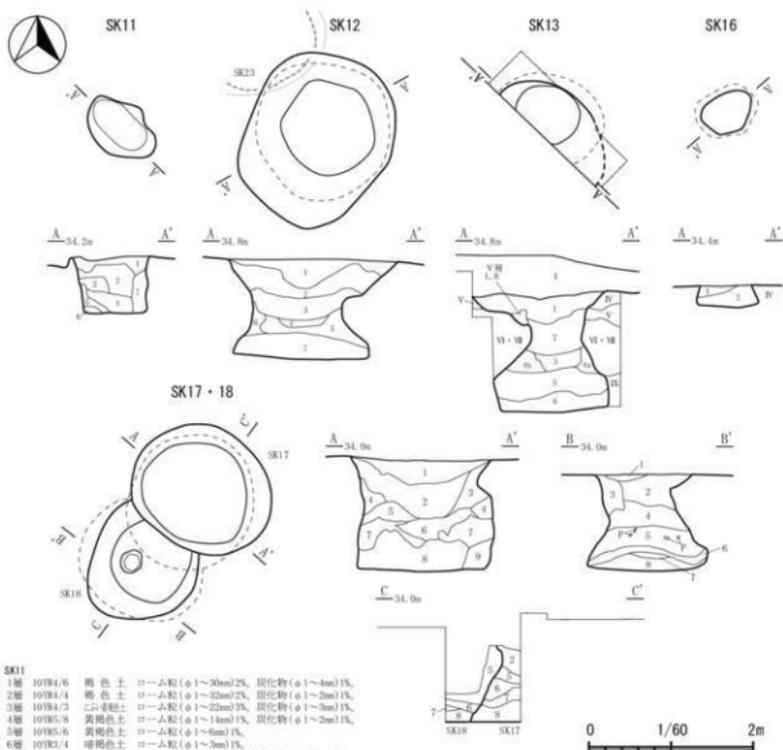


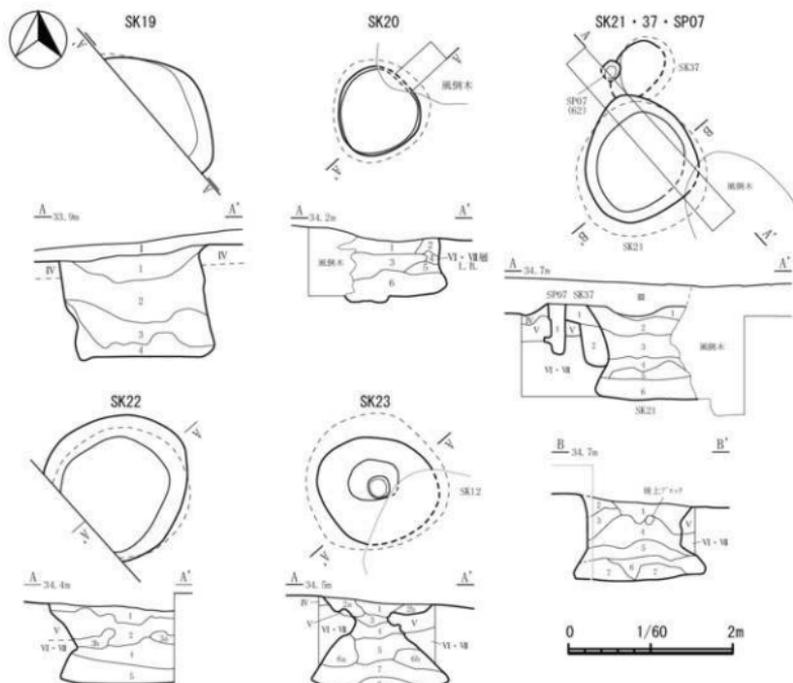
図54 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 土坑(2)



- SK11**
- 1層 10YR4/6 褐色土 ローム粒(φ1~30mm)2%, 炭化物(φ1~4mm)1%,  
2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒(φ1~23mm)2%, 炭化物(φ1~2mm)1%,  
3層 10YR4/3 二色団粒土 ローム粒(φ1~22mm)3%, 炭化物(φ1~3mm)1%,  
4層 10YR5/8 黄褐色土 ローム粒(φ1~14mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)1%,  
5層 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒(φ1~6mm)1%,  
6層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~3mm)1%,  
7層 10YR6/8 明黄褐色土 ローム粒(φ1~6mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)1%,
- SK12**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土2%, 10YR5/8黄褐色土1%,  
10YR7/明黄褐色土ローム粒(φ1~10mm)1%,  
炭化物(φ1~10mm)1%,  
2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/8褐色土2%, 炭化物(φ1~10mm)2%,  
10YR7/8黄褐色土ローム粒(φ1~10mm)2%,  
10YR7/8黄褐色土ロームブロック(φ20~100mm)1%,  
3層 10YR4/4 褐色土 10YR3/4暗褐色土2%,  
10YR5/8黄褐色土ロームブロック(φ20~60mm)2%,  
10YR7/8黄褐色土ローム粒(φ1~10mm)2%,  
炭化物(φ1~20mm)2%,  
4層 10YR3/3 暗褐色土 10YR2/2黒褐色土2%,  
10YR4/4褐色土2%,  
5層 10YR5/4 暗褐色土 10YR4/4褐色土2%, 10YR5/8黄褐色土2%,  
炭化物(φ1~10mm)1%,  
6層 10YR5/8 黄褐色土 10YR4/4褐色土2%,  
7層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/4褐色土2%,
- SK13**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/8褐色土40%, ローム粒(φ1~10mm)1%,  
炭化物(φ1~2mm)1%,  
2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR2/2黒褐色土2%, 10YR4/8褐色土2%,  
ローム粒(φ1~10mm)2%, 炭化物(φ1~2mm)1%,  
3層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/4褐色土2%, ローム粒(φ1~20mm)1%,  
炭化物(φ1~5mm)1%,  
4層 10YR4/4 褐色土 10YR4/8褐色土2%,  
5層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/8褐色土2%, 炭化物(φ1~20mm)1%,  
6層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/8褐色土2%, 炭化物(φ1~2mm)1%,
- SK16**
- 1層 10YR4/6 褐色土 ローム粒(φ1~22mm)10%, 10YR3/4暗褐色土2%,  
炭化物(φ1~2mm)1%,  
2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土10%, ローム粒(φ1~10mm)5%,  
ロームブロック(φ20~80mm)1%, 炭化物(φ1~2mm)1%,

- SK17**
- 1層 10YR1/7 黒色土 10YR2/3暗褐色土10%, ローム粒(φ1~6mm)2%,  
炭化物(φ1~8mm)1%,  
2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色土1%, ローム粒(φ1~22mm)4%,  
炭化物(φ1~30mm)2%,  
3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/6褐色土3%, ローム粒(φ1~4mm)1%,  
炭化物(φ1~6mm)1%,  
4層 10YR4/6 褐色土 10YR4/4褐色土1%, ローム粒(φ1~10mm)1%,  
炭化物(φ1~3mm)1%,  
5層 10YR2/3 暗褐色土 10YR4/6褐色土2%, ローム粒(φ1~4mm)2%,  
炭化物(φ1~14mm)1%,  
6層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~20mm)2%, 炭化物(φ1~8mm)1%,  
7層 10YR5/6 黄褐色土 10YR3/2暗褐色土1%, ローム粒(φ1~26mm)1%,  
炭化物(φ1~2mm)1%,  
8層 10YR5/4 二色団粒土 10YR4/6褐色土40%, ローム粒(φ1~2mm)1%,  
炭化物(φ1~2mm)1%,  
9層 10YR6/6 明黄褐色土 ローム粒(φ1~2mm)1%,
- SK18**
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR2/3暗褐色土20%, 10YR4/4褐色土10%,  
ローム粒(φ1~10mm)2%,  
2層 10YR4/6 褐色土 10YR3/4暗褐色土20%, ローム粒(φ1~5mm)10%,  
炭化物(φ1~20mm)2%,  
3層 10YR4/6 褐色土 10YR5/8黄褐色土10%, 10YR3/4暗褐色土2%,  
10YR6/8明黄褐色粘土3%, ローム粒(φ1~3mm)2%,  
炭化物(φ1~3mm)2%,  
4層 10YR4/4 褐色土 10YR3/4暗褐色土40%, ローム粒(φ1~1.5mm)10%,  
炭化物(φ1~10mm)3%,  
5層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~20mm)20%, 炭化物(φ1~20mm)10%,  
10YR2/3暗褐色土1%,  
炭化物(φ1~30mm)2%, 10YR3/4暗褐色土2%,  
ローム粒(φ1~5mm)3%,  
6層 10YR1/7 黒色土 炭化物(φ1~30mm)10%, ローム粒(φ1~3mm)2%,  
7層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土1%, 10YR5/8黄褐色土1%,  
炭化物(φ1~20mm)2%, ローム粒(φ1~5mm)2%,

図55 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 土坑(3)



## SK19

- 1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~10mm)2%, 炭化物(φ1~3mm)1%,  
 2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~5mm)7%, 炭化物(φ1~2mm)1%,  
 3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~10mm)2%, 炭化物(φ1~3mm)1%,  
 4層 10YR5/6 黄褐色土→ム

## SK20

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR1/4暗褐色土20%, 炭化物(φ1~10mm)5%,  
 2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土10%, 10YR2/3黒褐色土10%,  
 3層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/3暗褐色土10%, 10YR2/3暗褐色土10%,  
 4層 10YR5/8 黄褐色土 10YR3/4暗褐色土20%,  
 5層 10YR3/4 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土→ム砂(φ1~5mm)2%,  
 6層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土→ム砂(φ1~5mm)2%,  
 10YR1/7黒色土20%,  
 10YR6/8明黄褐色土→ム砂(φ1~20mm)2%,

## SK21

- 1層 10YR4/6 褐色土 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~15mm)7%,  
 2層 10YR4/6 褐色土 10YR5/6黄褐色土(V層→ム)15%,  
 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~20mm)10%,  
 炭化物(φ1~5mm)1%,  
 3層 7.5R5/6 明黄褐色土 2.5YR5/8明褐色土20%,  
 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~5mm)2%,  
 4層 10YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ1~5mm)2%,  
 5層 10YR4/4 褐色粘土 10YR6/8明黄褐色粘土10%,  
 6層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土20%,  
 5YR5/8明赤褐色土(φ1~30mm)10%,  
 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~30mm)7%,  
 炭化物(φ1~30mm)2%,  
 10YR5/6黄褐色粘土1%,

## SK22

- 1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR2/1黒褐色土20%, 炭化物(φ1~10mm)1%,  
 →ム砂1%,  
 2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土→ム砂2%, 炭化物(φ1~10mm)1%,  
 →ム砂1%,  
 3a層 10YR5/8 黄褐色土→ム砂1%,  
 10YR3/4暗褐色土1%, →ム砂1%,  
 4層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土→ム砂, 炭化物(φ1~10mm)1%,  
 →ム砂1%,  
 5層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/4褐色土2%, 黄褐色土→ム砂20%, 炭化物(φ1~5mm)1%,  
 →ム砂1%,

## SK23

- 1層 10YR2/3 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~5mm)2%, 炭化物(φ1mm)1%,  
 10YR5/6黄褐色土10%,  
 2a層 10YR4/4 褐色土 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~10mm)5%, 炭化物(φ1mm)1%,  
 10YR5/8黄褐色土→ム砂(φ1~3mm)7%,  
 炭化物(φ1~2mm)2%,  
 3層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土→ム砂(φ1~10mm)7%, 炭化物(φ1mm)1%,  
 4層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~5mm)10%,  
 炭化物(φ1~5mm)1%,  
 5層 10YR3/2 黒褐色土 10YR5/8黄褐色土→ム砂(φ1~10mm)2%,  
 炭化物(φ1~2mm)1%,  
 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~5mm)2%,  
 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~10mm)2%,  
 炭化物(φ1mm)1%,  
 6a層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土→ム砂(φ1~5mm)7%,  
 炭化物(φ1~3mm)2%,  
 6b層 10YR2/3 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土→ム砂(φ1~20mm)2%, 炭化物(φ1mm)1%,  
 6層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土と10YR3/3暗褐色土との混合土が上位に水平に堆積,

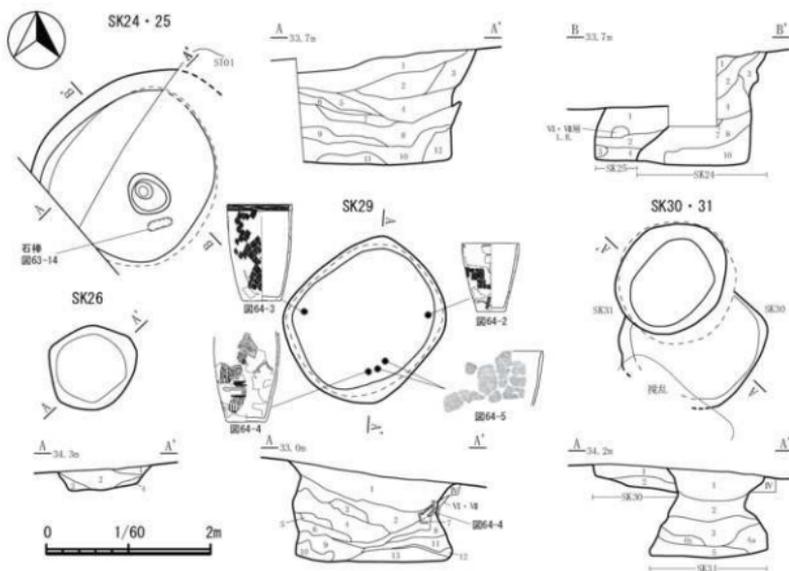
## SK37

- 1層 10YR4/6 褐色土 10YR5/8黄褐色土→ム砂10%, 炭化物(φ1~2mm)2%,  
 2層 10YR4/4 褐色土 10YR3/4暗褐色土20%,  
 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~10mm)2%,  
 炭化物(φ1~5mm)2%,

## SP07

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土→ム砂(φ1~10mm)10%,  
 炭化物(φ1~5mm)2%,

図56 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 土坑(4)



## SK24

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR2/3黒褐色土20%、炭化物(φ1~8mm)7%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~15mm)5%、  
2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土10%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~18mm)7%、  
炭化物(φ1~4mm)5%、  
3層 10YR5/6 黄褐色土 10YR4/6褐色土20%、10YR3/4暗褐色土10%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%、  
炭化物(φ1~2mm)1%、  
4層 10YR4/4 褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~2mm)10%、  
10YR3/4暗褐色土3%、炭化物(φ2~18mm)3%、  
5層 10YR3/3 暗褐色土 10YR2/3黒褐色土10%、  
10YR3/8黄褐色ローム粒(φ1~15mm)7%、  
10YR4/6褐色土2%、炭化物(φ1~8mm)3%、  
6層 10YR4/4 褐色土 10YR4/6褐色粘土10%、10YR3/3暗褐色土5%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ2~20mm)3%、  
10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ20~80mm)2%、  
炭化物(φ1~9mm)2%、  
7層 10YR3/4 暗褐色土 10YR2/2黒褐色土10%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~24mm)7%、  
10YR4/6褐色土1%、炭化物(φ1~14mm)3%、  
8層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土10%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)10%、  
10YR7/4C2.5黄褐色粘土7%、  
10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ20~80mm)3%、  
炭化物(φ1~16mm)2%、  
9層 10YR3/4 暗褐色土 10YR7/4C2.5黄褐色粘土10%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~12mm)7%、  
炭化物(φ1~20mm)3%、  
10層 10YR5/8 褐色土 10YR4/4褐色土10%、10YR7/4C2.5黄褐色粘土3%、  
11層 10YR5/4 赤褐色土 10YR5/8黄褐色土3%、  
12層 10YR7/6 赤褐色土 10YR4/4褐色土3%、

## SK25

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/6褐色土2%、10YR7/8黄褐色浮石(φ1~10mm)2%、  
10YR7/6黄褐色土(φ5~10mm)1%、  
炭化物(φ1~5mm)1%、  
2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR4/6褐色土3%、10YR7/8黄褐色浮石(φ2~10mm)1%、  
炭化物(φ1~3mm)1%、  
3層 10YR6/6 赤褐色土 炭化物粒(φ1~2mm)1%、  
4層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/6褐色土10%、炭化物粒(φ1~2mm)1%、

## SK26

- 1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土20%、ローム粒2%、  
2層 10YR2/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム塊、  
ローム粒1%、炭化物(φ1~10mm)1%、  
3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土20%、ローム粒1%、炭化物(φ1~3mm)1%、  
4層 10YR4/4 褐色土 10YR5/8黄褐色土20%、ローム粒1%、

## SK29

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/4褐色土10%、ローム粒(φ1~10mm)10%、  
炭化物(φ1~12mm)7%、  
2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土15%、炭化物(φ1~20mm)10%、  
ローム粒(φ1~8mm)7%、  
3層 10YR6/4 2-類粘土 10YR4/6褐色粘土10%、10YR3/3暗褐色土1%、  
4層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/6褐色土10%、ローム粒(φ1~10mm)10%、  
炭化物(φ1~10mm)2%、  
5層 10YR5/8 黄褐色土 10YR3/4暗褐色土20%、ローム粒(φ1~10mm)2%、  
6層 10YR4/6 褐色土 10YR5/8黄褐色粘土30%、  
7層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/3暗褐色土20%、炭化物(φ1~20mm)1%、  
10YR4/4褐色土10%、  
8層 10YR4/6 褐色土 10YR3/4暗褐色土40%、炭化物(φ1~15mm)3%、  
9層 10YR5/6 黄褐色土 10YR4/6褐色土20%、炭化物(φ1~5mm)1%、  
10層 10YR6/6 赤褐色土 10YR5/8黄褐色土30%、  
11層 10YR4/4 褐色土 10YR3/3暗褐色土20%、炭化物(φ1~5mm)3%、  
12層 10YR5/8 黄褐色土 10YR4/4褐色土10%、  
13層 10YR3/4 暗褐色土 10YR3/3暗褐色土10%、炭化物(φ1~5mm)2%、

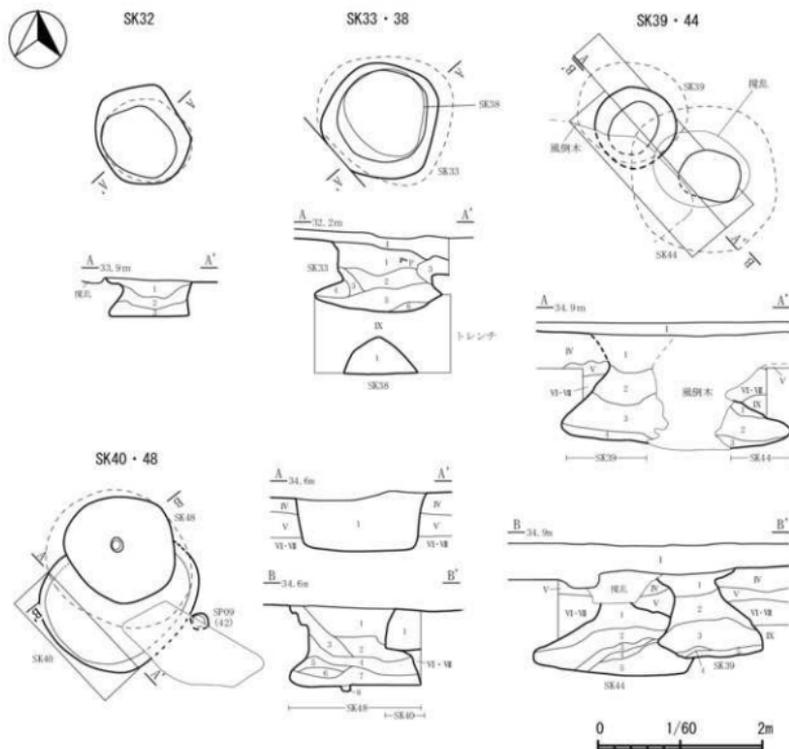
## SK30

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR2/3黒褐色土15%、10YR4/4褐色土10%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)15%、  
10YR7/8黄褐色土5%、炭化物(φ1~10mm)2%、  
2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土20%、10YR4/6褐色土5%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)15%、  
炭化物(φ1~2mm)2%、

## SK31

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/6褐色土5%、10YR5/8黄褐色土7%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%、  
10YR1/71黒土3%、10YR7/8黄褐色土2%、  
炭化物(φ1~2mm)1%、  
2層 10YR2/4 暗褐色土 10YR6/8暗褐色ロームブロック(V層ローム)10%、  
10YR5/8黄褐色土10%、炭化物(φ1~20mm)10%、  
炭化物(φ1~2mm)1%、  
3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土7%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、  
4層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4/4褐色土10%、10YR5/8黄褐色土2%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%、  
炭化物(φ1~5mm)2%、  
4層 10YR2/4 暗褐色土 10YR4/6褐色土10%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%、  
炭化物(φ1~3mm)1%、  
5層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土5%、10YR2/2黒土2%、  
10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%、  
炭化物(φ1~3mm)2%、

図57 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 土坑(5)



## SK32

- 1層 10YR3/4 埴間色土 ローム粒(φ1~15mm)3%, 炭化物(φ10mm以下)1%,  
2層 10YR3/3 埴間色土 炭化物(φ1~20mm)3%, 10YR5/6黄褐色土2%,  
ローム粒(φ1~10mm)2%,  
3層 10YR4/4 褐色土 10YR3/4埴間色土10%, 10YR6/4L黄褐色ローム2%,  
炭化物(φ1~10mm)2%,

## SK33

- 1層 10YR3/4 埴間色土 10YR4/4褐色土40%, 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~2mm)3%,  
炭化物(φ1mm)1%,  
2層 10YR4/4 褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%,  
炭化物(φ1~5mm)2%,  
3層 7.5YR4/4 褐色粘土 10YR5/4L2.5L黄褐色粘土30%, 炭化物(φ1~10mm)2%,  
4層 10YR6/0 明黄褐色土 炭化物(φ1~2mm)1%,  
5層 10YR3/3 褐色土 炭化物(φ1~10mm)2%,  
6層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ1~10mm)2%,

## SK38

- 1層 10YR3/3 埴間色土 炭化物(φ1~15mm)10%, 7.5YR4/6褐色土5%,

## SK39

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/4埴間色土40%,  
10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~20mm)3%,  
炭化物(φ1~2mm)3%,  
2層 10YR4/6 褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~20mm)10%,  
炭化物(φ1~2mm)2%,  
3層 10YR4/4 褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~30mm)3%,  
炭化物(φ1~5mm)3%,  
4層 10YR4/6 褐色土 10YR4/4褐色土5%, 炭化物(φ1~5mm)1%,  
5層 10YR4/6 褐色土 10YR5/6黄褐色粘土5%,

## SK40

- 1層 10YR4/6 褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%,  
炭化物(φ1~2mm)1%,

## SK44

- 1層 10YR4/4 褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%,  
炭化物(φ1~10mm)1%,  
2層 10YR3/4 埴間色土 10YR4/6褐色土10%, 炭化物(φ1~20mm)2%,  
3層 10YR5/6 黄褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%,  
炭化物(φ1~2mm)1%,  
4層 10YR3/4 埴間色土  
5層 10YR4/6 褐色土 10YR5/6黄褐色粘土5%,

## SK48

- 1層 10YR3/4 埴間色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~15mm)5%,  
10YR4/6褐色土5%, 炭化物(φ1~15mm)3%,  
2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/3埴間色土10%,  
10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~15mm)5%,  
炭化物(φ1~10mm)2%,  
3層 10YR4/4 褐色土 10YR6/6明黄褐色ローム30%,  
10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~20mm)10%,  
炭化物(φ1~10mm)1%,  
4層 10YR3/4 埴間色土 10YR6/6明黄褐色ローム30%,  
10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%,  
炭化物(φ1~10mm)1%,  
5層 10YR3/3 埴間色土 10YR6/6明黄褐色土5%,  
10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%,  
炭化物(φ1~15mm)2%,  
6層 7.5YR5/8 明褐色土 10YR5/4L2.5L黄褐色粘土5%,  
7層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色土3%, 炭化物(φ1~25mm)3%,  
10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%,  
8層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%,  
炭化物(φ1~2mm)1%,

図58 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 土坑(6)

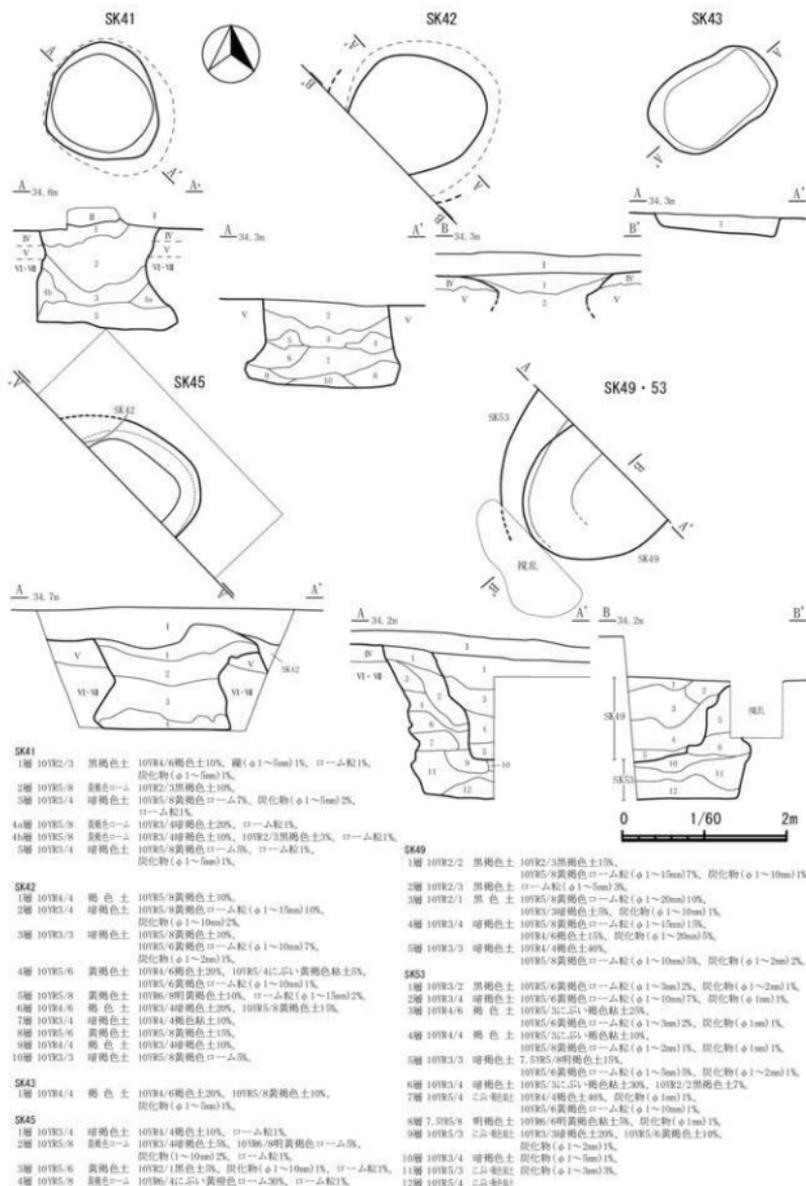


図59 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 土坑(7)

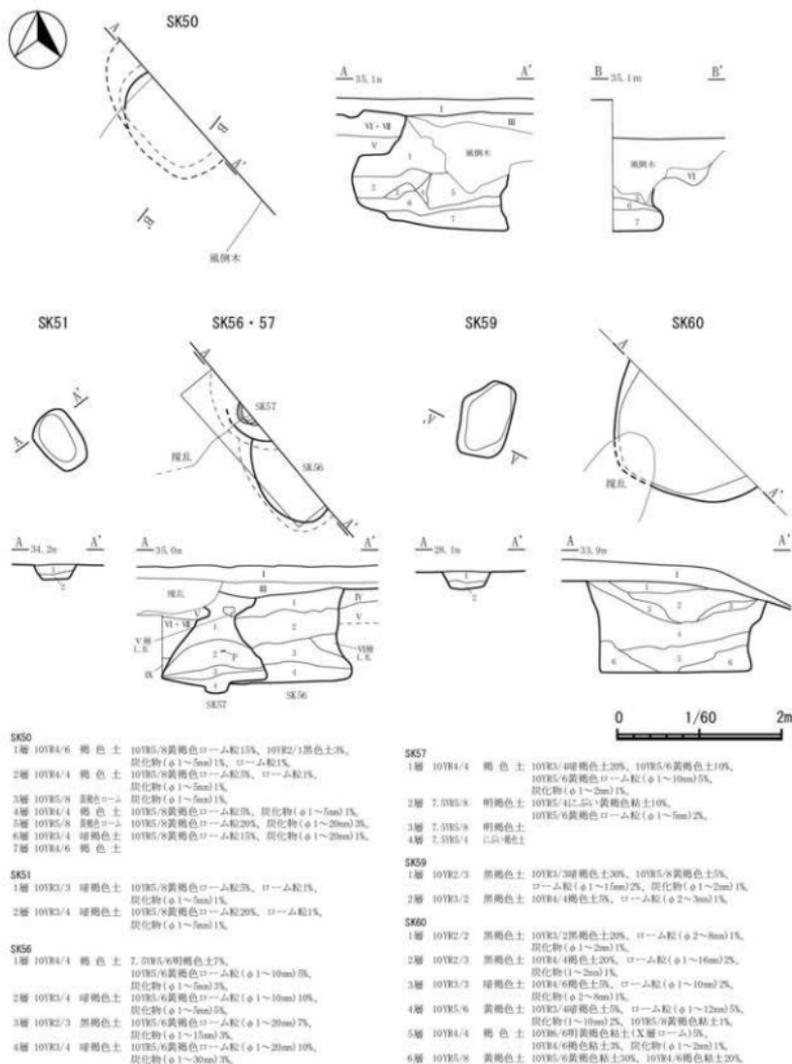


図60 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 土坑(8)

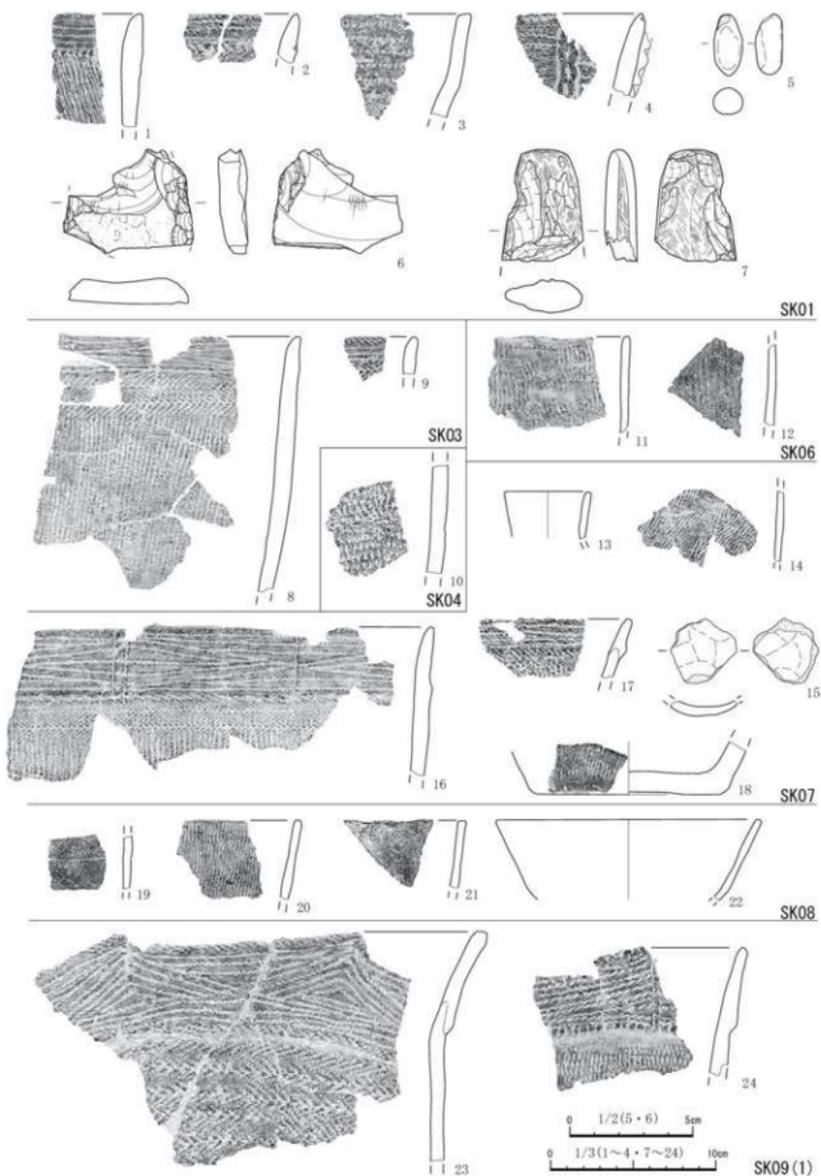


图61 浪岡蚩沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(1)

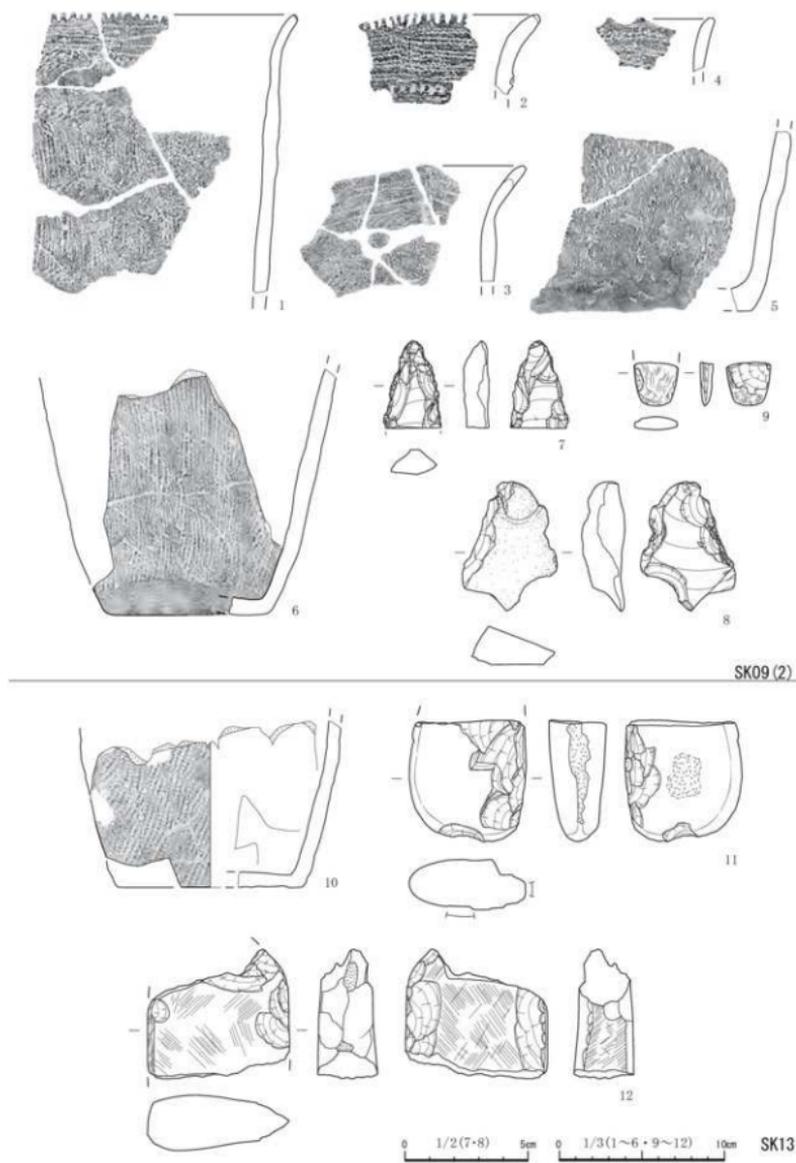


图62 浪岡蛭沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(2)

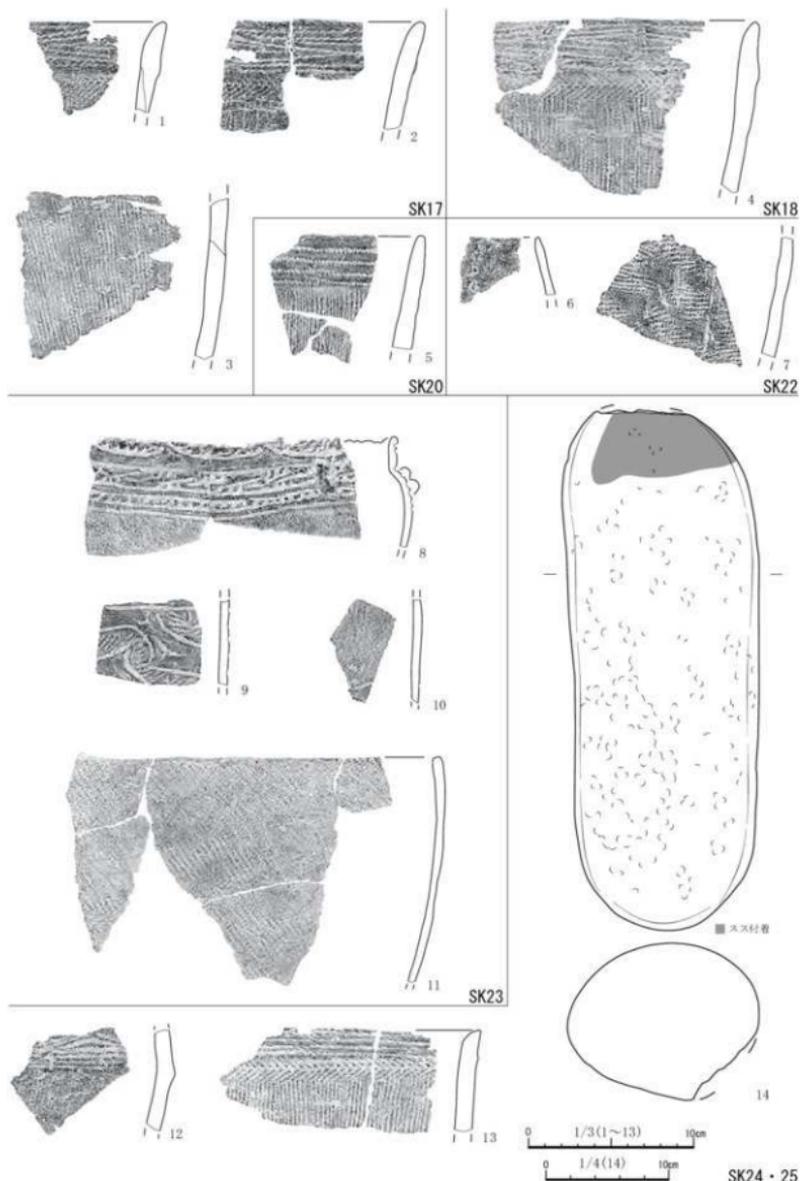


图63 浪岡蜆沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(3)

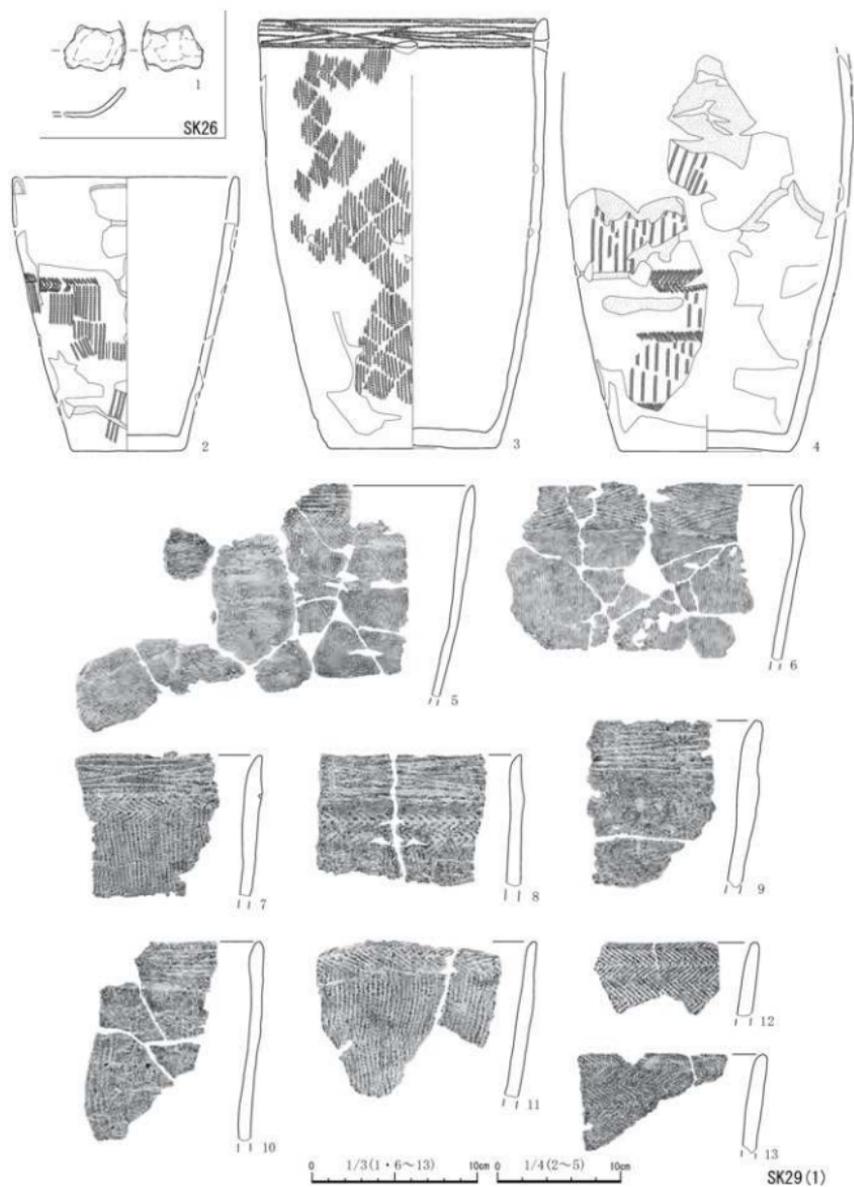


图64 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(4)

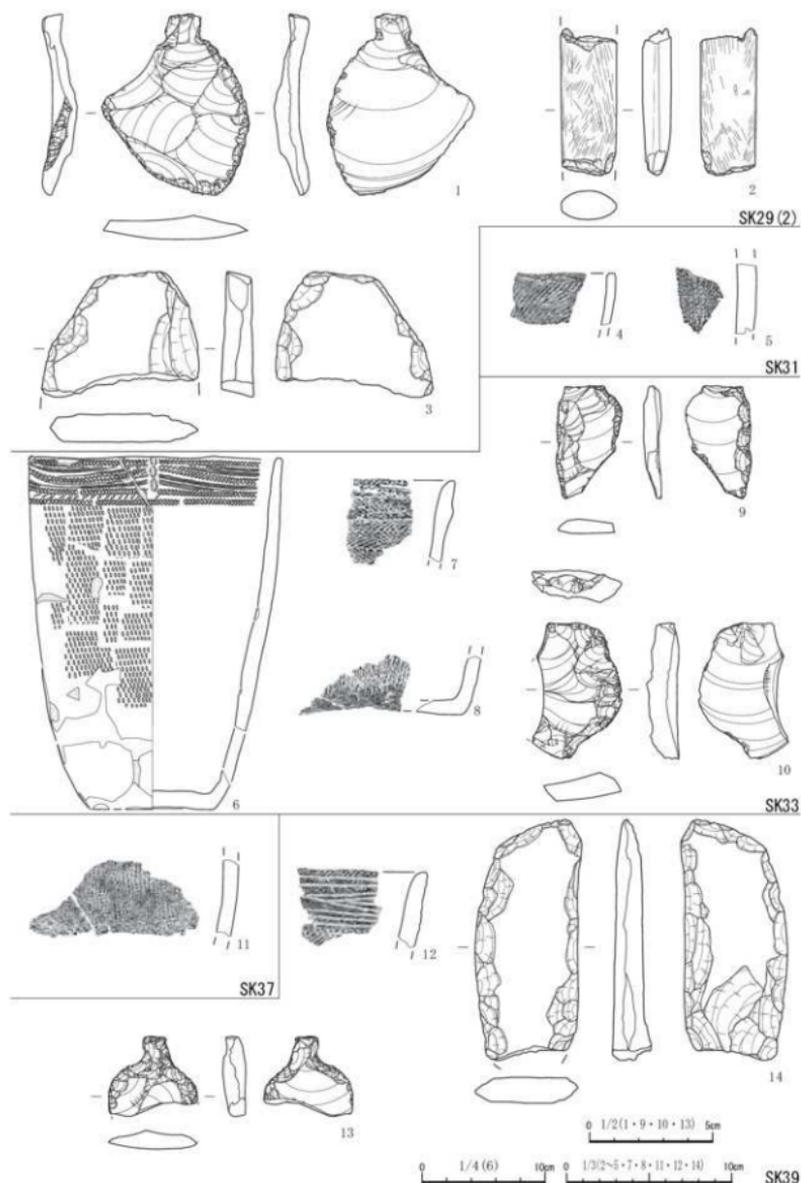


图65 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(5)

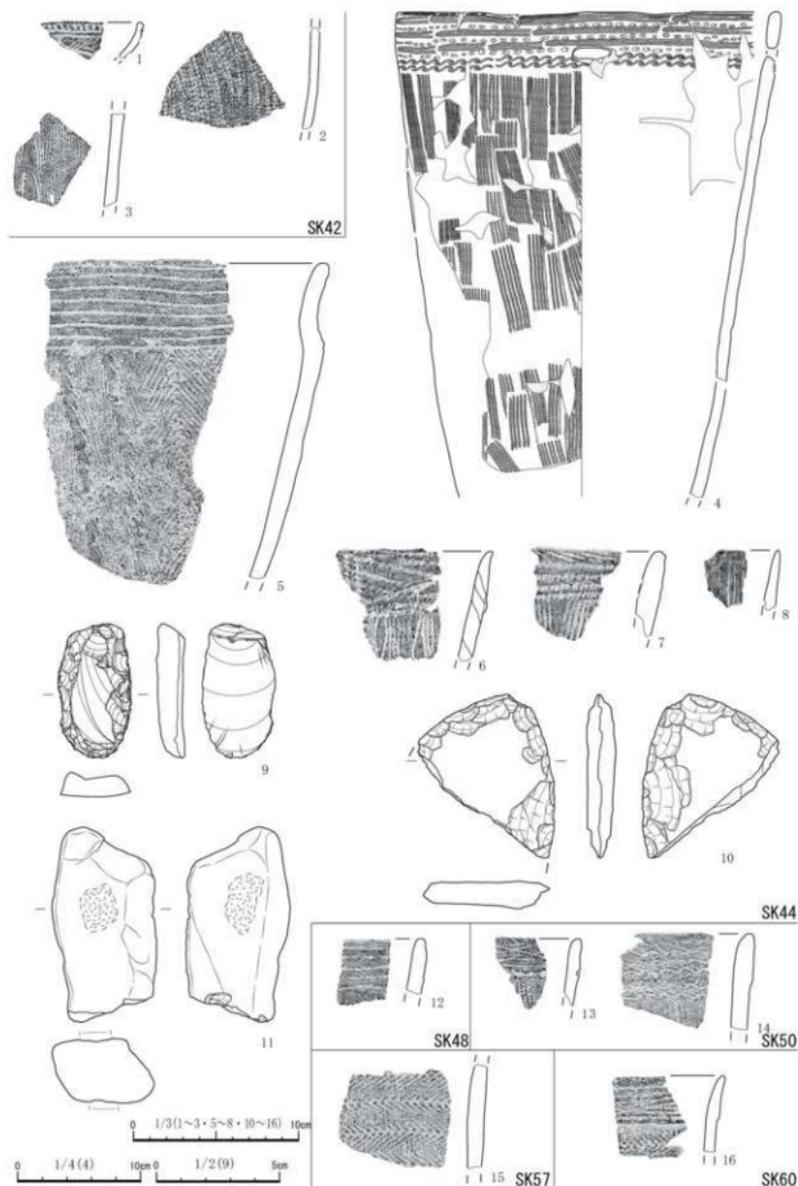


図66 浪岡蛭沢遺跡(農道32号) 土坑出土遺物(6)

## 4 溝跡

2条検出した。それぞれ調査区の北端と南端近くにあり、急斜面の裾部にあたる場所に構築されている。

## 第1号溝跡(SD01、図67)

[位置・確認] 調査区北側、N32-1・2グリッドに位置する。遺構確認面の標高は29.4~29.5m、第V層で確認した。重複する遺構は認められなかったが、北東側は本遺構よりも古い時期の風倒木痕を掘り込んで構築している。なお、中央部分は現道であったことから、安全を考慮して調査を行わなかった。

[規模・平面形] 概ね地形に沿って北東-南西方向に直線的に延びる。北東・南西方向とも調査区域外へ延びている。調査区内で確認した規模は、長さ(7.3)m、幅41~58cm、深さ25~60cmである。底面は第V層中にある。概ね平坦で、北東端と南西端の高低差は約15cm、南西側に低く傾斜している。壁は下位は直立気味に、上位は大きく開いて立ち上がる。

[堆積土] 3層に分層される。最下層にあたる3層は溝使用時に埋積した堆積、上位の1・2層は概ね自然堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していない。SD02とほぼ同じ規模で、同じ地形上に構築されていることから、同一の溝または同一の機能をもつ溝である可能性が高く、平安時代の溝跡と考えられ

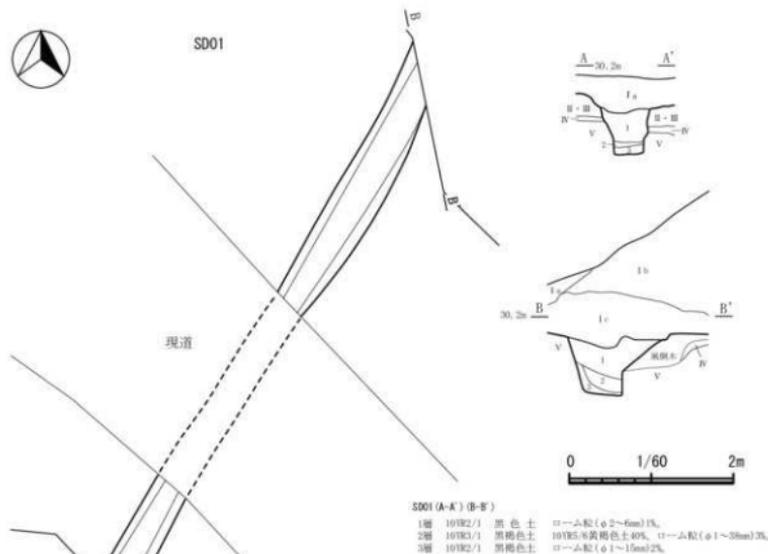


図67 浪岡埴沢遺跡(農道32号) 第1号溝跡

る。丘陵上で平安時代の建物跡が確認されていることから、丘陵上の集落を区画した溝跡であった可能性が考えられる。

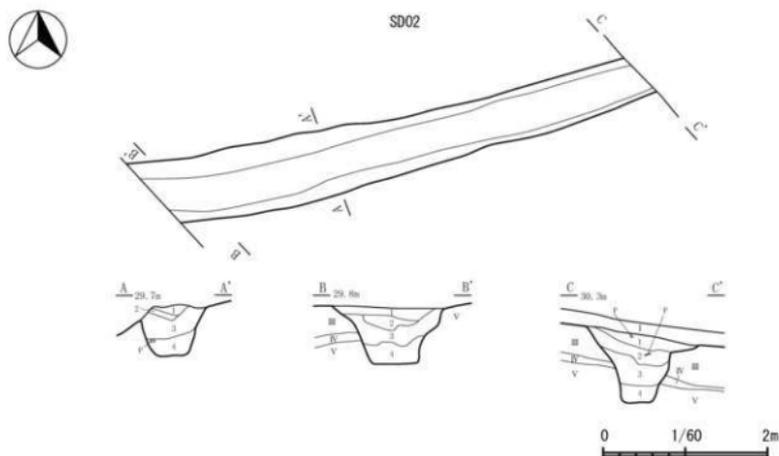
## 第2号溝跡 (SD02、図68・69)

[位置・確認] 調査区南側、N32-27・28グリッドに位置する。遺構確認面の標高は29.0～29.3m、第V層で確認した。重複する遺構は認められなかった。

[規模・平面形] 概ね地形に沿って北東-南西方向に直線的に伸び、北東・南西方向とも調査区域外へ延びている。調査区内で確認した規模は、長さ(6.1)m、幅60～140cm、深さ64～95cmである。底面は第V層中にあり、概ね平坦で北東端と南西端との高低差はほとんどない。壁は、下位は直立気味に、上位は大きく開いて立ち上がる。

[堆積土] 3層に分層される。最下層にあたる3層は溝使用時に埋積した堆積、上位の1・2層は概ね自然堆積とみられ、SD01の堆積状況と酷似する。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土の上層から下層にかけて土師器片3点(53.0g)、縄文土器片155点(1,544.3g)が出土した。また、2層からスクレイパー1点(図69-5)が出土した。土師器は小破片が多く、図化し得たのは図69-1の甕破片のみである。縄文土器は丘陵上部で検出したフラスコ状土坑の時期に帰属する円筒下層d式とみられるもので、自然堆積時に流れ込んだ遺物と考えられる。SD01で記載したように同一の溝で、平安時代の集落を区画する溝跡であった可能性が高い。



### SD02 (A-A')

- 1層 10YR2/3 赤土 10YR5/4黄褐色土30%、10YR4/4褐色土10%、  
2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR2/2黒褐色土30%、ローム粒(φ1～10mm)1%、  
3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～16mm)1%、  
4層 10YR2/2 黒褐色土と10YR4/6褐色土の互層。

### SD02 (B-B')

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～20mm)10%、10YR3/3暗褐色土1%、  
10YR1/7/1黒色土1%、  
2層 10YR5/4 赤土 10YR2/3暗褐色土10%、  
3層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ1～10mm)1%、  
4層 10YR2/2 黒褐色土と10YR4/6褐色土の互層。

### SD02 (C-C')

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/3暗褐色土5%、ローム粒(φ1～3mm)2%、  
炭化物(φ1～2mm)1%、  
2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/4褐色土30%、ローム粒(φ1～2mm)1%、  
炭化物(φ1～2mm)1%、  
3層 10YR1/7/1 黒色土 ローム粒(φ1～3mm)1%、  
4層 10YR2/1 黒色土と10YR5/6黄褐色土の互層。

図68 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 第2号溝跡(1)

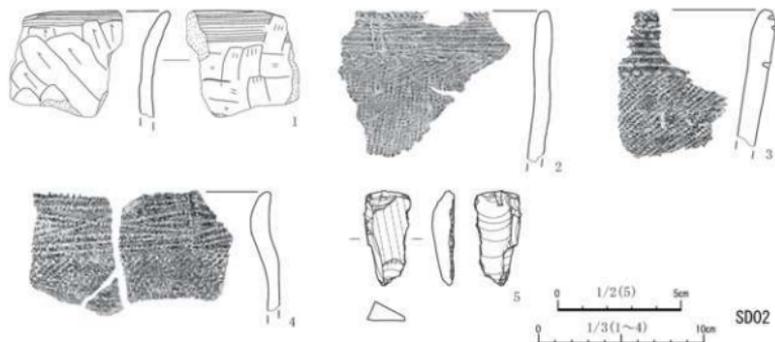


図69 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 第2号溝跡(2)

## 5 溝状土坑

丘陵上部の平坦面中央部で1基のみ検出された。

### 第1号溝状土坑(SV01、図70)

[位置・確認] 調査区中央、N32-16グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.2m、第IV層上面と、重複する攪乱底面で確認した。他遺構との重複は認められなかったが、上部の大部分が攪乱を受けている。

[規模・平面形] 東側が調査区域外にあるため、全形と全長は不明である。確認した規模は、開口部長軸(253)cm、幅56cm、底面長軸(268)cm、幅15cmである。深さは91cmで、底面は概ね水平に整えてあり、西端は底面が開口部より奥に入り込んで、オーバーハングしている。

[堆積土] 5層に分層される。崩落を伴う自然堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。遺構の形状から縄文時代の落とし穴と考えられる。

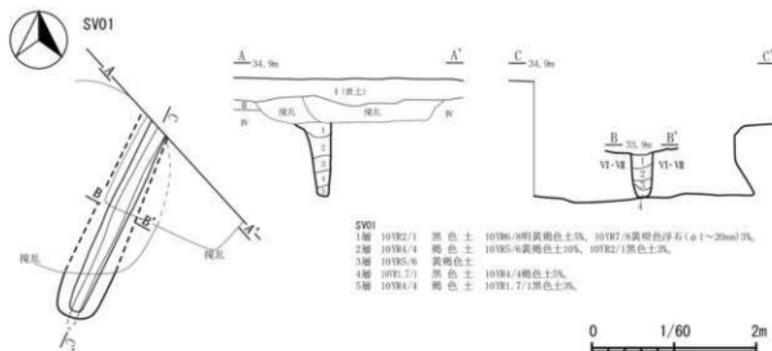


図70 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 第1号溝状土坑

## 6 土器埋設遺構

農道32号からは3基の土器埋設遺構が検出された。それぞれ単独で存在するが、SR02とSR03は比較的近い位置にある。

## 第1号土器埋設遺構 (SR01、図71)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、N32-10グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.5m、第IV層で確認した。他遺構との重複関係は認められなかった。

[埋設方法・掘方・堆積土] 深鉢が北西方向にやや傾いた正位の状態 で埋置されていた。掘方は径約34cmの円形、深さ約32cmで、堆積土はローム混じりの暗褐色土主体である。土器内部には暗褐色土が堆積していた。

[土器の詳細と時期等] 口縁部に単軸絡条体による菱形状のモチーフが押圧される深鉢(図71-1)で、縄文時代前期末葉(円筒下層d1式)に比定されるものと考えられる。

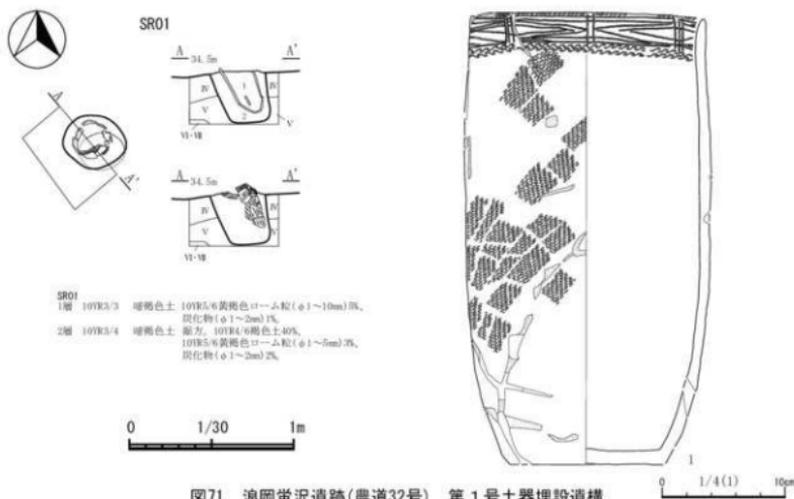


図71 浪岡蛸沢遺跡(農道32号) 第1号土器埋設遺構

## 第2号土器埋設遺構 (SR02、図72)

[位置・確認] 調査区中央、N32-19グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.2m、第IV層で確認した。SK04と重複し、本遺構が古い。

[埋設方法・掘方・堆積土] 深鉢が北方向にやや傾いた正位の状態 で埋置されていた。掘方は径約24cmの円形、深さ約24cmで、堆積土はローム混じりの褐色土主体である。土器内部には暗褐色土が堆積していた。

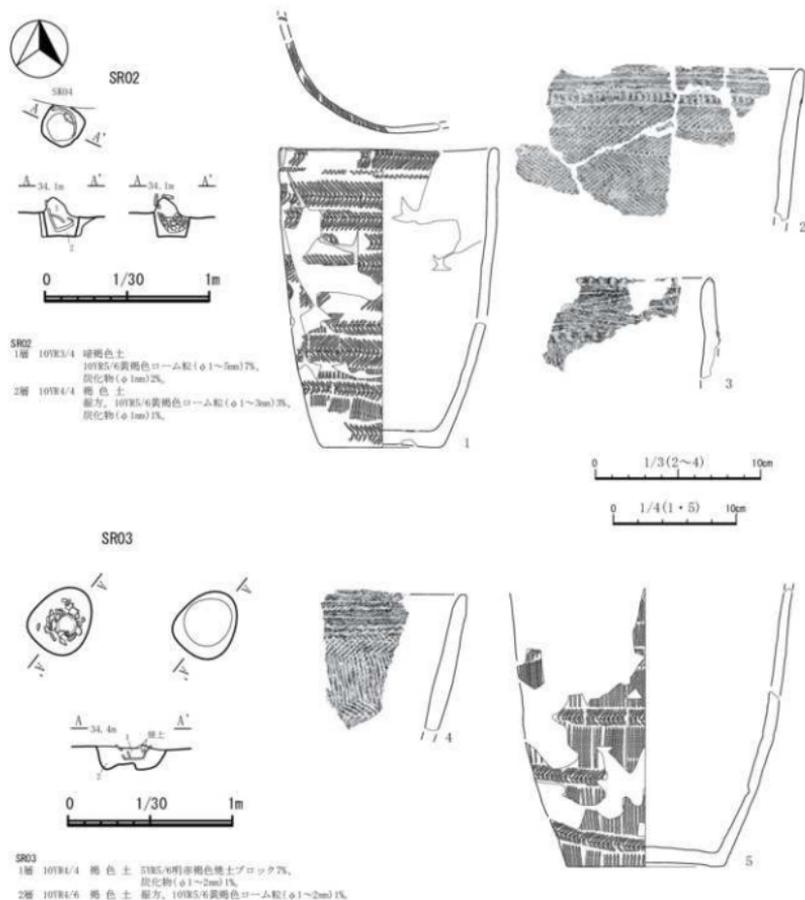
[土器の詳細と時期等] 口縁部から胴部にかけて結束第1種の縄文を施文し、口縁部文様帯と胴部の境には横位の側面圧痕を施す(図72-1)。縄文時代前期末葉(円筒下層d1式)に比定されるものと考えられる。その他、同じく円筒下層d1式とみられる土器片(図72-2・3)が埋設土器とともに出土している。

## 第3号土器埋設遺構 (SR03、図72)

[位置・確認] 調査区中央、N32-19グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.2m、第V層で確認した。他遺構との重複関係は認められなかった。

[埋設方法・掘方・堆積土] 深鉢が正位の状態 で埋置されていた。掘方は径約24cmの円形、深さ約24cmで、堆積土はローム混じりの褐色土主体であった。土器内部には褐色土が堆積していた。

[土器の詳細と時期等] 口縁部に横位の側面圧痕を施し、胴部には単軸絡条体と結束第1種の組み合わせによる文様を施す(図72-4・5)。縄文時代前期末葉(円筒下層d1式)に比定されると考えられる。



## 第2節 遺構外の出土遺物

### 1 土器・土製品

遺構外から出土した土器は、縄文土器・土製品3,639点(41,081.7g)、土師器173点(1,983.3g)、須臾器12点(303.6g)で、縄文時代と平安時代のものに大別できる。

遺物の分布状況は各時代の遺構の分布状況と概ね重なるが、南側斜面の裾部に近いN32-27~29グリッドでは、縄文時代から平安時代にかけての黒色土が比較的厚く堆積しており、縄文時代の遺構は検出されなかったものの、遺物は多く出土した。また、ここでは近年の畑造成に伴うとみられる盛土がみられ、盛土中にも縄文時代の遺物が多く含まれていた。北側斜面下方のN32-3~4グリッドには調査区域外から続く攪乱があり、ここからも縄文土器と平安時代の遺物が多く出土している。

#### (1) 縄文時代

##### 縄文時代前期

###### 円筒下層 b 式(図73-1~6)

調査区南側の斜面地を中心に、ごく少量出土した。このうち、深鉢の破片(図73-1~6)を図示した。すべて胎土中に繊維を多く含む。図73-1~5は縄文を施文し、図73-1~4は複筋、図73-5は直前段半撚りを用いている。図73-3は文様帯境界に隆帯がみられる。図73-6は、施文は不明瞭であるが胎土の様相から本時期に含めた。

###### 円筒下層 d 式(図73-7~28・図74・図75)

調査区内全体から出土しており、このうち深鉢(図73-7~28・図74-1~25・図75-1~24)、台付鉢台部(図75-25~27)、円盤状土製品(図75-28)を図示した。

口縁部文様帯に単輪絡条または自縄自巻の側面圧痕が施されるものは図73-7~25である。このうち図73-7~10・24・25は横位に施文し、図73-10は縦位施文を組み合わせている。図73-11~22は横位と斜位を組み合わせた幾何学状の施文がみられ、図73-11は縦位施文を組み合わせている。図73-24・25は小型の土器とみられる。図73-9は口縁部文様帯と胴部境に竹管状の刺突、図73-12と図73-15は円形状の斜刺突が施され、図73-16と図73-22は口縁部文様帯に円形刺突が施される。図73-12と図73-15、図73-16と図73-22は同一個体の可能性がある。

口縁部文様帯に縄文原体を押圧するものは図73-26~28・図74-1~25・図75-1・2である。このうち図73-26~28・図74-1~9・図75-1・2は横位に施文し、図74-9は縦位施文を組み合わせている。図74-10~22は横位と斜位を組み合わせた幾何学状の施文がみられ、図74-19~25は縦位施文を組み合わせている。図74-20は口縁部文様帯と胴部境に竹管状の刺突、図74-8は円形状の斜刺突が施される。図74-5は口縁部文様帯に微隆帯2条をもち、口唇部と口縁部文様帯、微隆帯上に円形の斜刺突が施される。図73-26は楕円形状の透かしがみられる。図75-3・4は小型の土器で、図75-3は縄文原体の押圧と竹管状の刺突、図75-4は斜刺突により施文される。図75-5は波状口縁で、波状頂部の位置に縦位に粘土紐を貼り付けた痕跡が残る。また、口縁部文様帯と胴部境に円形の斜刺突を施す。図75-6は縄文原体の回転と押圧により口縁部文様帯を施文する。

胴部から底部の土器として図75-7~24を図示した。図75-7~12は単輪絡条第1類を施文し、

図75-10・11は燃りの間隔が広く、図75-9・11は結束第1種との組み合わせによる施文がみられる。図75-12～18は単軸絡条体1A類、図75-19～21は単軸絡条体5類、図75-23・24は多軸絡条体を施文する。図75-24は胴部上半の破片とみられ、結節回転文と結束第1種による施文がみられる。図75-25～27は台付鉢の台部である。図75-25・26は器壁が厚く、無文で内外面は丁寧に磨かれている。図75-27は土器片加工の土製円盤である。

### 縄文時代中期(図76-1～3)

調査区南側の斜面地からわずかに出土している。このうち円筒上層a式とみられる深鉢の破片(図76-1・2)と、円筒上層d式とみられる深鉢の破片(図76-3)を図示した。図76-1・2は粘土紐貼付と原体の押圧がみられ、図76-3は縄文地文を施文後に粘土紐が貼付けられている。

### 縄文時代後期(図76-4～14)

調査区北側と南側の斜面地から出土した。このうち、深鉢の破片(図76-4～12)と皿状土製品とみられる土製品(図76-13・14)を図示した。図76-4・5は胴部破片で沈線による施文がみられる。図76-6～10は口縁部破片で、6～8は縦位方向に条痕による施文、9・10は縄文による施文が行われている。図76-11・12は底部破片で、いずれも縄文を施文する。図76-13・14は手捏ねとみられる整形で、底部は丸底状である。なお、図76-9～14は晩期に属する可能性もある。

### 縄文時代晩期(図76-15～20)

調査区北側の斜面上方、N32-7～11グリッドを中心に少量の遺物が出土した。いずれも破片資料である。このうち、鉢類(図76-15～18)、壺(図76-19)、深鉢(図76-20)を図示した。図76-15は沈線と磨消縄文、図76-16は平行沈線と刺突列による施文がみられ、それぞれ大洞B1式、大洞BC式に相当する。図76-16は注口土器の可能性もある。図76-17は沈線、図76-18は縄文施文がみられるが小破片のため詳細は不明である。図76-19は頸部から肩部にかけての破片で、地文には縄文が施文される。図76-20は平口縁の口縁部破片で、胴部には縄文を施文する。

## (2) 平安時代(図76-21～30)

調査区南側の斜面、N32-20～29グリッドを中心に遺物が出土した。このうち、土器器坏(図76-21・22)・甕(図76-23・24)・埴(図76-25)・ミニチュア甕(図76-26)、須恵器坏(図76-27・28)・壺(図76-29)・甕(図76-30)を図示した。図76-21・22はいずれもロクロ整形の底部破片で、底外面に回転糸切痕が残る。図76-23・24は口縁部破片で、口縁部は横ナデ、胴部は粗いヘラケズリによる整形がみられる。図76-26は外面に丁寧なミガキ調整が施されている。図76-21は還元軟質の焼成で、全体に白色味がかっている。図76-29は口縁部断面が長方形状で、端面はやや丸みをもつ。口縁の縁帯下をややつまみ出し、わずかに突帯状とする。

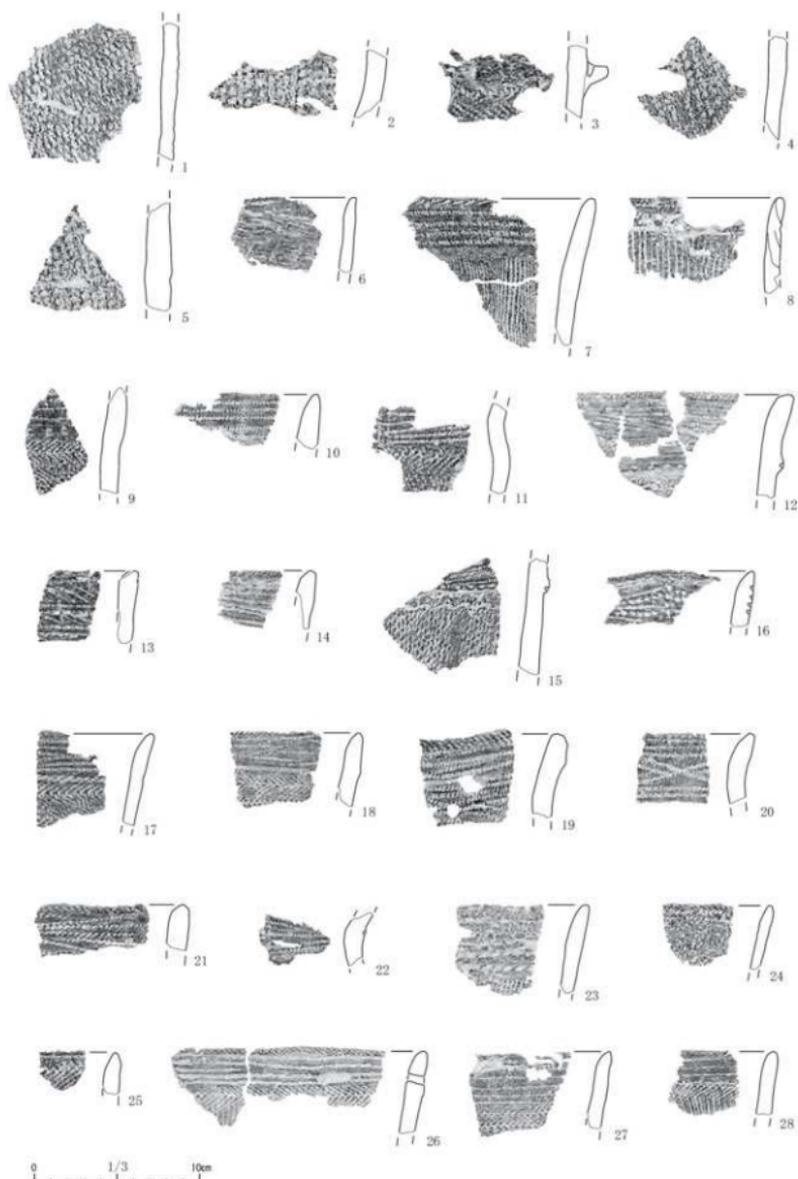


图73 浪岡蚩泥遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(1)

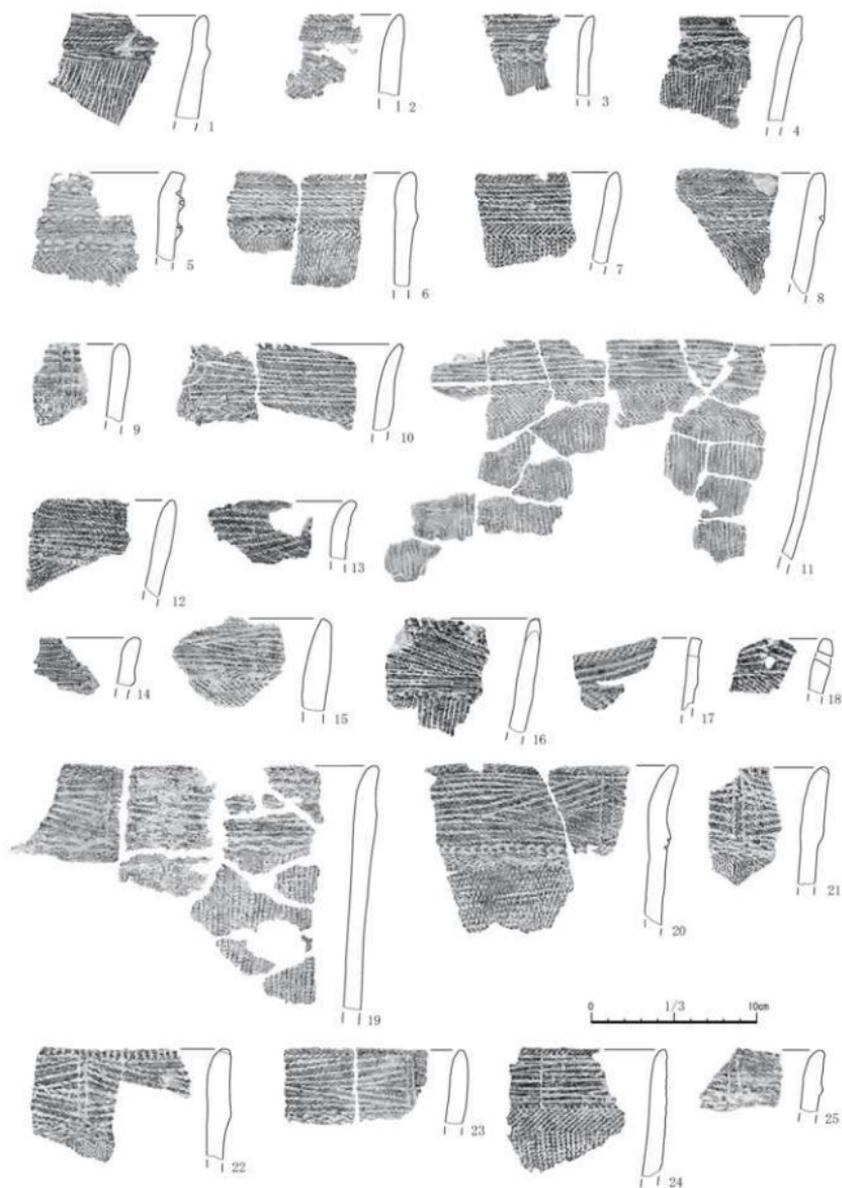


図74 浪岡蚩泥遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(2)

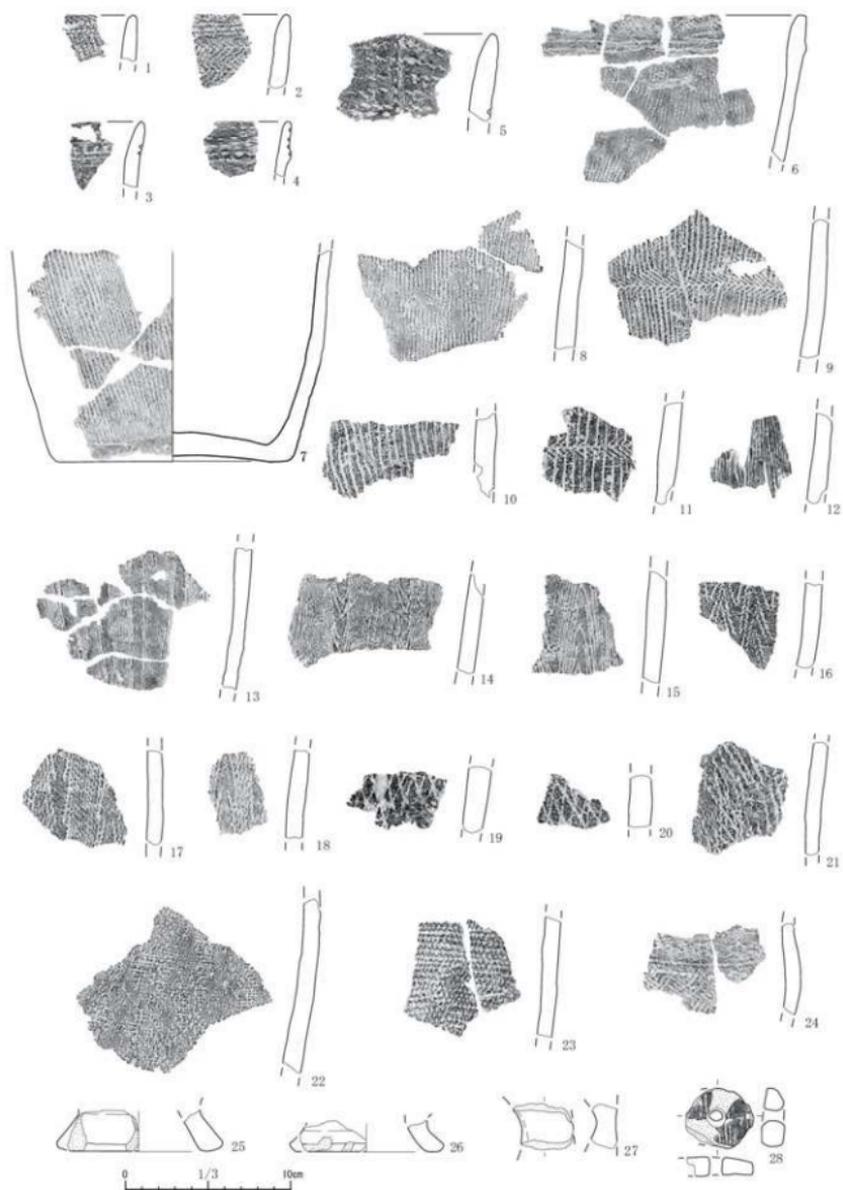


図75 浪岡蚩泥遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(3)

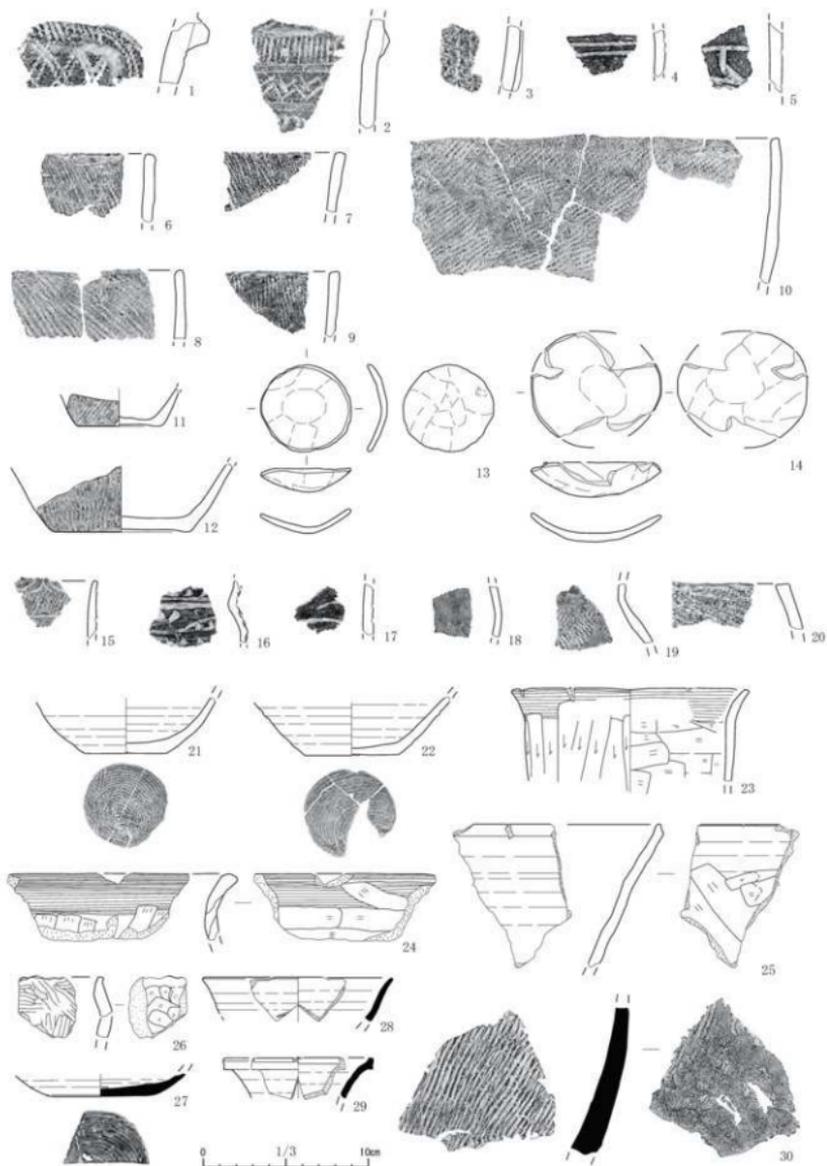


图76 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(4)

## 2 石器・石製品(図77～図79)

浪岡窪沢遺跡の発掘調査では、遺構内および遺構外から剥片と石核を含む剥片石器類が111点、磨製石斧を含む礫石器類が23点、石製品が1点出土している。出土層位は土器と同様に第1層から第III層まで出土しており、出土縄文土器の各時期に帰属する石器類と捉えられる。

以下に器種ごとに分けて記述し、各石器の出土位置や石材等については遺物観察表に示した。

**石鏃**(図77-1～4)遺構外から4点、SP15から1点(図52-3)出土している。図77-1～3は無茎鏃で、1は円基鏃、2・3は尖基鏃とした。図77-4は有茎鏃で、基部がなで肩で茎は太い。SP15出土は凸基有茎鏃で先端を僅かに欠失する。

**石錐**(図77-5・6)遺構外から2点出土した。図77-5は、断面菱形で棒状に錯向剝離調整されたものである。両端部は太く、摩擦も無く未製品の可能性がある。図77-6は、小剥片の背面側縁に微細な剝離が施されるもので、先鋭な両端から錐とした。

**石匙**(図77-7・8)遺構外から2点、SK29・SK39とSP15から各1点(図65-1、図65-13、図52-1)が出土している。SK29とSP15出土の2点が縦型で、他3点が横型である。図77-7は、剥片遠端部腹面を主に刃部調整剝離を施している。図77-8は、背面の周縁を剝離調整して刃部としており、つまみ部は挟りの浅い両面剝離で小さめつまみが作出されている。SK29出土も同様に、背面周縁調整されるもので、つまみ部も小さい。SK39出土は、両面周縁調整剝離が施されたもので、刃部を破損している。SP15出土のものも同じく刃部先端を欠く、素材剥片の遠端部側につまみが作出されている。

**石篋** SI02とSK44より各1点(図51-4、図66-9)が出土している。2点とも背面周縁を急角度調整されている。形状的には短冊形で、剥片遠端部は円刃に仕上げられている。断面形状はカマボコ状を呈している。

**スクレイパー類**(図77-9～20、図78-1～6)不定形石器と称される、削器および搔器などとして使用されたと思われる剥片石器と、二次加工が施されたもの(R・F=調整剥片)、剥片の縁辺に微細な剝離がみられるもの(U・F=使用剥片)をまとめた。遺構外からは18点、遺構内からは7点(図50-6、図61-6、図62-7・8、図65-9・10、図69-5)が出土している。

図77-9は両側縁錯向調整で腹面の加工は挟入状(ノッチ状)である。図77-10は両面交互剝離。図77-11は両面に挟入状剝離が施される。図77-12は比較的大きな縦長剥片を素材とし、背面両側縁調整される。図77-13と15も同様な調整である。図77-14は背面の側縁調整。図77-16は剥片の遠端部に腹面から直行する調整と、腹面の側縁に粗い剝離が施されている。図77-17も剥片遠端部に挟入状剝離が施される。図77-19と20は、両面に粗く不規則な剝離が施されるもので、加工途中のものか破損したものか判らず、いわゆる調整剥片とした。図77-18は厚手の縦長剥片の周縁に極微細な剝離がみられるもので、図78-1～5も小剥片の側縁や端部に同様な微細な剝離がみられるものである。この微細剝離については、意図して加工したものか、加工はしないで使用によって剝離したものか判断しかねる。図69-5は、両面周縁調整されるもので、石槍ないしは石篋の基部(端部)の可能性もある。

**石核**(図78-7～9)遺構外から3点出土している。全て原礫面打面で単純剝離作業が多方向から行われている。図78-7と8は廃棄時の形状が立方形・錐状で、図78-9は船底状である。

**剥片** 図示しないが上記の剥片石器の他に剥片と破砕片が69点、総重量612.1gを出土している。大きさは2cm程度の破砕片から6cmを超える剥片までであるが、大半のものは3cm～4cmの大きさで形状は不整形である。

**磨製石斧**(図79-1)遺構外から1点、SK01・SK09から各1点(図61-7、図62-9)出土している。図79-1は刃部破損後に再研磨されている。器面の敲打痕は研磨後のもので、複合的に使用されたものである。SK01出土は、刃部を欠失する。SK09出土のものは、いわゆる石鑿と言われる、小型の磨製石斧の刃部破片である。

**扁平打製石器**(図79-2～4)遺構外から3点、SK13・SK29・SK39・SK44から合わせて5点(図62-11・12、図65-3・14、図66-10)出土している。用いられる礫は板状の長方形状で、すべて破損している。周縁を剝離調整されるもの(図79-2、図65-3・14、図66-11)と、一側縁を両面剝離されるもの(図79-3・4、図62-11・12)がある。一辺の側縁に磨り(擦り)面をもつもの(図79-2～4、図62-11・12)と、剝離稜だけのもの(図65-3、図66-11)がある。前者のうち、図79-4や図62-12は幅広の磨り面をもち形状からみて、本来の扁平打製石器からはずれ、磨り石に分けられる可能性もある。

**北海道式石冠**(図79-5)遺構外から1点出土している。長方形礫が用いられ、剝離整形されているようである。礫の両端部は敲打により抉られているほか、両器面と一側縁にも敲打痕が広く残る。対辺の一側縁は幅広の磨り面が形成されており、器面にも磨りの痕跡がみられる。

**敲き石**(図79-6・7)遺構外から2点出土している。ともに石材には瑪瑙が用いられている。図79-6は、約4cmの円礫の全面を使用し球形状となっており一部が割れている。図79-7は、板状礫の周縁に敲打痕が残る。両面の周縁剝離は整形のため剝離されたものであるが、一部がノッチ状となっていることから、スクレイパーとして使用された可能性も考えられる。

**凹み石**(図79-8・9)遺構外から2点、SP16とSK44から各1点(図52-5、図66-11)出土している。用いられる礫の形は長方形状で、礫面の二面が使われるもの(図66-10、図79-9)と四面が使われるもの(図52-5、図79-8)がある。図79-8は二面が磨りにも使われているほか、側縁部に刻線もみられる。

**台石**(図79-10)遺構外から1点出土した。板状礫の平坦な一面がそのまま使用されている。側縁の一部に被熱の痕がみられ、破損している可能性がある。

**石棒**(図79-11・12)遺構外から破砕片が2点、SK25より完形品1点(図63-14)が出土している。SK25出土のものは、入念な整形ではないが粗い磨りが施されている。被熱により端部と器面の一部が爆ぜている。遺構外出土のものは、擦りにより器面は平滑である。

**石刀** SK29から1点(図65-2)出土している。被熱し両端が破損しており、一方の端部は破損後に剝離が施されている。直線的で器面全体が研磨されている。断面レンズ状であるが、片側がやや平らである。

**有孔石製品**(図78-10)遺構外から1点出土した。珪質頁岩に二箇所の穿孔を施したもので穿孔部から割れている。大きさ約25mmの鏢節形で表面は研磨されている。装身具と思われる。

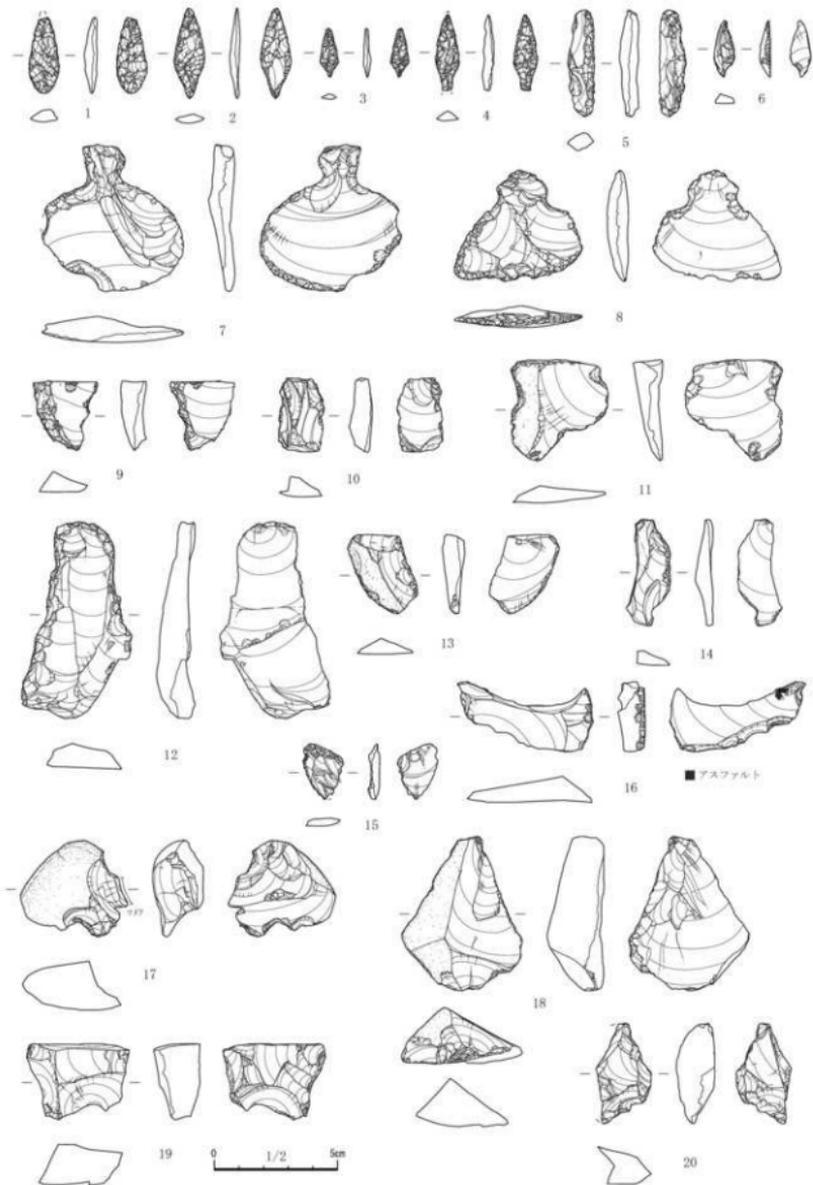


図77 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物 (5)

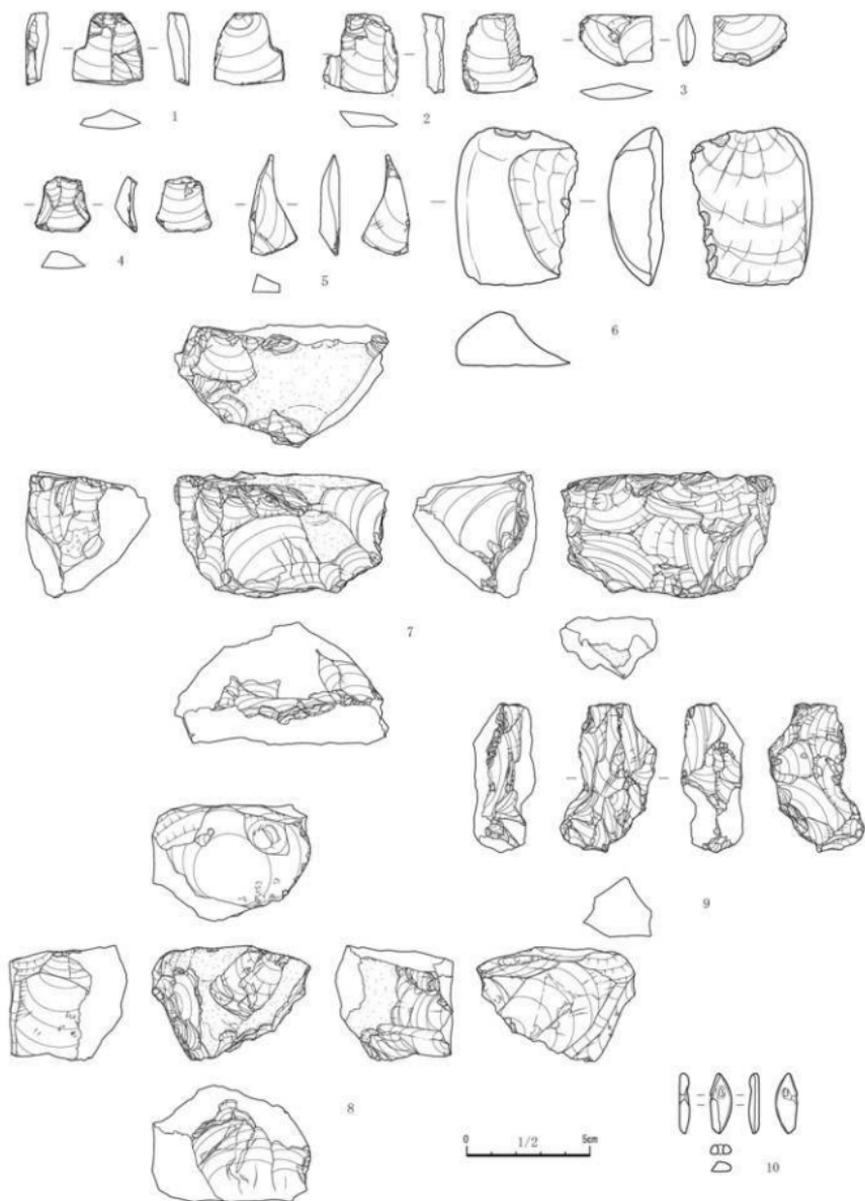


图78 浪岡蜃沢遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(6)

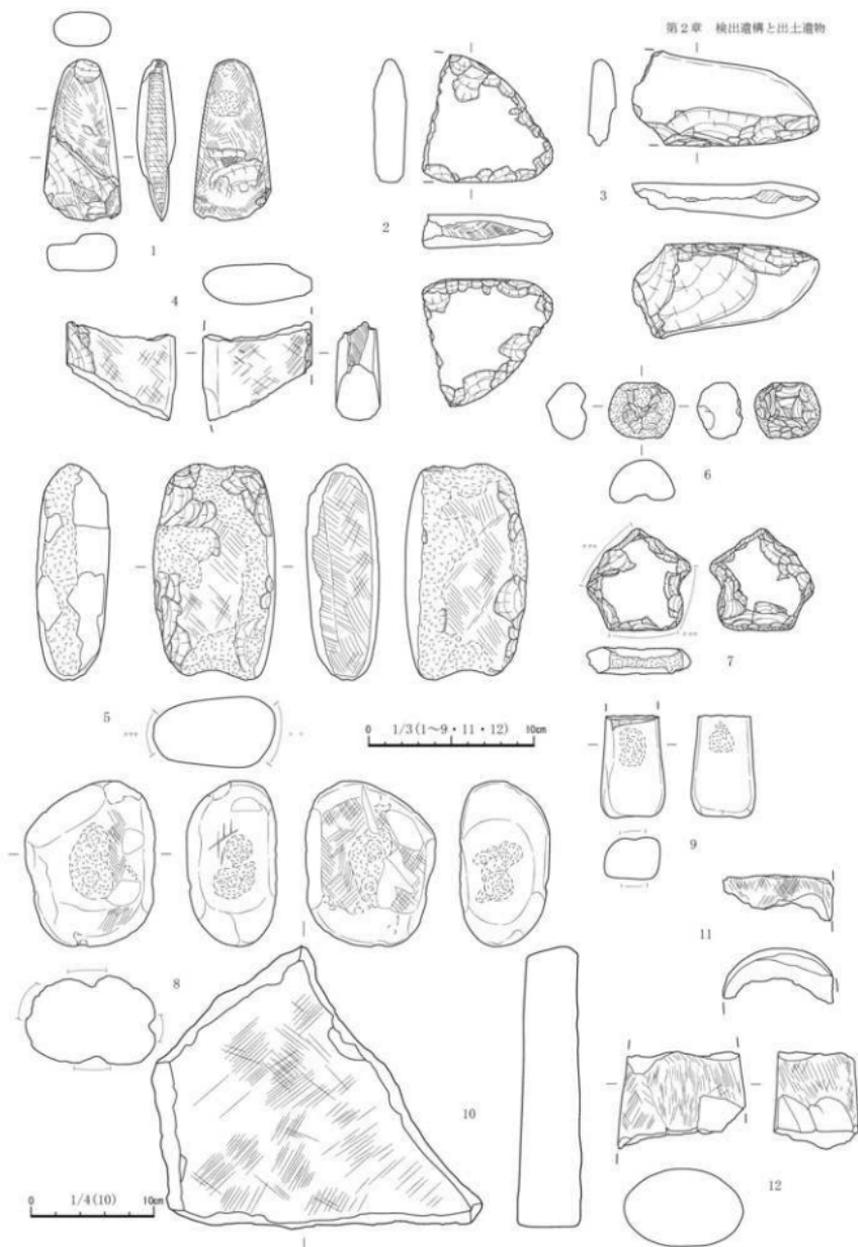


図79 浪岡蚩泥遺跡(農道32号) 遺構外出土遺物(7)

### 第3章 まとめ

浪岡蛭沢遺跡は梵珠山の南西裾野に広がる段丘斜面上に立地する。遺跡の西側と南側には小規模に開析された谷地形がみられ、現在はそれぞれ遺跡の北側に堰き止められて吉野田新溜池と三太溜池となっている。農道32号の調査区は浪岡蛭沢遺跡の南西部にあり、谷地形に面した丘陵縁辺部に位置する。標高は約25～35mである。調査区は概ね南北方向に細長く伸びており、調査区中央部は丘陵上の平地、その南北両側は緩斜面地からやや急な斜面地へと変化し、南端は谷地形へと落ちる急崖となっている。約1,000㎡の発掘調査を行い、検出した遺構は竪穴建物跡2棟、溝跡2条、土坑48基、溝状土坑1基、土器埋設遺構3基、柱穴16基である。出土した遺物は段ボール箱で合計14箱である。検出遺構は、出土した遺物や遺構の形態などから竪穴建物跡と溝跡は平安時代、残りは概ね縄文時代に帰属すると考えられる。以下、縄文時代と平安時代に分けて調査成果をまとめる。

#### 縄文時代

縄文時代の主体を占める土坑は、フラスコ状土坑40基(SK01・10・12・13・15・25・29・31・33・38・39・41・42・44・45・48・50・53・56・57・60)と、逆台形状または箱形の浅い土坑8基(SK11・26・30・37・40・43・51・59)に大別でき、フラスコ状土坑が大多数を占める。これらのフラスコ状土坑からは、縄文時代前期末葉あるいは後期後葉～晩期にかけての土器や土製品、石器が出土しており(図61～66)、帰属する時期もこの2時期に大別できるものと考えられる。このうち、堆積土中から完形もしくは略完形土器が出土した土坑は3基(SK29・33・44)と少ない。これらの土坑では、底面または屈曲部から、遺構の廃棄後間もなく埋め戻されたと考えられる状態で遺物が出土しており、遺物の年代が遺構の廃棄年代を示しているものと考えられ、全て縄文時代前期末葉(円筒下層d1式)に帰属する。その他の多くの土坑は、土器が破片の状態で少量出土したのみで、遺物が全く出土しなかった土坑も6基(SK02・05・19・38・45・53)あり、帰属時期の判断が難しいものが多いが、出土した遺物や後述する遺構の形状、あるいは堆積土の特徴などから大別すると、縄文時代前期末葉に帰属すると考えられる土坑が29基(SK01・03・04・09・13・15～21・24・25・29・32・33・38・39・41・44・45・48～50・53・56・57・60)、縄文時代後期後葉～晩期に帰属すると考えられる土坑が11基(SK02・06・07・08・10・12・22・23・26・31・42)となる。なお、前期末葉の土坑から出土した遺物の多くは円筒下層d1式とみられるほか、円筒下層d2式の土器片がある程度まとまって出土した土坑(SK09)もある。

フラスコ状土坑の規模や形態、堆積土から各時期の特徴をみると、底面規模については時期別の差違が明瞭ではなく全体的に直径150～190cmのものが過半数を占めており、直径170cmを超える大型のものほとんどは前期末葉の土坑である。深さについては時期的な差違が認められ、前期末葉の土坑は深さ110～150cmのものが過半数を占め、150cmを超えるものが確認できるのに対し、後期後葉～晩期の土坑は深さ110cm以下のものが半数を占めている。このことから、後期後葉～晩期の土坑は、前期末葉の土坑よりも小型のものが多い傾向が認められる。

堆積土の状況は、底面から屈曲部、あるいは開口部近くまでを褐色土や黄褐色土を主体とする土で人為的に埋め戻したとみられるものと、黒色土を主体として概ね自然堆積によって埋没したとみられ

るものが確認できる。掘り上りの断面形をみると、人為的に埋め戻しを行っている土坑は、上部が部分的に壊されて不整なフラスコ状となっているものや、上部が大きく壊されて底面から開口部まで直立気味または外傾して立ち上がる形状となっているものなどがみられ、土坑の壁、特に屈曲部を崩しながら埋め戻しを行った様子を示している。一方、自然堆積によって埋没した遺構は壁の屈曲が残っており、構築時の形状を良く止めたものとなっている。これらの遺構(SK02・06・07・22・23・31)の多くからは後期後葉～晩期の遺物が出土している。このことから、本遺跡においては、先述した規模が小型であることに加え、構築時の形態をとどめ、自然堆積によって埋没していることが後期後葉～晩期のフラスコ状土坑の大きな特徴であるといえる。反対に、人為的に埋め戻しを行っている土坑は大型のものが多く、破片ではあるが前期末葉の遺物が出土するものが多い。

分布域をみると、前期末葉では南北両側の緩斜面(N32-7～15・N32-18～25)に分布が確認でき、農道幅での調査であるため明確ではないが、概ね標高32.0～34.5mの等高線に沿うように構築されていたとみられる。周辺の地形を考慮すると、等高線に沿って調査区域外の東側あるいは西側にも続くものと考えられる。後期後葉～晩期は北側斜面に集中して分布する傾向が認められる。

農道32号の発掘調査で検出された遺構は、前期末葉、後期後葉～晩期ともにフラスコ状土坑が主体であることから、調査区周辺は当該期の貯蔵域として利用されていたと考えられる。また、調査区内では検出されなかったものの周辺には建物跡の存在が推測され、遺跡が立地する丘陵に集落が形成されていたものと考えられる。なお、縄文時代の遺物は上記のフラスコ状土坑の時期以外にも前期中葉、中期前葉～中葉の遺物が少量出土したが、当該期の遺構は調査区内で検出されていない。

## 平安時代

丘陵平坦部で堅穴建物跡2棟、南北斜面の裾部で2条の溝跡を検出した。堅穴建物跡は、出土遺物や地下式のカマドをもち、堆積土中に火山灰が認められないことなどから、10世紀前葉には廃絶していたとみられる。2条の溝跡は約130m離れた場所に位置するが、標高約30mの丘陵裾部という同一地形上に構築されており、規模や形態、堆積状況が類似することなどから、同一の溝、あるいは同一の機能を持って構築された溝であったと考えることができる。丘陵上の平安時代の堅穴建物跡から、集落を大きく区画した溝跡であった可能性が高いものの、農道幅での調査であり、検出された遺構も少ないため詳細は不明である。

## 引用・参考文献

青森県教育委員会2001『笹ノ沢(2)・(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第305集

青森県教育委員会2003『岩渡小谷(3)・(4)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第352集

青森県教育委員会2004『岩渡小谷(4)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第371集

青森県教育委員会2010『山田(2)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第495集

青森県教育委員会2015『下石川平野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第556集

青森県教育委員会2016『下石川平野遺跡Ⅱ・旭(1)遺跡・旭(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第569集

表17 浪岡堂沢遺跡(農道32号) 土器・土製品観察表

遺物番号	遺物番号	遺物名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
50	1	S101	堆積土	土師器	杯	体部上半	(11.6)	—	(4.5)	ロタロ	ロタロ		平安時代
50	2	S101	堆積土	土師器	甕	口縁部	—	—	(5.9)	横ナゲ、ヘラケズリ	横ナゲ、ヘラケズリ	外面粘土付着	平安時代
50	3	S101	堆積土	土師器	甕	底部	—	(10.0)	(6.5)	ヘラケズリ	ヘラナゲ、指ナゲ	底外面砂底	平安時代
50	4	S101	堆積土	須恵器	甕	胴部	—	—	—	タタキ	当て具痕		平安時代
50	5	S101	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.1)	口唇LR、R側面正直(横)、結節(横)、単軸結条体第1種(L)横	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
51	1	S102	堆積土(10層)P1	土師器	杯	体部下半	—	5.0	(1.8)	ロタロ	ロタロ	底外面回転糸切	平安時代
51	2	S102	3層	土師器	甕	底部	—	(9.0)	(1.8)	ヘラケズリ	ヘラナゲ、指ナゲ	底外面ナゲ	平安時代
51	3	S102	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.3)	LR斜	ナゲ		縄文時代後期後葉～晩期
52	2	SP04	堆積土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	LR斜	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
52	4	SP16	SK14(1層、32-151層・IV層)	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	—	—	(14.8)	L側面正直(斜+横→縦)、胴突、L結節(横)、LR斜	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
61	1	SK01	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.9)	口唇LR、単軸結条体第1種(L)側面正直(横)(自縄自垂?)、胴突、単軸結条体第1A種(L)R縦	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
61	2	SK01	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.1)	L側面正直(横)、胴突	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
61	3	SK01	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.6)	単軸結条体第1種(R)側面正直(横)	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
61	4	SK01	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.2)	胴突、LR側面正直(横)、粘土結片付=胴突	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
61	8	SK03	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	—	—	(15.6)	自縄自垂側面正直(横+斜)、結条第1種(R)LR横、LR斜	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
61	9	SK03	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(2.3)	口唇LR、L側面正直(横)、結条第1種(R)LR横	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
61	10	SK04	堆積土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	多軸結条体(R)縦、LR結節(横)	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
61	11	SK06	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.8)	LR斜	ケズリ		縄文時代後期後葉～晩期
61	12	SK06	堆積土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	糸痕	ナゲ		縄文時代後期後葉
61	13	SK07	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	(5.0)	—	(2.0)	ナゲ	ナゲ		縄文時代晩期
61	14	SK07	堆積土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	LR斜+縦	ケズリ		縄文時代後期後葉～晩期
61	16	SK07	堆積土、32-9I層	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	—	—	(9.1)	口唇LR、R側面正直(横+斜→縦)、L側面正直(横)、結条第1種(L)LR横、LR斜	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
61	17	SK07	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.6)	口唇LR、L側面正直(横)、熱差帯、粗横	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
61	18	SK07	堆積土、32-3～4カクラン	縄文土器	深鉢	底部	—	(11.0)	(3.3)	単軸結条体第1種(L)縦	ミガキ	縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)
61	19	SK08	堆積土	縄文土器	鉢形	胴部	—	—	—	沈線、LR横	ナゲ		縄文時代晩期
61	20	SK08	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.8)	LR斜	ケズリ		縄文時代後期後葉～晩期
61	21	SK08	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.1)	糸痕	ナゲ		縄文時代後期後葉
61	22	SK08	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	(16.0)	—	(4.9)	ミガキ	ミガキ		縄文時代晩期
61	23	SK09	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	—	—	(14.3)	波状口縁、口唇LR、L側面正直(横+斜)、胴部端二段、結条第1種(R)LR横、LR横	ミガキ	外面灰化物付着、縄線流入	縄文時代前期末葉(円筒下層6c)

図 番 号	遺 物 番 号	遺 物 名	出 土 位 置	類 種	器 種	部 位	口 径 (cm)	底 径 (cm)	器 高 (cm)	外 面 調 整 (文 様)	内 面 調 整 (文 様)	備 考 (底 面 調 整)	時 期
61	24	SK09	埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(7.3)	波状口縁、口唇刺突、L形側面正直(横・斜一様)、頸胴部の境に段、刺突、多軸絡糸体(L)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
62	1	SK09	埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	—	—	(17.1)	口唇ギザミ、8側面正直(横)、結束第1種(OS-RD)横、単軸絡糸体第1類(O)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
62	2	SK09	埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.9)	波状口縁、口唇ギザミ、L側面正直(横一様)、頸隆帯、刺突	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
62	3	SK09	埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(7.3)	波状口縁、8側面正直(横一様)	ハクラク	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
62	4	SK09	埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.9)	先附状突起、L側面正直(横)	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
62	5	SK09	埴壇土	縄文土器	深鉢	底面	—	—	(11.0)	多軸絡糸体(O)縦、ミガキ	ミガキ	底外面ミガキ、織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
62	6	SK09	埴壇土	縄文土器	深鉢	胴部～底面	—	(10.0)	(15.1)	単軸絡糸体第1類(O)縦、ミガキ	ミガキ	底外面ミガキ、織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
62	10	SK13	埴壇土	縄文土器	深鉢	胴部～底面	—	(11.0)	(10.2)	紅斜	ハクラク	内面灰化物付着、織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
63	1	SK17	埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.3)	L側面正直(横・斜)、頸隆帯、結束第1種(O)・L形横	ミガキ	織線混入、外面灰化物付着	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
63	2	SK17	埴壇土、漆土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.6)	口唇凹、L側面正直(横)、結束第1種(O)・L形横、紅斜	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
63	3	SK17	埴壇土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	紅斜	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
63	4	SK18	埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(10.6)	L側面正直(横・斜)、頸隆帯、結束第1種(O)・L形横、紅斜	ミガキ	織線混入、外面灰化物付着	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
63	5	SK20	埴壇土、黒曜	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.9)	口唇凹、単軸絡糸体第1類(R)側面正直(横)、単軸絡糸体第1類(O)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
63	6	SK22	埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部	—	—	(4.0)	ケズリ	ナデ		縄文時代後期 ～晩期?
63	7	SK22	埴壇土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	L形横	ナデ		縄文時代後期後葉 ～晩期
63	8	SK23	埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.8)	ギザミ、沈線、紅斜	沈線	外面灰化物付着	縄文時代晩期(大洞B1式)
63	9	SK23	埴壇土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	沈線、L形横	ナデ		縄文時代晩期(大洞B1式)
63	10	SK23	埴壇土	縄文土器	深鉢?	胴部	—	—	—	紅斜、沈線	ナデ		縄文時代晩期
63	11	SK23	埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	—	—	(15.9)	紅横・斜	ケズリ	外面灰化物付着	縄文時代後期後葉 ～晩期
63	12	SK24・25	埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	L形側面正直(横・斜)、L形結部(横)	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
63	13	SK25	埴壇土、S101埴壇土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.2)	L形側面正直(横)、結束第1種(O)・L形横、単軸絡糸体第1類(L)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
64	2	SK29	底面P4	縄文土器	深鉢	底面	18.4	9.0	22.4	口縁部文様不明、単軸絡糸体第1類(O)縦、結束第1種(O)・L形横	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
64	3	SK29	埴壇土	縄文土器	深鉢	底面	23.5	13.6	35.0	自縄自巻側面正直(O)横、樽円形透かし、紅斜	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
64	4	SK29	2層P3、埴壇土	縄文土器	深鉢	胴部～底面	—	13.8	(32.4)	単軸絡糸体第1類(L)縦(自縄自巻側面正直(O)横)、結束第1種(O)・L形横	ミガキ?	織線混入、底外面ミガキ	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
64	5	SK29	2層P1・2	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	—	—	(16.9)	単軸絡糸体第1類(O)側面正直(横)、結束第1種(L)・L形横、紅斜	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)

原番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面調整)	時期
64	6	SK29	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁~胴部	—	—	(14.3)	L側面正直(横・斜)、 散隆帯。単軸結糸体 第1類(0)縦	ミガキ	織線混入、外面 灰物付着	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
64	7	SK29	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁~胴部	—	—	(8.4)	単軸結糸体第1類(0) 側面正直(横・斜)(自 由巻リ)。刺突、結 束第1種(0L・0R)横、 皿斜	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
64	8	SK29	13層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(8.0)	L側面正直(横・斜~ 縦)、散隆帯。結束 第1種(0L・0R)横	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
64	9	SK29	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁~胴部	—	—	(10.3)	L側面正直(横~縦)、 結束第1種(0L・0R) 横、皿斜	ミガキ?	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
64	10	SK29	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁~胴部	—	—	(12.2)	L側面正直(横)、皿 斜?	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
64	11	SK29	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁~胴部	—	—	(9.5)	波状口縁、結束第1種 (0L・0R)横、皿斜	ミガキ	織線混入、小型	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
64	12	SK29	1層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.5)	口唇L&R、結束第1種 (0L・0R)横	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
64	13	SK29	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.2)	結束第1種(0L・0R)横	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
65	4	SK31	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.2)	L&R横	ナヅ		縄文時代後期後葉 ~晩期
65	5	SK31	埴埴土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	皿斜?	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
65	6	SK33	埴埴土	縄文土器	深鉢	略完形	20.5	10.0	28.8	波状口縁、皿・L&R側 面正直(横)、L・R側 面正直(横)、結 束(縦)、多軸結糸体 (0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
65	7	SK33	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.7)	口唇L&R、散隆帯、 L側面正直(横)、結 束第1種(0L・0R)横	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
65	8	SK33	埴埴土	縄文土器	深鉢	底部	—	—	(3.6)	単軸結糸体第1類(0) 縦	ミガキ	織線混入、底外面 ミガキ	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
65	11	SK37	埴埴土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	皿斜	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
65	12	SK39	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.6)	口唇L、R側面正直 (横・斜)、結束第1種 (0L・0R)横	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
66	1	SK42	埴埴土	縄文土器	浅鉢	口縁部	—	—	(2.2)	刺突、沈線、皿縦?	ミガキ		縄文時代晩期(大割 口式)
66	2	SK42	埴埴土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	皿斜	ナヅ		縄文時代後期後葉 ~晩期
66	3	SK42	埴埴土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸結糸体第1類 (0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
66	4	SK44	埴埴土	縄文土器	深鉢	体部上平	31.0	—	(39.8)	口唇L&R、L・R側面正 直(横)、刺突、R結 束(縦)、内面形透シ、 単軸結糸体第1 類(0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
66	5	SK29・ 44	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁~胴部	—	—	(19.2)	R側面正直(横)、結 束第1種(0L・0R)縦、 単軸結糸体第1類 (0)縦	ミガキ	織線混入、内面 灰物付着	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
66	6	SK44	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.3)	波状口縁、単軸結糸 体第1類(0)側面正直 (横・斜~縦)、散隆 帯、単軸結糸体第1 類(0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
66	7	SK44	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.1)	口唇L?、単軸結糸 体第1類(0)側面正直 (横)、単軸結糸体第 1類(0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
66	8	SK44	埴埴土	縄文土器	ミコトツブ ア	口縁部	—	—	(3.5)	柳歯状細比蓋	ミガキ		縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)
66	12	SK48	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.4)	口唇R側面正直、L&R 側面正直(横)	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層d式)

図 番 号	遺物 番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面調整)	時期
66	13	SK50	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.2)	R側面正直(横・斜)、 刺突、R.L斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
66	14	SK60	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.9)	R1結節(横)、R.L斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
66	15	SK57	2層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	結束第1種(R・L)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
66	16	SK60	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.0)	口唇L、L1側面正直 (横)、R.L斜、結束 第1種(R・L)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
69	1	SD02	埴埴土	土師器	甕	口縁部	—	—	(6.5)	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘ ラケズリ、輪 縁直		平安時代
69	2	SD02	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(9.3)	口唇R側面正直、R側 面正直(横→縦)、L1 結節(横)、R.L斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
69	3	SD02	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(8.1)	口唇R、刺突、単軸 筋全体第1種(R)側面 正直(横)、刺突、R.L 斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
69	4	SD02	埴埴土、 33-281層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(7.3)	単軸筋全体第1種 (R)側面正(横・斜→ 縦)、L1横?	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
71	1	SR01	P1	縄文土器	深鉢	胴完形	19.0	12.6	36.9	口唇L、自縄自巻 側面正直(横・斜→ 縦)、R結節(横)、 R.L斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
72	1	SR02	埴埴土、 32-19Ⅲ層、 32-201層・ IV層	縄文土器	深鉢	胴完形	17.9	9.6	24.5	結束第1種(R・L)横、 L1-R側面正直(横)	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
72	2	SR02	埴埴土、 32-19Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(9.3)	R側面正直(横)、 刺突、結束第1種 (L1-R)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
72	3	SR02	埴埴土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(9.1)	口唇キズミ、L1側面 正直(横・斜)、R側 面、刺突、単軸筋全 体第1種(L1)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
72	4	SR03	埴埴土P1	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(8.2)	R側面正直(横)、結 束第1種(R・L)横、 単軸筋全体第1種(R) 横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
72	5	SR03	埴埴土P1、 32-19Ⅳ層	縄文土器	深鉢	胴部～底 部	—	12.8	(22.7)	単軸筋全体第1種 (R)横、結束第1種 (L1-R)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
73	1	遺構外	32-151層・ IV層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	R.L斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期中葉 (円筒下層b/c)
73	2	遺構外	32-30Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	R.L斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期中葉 (円筒下層b/c)
73	3	遺構外	埴土	縄文土器	深鉢	口縁付近	—	—	—	結束第1種(R・L)横、 隆帯、刺突	ミガキ	織線流入	縄文時代前期中葉 (円筒下層b/c)
73	4	遺構外	埴土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	R.L斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期中葉 (円筒下層b/c)
73	5	遺構外	32-27Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	直府段合柄(R・L)R	ミガキ	織線流入	縄文時代前期中葉 (円筒下層b/c)
73	6	遺構外	32-28Ⅴ土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.6)	不明	ミガキ	織線流入	縄文時代前期中葉 (円筒下層b/c)
73	7	遺構外	32-20Ⅲ層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(9.0)	口唇L、単軸筋全体 第1種(R)側面正直 (横)、単軸筋全体第 1種(R)横	ミガキ	織線流入、外面泥 化物付着	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
73	8	遺構外	32-121層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.9)	単軸筋全体第1種 (R)側面正直(横)、 単軸筋全体第1種(R) 横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
73	9	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部付 近	—	—	—	自縄自巻側面正直 (横)、刺突、結束第 1種(R・L)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)
73	10	遺構外	32-271層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.3)	口唇L、単軸筋全体 第1種(L)側面正直 (横→縦)	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層d/c)

図 番 号	遺物 番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面調整)	時期
73	11	遺構外	排土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	単軸筋全体第1類(口)側面圧痕(横・斜)、結束第1種(DL・LR)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	12	遺構外	32-28 I層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.4)	口唇L。単軸筋全体第1類(R)側面圧痕(横・斜)、散沫帯、刺突。LR結節(D)	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	13	遺構外	排土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.4)	単軸筋全体第1類(R?)側面圧痕(斜・横)	ハクヲク	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	14	遺構外	32-28 III層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.6)	口唇LR。自縄自巻側面圧痕(横・斜)、乳側面圧痕(横)	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	15	遺構外	排土	縄文土器	深鉢	口縁付近	—	—	—	単軸筋全体第1類(口)側面圧痕(横)、散沫帯、刺突。LR結節(横)、単軸筋全体第1類(LR)縦	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	16	遺構外	32-28 III層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.4)	波状口縁。自縄自巻側面圧痕(横・斜)、刺突	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	17	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.6)	単軸筋全体第1類(口)側面圧痕(横・斜)、乳側面圧痕(横)、結束第1種(LR・DL)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	18	遺構外	32-9 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.0)	口唇LR。単軸筋全体第1類(R)側面圧痕(横・斜)、結束第1種(DL・LR)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	19	遺構外	32-28 I層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.1)	波状口縁。口唇LR側面圧痕。単軸筋全体第1類(R)側面圧痕(横・斜)	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	20	遺構外	32-28 III層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.4)	単軸筋全体第1類(R?)側面圧痕(横・斜)	—	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	21	遺構外	32-5 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(2.8)	口唇DL。単軸筋全体第1類(R)側面圧痕(横・斜)	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	22	遺構外	32-28 III層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	—	単軸筋全体第1類(口)側面圧痕(横・斜)、刺突	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	23	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.4)	単軸筋全体第5層側面圧痕(横)、乳側面圧痕(横)、単軸筋全体第3層(D)縦	ミガキ?	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	24	遺構外	32-20 I層	縄文土器	深鉢 (小型)	口縁部	—	—	(3.9)	口唇DL。単軸筋全体第1類(R?)側面圧痕(横)、多軸筋全体(D)縦	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	25	遺構外	32-8 III層	縄文土器	深鉢 (小型)	口縁部	—	—	(2.6)	単軸筋全体第1類(口)側面圧痕(横)、結束第1種(DL・LR)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	26	遺構外	排土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.6)	口唇DL。乳側面圧痕(横)、内形透かし。結束第1種(DL・LR)横。単軸筋全体第1類(L)縦	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	27	遺構外	32-9 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.7)	R側面圧痕(横)、結束第1種(LR・DL)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
73	28	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.8)	LR側面圧痕(横)、結束第1種(DL・LR)横。単軸筋全体第1層(D)縦	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
74	1	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.3)	口唇R側面圧痕。R側面圧痕(横)、散沫帯。単軸筋全体第1類(D)縦	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)
74	2	遺構外	排土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.0)	口唇DL。乳側面圧痕(横)、LR側面圧痕(横)、結束第1種(DL・LR)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期未葉 (円筒下層6c)

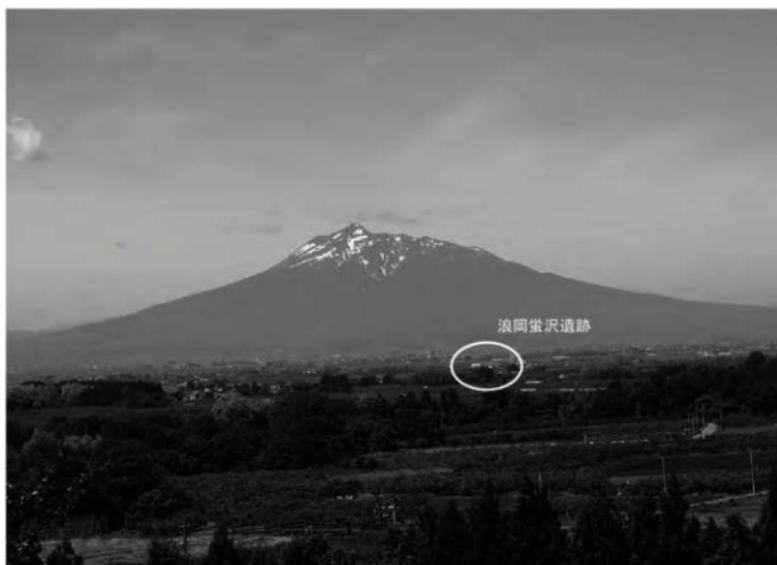
図 番 号	遺物 番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面調整)	時期
74	3	遺構外	32-9田層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.9)	丸胴面正直(横)・L 結節(横)・丸縁	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	4	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.2)	丸胴面正直(横)・丸 縁帯・L結節(横)・ 丸斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	5	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.3)	口唇斜突・L胴面正 直(横)・2本の丸縁 帯・斜突・結束第1 種(LR・LR)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	6	遺構外	32-28田層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(7.0)	口唇キザミ?・L胴面 正直(横)・丸縁帯・ 結束第1種(LR・LR) 横・L縁	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	7	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.5)	口唇LR・L胴面正直 (横)・結束第1種 LR・LR)横・丸斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	8	遺構外	排土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(7.4)	口唇LR・L胴面正直 (横)・丸縁帯・斜突・ 単軸結糸体第1種(9) 縦	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	9	遺構外	排土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.7)	L胴面正直(横→縦)・ 多軸結糸体(9)縦	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	10	遺構外	32-27 I層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.1)	口唇L胴面正直・L胴 面正直(横・斜→縦)	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	11	遺構外	32-27 I層・ 排土	縄文土器	深鉢	口縁→胴 部	—	—	(13.2)	口唇LR・L胴面正直 (横・斜)・結束第1種 LR・LR)横・丸斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	12	遺構外	排土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.8)	L胴面正直(横)・L 結節(横)・L縁	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	13	遺構外	32-20 I層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.1)	L胴面正直(横・斜)	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	14	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(2.9)	口唇LR・L胴面正直 (横・斜)・丸縁帯	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	15	遺構外	32-28田層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.7)	L胴面正直(横・斜)・ 結束第1種(LR・LR)横	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	16	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.9)	変状口縁・口唇L胴 面正直・L胴面正直 (横・斜)・単軸結糸 体第1種(1)縦	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	17	遺構外	32-11田層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.4)	口唇LR・L胴面正直 (横)・L縁	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	18	遺構外	排土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.4)	変状口縁・L胴面正 直(横)・穿孔・丸縁	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)	
74	19	遺構外	32-20 風倒木	縄文土器	深鉢	口縁部→ 胴部	—	—	(14.9)	L胴面正直(横・斜→ 縦)・L結節(横)・ 丸斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	20	遺構外	32-20 風倒木	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(9.8)	口唇LR・L胴面正直 (横・斜→縦)・丸縁 帯・斜突・L結節 (横)・単軸結糸体第 1種(9)縦	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	21	遺構外	32-28田層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(7.3)	口唇L胴面正直・L 胴面正直(横・斜→ 縦)・L結節(横)・ 単軸結糸体第1種(9) 縦	ミガキ	織線流入・ 3674-22と同一個 体	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	22	遺構外	32-28田層・ 排土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(6.8)	口唇L胴面正直・L 胴面正直(横・斜→ 縦)・L結節(横)・ 単軸結糸体第1種 9)縦	ミガキ	織線流入・ 3674-21と同一個 体	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	23	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.5)	口唇LR・L胴面正直 (横・斜→縦)・L結 節(横)	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	24	遺構外	32-14IV層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(7.8)	口唇LR・L胴面正直 (横・斜→縦)・結束 第1種(LR・LR)横・ 丸斜	ミガキ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)
74	25	遺構外	32-28田層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.8)	L胴面正直(横・斜→ 縦)・丸縁帯	ハトラフ	織線流入	縄文時代前期末葉 (円筒下層6c)

図 番 号	遺構 番号	遺構名	出土位置	種類	部種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面調整)	時期
73	1	遺構外	32-28II層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(2.8)	口唇凹、丸胴面圧痕(横)、丸斜	ミガキ		縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	2	遺構外	32-28III層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.5)	LR胴面圧痕(横)、結束第1種(RL-LR)横	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	3	遺構外	32-20III層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.0)	L胴面圧痕(横)、網	ミガキ		縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
74	4	遺構外	32-18IV層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.0)	網突、網歯状縁部	ミガキ		縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	5	遺構外	32-29 I層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(5.3)	波状口縁、LR胴面圧痕(横)、粘土結貼付、網突	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	6	遺構外	32-27II層、 32-28I層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(9.0)	丸横、丸胴面圧痕(横)、網陰帯、丸斜	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	7	遺構外	32-28III層・ 盛土、32-30 III層、埴土	縄文土器	深鉢	胴部～底 部	—	14.0	(12.9)	単軸絡糸体第1種(0)縦	ミガキ	底外面ミガキ、織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	8	遺構外	32-28 I層・ II層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第1種(0)ミガキ	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	9	遺構外	埴土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第1種(L)縦、結束第1種(RL-LR)横	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	10	遺構外	32-9III層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第1種(0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	11	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第1種(0)縦、結束第1種(RL-LR)横	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	12	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第1種(0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	13	遺構外	32-28III層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第1A種(0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	14	遺構外	埴土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第1A種(0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	15	遺構外	32-28III層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第1A種(0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	16	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第1A種(0)縦	ミガキ	織線混入、内面炭化物付着	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	17	遺構外	32-27 I層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第1A種(0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	18	遺構外	32-29盛土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体1A種(LR-LR)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	19	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第5種(0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	20	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第5種(0)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	21	遺構外	埴土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	単軸絡糸体第5種(L)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	22	遺構外	32-18IV層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	多軸絡糸体(L)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	23	遺構外	32-29盛土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	多軸絡糸体(L)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	24	遺構外	32-28III層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	LR結帯(横)、LR胴面圧痕(横)、結束第1種(RL-LR)縦	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)
75	25	遺構外	32-28 I層	縄文土器	台付鉢	底部	—	(10.4)	(2.5)	ミガキ	ミガキ		縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)?
75	26	遺構外	32-27III層	縄文土器	台付鉢	底部	—	(9.0)	(2.0)	ミガキ	ミガキ		縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)?
75	27	遺構外	32-3~4 カタラン	縄文土器	台付鉢	台部	—	—	—	ミガキ	ミガキ	織線混入	縄文時代前期末葉 (円筒下層dC)?
76	1	遺構外	32-29III層	縄文土器	深鉢	口縁付近	—	—	—	粘土結貼付、LR胴面圧痕	ミガキ		縄文時代中期前葉 (円筒上層aC)
76	2	遺構外	32-36 I層	縄文土器	深鉢	口縁付近	—	—	—	隆帯、LR胴面圧痕	ミガキ		縄文時代中期前葉 (円筒上層aC)
76	3	遺構外	埴土	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	丸横、粘土結貼付	ミガキ		縄文時代中期前葉 (円筒上層aC)

図番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
76 4	遺構外	32-29I層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	沈線	ナゲ		縄文時代後期
76 5	遺構外	32-29II層	縄文土器	深鉢	胴部	—	—	—	沈線	ナゲ		縄文時代後期
76 6	遺構外	排土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.2)	糸痕	ナゲ		縄文時代後期後葉
76 7	遺構外	カクラン	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.7)	糸痕	ナゲ		縄文時代後期後葉
76 8	SK28・遺構外	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.2)	糸痕	ナゲ		縄文時代後期後葉
76 9	遺構外	32-9I層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(4.0)	丸斜	ナゲ		縄文時代後期後葉～晩期
76 10	遺構外	32-11I層・II層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(8.7)	LR縦・斜	ナゲ	外面炭化物付着	縄文時代後期後葉～晩期
76 11	遺構外	32-11III層	縄文土器	深鉢	底部	—	5.0	(2.3)	LR横	ナゲ	底外面ナゲ	縄文時代後期後葉
76 12	遺構外	32-11IV層	縄文土器	深鉢	底面	—	8.1	(4.1)	LR斜	ナゲ	底外面ナゲ	縄文時代後期後葉
76 15	遺構外	32-11V層	縄文土器	浅鉢?	口縁部	—	—	(3.5)	沈線、LR横	ナゲ		縄文時代晩期(大深B1式)
76 16	遺構外	排土	縄文土器	浅鉢または注口	胴部	—	—	—	沈線、刺突	ナゲ		縄文時代晩期(大深BC)
76 17	遺構外	排土	縄文土器	鉢類	胴部	—	—	—	沈線	ナゲ		縄文時代晩期
76 18	遺構外	32-9II層	縄文土器	鉢類?	胴部	—	—	—	LR縦	ナゲ		縄文時代晩期
76 19	遺構外	32-7I層	縄文土器	壺	胴部～胴部	—	—	—	LR縦・斜	ナゲ		縄文時代晩期
76 20	遺構外	32-11I層	縄文土器	深鉢	口縁部	—	—	(3.1)	丸斜	ナゲ		縄文時代晩期
76 21	遺構外	32-28II層、32-29II層	土器器	坏	体部下半	—	5.0	(3.4)	ロクロ	ロクロ	底外面の転写切	平安時代
76 22	遺構外	32-28II層、32-29II層・盛土、排土	土器器	坏	体部下半	—	5.6	(3.6)	ロクロ	ロクロ	底外面の転写切	平安時代
76 23	遺構外	32-20IV層	土器器	甕	口縁部	(14.6)	—	(6.4)	横ナゲ、ヘラケズリ	横ナゲ、ヘラナゲ		平安時代
76 24	遺構外	32-29II層・盛土	土器器	甕	口縁部	—	—	(4.1)	横ナゲ、ヘラナゲ	横ナゲ、ヘラナゲ		平安時代
76 25	遺構外	32-29II層	土器器	壺	口縁部	—	—	(8.8)	ロクロ	ロクロ、ヘラナゲ		平安時代
76 26	遺構外	32-25I層	土器器	ミニチュア甕	口縁～胴部	—	—	(3.4)	ミガキ	ナゲ		平安時代
76 27	遺構外	32-2カクラン	須恵器	坏	底部	—	(6.6)	(1.4)	ロクロ	ロクロ	回転転写切、還元軟質焼成	平安時代
76 28	遺構外	排土	須恵器	坏	口縁部	(11.4)	—	(2.7)	ロクロ	ロクロ		平安時代
76 29	遺構外	排土	須恵器	壺	口縁部	(9.0)	—	(2.5)	ロクロ	ロクロ	内外面自然釉付着	平安時代
76 30	遺構外	32-22I層	須恵器	甕	胴部	—	—	—	タタキ	当て具痕		平安時代
61 5	SK01	堆積土	土製品	不明土製品		長さ 2.5cm	幅 1.2cm	厚さ 1.1cm				縄文時代
61 15	SK07	堆積土	土製品	皿状土製品	底面?	—	—	—	手捏ね	手捏ね	SK64-1・SK76-13・14と類似	縄文時代後期後葉?
64 1	SK26	堆積土	土製品	皿状土製品	底部付近	—	—	—	手捏ね	手捏ね	SK61-15・SK76-13・14と類似	縄文時代後期後葉?
75 28	遺構外	32-14IV層	土製品	円盤状		長軸 4.2cm	短軸 3.7cm	厚さ 1.4cm	単軸器系(体部)類(D)類		繊維混入	縄文時代(前期末葉(円盤下層4式))
76 13	遺構外	32-11I層	土製品	皿状土製品	完形	5.5	1.0	1.5	手捏ね	手捏ね	SK61-15・SK64-1・SK76-14と類似	縄文時代後期後葉?
76 14	遺構外	32-9I層	土製品	皿状土製品	略定形	7.8	2.5	2.1	手捏ね	手捏ね	SK61-15・SK64-1・SK76-13と類似	縄文時代後期後葉?

表18 浪岡県遺跡(農道32号) 石器・石製品観察表

図録 番号	遺跡名	出土位置・ 層位等	種類	器種	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	石材	備考
50	6 S101	埴埴土	割片石器	スクレイパー	28.5	38.1	11.7	10.5	埴埴頁岩	背面一側縁調整、対応にも使用跡あり
51	4 S102	埴埴土	割片石器	石鏟	67.4	33.5	16.4	44.9	埴埴頁岩	背面一側縁調整、断面形状、急角度調整、縁部
52	1 S903	埴埴土7層	割片石器	石鏟	50.1	24.3	9.1	8.2	埴埴頁岩	断面、刃部先端調整、背面側全面調整
53	3 S915	埴埴土	割片石器	石鏟	25.5	12.4	5.2	1.2	埴埴頁岩	有爪爪、先端欠損
52	5 S916	1層	礫石器	刮石	(131.0)	49.5	46.0	348.3	凝灰岩	長方形、四面使用、熱処理跡?
61	6 S901	埴埴土	割片石器	スクレイパー	42.7	52.8	12.0	26.4	埴埴頁岩	背面側縁調整、上下両端調整
61	7 S901	2層	礫石器	磨製石鏟	609.0	(31.0)	20.0	91.4	片岩	刀部調整、基部調整
62	7 S909	埴埴土	割片石器	スクレイパー	35.7	23.5	10.5	9.0	埴埴頁岩	背面側縁調整、急角度調整、端部破損、大欠損
62	8 S909	埴埴土	割片石器	B+F(調整割片)	52.9	36.5	17.4	25.4	埴埴頁岩	背面側縁調整、鋭い調整
62	9 S909	埴埴土	礫石器	磨製石鏟	(27.0)	(27.0)	18.0	8.2	緑色凝灰岩	基部破損、刀部割片
62	11 S813	埴埴土	礫石器	扁平打製石器	(75.0)	72.0	35.5	248.9	凝灰岩	破断部、一側縁調整(平地面ザラザラ)、端部欠損、破断面磨耗跡、短巻形
62	12 S813	埴埴土	礫石器	扁平打製石器	60.0	(88.0)	34.0	363.3	凝灰岩	破断部(両面)、一側縁調整(平地面ツルツル)、刃部調整
63	14 S824+25	4層	礫石器	石鏟	424.0	160.0	129.0	13.9 (kg)	凝灰岩	完形、熱処理
65	1 S829	埴埴土	割片石器	石鏟	74.0	59.8	14.2	33.3	埴埴頁岩	断面、背面側縁調整、断面つまみ調整
65	2 S829	埴埴土	礫石器	石鏟	60.0	(34.5)	18.0	99.1	埴埴頁岩	両端調整、上端側削り、下端側調整、断面磨耗跡、熱処理跡
65	3 S829	1層	礫石器	扁平打製石器	(78.0)	87.0	20.0	199.8	凝灰岩	破断部、両側縁調整、平刃調整
65	9 S833	埴埴土	割片石器	スクレイパー	46.2	26.7	7.4	7.7	埴埴頁岩	背面側縁調整、背面側急角度調整
65	10 S833	埴埴土	割片石器	スクレイパー	55.6	36.1	13.1	24.7	埴埴頁岩	背面側縁調整、急角度鋭い調整、B+F?
65	13 S839	埴埴土	割片石器	石鏟	32.9	36.3	9.4	8.8	埴埴頁岩	上半部割片、刀部調整、つまみ部両面、背面側縁調整
65	14 S839	埴埴土	礫石器	扁平打製石器	(149.0)	65.5	24.0	292.4	凝灰岩	一端調整、周縁調整、狭小平地面ザラザラ、短巻形
66	9 S841	埴埴土	割片石器	石鏟	54.8	30.0	11.6	23.1	埴埴頁岩	背面側縁調整、断面形状、急角度調整、縁部
66	10 S841	埴埴土	礫石器	扁平打製石器	(101.0)	(84.0)	18.0	181.1	凝灰岩	破断部、周縁調整、平刃調整
66	11 S841	埴埴土	礫石器	刮石	121.0	64.0	49.0	383.1	凝灰岩	長方形、二面使用、鋭い端打痕
69	5 S902	2層	割片石器	スクレイパー	36.8	19.2	9.1	5.0	玉髄	背面一側縁調整、点状調整
71	1 遺構外	32-29層目	割片石器	石鏟	31.1	12.3	5.3	1.9	玉髄	無加工、先端破損
71	2 遺構外	32-29層目	割片石器	石鏟	37.1	12.6	4.3	1.5	埴埴頁岩	無加工
71	3 遺構外	32-29層目	割片石器	石鏟	19.9	7.0	3.0	0.2	凝灰岩	小型、有爪爪、なで調整基部、先端欠損
71	4 遺構外	32-29層目	割片石器	石鏟	31.0	8.9	4.6	1.2	埴埴頁岩	有爪爪、なで調整基部
71	5 遺構外	32-29層目	割片石器	石鏟	43.6	11.0	7.8	3.7	埴埴頁岩	未成形?、縁部に側縁調整
71	6 遺構外	32-29層目	割片石器	石鏟 (スクレイパー?)	23.2	8.5	4.5	0.6	埴埴頁岩	背面一側縁調整と側縁調整
71	7 遺構外	表層	割片石器	石鏟	60.1	52.5	10.7	22.4	埴埴頁岩	横型、刃部両面側縁調整、つまみ部両面調整(背面土)
71	8 遺構外	表層	割片石器	石鏟	45.4	51.9	8.7	16.8	埴埴頁岩	横型、刃部両面側縁調整、つまみ部両面調整、浅いノッチ状
71	9 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	28.1	26.1	10.5	6.8	埴埴頁岩	断面一側縁調整(縁部調整)、つまみ部両面の可塑性
71	10 遺構外	32-27層目	割片石器	スクレイパー	30.2	18.5	9.1	4.9	埴埴頁岩	断面一側縁調整
71	11 遺構外	跡土	割片石器	スクレイパー	41.1	39.6	12.1	14.2	埴埴頁岩	背面側縁調整、換入調整
71	12 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	60.3	44.6	15.7	37.5	埴埴頁岩	背面側縁調整、縦長割片素材
71	13 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	32.3	28.4	9.1	6.2	埴埴頁岩	背面側縁調整
71	14 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	43.5	18.0	7.2	3.5	埴埴頁岩	背面一側縁調整、破損
71	15 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	22.8	16.4	4.8	1.4	埴埴頁岩	背面一側縁調整、小形片素材
71	16 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	28.7	52.1	11.0	12.0	埴埴頁岩	背面側縁調整、断面一側縁に鋭い調整
71	17 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	39.4	43.8	20.6	25.6	埴埴頁岩	縁調整、一側縁側縁調整(換入調整)、ノッチ、B+F(調整割片)?
71	18 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	63.0	49.0	23.2	86.4	埴埴頁岩	両側縁に換入調整、B+F(使用割片)?
71	19 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	31.1	41.5	18.8	24.0	埴埴頁岩	断面に鋭い調整、B+F(調整割片)?
71	20 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	41.0	22.5	15.7	10.2	埴埴頁岩	断面に鋭い調整、B+F(調整割片)?
71	21 遺構外	跡土	割片石器	スクレイパー	29.5	28.5	8.9	7.5	埴埴頁岩	背面一側縁調整(側縁調整)、B+F(使用割片)?
71	22 遺構外	跡土	割片石器	スクレイパー	32.5	30.4	8.7	7.1	埴埴頁岩	一端に換入調整、B+F(使用割片)?
71	23 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	20.0	29.9	7.1	4.0	埴埴頁岩	一端に換入調整、B+F(調整割片)?
71	24 遺構外	32-29層目	割片石器	スクレイパー	22.6	22.5	8.8	3.2	埴埴頁岩	有爪爪に換入調整、B+F(使用割片)?
71	25 遺構外	32-41層目	割片石器	スクレイパー	41.2	19.4	8.3	3.9	埴埴頁岩	一端に換入調整、B+F(使用割片)?
71	26 遺構外	32-30層目	割片石器	スクレイパー	64.0	48.5	21.5	64.7	凝灰岩	断面部、厚割片、鋭い調整
71	27 遺構外	32-29層目	割片石器	石鏟	51.5	86.7	50.0	222.6	埴埴頁岩	打面転移、転底状
71	28 遺構外	32-29層目	割片石器	石鏟	47.0	64.3	47.7	148.6	埴埴頁岩	打面転移、立方形
71	29 遺構外	32-49層目	割片石器	石鏟	60.9	39.1	25.2	47.5	埴埴頁岩	打面転移、転底状
71	30 遺構外	32-21風洞本	礫石器	磨製石鏟	99.0	40.0	24.0	132.4	緑色片岩	刀部調整内調整(再調整)
71	31 遺構外	32-20風洞本	礫石器	扁平打製石器	600.0	(79.0)	21.0	179.5	凝灰岩	破断部、周縁調整、一側縁(平地面ツルツル)、平刃調整
71	32 遺構外	32-29層目	礫石器	扁平打製石器	(115.0)	59.0	21.5	157.2	凝灰質頁岩	一端調整、一側縁調整、狭小平地面ザラザラ、短巻形
71	33 遺構外	32-29層目	礫石器	扁平打製石器	61.0	(67.0)	25.0	140.1	凝灰岩	破断部(両面)、一側縁(平地面一側面よりザラザラ)、横刃部?
71	34 遺構外	32-36層目	礫石器	北海道式石鏟	134.0	74.0	44.0	696.9	凝灰岩	背面側削り、両側縁調整、一側縁調整(平地面ツルツル)、刃部打痕
71	35 遺構外	32-19層目	礫石器	磨製石鏟	35.0	41.0	26.5	43.5	燧石	磨製部、短形小型
71	36 遺構外	32-29層目	礫石器	磨製石鏟	63.0	64.0	17.0	94.5	燧石	扁平部、両端調整
71	37 遺構外	32-29層目	礫石器	刮石	102.5	80.0	55.0	380.3	凝灰岩	長方形、四面使用、鋭い調整打痕
71	38 遺構外	32-29層目	礫石器	刮石	63.0	(39.5)	26.0	124.2	凝灰岩	長方形、二面使用、鋭い端打痕
71	39 遺構外	32-29層目	礫石器	打石	269.0	232.5	52.0	4428.8	凝灰岩	一面使用、熱処理
71	40 遺構外	32-29層目	礫石器	石鏟	(28.0)	(68.0)	(34.0)	37.4	凝灰岩	短形、横刃部
71	41 遺構外	32-30層目	礫石器	石鏟	90.0	(78.0)	(52.0)	327.7	凝灰岩	短形、横刃部
71	42 遺構外	32-30層目	石製品	有孔石製品	24.5	9.0	4.5	1.2	埴埴頁岩	小型横円形、破断部



遺跡遠景 E→



遺跡遠景 NE→

写真33 浪岡蚩沢遺跡(農道32号)(1) 遺跡遠景



遺跡近景 S→



遺跡近景 SW→

写真34 浪岡蚕沢遺跡(農道32号)(2) 遺跡近景



N32-8～14グリッド遺跡現況 SE→



N32-14～21グリッド遺跡現況 S→



N32-20～24グリッド遺跡現況 S→

写真35 浪岡蚩沢遺跡(農道32号)(3) 遺跡現況



N32-5～9グリッド作業状況 N→



N32-11～14グリッド西半作業状況 SE→



N32-19～23グリッド東半作業状況 N→



N32-19～21グリッド西半作業状況 S→



N32-24～32グリッド西半作業状況 N→



N32-32～36グリッド作業状況 N→

写真36 浪岡蚩沢遺跡(農道32号)(4) 作業状況



N32-1～5グリッド調査区完掘 SW→



N32-6～12グリッド調査区完掘 N→



N32-7～12グリッド調査区完掘 S→



N32-12～14グリッド東半調査区完掘 N→



N32-18～24グリッド西半調査区完掘 N→



N32-20～23グリッド東半調査区完掘 N→



N32-21～25グリッド西半調査区完掘 S→



N32-34～35グリッド調査区完掘 N→

写真37 浪岡蚩沢遺跡(農道32号)(5) 調査区完掘



N32-9グリッド基本層序 W→



N32-20グリッド基本層序 W→

写真38 浪岡蚩沢遺跡(農道32号)(6) 基本層序



SI01 完掘 N→

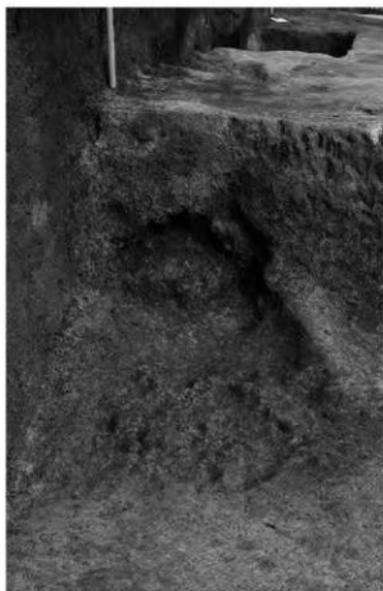


SI01 A-A' セクション E→



SI01 B-B' セクション N→

写真39 浪岡蛭沢遺跡(農道32号)(7) 竪穴建物跡(1)



SI01 カマド検出 N→



SI01 カマド完掘 N→



SI01 カマド煙道セクション W→

写真40 浪岡蜚川遺跡(農道32号)(8) 竪穴建物跡(2)



SI02 完掘 N→



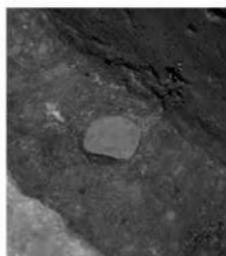
SI02 A-A'セクション NW→



SI02SK1 C-C'セクション SW→

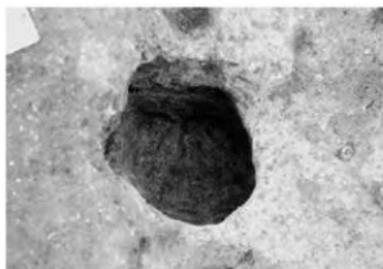


SI02 壁溝B-B'セクション N→



SI02 遺物(図51-1)出土状況 SW→

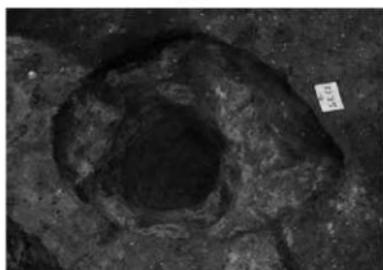
写真41 浪岡蜷沢遺跡(農道32号)(9) 竪穴建物跡(3)



SP01 完掘 N→



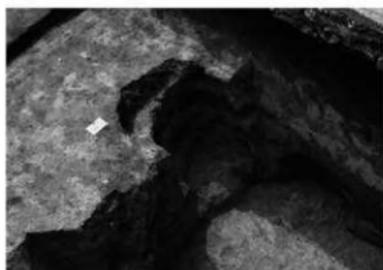
SP01 セクション N→



SP15 完掘 N→



SP15 セクション N→



SP16 完掘 NE→



SP16 セクション NW→



SK01 完掘 SW→



SK01 セクション N→

写真42 浪岡堂沢遺跡(農道32号)(10) 柱穴・土坑(1)



SK02 完掘 NW→



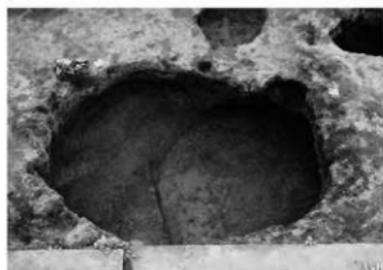
SK02 セクション NW→



SK03 完掘 E→



SK03 セクション NE→



SK04(左)・15(右) 完掘 NE→



SK04(左)・15(右) A-A'セクション NE→



SK05 完掘 NE→



SK05 セクション NE→

写真43 浪岡蛭沢遺跡(農道32号)(11) 土坑(2)



SK06 完掘 NE→



SK06 セクション NE→



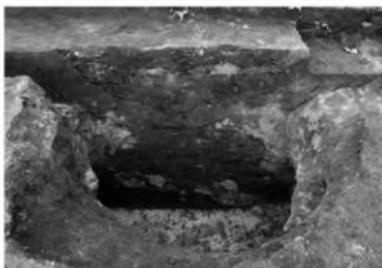
SK07 完掘 NW→



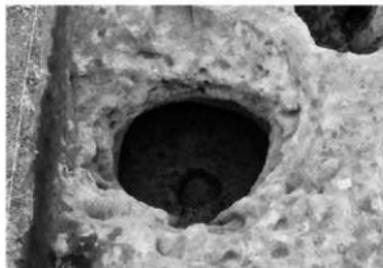
SK07 セクション NW→



SK08 完掘 W→



SK08 セクション W→



SK09 完掘 N→



SK09 セクション SW→

写真44 浪岡蜃沢遺跡(農道32号)(12) 土坑(3)



SK09 遺物(図61-23)出土状況 E→



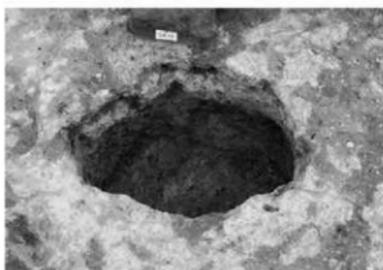
SK10 完掘 SW→



SK10 A-A'セクション SW→



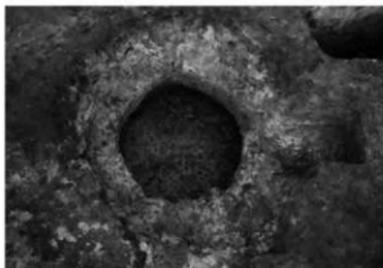
SK10 B-B'セクション S→



SK11 完掘 NE→



SK11 セクション NE→



SK12 完掘 NW→



SK12 セクション NW→

写真45 浪岡蛭沢遺跡(農道32号)(13) 土坑(4)



SK13 完掘 NE→



SK13 セクション NE→



SK16 完掘 NW→



SK16 セクション NW→



SK17 完掘 NE→



SK17 A-A'セクション SW→



SK18 完掘 NE→



SK18 B-B'セクション NE→

写真46 浪岡蜃沢遺跡(農道32号)(14) 土坑(5)



SK17(前)・18(奥) 完掘 NE→



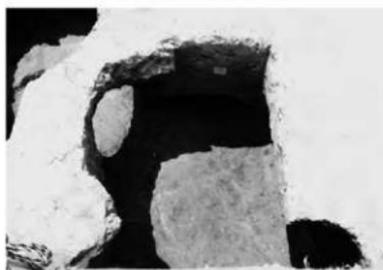
SK17(右)・18(左) C-C'セクション SE→



SK20 完掘 N→



SK20 セクション N→



SK21 完掘 E→



SK21 A-A'セクション SW→



SK22 完掘 N→



SK22 セクション N→

写真47 浪岡蜃沢遺跡(農道32号)(15) 土坑(6)



SK23 完掘 W→



SK23 セクション NW→



SK24・25 完掘 E→



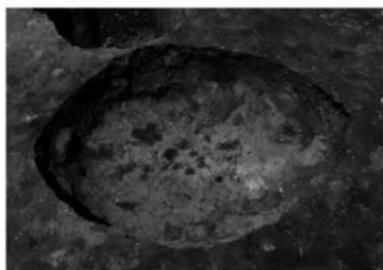
SK24・25 A-A'セクション S→



SK24・25 B-B'セクション E→



SK25 石棒出土状況 N→

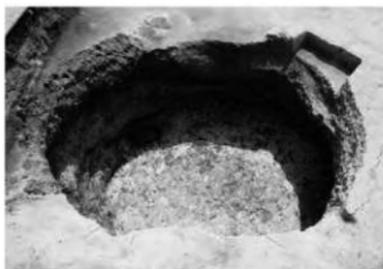


SK26 完掘 S→



SK26 セクション S→

写真48 浪岡蚩沢遺跡(農道32号)(16) 土坑(7)



SK29 完掘 N→



SK29 セクション W→



SK29 遺物(図64-3・4)出土状況 NW→



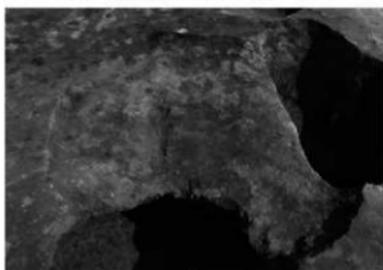
SK29 遺物(図64-4)出土状況 N→



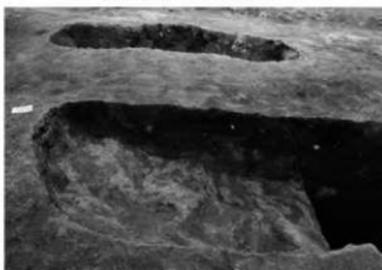
SK29 遺物(図64-3)出土状況 S→



SK29 遺物(図64-2)出土状況 N→

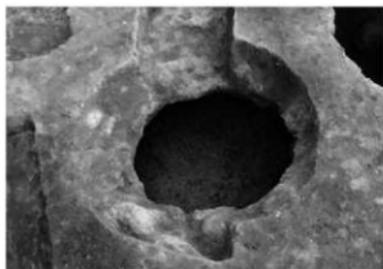


SK30 完掘 NE→



SK30 セクション NE→

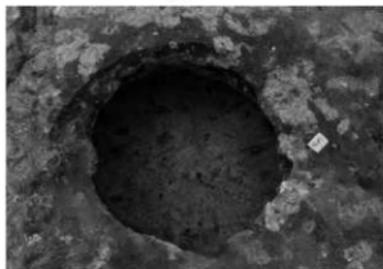
写真49 浪岡蜚泥遺跡(農道32号)(17) 土坑(8)



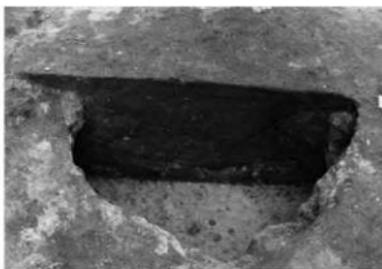
SK31 完掘 NW→



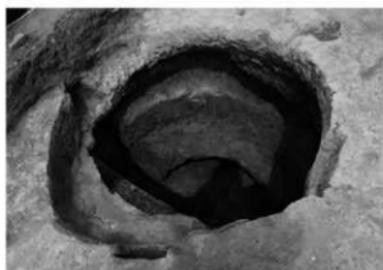
SK31 セクション NE→



SK32 完掘 NW→



SK32 セクション NW→



SK33・38 完掘 SE→



SK33 セクション NW→



SK33・38 セクション NW→



SK33 遺物(国65-6)出土状況 NW→

写真50 浪岡蚩沢遺跡(農道32号)(18) 土坑(9)



SK39・44 A-A'セクション(西半) NW→



SK39・44 B-B'セクション(東半) NE→



SK40 完掘・SK48 セクション E→



SK40 セクション W→



SK41 東半完掘 NE→



SK41 セクション SW→



SK42 完掘 E→

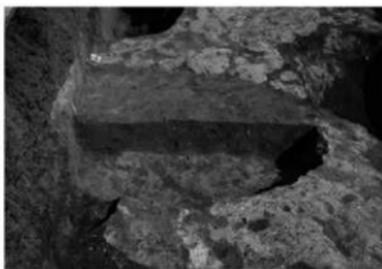


SK42 セクション SE→

写真51 浪岡蜃沢遺跡(農道32号)(19) 土坑(10)



SK43 完掘 N→



SK43 セクション N→



SK48 完掘 W→



SK48 セクション N→



SK49・53 A-A'セクション SW→



SK49・53 B-B'セクション N→



SK50 完掘 N→



SK50 セクション N→

写真52 浪岡蜃沢遺跡(農道32号)(20) 土坑(11)



SK51 完掘 S→



SK51 セクション S→



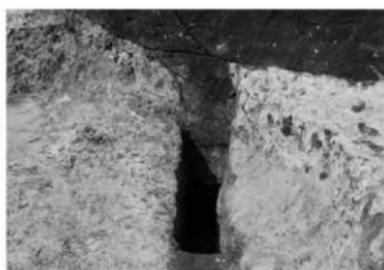
SK56・57 セクション NW→



SK60 完掘 SW→



SV01 完掘 SW→



SV01 A-A'セクション SW→



SV01 B-B'セクション SW→

写真53 浪岡蜃沢遺跡(農道32号) (21) 土坑(12)・溝状土坑

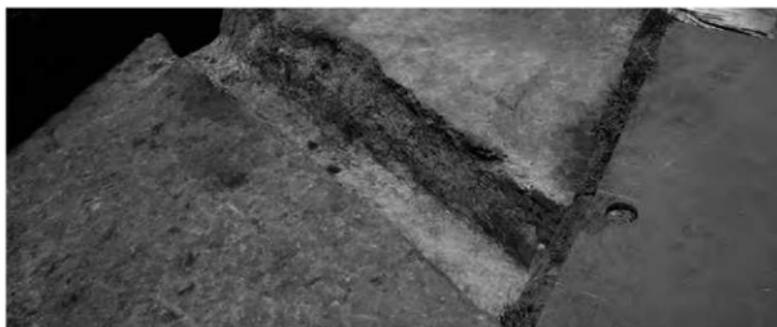


写真54 浪岡堂沢遺跡(農道32号)(22) 溝跡



SR01 検出状況 W→



SR01 掘方完掘 W→



SR01 断割り W→



SR01 断割り W→



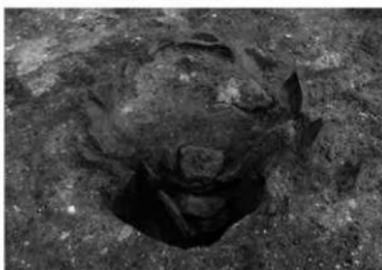
SR02 掘方完掘 S→



SR02 断割り S→



SR03 検出 N→



SR03 断割り N→

写真55 浪岡蜃沢遺跡(農道32号)(23) 土器埋設遺構

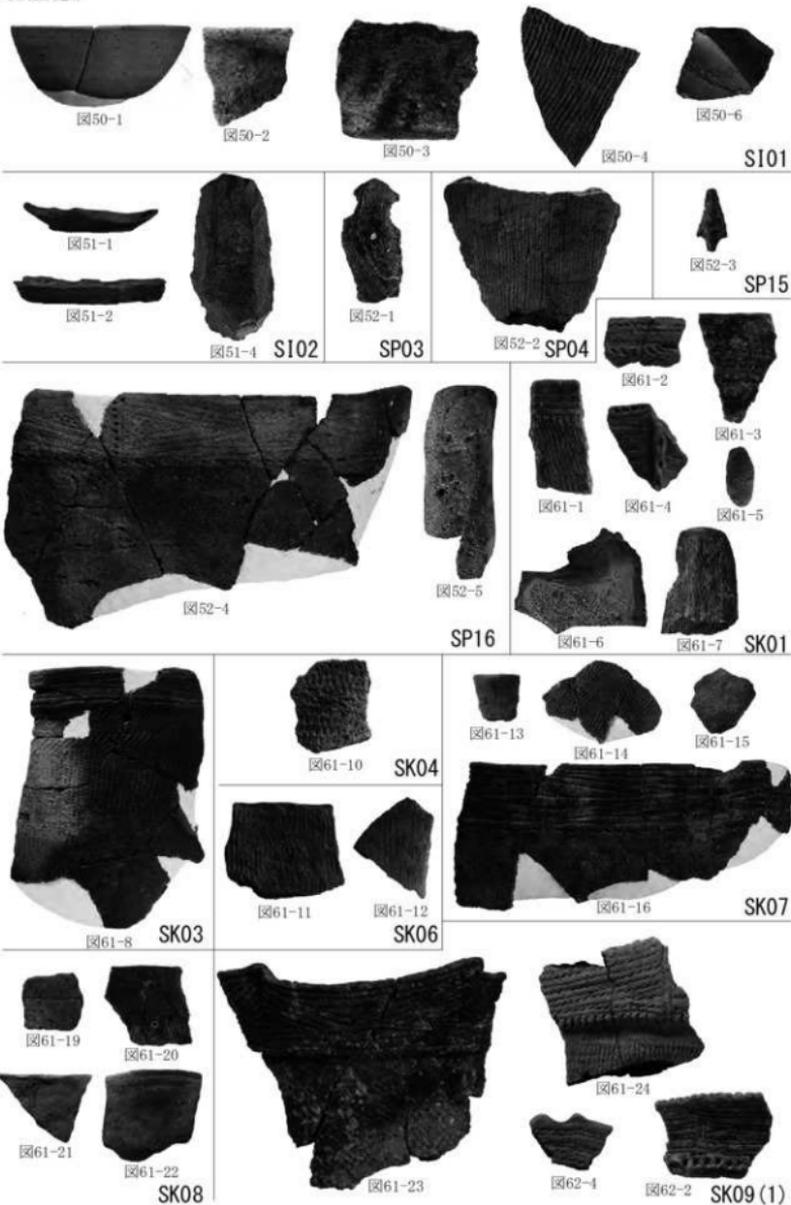


写真56 浪岡蜃沢遺跡(農道32号) 出土遺物(1)

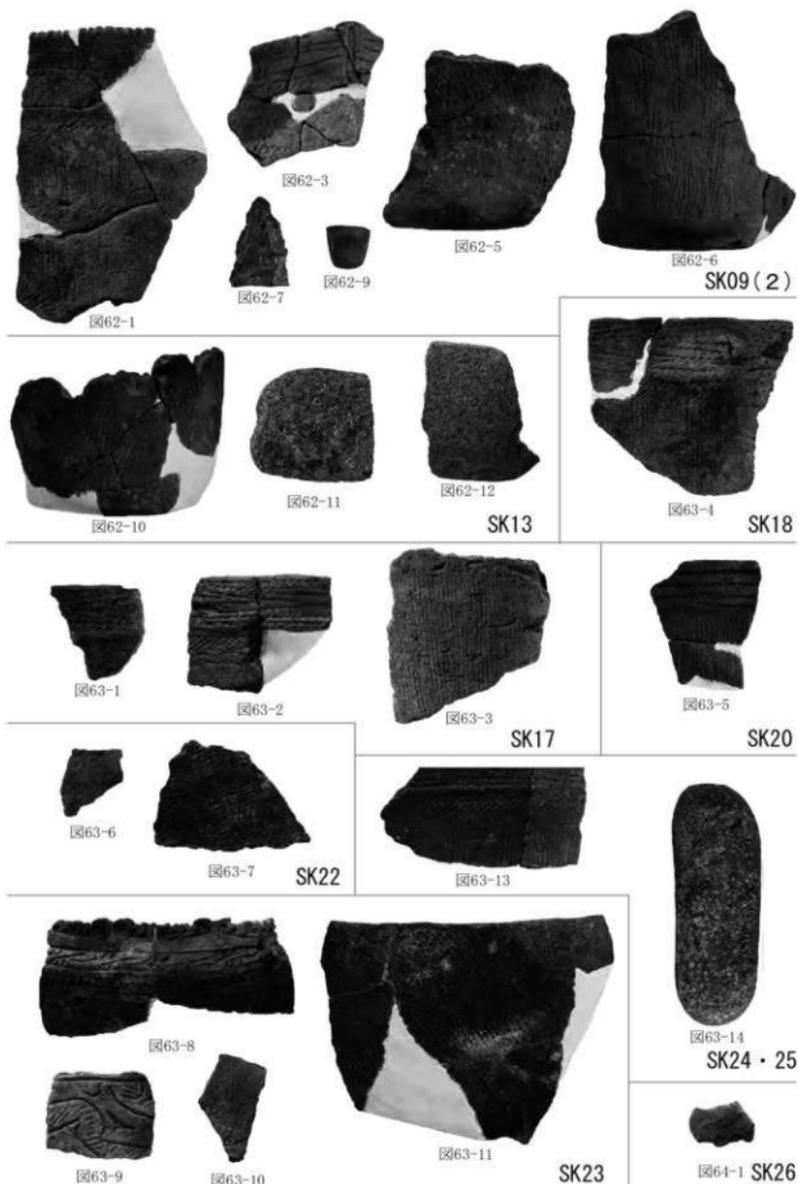


写真57 浪岡蚩沢遺跡(農道32号) 出土遺物(2)

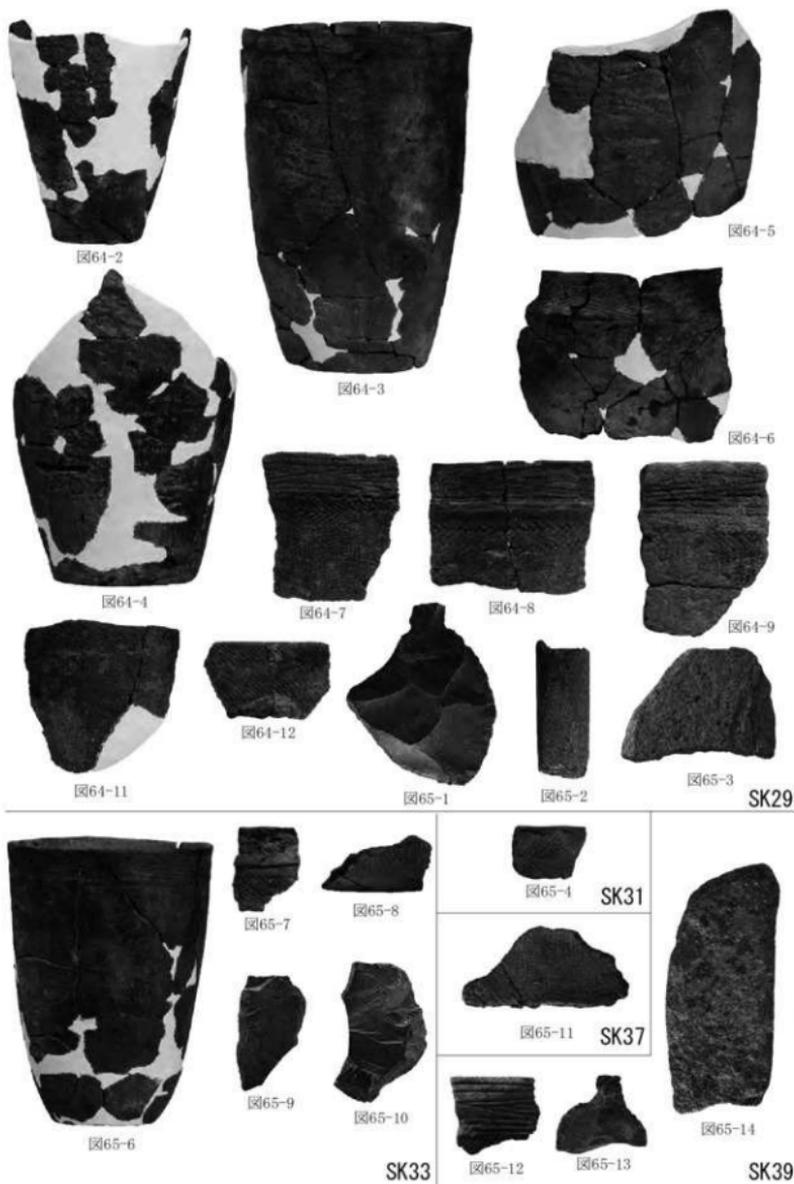


写真58 浪岡蚩沢遺跡(農道32号) 出土遺物(3)

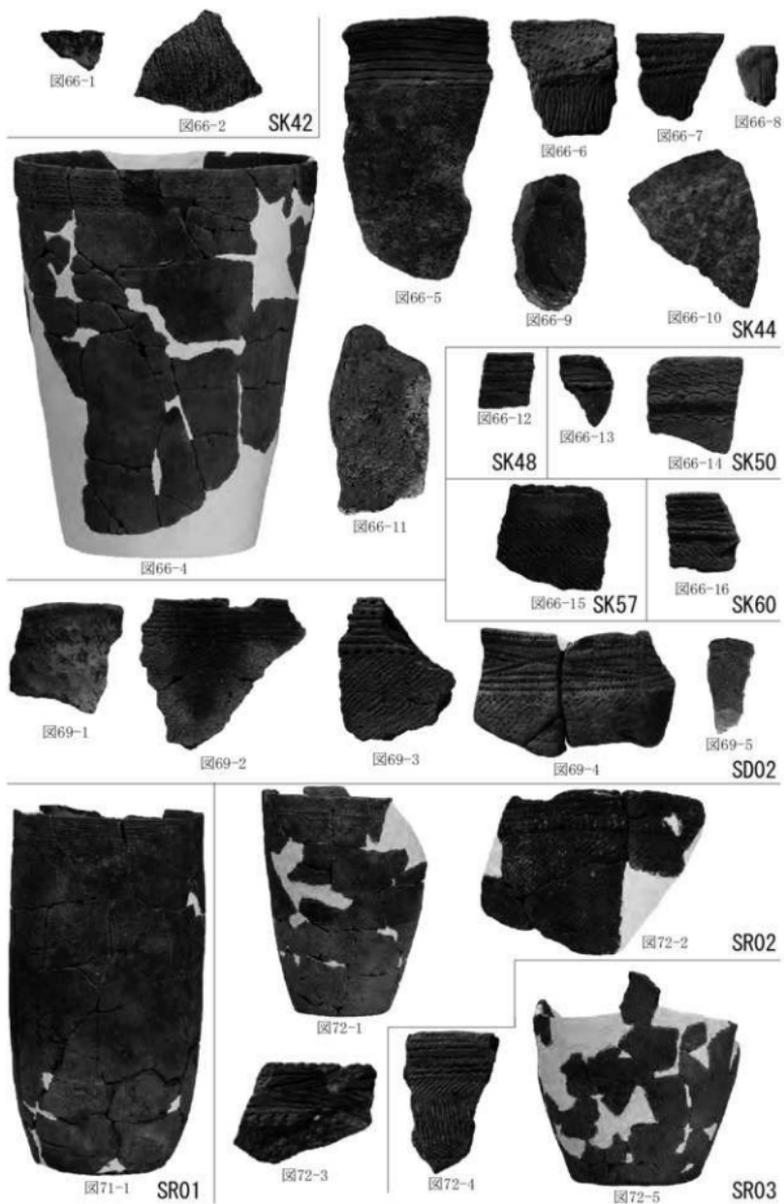


写真59 浪岡蚩沢遺跡(農道32号) 出土遺物(4)



図73-1

図73-2

図73-3

図73-4

図73-5

図73-6

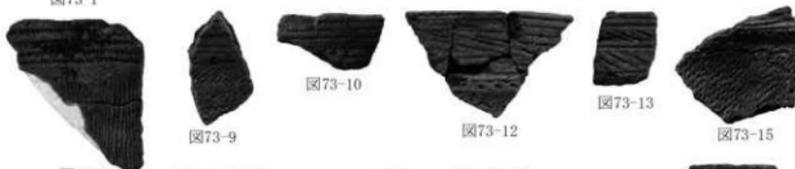


図73-7

図73-9

図73-10

図73-12

図73-13

図73-15



図73-16

図73-18

図73-19

図73-20

図73-22

図73-23



図73-24

図73-25

図73-26

図74-1

図74-4

図74-5



図74-6

図74-7

図74-8

図74-9

図74-10

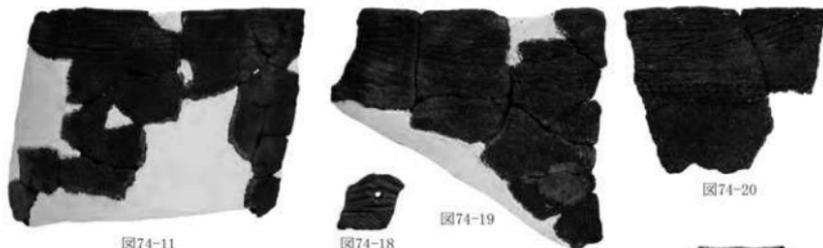


図74-11

図74-18

図74-19

図74-20



図74-12

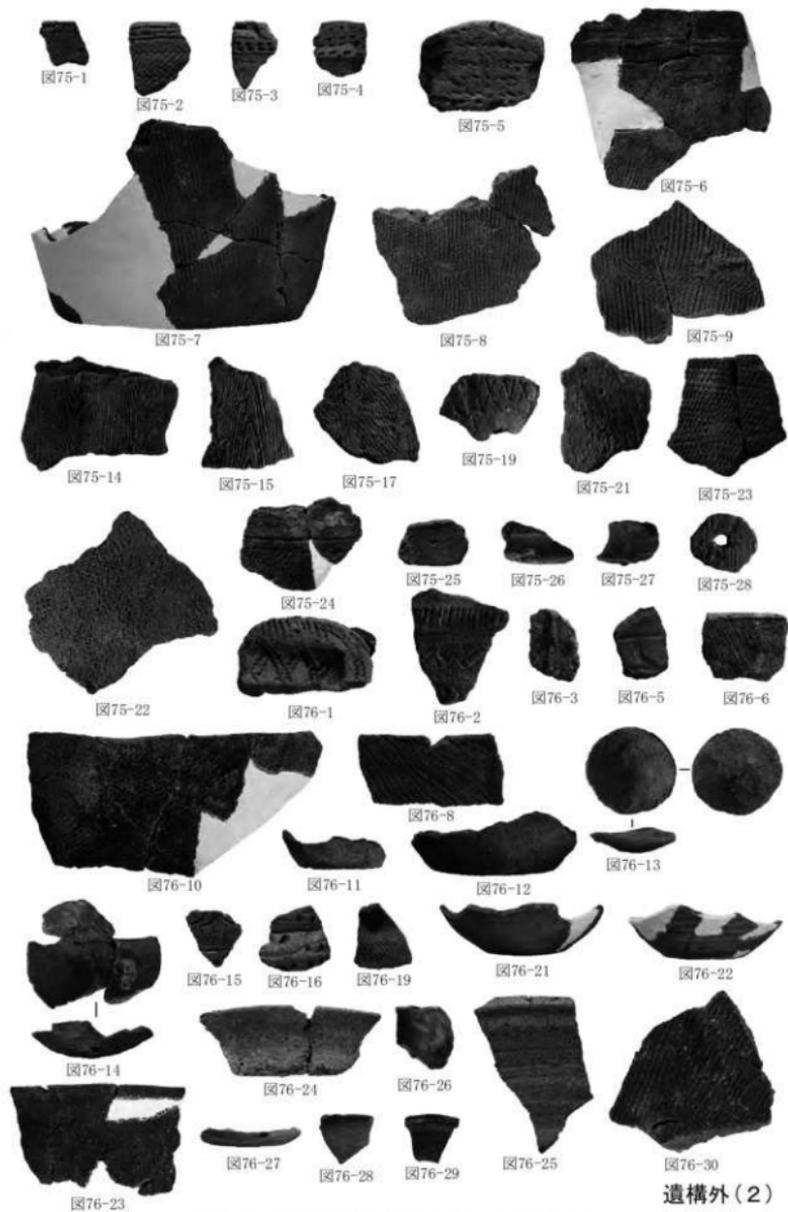
図74-16

図74-22

図74-23

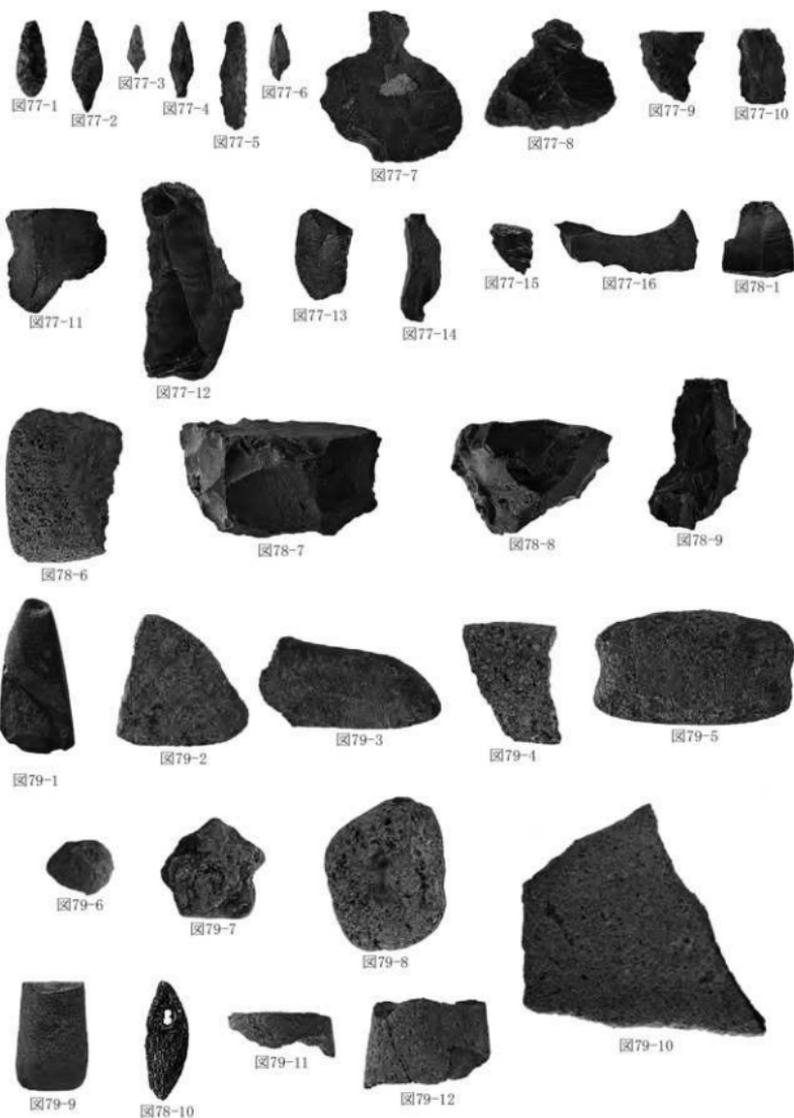
図74-24  
遺構外(1)

写真60 浪岡蜚泥遺跡(農道32号) 出土遺物(5)



遺構外(2)

写真61 浪岡蚩沢遺跡(農道32号) 出土遺物(6)



遺構外(3)

写真62 浪岡蜃沢遺跡(農道32号) 出土遺物(7)

## 第4編 旭(2)遺跡

### 第1章 調査区と遺構・遺物の概要、基本層序

#### 第1節 調査区と遺構・遺物の概要(図80)

農道39号は旭(2)遺跡北西部に位置する。農道部分と流末水路部分からなり、東西および南北方向に延びるL字状の調査区となっている。農道部分は幅約5m、長さ東西方向に約35m、南北方向に約80mのL字状の調査区、流末水路部分は幅約1.5m、長さ約55m、南北方向に直線状の調査区で、合計600㎡の調査を行った。

調査前の現況では、調査区北側の農道部分は標高約39～40mの丘陵平坦面、南側の流末水路部分は標高35～40mで、遺跡南側の開析谷と合流する枝谷へ向かう緩やかな斜面地となっていた。調査の結果、農道部分では遺構は検出されず、縄文時代の土器と石器がわずかに出土した。流末水路部分では遺構・遺物ともに検出されず、地形はN39-R3付近で急激に落ち込み、R8付近では現地表面からの深さが2.8mに達し、湧水が認められた。均質な黒色土の堆積がみられ、自然堆積により埋積したものと考えられるが、出土遺物はなく、堆積土中に降下火山灰も検出されなかったことから、どの時期にどれほどの埋積が進んだのかは明瞭ではない。

なお、平成26年度に調査を行った農道37号調査区は遺跡東部端にあり、本調査区から南東へ約300mのところに位置するが、縄文時代中期～晩期の遺物、平安時代の遺構と遺物が確認されている。

#### 第2節 基本層序

旭(2)遺跡における基本層序は、平成26年度に調査を実施した農道37号(『下石川平野遺跡Ⅱ・旭(1)遺跡・旭(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第569集)と同様であり、ここでは記載を省略する。なお、農道部分では、リング畑の造成などによって縄文時代から平安時代にかけて形成されたとみられるⅡ～Ⅲ層が欠層しているところが多い。

### 第2章 検出遺構と出土遺物

検出した遺構はないため、ここでは遺構外から出土した遺物についてのみ記載を行う。

#### 第1節 遺構外の出土遺物(図81)

遺構外の遺物は、縄文時代の土器と石器がある。土器は14点(166.1g)、石器は2点(200.7g)が出土した。

土器は縄文時代後期～晩期のもの(図81-1～6)を図示した。図81-1は縄文時代後期前半の鉢の底部で、外面に沈線と磨り消し縄文が施されている。図81-2～5は深鉢の胴部破片で、図81-2は外面に沈線による施文がみられ、図81-3～5は無文である。縄文時代後期の遺物と考えられる。図81-6は縄文時代晩期とみられる鉢類の胴部破片で、内面に煤が付着している。

石器は剥離礫(図81-7)と調整剥片(図81-8)を図示した。図81-7は扁平な円礫の周縁1箇所に

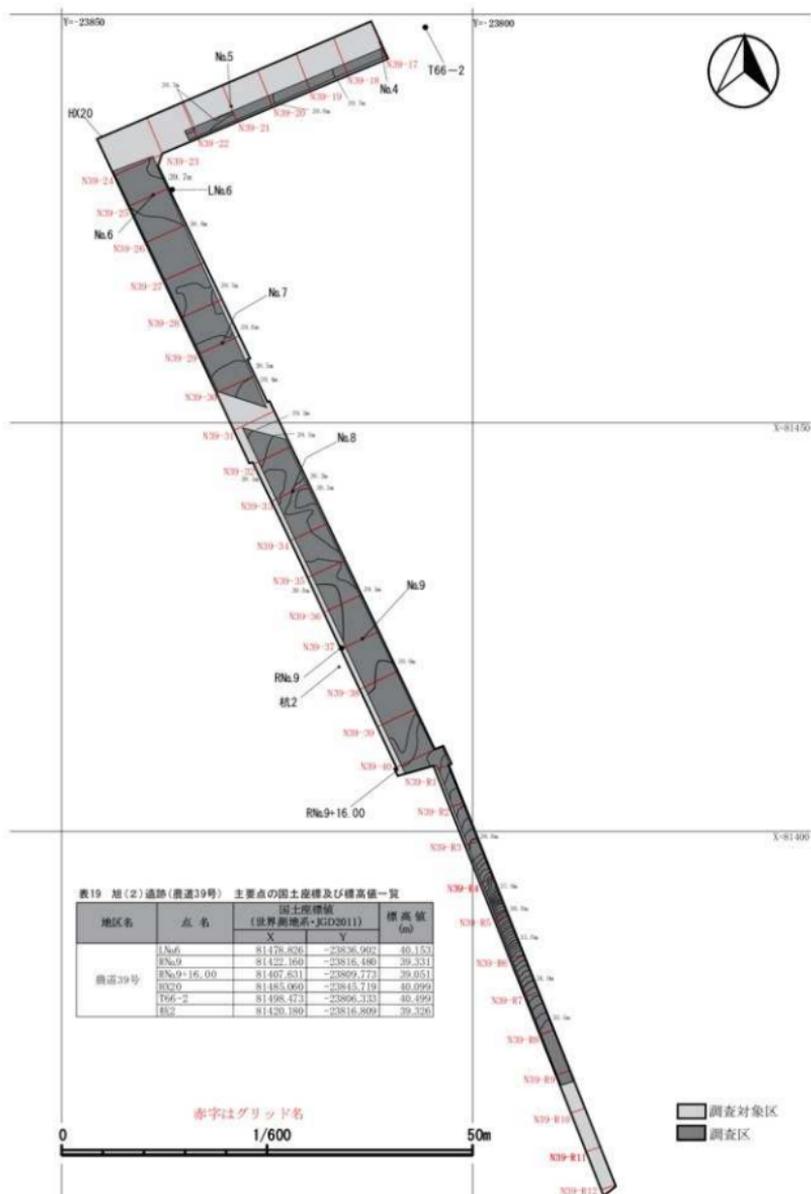


図80 旭(2)遺跡(農道39号) 遺構配置図

割離が施されている。ほかに使用の痕跡はない。図81-8は、原礫面を残す厚手の剥片に、両面から割離が施されているものである。割離は粗く、特に刃部や形状を意図して加工されているように思われない。

### 第3章 まとめ

旭(2)遺跡では遺跡北西部にあたる農道39号の調査を行ったが、縄文時代後期～晩期の土器片と石器が少量出土したのみで、当該時期の遺構は検出されなかった。また、平成26年度に発掘調査が行われた遺跡東端部にあたる農道37号では、平安時代の外周溝を伴う堅穴建物跡が検出され、土師器や土鈴などの土製品が出土したが、本調査区内では平安時代の遺構と遺物は全く検出されなかった。

このことから、農道39号に該当する旭(2)遺跡の北西部は、縄文時代においては近接した場所に遺構が存在する可能性はあるものの、土地利用度は極めて低かったと考えられる。さらに、旭(2)遺跡東端部で検出されている平安時代の集落跡は、農道39号地点までは広がらないということが明らかとなった。

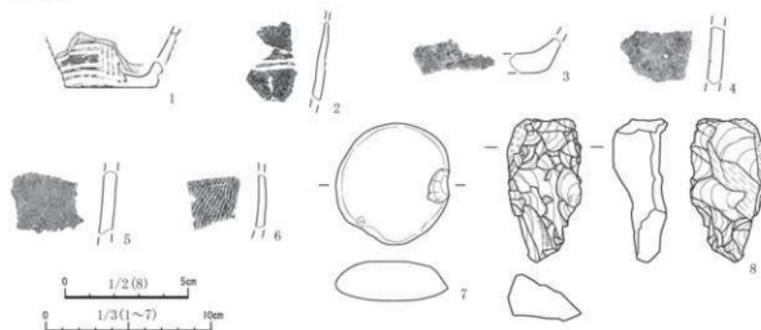


図81 旭(2)遺跡(農道39号) 遺構外出土遺物

表20 旭(2)遺跡(農道39号) 土器観察表

図号 遺物 番号	遺物名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	直径 (cm)	器高 (cm)	外面調整 (文様)	内面調整 (文様)	備考 (底面調整)	時期
81-1	遺物外	39-18 Ⅱ層	P5	縄文土器	鉢	割部～底部	—	5.4	(3.4)	沈線	ナゲ	縄文時代後期前半
81-2	遺物外	39-29 Ⅰ層	P6	縄文土器	深鉢	割部	—	—	沈線	ナゲ	—	縄文時代後期
81-3	遺物外	39-35 Ⅱ層	P4	縄文土器	深鉢	底部	—	—	(2.1)	彫文	ナゲ	縄文時代後期
81-4	遺物外	39-34 Ⅱ層	P4	縄文土器	深鉢	割部	—	—	—	彫文	ナゲ	縄文時代後期
81-5	遺物外	39-35 Ⅱ層	P4	縄文土器	深鉢	割部	—	—	—	彫文	ナゲ	縄文時代後期
81-6	遺物外	39-29 Ⅱ層	P6	縄文土器	鉢	割部	—	—	粗刻回	ナゲ	内面スリ付巻	縄文時代後期

表21 旭(2)遺跡(農道39号) 石器観察表

図号 遺物 番号	遺物名	出土位置	種類	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考	
81-7	遺物外	39-29 Ⅰ層	P6	礫石器	割離礫	75.0	49.5	25.0	168.0	礫石	扁平円礫、割離痕が1箇所
81-8	遺物外	39-37 Ⅰ層	P6	剥片石器	調整剥片	58.5	30.0	22.0	32.6	頁岩	原礫面を有する厚手剥片、両面に粗い割離



遺跡遠景 N→



N39-34～40グリッド作業状況 S→



N39-32～34グリッド作業状況 N→



N39-17～22グリッド調査区完掘 E→

写真63 旭(2)遺跡(農道39号) 遺跡遠景・作業状況・調査区完掘(1)



N39-18グリッド遺物出土状況 S→



N39-20～22グリッド調査区完掘 SE→



N39-24～28グリッド調査区完掘 S→



N39-28～31グリッド調査区完掘 S→



N39-32～37グリッド調査区完掘 N→



N39-34～37グリッド調査区完掘 N→



N39-37～40グリッド調査区完掘 S→



N39-R1～R3グリッド調査区完掘 N→

写真64 旭(2)遺跡(農道39号) 遺物出土状況・調査区完掘(2)



N39-R3~R5グリッド調査区完掘 S E→



N39-R6~R8グリッド調査区完掘 N→

遺構外出土遺物



図81-1



図81-2



図81-3



図81-4



図81-5



図81-6



図81-7



図81-8

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	しもいしかわひらのいせきさん・なみおかほたるざわいせき・あさひかつこにいせきに							
書名	下石川平野遺跡Ⅲ・浪岡蛭沢遺跡・旭(2)遺跡Ⅱ							
副書名	県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第583集							
編著者名	小田川哲彦、神康夫、鈴木和子、平山明寿							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森県青森市新城市天田内152-15 TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702							
発行機関	青森県教育委員会							
発行年月日	西暦2017年3月24日							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系 (JGD2011)		調査期間	調査 面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
下石川平野遺跡	青森県青森市 浪岡大字吉野田 字木戸口地内外	02201	201399	40° 43′ 46″	140° 32′ 43″	20150430 ～ 20150925	2,940	記録保存調査
浪岡蛭沢遺跡	青森県青森市 浪岡大字吉野田 字蛭沢地内	02201	201335	40° 43′ 37″	140° 32′ 54″	20150430 ～ 20150731	1,000	記録保存調査
旭(2)遺跡	青森県青森市 浪岡大字吉野田 字鏡沢地内	02201	201333	40° 44′ 00″	140° 33′ 04″	20150804 ～ 20150925	600	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下石川平野遺跡 (農道27号)	狩猟場	縄文時代	溝状土坑	2	縄文土器・石器		・縄文時代の狩猟場を検出した。 ・平安時代の集落跡を検出した。	
	集落	平安時代	竪穴建物跡	1	土師器			
			掘立柱建物跡	2	須恵器			
			柱穴	19				
			土坑	11				
			溝跡	5				
焼土遺構	6							
下石川平野遺跡 (配水管16号)	集落	縄文時代	土坑	1	縄文土器・石器		・平安時代の集落跡を検出した。	
	集落	平安時代	竪穴建物跡	1	土師器			
			柱穴	6	須恵器			
			土坑	7	石器(砥石)			
			溝跡	9				
焼土遺構	1							
下石川平野遺跡 (給水栓8号)	散布地	縄文時代			縄文土器		・縄文時代の土器が出土した。 ・平安時代の土器が出土した。	
	散布地	平安時代			土師器・須恵器			

下石川平野遺跡 (給水栓9号)	散布地	縄文時代			縄文土器	・縄文時代の土器が出土した。 ・平安時代の集落跡を検出した。
	集 落	平安時代	竪穴建物跡 柱穴	1 1	土師器	
浪岡蛭沢遺跡 (農道32号)	集 落	縄文時代	土坑 溝状土坑 土器埋設遺構	48 1 3	縄文土器 土製品 石器	・縄文時代前期末葉および後期後葉～晩期のフラスコ状土坑群を検出した。 ・平安時代の竪穴建物跡と集落を区画するとみられる溝跡を検出した。
	集 落	平安時代	竪穴建物跡 溝跡	2 2	土師器 須恵器 土製品	
		時期不明	柱穴	16		
旭(2)遺跡 (農道39号)	散布地	縄文時代			縄文土器 石器	・縄文時代の土器と石器が出土した。
要 約	<p>下石川平野遺跡は農道27号、配水管16号、給水栓8・9号の4地区で調査を行った。縄文時代の遺構・遺物は比較的小さい。主体となるものは平安時代の遺構・遺物で、多くが農道27号と配水管16号から検出された。農道27号から検出された第7号溝跡は、全容を把握できなかったが、1辺約50mの方形を呈すると想定される。</p> <p>浪岡蛭沢遺跡は遺跡南西部に位置する農道32号で調査を行った。縄文時代は前期末葉と後期後葉～晩期のフラスコ状土坑群などを検出した。建物跡は検出されなかったが、調査区一帯に当該時期の集落が形成されていたと考えられる。平安時代は丘陵上に集落が形成されており、集落縁辺となる丘陵裾部を溝で大きく区画していた可能性が高いことが明らかとなった。</p> <p>旭(2)遺跡は遺跡北西部に位置する農道39号で調査を行った。縄文時代の土器と石器の散布が認められた以外遺構は検出されず、周辺に遺構が存在する可能性はあるものの、土地利用度は極めて低かったことが明らかとなった。</p>					

## 下石川平野遺跡Ⅲ 浪岡蛭沢遺跡 旭(2)遺跡Ⅱ

一 県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告一

発行年月日 2017年3月24日  
 発 行 青森県教育委員会  
 編 集 青森県埋蔵文化財調査センター  
 〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15  
 TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702  
 印 刷 株式会社サンエイ  
 〒030-0121 青森市妙見三丁目2番19号  
 TEL 017-738-0040 FAX 017-738-0880